

博士論文

筑波山における風景の変容

筑波大学大学院人間総合科学研究科
博士後期課程 世界文化遺産学専攻

西邑雅未

目次

第1章 序論	1
1. 研究の背景と目的	1
(1) 研究の背景	1
(2) 研究の目的	2
(3) 研究対象地	2
2. 本論文における「風景」の位置付け	5
(1) 景観と風景	5
(2) 本論文における「風景」の捉え方	5
3. 先行研究	8
(1) 風景観に関する研究	8
(2) 景観の制度及び計画の研究	8
(3) 山の観光の変遷に関する研究	9
(4) 文学（和歌）と風景に関する研究	10
(5) 筑波山に関する研究	10
4. 論文の構成と研究の方法	12
第2章 観光ルートの変遷	14
1. はじめに	14
2. 観光ルートと観光資源	15
(1) 第1期（近世以前～明治21年）：信仰	15
(2) 第2期（明治22年～昭和29年）：鉄道の開通	20
(3) 第3期（昭和30年～現在）：観光の大衆化	24
3. 小結	29
第3章 筑波山のイメージの変遷	31
1. はじめに	31
2. 文献から見る筑波山のイメージ	33
(1) 文学作品の筑波山	33
(2) 筑波山に関連する研究（自然科学）	42
3. 絵画から見る筑波山のイメージ	47
(1) はじめに	47

(2) 視点場	53
(3) 山容	56
(4) 筑波山と共に描かれる/写る要素	59
4. 小結	64

第4章 景観に関する制度の現状と課題 65

1. 景観計画/都市計画マスタープランにおける筑波山の位置づけ	65
(1) はじめに	65
(2) 茨城県都市計画マスタープランにおける筑波山	68
(3) 評価と規制	70
(4) 景観・眺望	71
(5) 観光	75
2. 筑波山を擁する自治体の制度	76
(1) はじめに	76
(2) 景観形成	77
(3) 自然公園	89
(4) つくば市、石岡市、桜川市の都市計画マスタープランと景観計画	94
3. 小結	100

第5章 結論 101

1. 結論	110
(1) 視対象としての筑波山	110
(2) まなざしの変化	113
2. 考察	113

図表一覧 106

本研究に関する既発表論文一覧 110

参考文献・参考資料

1. 文学作品
2. 研究

第1章 序論

1. 研究の背景と目的

(1) 研究の背景

日本人の山への関わり方や見方は、歴史を経て変化を遂げてきた。登山の起源はかなり古く、少なくとも縄文時代までさかのぼる¹とされている。稲作開始以降、人々は低地に定住し、山から流れる水は水田に欠かせず、氾濫や水害が引き起こされないよう山の怒りを鎮めるため、山を崇め崇拝の対象となる。高僧に開山された後も、天平や奈良時代になると朝廷から位階を与えられ、信仰意識は高まっていく。修験道、講、物見遊山など、様々な登山の形式は生まれるが、すべて信仰心に基づいていることが共通している。しかし近代に入り外国からの視点が入ったことで、「現代的な感覚で²」登山を行うようになっていく。ただし、1000年余り続いてきた信仰の考え方は簡単に抜け出すことはできず、1905（明治38）年の日本山岳会から本格的な登山が始まったとされる³。

風景を見る目も、「歌枕や名所旧跡といった伝統的風景⁴から、-略-地形・地質・などといった近代的風景へ移行していく⁵」。外国人を中心とした科学者や外交官が登山の先駆者⁶となり、探検心、冒険心からの近代登山が始まり、新たな視点が日本にもたらされた。自然風景の観点から見ても、1931（昭和6）年に国立公園法制定、24年から36年にかけて選定され、1957（昭和32）年には自然公園法として公布された。「優れた自然風景地を選定し、その保護と利用の増進及び国民の保健、休養、強化に資する目的で制定されている法律⁷」であり、1872年にアメリカに設置された国立公園の考え方である。ここに歌枕や名所、信仰としての意味合いは薄い。地形や地質といった自然科学的な自然の評価は、人々が生活、宗教、行動などの意味をこめてきた「空間の履歴」の消去を内包している⁸。ただ、1990年代からは、世界遺産で生物多様性と文化的景観という概念が生まれ、里山や湿地、農業景観、生業景観という、「自然が内包する人々の歴史性・文化性に着目した人類史の尺度へのシフトがはじまった⁹」。日本でも2005（平成17）年には景観法とともに文化財保護法の中に文化的景観が追加され、既存の文化財保護法には含まれなかった、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地」に文化財的な価値を持つようになった。

また、ジオパークという概念が誕生したのも最近である。2000（平成12）年のヨーロッパジオパークネットワーク設立が始まり、2004（平成16）年にはアジア太平洋及び世界ジオパーク

¹ 小泉武栄(2001)：登山の誕生，中公新書，75

² 前掲1) 小泉武栄(2001),133

³ 前掲1) 小泉武栄(2001),133-135

⁴ 西田正憲(1999)：瀬戸内海の発見，中公新書，235-236 の中で、オギュスタン・ベルク（『日本の風景・西欧の景観』1990）、ケネス・クラーク（『風景画論』1976）、柄谷行人（『日本近代文学の起源』1980）の指摘から、『風景』は近代の産物であるという捉え方があるが、これは西欧の近代で客体である自然と主体である人間が分化し自然が対象化されたことで「風景」概念が生まれたことを意味していると述べた上で、西欧の近代におけるまなざしが捉えた「風景」以前の日本の風景概念を伝統的風景と呼んでいる。

⁵ 前掲4) 西田正憲(1999), 148

⁶ 前掲1) 小泉武栄(2001), 153

⁷ 岡本伸之(2006)：観光学入門，有斐閣アルマ（初版は2001年），140

⁸ 桑子敏雄(1999)：環境の哲学，講談社学術文庫，195

⁹ 西田正憲(2011)：自然の風景論，アサヒビール，315

ネットワークが設立、日本でも2009（平成21）年に日本ジオパークネットワークが設立され、2015（平成27）年からは世界ジオパークネットワークは「国際地質科学ジオパーク計画」として、ユネスコの正式事業となった¹⁰。ジオパークは、「大地（ジオ）に広がる動植物や生態系（エコ）の中で、人々（ヒト）の生活し、文化、産業を気づき歴史を育んでいる」ことを前提に、「ジオ」「エコ」「ヒト」の3つの要素の繋がりを知ることで、教育、観光に活かし地域振興へとつなぐものであるとされ¹¹、世界的に、自然科学的な自然史だけでなく、人々の営みの歴史をも評価する時代へと変化している。

こうした状況の中、日本では山の風景のどのような点に目を向けて評価しているのか。例えば世界文化遺産として2013（平成25）年には、日本を代表する山である富士山が、「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」として登録された。富士信仰は江戸や関東、東北など広い範囲に及び、様々な芸術の対象となってきたという2つの点が評価された。しかし日本の山として評価されるべきものはこの2点だけなのだろうか。人々は山をどのように認識してきたのか。その認識はどのように継承され変遷を遂げてきたのか。山を評価するにはこれらを今一度把握し、理解する必要がある。

本論文では山の風景に焦点を当て、以上について調査し考察する。

（2）研究の目的

山の風景には何が重要なのかを明らかにするため、山への認識や見方の変化、そして現在行われている景観保全の実態を把握する。そのため、本論文では以下の3点を目的とする。

- ①参拝登山および観光登山の変遷を、当時の社会情勢と結びつけながら明らかにする。
- ②人々が山に対して感じてきたイメージを明らかにする。
- ③山の景観保全制度の現状と課題を明らかにする。

以上3点で明らかになった結果を踏まえ、今後我々は山とどう関わりを持つべきなのかを考察する。

（3）研究対象地

本研究は茨城県つくば市に所在する筑波山を対象とする。その理由は下記の3点である。

- ①歴史が古く、「伝統的風景」を把握することができること
- ②外国の自然概念を含む「近代的風景」のひとつでもある国立公園／国定公園に指定されていること
- ③現在景観保全が実施されていること

各時代で人々が行ってきた山への価値づけがより多い山の方が風景の変容を明確に把握することにつながり、そのためには人々の関わりが長い歴史をもつ山であることが必要である。

¹⁰ 日本ジオパークネットワーク http://geopark.jp/about/pdf/press_release20151113_01.pdf（20161114 閲覧）

¹¹ 日本ジオパークネットワーク <http://geopark.jp/about/>（20161114 閲覧）

筑波山は茨城県つくば市の北端に位置し(図-1)、東に男体山(871m)、西に女体山(877m)という二峰を持ち(図-2)、八溝山地最南端の筑波山塊に属する(図-3)。

日本最古の歌集であり759年までの約350年間の歌が収録された万葉集では25首に詠まれ、富士山を詠んだ歌13首を上回っている。713年に詔により「風土記」が各国編纂されたが、現存するのはわずか五カ国(「出雲国風土記」「播磨国風土記」「肥前国風土記」「常陸国風土記」「豊後国風土記」)にすぎず、その中で筑波山が掲載されている「常陸国風土記」が残っている。さらに、深田久弥は1964(昭和39)年「日本百名山」の中で筑波山を選んでいるが、理由として「高さ千メートルにも足りない通俗的な山」だが、「歴史が古い」ことであると述べているように¹²、①の条件として適切であると言える。

また、1969(昭和44)年には10年先に指定されていた水郷国定公園に編入され、水郷筑波国定公園となった。今年(2016年)9月には「筑波山地域ジオパーク」として日本ジオパークに認定され、自然をめぐる動きが今まさにある場所であることから、②の条件に当てはまる。

景観保全の取り組みとしては、茨城県では2009(平成21)年に「筑波山周辺地区広域景観形成プラン」が策定され、筑波山を核とした自然と歴史を総合的に評価する取り組みが行われている。筑波山を擁するつくば市、桜川市、石岡市でも景観計画が策定されており、③の条件に適合している。

¹² 深田久弥(1964):日本百名山:新潮社,102

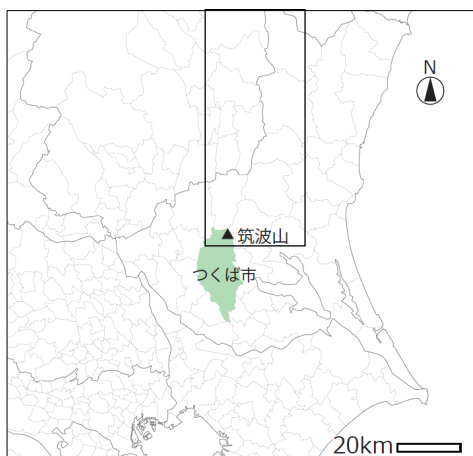


図-1 筑波山の位置
(図中の口は図-3の位置を示す)



図-2 筑波山
(神郡附近より撮影)



図-3 八溝山地の中の筑波山

(八溝山地は筑波山塊、鷄足山塊、鷺子山塊、八溝山塊から成る)

2. 本論文における「風景」の位置付け

本論文では筑波山の風景を扱うため、本項で風景という言葉の位置付けを明らかにする。

(1) 景観と風景

「風景」と似た言葉に「景観」がある。その違いは、「未だにその定義や両者の違いについて統一見解がないのが実情¹³⁾」と言われており、「『ランドスケープ』の訳語を『風景』と『景観』のいずれにすべきかの段階で論者の意見が大きく分かれ、議論は混迷の色を深めている¹⁴⁾」と言われている。ただ、「『景観』は環境の客観的でリアルな視覚像、『風景』はリアルな景観に観念や心情が合成したアクチュアルな視覚像¹⁵⁾」であるとか、「景観は土地の地貌であったり、土地利用の形態であったり、その基盤には地形があり、その上に人間の行為によって様々な要素が加わって成立している-略-そういう諸要素の積み重ねを客観的に読み取り、判読したものが『景観』-略-。他方、『景を観る』という行為を美しさの観点から捉えると、それはたぶん『風景』になるんだろうと思います¹⁶⁾」など、研究者による様々な言及がある。いずれにしても共通理解として、「景観」という言葉は地理学によって発展した言葉であり、「目に見える風景を科学的に分析するために1910年以來、-略-「景観」という概念¹⁷⁾が生じたのであり、景観は地理学的な景観の意味合いが強く、風景よりも科学的かつ視覚的で、風景が含む情緒性や審美性を排除した意味合いが強いと捉えられている。本研究では、山を見るときに人々が持つイメージや認識を扱うため、基本的に主観性を伴う「風景」という言葉を用いるが、景観計画などはそのまま「景観」を用いる。

(2) 本論文における「風景」の捉え方

風景は、「主体-まなざし-客体という構造をもつことによって、成立する¹⁸⁾」。そして「単なる対象物の眺めではなく、社会的文化的に構造化された視線によって見いだされる物¹⁹⁾」だとされている。この構造は主観と客観のデカルト的二分法にはじまり、近代性を支配してきたもので²⁰⁾、客体である自然と主体である人間が分化し、自然が対象化され、「自然がそれ独自に意味をもったときに『風景』概念が生まれた」²¹⁾。

まなざしについては、ミッシェル・フーコー（『臨床医学の誕生』（1963））は医師が患者の病気を診断する際の制度化されたまなざしを解き、ジョン・アーリはフーコーの「まなざし」概念を観光領域に応用したまなざしを語った。アーリはイギリスを舞台に、メディア等の非観光的な活動によってつくられた非日常の風景や町並みを求めるといふ、観光者から観光対象へと向かう観光のまなざしの変容と発展を述べている。ここでまなざしは「社会的に構造化され組

¹³⁾ 吉村晶子(2007)：景観・デザイン研究講演集 No.3 December 2007, 76

¹⁴⁾ 安彦一恵, 佐藤康邦(2002)：風景の哲学, ナカニシヤ出版, 102

¹⁵⁾ 田路貴浩(2015)：生きられる風景とヴィジョン：日本風景史(田路貴浩, 齋藤潮, 山口敬太編), 昭和堂, 5

¹⁶⁾ 東京文化財研究所(2005)：“文化的景観”の意義, 67 の本中真氏の発言より

¹⁷⁾ 高橋伸夫, 田林明, 小野寺淳, 中川正(1995)：文化地理学入門, 159

¹⁸⁾ 前掲 9) 西田正憲(2011), 324

¹⁹⁾ 吉村晶子(2015)：風景論の展開：日本風景史（田路貴浩, 齋藤潮, 山口敬太編）, 昭和堂, 382

²⁰⁾ オギュスタン・ベルク(1994)：風土としての地球, 筑摩書房, 16

²¹⁾ 前掲 4) 西田正憲(1999), 235-236

織化されている²²」、つまり「観光という個人の視覚には、それを取り巻く社会構造や時代背景が投影²³」されるとしている。またベルクは、人間が風景を知覚するとき、「自身の属する文化に促されて、風景を肯定的にも否定的にも鑑賞・評価」するとし、「文化はわれわれの感覚の生理学的な能力とは独立に、意識と事物の間にある種のフィルターをいくつか介在させ、それが情報を通したり、通さなかったりする²⁴」と解説している。齋藤は、山岳を見る場合では植物学者と画家とでは見方が異なることを例に、風景は「個人の関心に沿って重みづけされた情報をもとに構成された環境のイメージ²⁵」だとしている。

研究の背景でも述べたように、風景の自然史的価値だけでなく、空間に蓄積された人々の営みの歴史にも価値を見出している今、人間が風景に向ける視線には、その時代の文化や社会的背景、個人の立場や属性などが関係している、とするまなざしの概念は、山の風景の変容を述べる上で非常に重要な概念である。

これらの記述を踏まえ、本論文で風景は、主体（人間）が客体（視対象）に対して文化や時代背景、個人の体験、属性などのフィルターが介在するまなざしによって構築されるもの、と定義する（図 - 4）。

図 - 4 のように風景が一個人に発見された後、それは言葉や絵画、詩歌などに表現・表象され、集団・社会に共有されて、人々は共通の風景的イメージを持つ²⁶。これを中村は「風景の集団表象²⁷」と呼んでいる。個人で体験しただけで他者に共有されない個人的、主観的な風景とは区別され、本論文では広く共有されたイメージの風景を扱う。個人による風景の発見から集団表象に至る経過を、吉村は「発見」「表現」「普及」「共有」「定着」とし²⁸、集団表象が定着して安定すると風景体験が広く伝播するだけでなく時代をも超えて変容しながら継承されていく²⁹。この過程を図 - 5 に示した。ある個人がある山の風景を発見し、表現（図 - 5 では絵画に表現するとした）する。絵画はメディア等を通して普及し人々に共有したイメージをもたらす。人々は絵画のイメージを定着させることで、その山に対して絵画というまなざしが生じるようになる。つまり、集団で定着した風景は、図 - 4 で示したまなざしのフィルターに投影され、この繰り返しによって歴史を超える風景的イメージが生まれるのだと考えられる。

²² ジョン・アーリ(1995)：観光のまなざし，法政大学出版局，2

²³ 安村克己(2004)：観光の理論的探究をめぐる観光まなざし論の意義と限界，「観光のまなざし」の転回，春風社，10

²⁴ オギュスタン・ベルク(1992)：日本の風景・西欧の景観，講談社現代新書，44（初版は1990年）

²⁵ 齋藤潮(2006)：名山のまなざし，講談社現代新書，207

²⁶ 前掲4) 西田正憲(1999)，232，前掲19) 吉村晶子(2015)，384-385

²⁷ 中村良夫(1999)：風景学入門，中公新書，60（初版は1982年）

²⁸ 前掲19) 吉村晶子(2015)，385

²⁹ 前掲27) 中村良夫(1999)，73

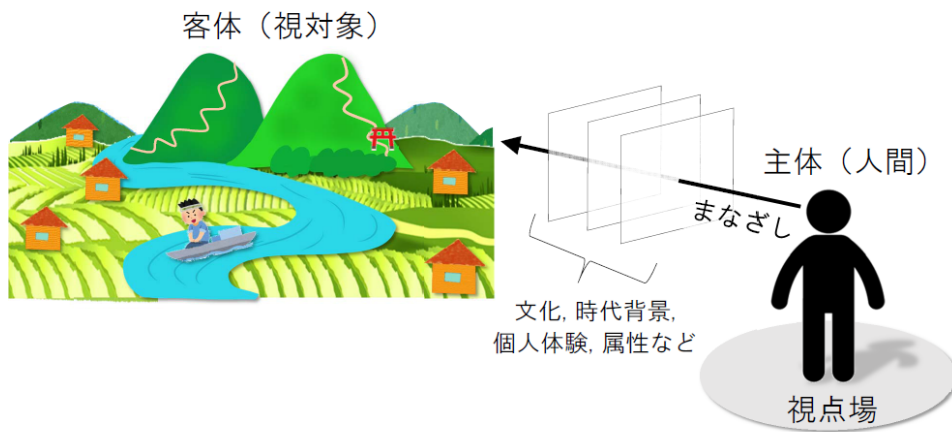


図 - 4 風景の概念

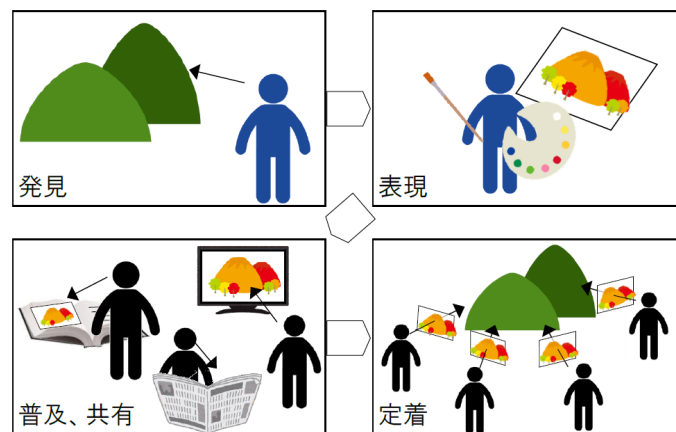


図-5 集団表象

3. 先行研究

風景観についての先行研究は既に述べてきており、筑波山に関する研究は第3章で述べるため、ここでは本論文で取り扱う風景観に関する研究、景観の制度及び計画の研究、山の観光の変遷に関する研究、文学と風景に関する研究、筑波山に関する研究の5つについてまとめる。

(1) 風景観に関する研究

- ①新海祥子, 堀繁, 油井正昭(1992): 「日本名山図会」にみる谷文晁の名山観, 造園雑誌55(5), 49-54

「日本名山図会」は1812(文化9)年に谷文晁が日本の山89座を描き、近代以降の山の見方に多大な影響を与えた。従来は名山は名前の通った山だったのに対し、文晁は自分の目でみた独自の名山を選定し、風景として優れた山を評価していたことを明らかにしている。山を風景として捉えることを明確にし、新たな名山観の創出が見られる。

- ②成瀬不二雄(1998): 日本絵画の風景表現-原始から幕末まで-, 中央公論美術出版

霊峰富士山は宗教説話画、仏画、物語絵巻などにも描かれてきた。中国山水図の影響を受けたものから始まり、四峯型、三峯型という定型が出来上がり、江戸時代には徐々に写生を伴った実景が捉えられるようになった。本書では、日本の風景を表わした絵画の歴史を、富士山図を対象に辿っている。

- ③西田正憲(1999): 瀬戸内海の発見 意味の風景から視覚の風景へ: 中公新書

歌枕、故事、伝説に由来した名所旧跡は伝統的風景であり、欧米人の客観的で科学的な視線の影響で、近代的風景として日本人が見るようになり、景観認識が明治後期に変わった。この変化を、瀬戸内海を対象に述べている。

- ④齋藤潮(2006): 名山へのまなざし: 講談社現代新書

山岳の形象を、山岳祭祀の拠点、借景庭園、谷文晁による山岳絵画を題材に、地形透視図を用いて当時の視点を調査し、古人の山岳に対する意味づけを考察している。

以上の研究では、主に日本人が風景及び山を見る認識が従来のものから変化してきたことが論じられている。その転換期は、③では欧米人の影響によって明治後期からだとされているが、①と②からは、それ以前にも日本の中で既に変化が生じていたと言える。本研究では、これらを踏まえ、筑波山の風景を見る転換期はどこにあるのか、筑波山を取り巻く歴史や情勢等の背景を把握することで明らかにする。

(2) 景観の制度及び計画の研究

- ⑤小川勇樹, 内田晃, 趙世晨, 日高圭一郎, 鶴心治, 萩島哲(2015): ドイツ・ドレスデン近郊のピルナでのベロットの里づくり - 景観まちづくりに関する研究 -, 都市・建築学研究28, 11-21

18世紀にヴェネツィアで宮廷画家として活躍した画家、ベルナルド・ベロットの景観が描いた小都市ピルナを事例に、ベロットの絵画を活用した景観まちづくりの提案をする研究である。著者らの10年間のピルナ市の現地調査が基となっている。絵画の視点場の特定から、当時の街並み、視点場が今でも残っていることが景観資源であり、視点場整備や周辺施設の整備、CGによる町並みの再現、散策ルートの提案がなされている。

⑥浅野聡, 橋場徹広, 黒田康史, 上田知美, 肥田真友子, 米澤勇人, 森山貴行(2012): 亀山市景観計画における眺望景観保全制度に関する調査, 三重大学社会連携研究センター研究報告(20), 43-48

亀山市で行った募集等で選定された33か所の眺望景観重点地区の候補地について調査・評価を行い、景観計画における眺望景観保全制度の提案を行う。視点場、視対象、眺望者それぞれの類型を組み合わせにより、11の眺望景観の類型が導き出され、亀山市の眺望景観の特徴が、地域に根差した景観が多く、山脈等の自然景観の割合が多いことを明らかにしている。これらから視対象、視点場の選定、眺望景観保全地区等の設定の提案が行われている。

⑤では18世紀の一人の画家の絵画から視点場を明らかにしてまちづくりへと役立て、⑥では眺望景観重点地区の候補地の特徴から眺望景観保全制度運用の検討を行う。歴史のある景観と、住民が地域にとって重要視する景観から、現在の町並みや景観形成の取組みが行われている。本研究では、筑波山の歴史を踏まえたまちづくりが行われているのか、現行の景観計画等では住民の意見が取り入れられているのかを把握する。

(3) 山の観光の変遷に関する研究

⑦小泉武栄(2001): 登山の誕生 人はなぜ山に登るようになったのか: 中公新書

西欧では山は悪魔の棲家として忌み嫌われていたが、日本では信仰登山が古くからおこなわれていた。楽しむための近代登山が西欧で発祥し、日本ではその約100年後の明治期に普及する。経済史、思想史、科学史、文化史等を交えながらその違いについて、山と人の関わりの変遷について論じている。

⑧黒田乃生(2012): 阿蘇山の国立公園指定の経緯と観光登山の変遷: ランドスケープ研究 (オンライン論文集) Vol.5, 55-62

阿蘇山は信仰と修行の場であったが、明治期に外国人の登山が始まり、国立公園指定への動きが観光地化の大きなきっかけとなった。公園計画や施設整備によって徐々に観光地化していく過程が述べられている。

⑨金子直樹 (1998) : 岩木山における参詣登山道の歴史の変遷: 歴史地理学45-5(191), 26-46

時代に伴い参詣登山道が変化、及び複数化を遂げ、大戦後には自動車道が開通したことで従来の登拝習俗に変化をもたらすまでの変遷が述べられている。

⑩大坪紘子, 堀繁, 竹形顕, 宮澤泰子 (2003) : 京都伏見・稲荷山の登山道の特徴: ランドスケープ研究 66(5), 655-658

標高233mの里山であり、伝統的自然信仰の残る稲荷山を対象とし、急勾配や高低差など、歩行や登頂の困難性を意識したルートが設定され、遊歩が飽きないよう自然物や人工物(池、滝など)が配置されていることを明らかにしている。

⑪山口敬太 (2013) : 近代における奈良・山辺の道の形成とその背景: ランドスケープ研究 (オンライン論文集) Vol.6 (2013) , 25-32

皇陵参拝ルートとしていた道は、昭和初期の国民精神総動員運動化においてハイキングが奨励され、積極的に観光事業が推し進められ、「山辺の道」という名称が定着する経緯を明らかにしている。

元々は参拝を目的とする山が、外国人の登山やインフラの整備、観光登山の流行などを契機に大きく転換させられ、現在我々が認識する「山」となった過程について、⑦では日本の山全体を、⑧～⑩では各地の山を対象に独自に展開されてきた観光等の変遷について述べられている。本研究では、筑波山を対象にするため、筑波山周辺地域の社会情勢や変化に応じて観光がどう変化し、山へのまなざしがどのような変遷を遂げてきたのかを把握する。

(4) 文学(和歌)と風景に関する研究

⑫樺沢綾(2014): 歌語「心のすゑ」- 院政期和歌における風景表現の一展開 -, 武庫川国文 (78), 45-58

平安末期の和歌には風景と「ころ」を重ね合わせることをより強調する「心のすゑ」という表現が生まれた。「眺望」題が中国詩の影響を受けて和歌にも詠まれるようになり、風景を描くだけでなく、風景を見つめる「ころ」がどのように動くか、「ころ」の動きを風景の中に捉えて風景と重ね合わせて「眺望」を表現することを、事例を挙げて調査する研究である。

⑬浅野則子(2016): 完成された景 - 家持の見いだした鶯の景 -, 別府大学大学院紀要(18), 1-10
「万葉集」初期から見られる、春を告げる鳥である鶯の表現は、既に中国文学で春の鳥という認識はあったが、春を告げる鳥という認識を表わしたのは家持が鶯から季節観をみようとして定着したものである。中国文学を離れ、和歌の世界で鶯の表現が「古今集」へと継承されている、という認識の移入と変化を事例から調査した研究である。

平安時代の和歌では風景を見たまま描くだけでなく、自分の感情や季節など別の要素を載せて表現されている。筑波山も万葉集の時代から和歌に詠まれているため、本研究ではどういった内容が詠まれてきて、当時定着していたイメージが現在も継続しているのかどうかを把握する。

(5) 筑波山に関する研究

⑭木村繁(1959): 筑波山, 朝日新聞水戸支局

筑波山の誕生からはじまり、古来の生活、政治、仏教文化、平氏と源氏の支配、幕末から明治維新、そして昭和前半の筑波山の現状をまとめた記録である。

⑮佐々木博(1983): 筑波山門前町の立地生態: 筑波大学人文地理学研究 (7)

筑波山神社門前町の産業、土地利用、職業等の変遷を調査し、筑波山門前町の立地生態を、形態・構造・形成・機能の分析をする研究である。主に交通機関の発達でその形態・構造が変化し、門前町商店街には民家が介在したり、観光客相手の商店では地元民への日用品供給機能を兼ねているなど、その構造が複雑化していることを明らかにしている。

⑯根本由香(2001): 明治に残る江戸風意匠 - 柴田是真の「富士と筑波」と「五十の浪」を中心に - : 服飾美学(33), 65-80

柴田是真が下絵を描いた手拭と着物帯の富士と筑波の意匠の成立背景を論じており、江戸の人々は富士と筑波は江戸の景物として見ていたことが述べられている。

⑰井田太郎(2005): 富士筑波という型の成立と展開: 国華110(10), 3-26

富士と筑波を対に扱い、同じ画面で描かれるようになった経緯を、詩歌と絵画の両面から

追った研究である。江戸の人々は富士は駿河国、筑波は常陸国の景物としてよりも、江戸の景物として対で見ていたことが明らかになっている。

- ⑱蓮香文絵, 大澤義明(2002): 山の見えの大きさと校歌に謳われる山との関係: 都市計画. 別冊, 都市計画論文集(37), 973-978

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県都立・県立高校を対象に、校歌に謳われている山を抽出し、その地域から見える複数の山のうち最も高く見える山、独立して見える山、近い山よりも高く見える山を校歌に謳うことを明らかにした研究である。

- ⑲高森賢司, 大澤義明, 腰塚武志(2011): 山アテ道路景観の地域比較分析: 筑波山を対象とし Crofton の定理を用いて: 都市計画論文集46(3), 379-384

筑波山周辺8市(つくば市・土浦市・かすみがうら市・石岡市・桜川市・筑西市・下妻市・常総市)における山アテ道路を調査し、筑波山に近い地域ほど山アテ道路の割合が高いことを明らかにした研究である。

- ⑳西海賢二(2012): 【改訂新版】筑波山と山岳信仰—講集団の成立と展開—: 崙書房出版

筑波山にかかわる民間信仰、筑波講や蚕影山をめぐる蚕影講の組織や機能、地域的展開について論じている。

- ㉑早川公(2012): 再帰的近代における「まちづくり」実践の民族誌—つくば市筑波山麓地域の開発プロジェクトを対象として—: 筑波大学博士(国際政治経済学)学位論文

著者が実践してきたつくば市北条地区の様々なプロジェクトから、人類学的な観点から「まちづくり」について考察した研究である。

筑波山に関する研究は、歴史学、民俗学、人類学的な立場から述べる通史が多い。その他は⑯と⑰では絵画及び和歌から筑波山が富士山と並立される変遷の研究であり、⑱と⑲は景観工学的に山の景観を論じている。本研究ではこれらの研究を踏まえて、筑波山に関する文学、絵画、景観計画など、様々な面を調査し、総合的に筑波山の風景について把握する。

4. 論文の構成と研究の方法

論文の各章の対象年代を表 - 1 に、構成を図 - 6 に示した。

本論文は、第1章を序論とし、論文の背景と目的、風景の概念の位置付け、先行研究と論文の構成について述べる。

第2章では、「観光ルートの変遷」と題し、視対象にあたる筑波山の利用の変遷を明らかにする。山の利用の歴史で最も古いものは信仰心によるものだと考えられる。近世以前の信仰心に基づく参拝登山から、現在私たちが想像する観光目的の登山を調査することで、筑波山の利用の通史を把握し、当時の社会情勢とそれに反映されて人々が筑波山に対して持つ認識の変化を明らかにすることに繋がる。筑波山の場合、登山道及び山へ至るルート（本論文では合わせて観光ルートと称した）は、時代を経て変化してきたため、筑波山の信仰及び観光の歴史を3つに分けて分析を行う。方法は資料調査で、当時の紀行文、旅行誌、町史等を用いた。

第3章では「イメージの変遷」と題し、人々の筑波山へのまなざしにはどのようなものがあるのか、筑波山にどのようなイメージを持ち、現在までどれだけ継承されてきたのか、もしくはされていないものは何かを整理する。これによって、現在の筑波山の風景には何が重要なのかを明らかにすることができる。方法は資料調査で、筑波山に関する書籍、研究、絵画、旅行誌における写真などを用い、文献と絵画／写真から筑波山の「集団表象」なるものを分析した。

第4章では「景観に関する制度の現状と課題」と題し、筑波山を擁する3市（つくば市、石岡市、桜川市）を対象に公園計画、景観計画、都市計画マスタープランにおける規制や制限行為を整理する。その後東京都、茨城県、栃木県、千葉県、群馬県、神奈川県、埼玉県の市区町村を対象に、景観計画と都市計画マスタープランにおいて筑波山がどのように扱われているのかを調査する。制度を分析することは、筑波山の景観のどの部分に価値をおき、いかなる景観を守ろうとしているのか、という現在のまなざしを明らかにすることである。方法は主に各市区町村のホームページで公表している諸計画を用いた。

第5章では以上の2章から4章までの内容を整理し、考察を行う。

第2章 観光ルートの変遷

1. はじめに

日本の山は、奈良時代におこったとされる山岳信仰によって各地開山され、平安時代には宗教と結びつきを強くし、江戸時代には修験道が発達し、各地の山に行者が登るようになる¹。筑波山でも同様の歴史を辿り、現在は観光地としてガイドブックや観光サイトで紹介されている。現在のガイドブックでは、登山口は山の南側にある筑波山神社とつつじヶ丘の2地点が紹介されるのが一般的である。本章では、南側を拠点とする登山が形成されてきた変遷を、社会背景等を踏まえ明らかにする。

なお、本論文では、研究方法は資料調査とする。国立情報学研究所の検索サイト CiNii にて、「筑波」で検索し、登山道と観光の歴史に関わるものを抽出した。更に日本交通公社の「旅の図書館」にて雑誌「旅」、「月刊るぶ」、「ツーリスト」、国立国会図書館のから筑波山に関わる紀行文や旅行誌を抽出し、引用した。その他、町史（筑波町史、八郷町史など）、「風俗畫報」、筑波山観光サイト、観光ガイドブックを用いた。

文献を調査したところ、筑波山へのアクセスと登山道の変化が見られ、観光資源も時代ごとに変化してきたことが分かった。日本の観光旅行は大別すると1871（明治4）年に日本人の国内旅行が自由化された以前と以降、そして1945（昭和20）年以降の3つに分けられる²。しかし筑波山では明治4年に特に目立った変化はなく、むしろ水戸鉄道水戸線（現水戸線）と日本鉄道海岸線（現常磐線）が開通し、栃木や東京からも登山客を誘致できるようになった1889（明治22）年頃と、戦中は運休していたケーブルカーが再稼働する1955（昭和30年）に区別できる。よって本章では「第1期（近世以前～明治21年）：信仰」、「第2期（明治22年～昭和29年）：鉄道の開通」、「第3期（昭和30年～現在）観光の大衆化」に時代を3つに分け、観光ルートと観光資源について把握することとする。ここでの観光資源は、本章で用いた参考文献の中で、現在の観光登山に近い意味合いのガイドブックで最古のものである「筑波山」（東京交通世界社, 1904）の「第3章登山の栞」に掲載されているもの（下記参照）を基本に、筑波山近隣地域の山や神社などの観光地は含めず山中に存在するものとした³。

¹ 板倉登喜子、梅野淑子(1992)：日本女性登山史、大月書店、13

² 財団法人日本交通公社(2004)：観光読本（第2版）：東洋経済、6

³ 観光資源とは「観光する対象として活用されうる潜在的な可能性を指す」（前掲2）財団法人日本交通公社(2004)、38）。近世以前、登山の目的は参詣であり観光ではなかったため、「観光資源」との表現は正しくない。ここでは当時から筑波山の特徴的なものであると認識され、後に観光資源としての役割を持つようになったものを挙げた。

表-1 筑波山の観光資源

一の鳥居、夫女原、亀之丘、御橋、隋神門、拝殿、社務所、古通寺と瀑布、御神水、陽○華表、櫻塚、 女男川、連歌嶽、五亭、立身石、布引瀑布、男体山、観測所、御幸原、女体山、天浮橋、大佛石、 北斗石、大黒石、高高原、体内潜、瓣慶七戻、白瀧、陰○華表、冬季の奇観、山上の怪物、 筑波町と物産

筑波山」(1904)の「第3章登山の葉」より作成

2. 観光ルートと観光資源

(1) 第1期(近世以前～明治21年): 信仰

i) 観光ルート

筑波山に関する最も古い記述は713(和銅6)年に編纂されたとされる常陸国風土記である。これによると男体山は「高くけわしく雄の神と呼ばれており、人の登ることを許さな⁴⁾」かったが、女体山は岩石で上り下りには険しいものの、冬も夏も泉が流れ、男女が連れ立って登る場所だった。奈良・平安時代は男女が集う歌垣⁵⁾、国見⁷⁾の場として利用されていた。歌垣については常陸国風土記に「(足柄の)坂から東に在る諸国の男女は、春の花が咲く時期、秋の木の葉が色づく時節になると、手を取りあつて連れだち、食べ物や飲み物を持って、馬に乗ったり歩いたりして(この山に)登り、終日楽しく遊び過ごす⁸⁾」とあり、そのとき歌われた歌も記載されている。国見については万葉集に歌が残っている。

「筑波の岳に登りて丹比真人国人の作る歌一首並びに短歌

鶏が鳴く 東の国に 高山は 多にあれども 二神の 貴き山の 並み立ちの 見が欲し山と 神代より 人の言い継ぎ 国見する 筑波の山を 冬ごもり 時じき時と 見ずて行かば まして恋しみ 雪消する 山道すらを なづみぞ我が来る⁹⁾」

男体山と女体山では奈良時代は自然災害を鎮める目的で、筑波山は富士山や赤城山とともに朝廷から階位が与えられたとされている。筑波山神社の起源は平安時代¹⁰⁾に法相宗の僧徳一が中禅寺を開いたことが始まりとされる¹¹⁾。筑波山の中腹には筑波山を御神体とする拝殿、筑波山神

⁴⁾ 秋本吉徳(2001): 常陸国風土記全訳注: 講談社学術文庫, 32

⁵⁾ 「歌垣は春秋の祭りに男女が歌を掛け合わせ、相手の歌に負けると相手の意に従うことになる。」(宮本千代子(2012): 万葉集にいきる筑波山: 新幹社, 119)

⁶⁾ 「春秋の季節には多くの男女が、東の峰(女体山)近くにあつて泉が流れ出て一年中耐えることがないという御幸ヶ原に集まり、歌会をしては遊山した」(西海賢二(2012): [改訂新版]筑波山と山岳信仰—講究の成立と展開—: 崙書房出版, 15)

⁷⁾ 「高いところから人民の生活状態や国情を視察すること」(前掲5) 宮本千代子(2012), 38)

⁸⁾ 前掲4) 秋本吉徳(2001), 32

⁹⁾ 大意: 東国に高い山はたくさんあるが、中でも二神の並んで立つ貴い山で、そこから国見をする筑波山を、冬はこもって登山しない時節はずれの時期だとて、見ないで去ったなら、いっそう残念だろうから、とても歩きにくい山道だったけれども、行きなやんで難儀しながら、私はやっと頂上まで登ってきた。」(前掲書5), 宮本千代子(2012), 35-36)

¹⁰⁾ 筑波町史編纂専門委員会(1990): 筑波町史下巻, 667 には782~806年頃と記載。

¹¹⁾ 筑波山神社(2008): 関東の名山 筑波山 筑波山神社案内記, 11

社(図-1)がある。

鎌倉期に筑波山信仰が形成されて以降は神仏並立を通常とし、江戸時代は幕府の庇護を得て参詣登拝者が増加した¹²。奈良・平安時代は国府がある石岡から十三塚を経て登山していたとされている(図-2の(1))。「筑波」の名前の由来は色々あるが、石岡辺りから筑波山を見ると一峰に見え、「鋭く天を刺しているところから、アイヌ語の『聳え立つ頭』の意のツクバである¹³」という一説がある。当時国府があったことを考慮に入れば、石岡からの眺望から名づけられたという説は理解できるものである。

鎌倉時代以降は土浦から神郡を経て筑波山神社に至る筑波山街道が中心になった¹⁴。筑波山は江戸城から見ると鬼門の方角にあたり、家康の時代からは中禅寺を祈願所とし、家光の時代には大御堂¹⁵の修築がなされ、その際材木運搬のために作られた「つくば道」(図-3)がその後参詣道となった¹⁶(図-2の(3))。それまでは六所神社を経て女体祠に至る道(図-2の(2))を参道とした。六所神社は明治に入り蚕影神社に合祀されるまで筑波山の里宮であり、毎年春秋に筑波山神社で行われる御座替祭の神輿は当時この六所神社を出発及び終着点としていた。そのため六所から筑波山神社へ通じる道は、つくば道に参詣道が移ってもなお、江戸時代には参詣者だけでなく住民にとっても重要な道であったと推測される。

筑波山は初めから霊峰ではあったが、標高が低いため早くから人々が登る山でもあった。先述した国見の歌のように、万葉集では筑波山に登頂して詠んだ歌が残っている。寺の建立後は筑波山信仰と融合するが、江戸時代以降は中禅寺が幕府の庇護下に置かれ、「民衆の上昇や交通環境の整備により庶民の社寺参詣が急増¹⁷」し、遊楽化が進んだことで門前町が繁栄する。徳川光圀や吉田松陰など、著名な文人・墨客が参詣した記録が残る¹⁸。そして明治初期の廃仏毀釈運動により神仏習合の中禅寺は仏教要素が排除され¹⁹、1876(明治9)年には現在の筑波山神社の形が出来上がった²⁰。筑波山神社案内記には筑波山人車の東山に住む屋根葺職、塚本勇吉の日記で、仏像が焼き捨てられた図が掲載されており、「明治5年申之八月廿七日。とうのうえにて諸仏をやくづ」と書かれている²¹。明治初年には北条へ続く六丁通り・つくば道に、さらには石岡方面へと続く東山地区の府中街道にもまだ旅館や土産物屋が数多く立ち並んでいた²²。これらの道が参詣道として繁栄していたことを表している。

¹² 西海賢二(2012):【改訂新版】筑波山と山岳信仰—講集團の成立と展開—: 崙書房出版, 19

¹³ 野村亨(2002): 筑波山の文学, 野村亨, 8

¹⁴ 宮田登, 宮本袈裟雄(1979): 日光山と関東の修験道: 名著出版, 246

¹⁵ 現在筑波山神社より南東に位置する筑波山大御堂は1961(昭和36)年に再建されたものである。

¹⁶ 荒川潤(1950): 筑波の里宮: 民間伝承 14(7), 39

¹⁷ 筑波町史編纂専門委員会(1989): 筑波町史上巻, 658

¹⁸ 前掲 17) 筑波町史編纂専門委員会(1989), 660

¹⁹ 前掲 11) 筑波山神社(2008), 95

²⁰ 前掲 10) 筑波町史編纂専門委員会(1990), 149-159

²¹ 前掲 11) 筑波山神社(2008), 94

²² 佐々木博(1983): 筑波山門前町の立地生態: 筑波大学人文地理学研究(7)



図 - 1 筑波山神社拝殿 (20130809 撮影)

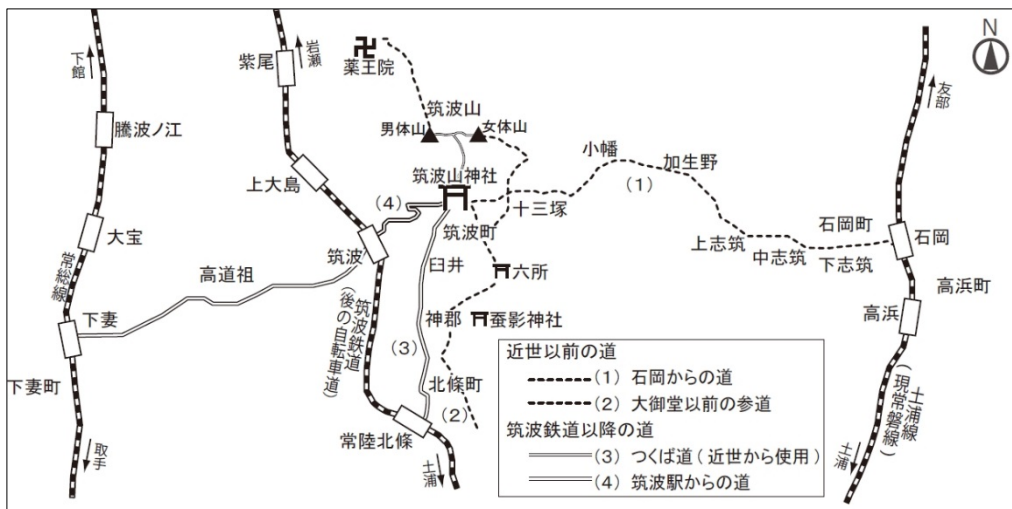


図 - 2 近世以前から筑波鉄道開通までの筑波山へのアクセスルート

(日本交通公社 (1928) : 旅 7 月号, 30-31 の筑波旧登山道略圖と荒川潤 (1950) : 筑波の里宮 : 民間伝承 14 (7), 279 の図を合わせて作成)



図-3 つくば道 (20140424 撮影)

ii) 観光資源

万葉集には山頂からの眺めを歌った歌²³や、既述したように国見にも使われていたことから、眺望は登山目的の一つにもなっていたと思われる。そして百人一首には男女川が登場する²⁴。男女川は筑波山山頂から流れる川で、和歌の歌枕にもなり、人々に親しまれていた。

筑波山が信仰の山であることは既に述べているが、仏教以前の自然信仰のひとつに「石神信仰」がある²⁵。筑波山でも「巨石の下で祭祀が執り行われたことを推測させる²⁶」7世紀の土師器坏が巨石周辺から発掘されており、筑波山頂付近の巨群も石神信仰の対象となっていたと思われる。1904(明治37)年の筑波山ガイドブック²⁷にも石の紹介があり、巨石巡りは最も古い観光資源のひとつと考えられる(図-4)。

1755(宝暦5)年に描かれた筑波山下面図では中禅寺の二王楼門と参詣道橋の脇に「土産物売っていたであろう店屋」が描かれている²⁸。参拝客で賑わっていたと思われ、参拝と同時に観光の側面を持ち始めていた。

²³ 例えば巻十・一八三八, 春雑歌「峯の上に降り置く雪し風のむた此處に散るらし春にはあれども」や巻九・一七一二, 雑歌「天の原雲なき宵にぬばたまの夜渡る月の入らまく惜しも」は筑波山に登って詠んだ歌である。

²⁴ 「筑波嶺の峰より落つる男女川恋ぞつもりて淵となりぬる」陽成院

²⁵ 小泉武栄(2001): 登山の誕生: 中公新書, 80

²⁶ 前掲 11) 筑波山神社(2008), 11

²⁷ 岩上長作(1904): 筑波山: 交通世界社, 17-36

²⁸ 前掲 11) 筑波山神社(2008), 20



図-4 山中の巨石（左：裏面大黒、右：弁慶七戻り）（20140614 撮影）

(2) 第2期(明治22年～昭和29年): 鉄道の開通

i) アクセスルート

1889(明治22)年には水戸と小山を結ぶ水戸鉄道水戸線、1896(明治29)年には水戸から上野を結ぶ日本鉄道会社海岸線(現常磐線)が敷設され²⁹、東京や栃木からの登山者が増えた³⁰。常磐線は福岡南部～茨城北部に広がる常磐炭田から東京への石炭輸送を目的としていたが³¹、結果として筑波山観光にも役立つものとなった。これらの開通により、下館まで電車で行き、馬車等で筑波町へ行く方法や³²、土浦まで電車で行き、人力車あるいは馬車を使用して北条経由で筑波山へ行く方法などが紹介されている³³。1909(明治42)年のガイドブックには真壁町方面から薬王院を経て男体山へ登る北からの道が紹介されているが³⁴、1923(大正12)年の文献には「全く草に埋れてゐる」³⁵と書かれているのでこの頃には利用されなくなっていたと考えられる。その理由には今述べたように鉄道開通が理由としてあげられる。

しかしこれらの鉄道よりも筑波山に大きな影響を与えたのは1918(大正7)年の土浦駅と岩瀬駅を繋ぐ筑波鉄道の開通である³⁶。これにより筑波から土浦まで約50分で行けるようになった。この敷設には筑波山登山客誘致だけでなく、岩瀬・真壁地方の石材運搬という目的があった³⁷。その目的通り、花崗岩、土管、生糸、焼物、米などが東京に移送され、筑波山観光客増加にも成功した。7年後には筑波山神社と御幸ヶ原を繋ぐケーブルカーが開通し(図-5)、筑波鉄道筑波駅から筑波町までの交通手段には乗合自動車を利用され³⁸、登山客は大いに増加した³⁹。徒歩で3時間かかっていた筑波山神社からの登頂が8分に短縮され、「東京近郊の好旅行地⁴⁰」や、「拜殿には四時人の影を見ぬ日とてはない⁴¹」など東京から気軽に行ける観光地として定着した。

筑波鉄道開通以降はほとんどが土浦から筑波鉄道で北条もしくは筑波まで行くルートを紹介している⁴²。その他は復路の経由地として下館⁴³や石岡⁴⁴を勧める文献がみられる程度である。実際は北条駅よりも筑波山に近い筑波駅を使う登山客が増え、これによりつくば道の利用客が減

²⁹ 前掲22) 佐々木博(1983), 189

³⁰ 木村繁(1959): 筑波山, 311

³¹ 中川浩一(1980): 茨城鉄路鉄道発達史 上: 筑波書林, 34

³² 大町桂月(1912): 筆のすさび: 富山房, 209

³³ 「上野より土浦線の汽車に乗りて土浦に下車し其れより(中略)筑波町に達す」(博愛館編輯所編(1910): 東京近傍避暑避寒案内地図: 博愛館, 32, 「上野駅より水戸線に由りて土浦まで汽車にて二時間半, 土浦より北條まで四里」(前掲書32) 大町桂月(1912), 208

³⁴ 大町桂月(1909): 関東の山水: 博文館 106, 及び大塚周作(1918): 筑波登山之友: 一名・筑波山詳解,

³⁵ 河田楨(1923): 一日二日山の旅: 自彊館書店, 378

³⁶ 築地秀晃(1919): 筑波しるべ, 寺田書店, 2

³⁷ 前掲書10) 筑波町史編纂専門委員会(1990), 321, 356

³⁸ 日本交通公社(1931): 筑波山麓を巡る旅: 旅 1931年6月号, 137

³⁹ 前掲30) 木村繁(1959), 318

⁴⁰ 日本交通公社(1925): 筑波のケーブルカーを観る: 旅 1925年11月号, 87

⁴¹ 前掲書38) 日本交通公社(1931): 旅 1931年6月号, 138

⁴² 例外として取手と下館を繋ぐ常総鉄道の開通年1913(大正2)年の『常総鉄道名勝案内』には下妻からのルートが記されている。

⁴³ 谷口梨花(1920): 名所ところどころ: 博文館, 124

⁴⁴ 松川二郎(1925): 土曜から日曜: 有精堂書店, 303

ったため北条の町は寂れていくこととなった⁴⁵。一方筑波駅から筑波山神社への道は栄えたものの、「昔は参拜登山の客が大勢泊り込んで、随分賑はったものだそうですが、今は汽車の便がよくなって東京からでも日歸りが出来ますので、泊り客が殆ど無くなって町は大層寂れました。⁴⁶」とあるように、交通機関の発達により滞在時間が短縮され筑波町の旅館は宿泊客が減少した。筑波鉄道で移動時間が減り、ケーブルカーで登頂時間が減り、大量に登山客を迎え入れることができる状況になったものの、筑波山麓の町の繁栄については考慮されていなかったのだろう。

また、明治期の幾多の鉄道開通に伴い筑波山へのアクセスルートに変化をもたらしたものの、大正期の筑波鉄道開通後は筑波駅からの入山に集約され、石岡や北部にある薬王院からの入山についての記述はみられなくなる。

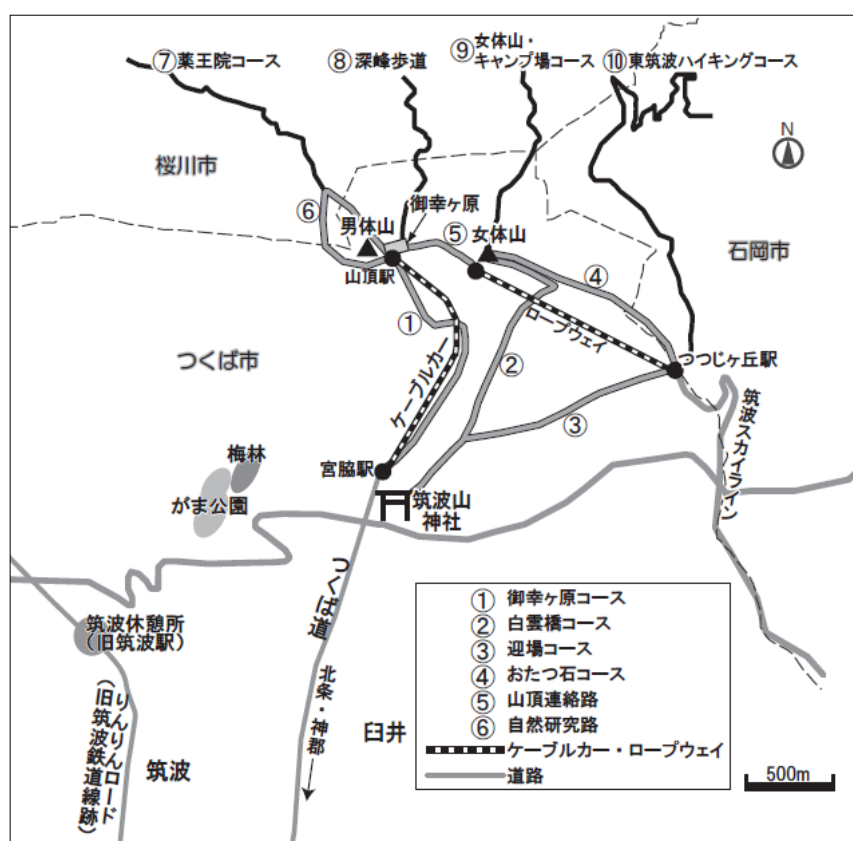


図 - 5 現在の登山道と道路交通網

(NPO 法人つくば環境フォーラム (2012) :筑波山自然観察ハンドブック, 2-3 と筑波山ケーブルカー・筑波山ロープウェイ HP の登山マップ (詳細版) (http://www.mt-tsukuba.com/?page_id=136) (2014.12.9 参照) より作成)

⁴⁵ 前掲書 11) 筑波山神社 (2008) , 420

⁴⁶ 西亀正夫 (1931) : 学習旅行文庫 : 趣味の地理 1 (山めぐり) : 厚生閣書店, 119-120

ii) 登山道

明治以降、筑波山頂までは「拝殿より左に男体山へ上りて、女体山より下らるゝが順路なり⁴⁷⁾」とあるように、「筑波山神社→御幸ヶ原→男体山→女体山→白雲橋→筑波山神社」⁴⁸⁾を辿るルートが主流であった(図-5)。その理由は「女體の道は少し険しいので、大抵は先づ男體へ登つて兩峰の鞍部(御幸ヶ原)を傳うて女體へ行つて、歸りに女體道を都るやうである⁴⁹⁾」とされている。登山道について記述がある文献12件すべてにこのルートが示されている。

1925(大正14)年には、筑波山観光振興のために地元の資本家たちが筑波山神社から御幸ヶ原までを繋ぐケーブルカーを敷設させた。この建設には、筑波山神社は神聖な筑波山の神域が穢されることを、住民は樹木伐採による土砂災害が発生時の農作物被害を想定して反対運動を起こしたが、当時の権力者の強い意向により工事は決行された⁵⁰⁾。ケーブルカーは、①御幸ヶ原コースの行程を時間短縮させるためのものであり、筑波山神社を出発して男体山、女体山を経てまた神社に戻る従来のルートに変化はなかった⁵¹⁾。

戦争に入ると筑波山でも状況は変わった。戦時中はケーブルカーは不要不急線として1944(昭和19)年に営業廃止となり⁵²⁾、1955(昭和30)年から再開を果たす。また、男体山山頂近くには1902(明治35)年から観測を始めた筑波山山頂測候所があるが⁵³⁾、戦時中はこの屋上で防空監視体制がとられた⁵⁴⁾。山頂は関東平野を見渡せるので平安時代にも国見に使われたが、戦争にもこの眺望が利用されていた。

ケーブルカーや筑波鉄道の開通により多くの登山客が流れ込むようになったが、戦争が始まるにつれてその動きは終息する。

iii) 観光資源

1900(明治33)年の『地理歴史勝地記文』には「賽ス」と同時に「併セテ山中ノ名勝ヲ歴覽スル者多シ。」とある。文献に多く記載されているのは山頂から関八州が見渡せることであり、「四面に八州の野を望むべく其威靈其秀美兩つながら⁵⁵⁾」との記述がある。反対に、「平野の間に特立した筑波の秀姿は、連山重畳した山峰などよりも早くから旅客の興味を惹いたものと見える。⁵⁶⁾」のように、遠方からの眺めも評価され、筑波山から見た風景だけでなくその山容も重

⁴⁷⁾ 前掲書34)大町桂月(1909),108

⁴⁸⁾ 登山道を明確に説明するため、本文及び図-5、表-2では現在使われているコース名を使用した。ただしこのコース名がいつから使用されたのかは不明である。本研究で用いた文献に記述はなく、最近のガイドブックやホームページで使用されている。

⁴⁹⁾ 松川二郎(1922):東京近郊写真の一日:アルス,338

⁵⁰⁾ 前掲書11)筑波山神社(2008),359,前掲書30)木村繁(1959),317

⁵¹⁾ 「先づ男體に登つてそれから女體へ廻るのが普通です。」前掲書46)西亀正夫(1931),121

⁵²⁾ 筑波山ケーブルカー・筑波山ロープウェイ HP http://www.mt-tsukuba.com/?page_id=8 (2014.11.30参照)

⁵³⁾ 富山竹次郎編(1919):筑波登山記念写真帖,筑波神社社務所,(14)

⁵⁴⁾ 前掲10)筑波町史編纂専門委員会(1990),420

⁵⁵⁾ 光村写真部(1902):仁山智水帖,83

⁵⁶⁾ 田山花袋(1917):山水小記:富田文陽堂,82

要な観光資源であったことがわかる。

明治から大正にかけての旅行記には、山中にある茶店についての記載が目立つ。特に「御幸ヶ原の五軒茶屋（五亭）⁵⁷」と呼ばれる5軒の茶店⁵⁸は有名で、「再び五亭に過りて湯を醫し英氣を蓄ひ、嶮道東を指して歩す⁵⁹」とあるように、男体山から女体山へ行く際の休憩場所として栄えた。そこで振舞われる夫婦餅や田楽の味や、五軒茶屋のひとつである依雲亭にて天狗党の藤田小四郎が刻印した扁額⁶⁰ ⁶¹を見せてもらうことも多く紹介されている。今で言う歴史巡りの片鱗をうかがわせる。五軒茶屋は1918（大正7）年には5軒が2軒⁶²になり1923（大正12）年には1軒になる⁶³。減少した理由は定かではないが、登山道にも茶店はたくさんできていた⁶⁴ため、御幸ヶ原に到達するまでに休養をとる登山者が多く、五軒茶屋の店舗数が減った可能性がある。

現在福来みかんとして流通している蜜柑もこの頃から有名であったが、味の評価は良いものではなかった⁶⁵。旅館は江戸屋をはじめ4～5軒あり^{66,67}、筑波山に徒歩で登っていた時期には宿泊して山を巡るスタイルが一般的だったと考えられる⁶⁸。しかしケーブルカー建設後の文献には旅館の名は江戸屋しか載らなくなった。先にも述べたように、登山の時間短縮により宿泊客が減少し閉鎖に追い込まれた旅館があったことの表れだろう。

妓楼も6軒あり「山に妓楼あるは天下無類也⁶⁹」と記されるほど、山にある施設としては異色だったようだが、明治から大正にかけて存在した。

この時期の筑波山の魅力は、「筑波山の崇はれた原因は凡そ二つあつて、其一は宗教的の意味、其二は遊び場所としてである⁷⁰」と書かれている。ケーブルカーができ登山客の大量受入れを可能にして観光地化が始まったように見えるが、参拝登山の意味合いは残っていた。登山ルートを見ても、筑波山神社に参拝してから双峰に登頂してそれぞれの祠にお参りし神社へ戻る、という、山への崇拝精神が感じ取れる。その参拝には茶店や巨石巡り、山頂の絶景を楽しむといった観光要素が備わっていた。

⁵⁷ 前掲36) 築地秀晃(1919), 12

⁵⁸ 常総鉄道株式会社編(1913):常総鉄道名勝案内, 53にて, 五軒茶屋には依雲, 迎客, 遊仙, 向月, 方眼の5つがあったと記されている。なお, 本研究で用いた文献には五軒茶屋の開業年は明らかになっていない。

⁵⁹ 前掲27) 岩上長作(1904), 31

⁶⁰ 1864(元治1)年, 元水戸藩主で尊王攘夷派(天狗党)の藤田小四郎が筑波山に拠った際, 刻印した扁額とされる。詳細は第3章に記載。

⁶¹ 前掲53) 富山竹次郎編(1919), (12)

⁶² 前掲34) 大塚周作(1918), 2

⁶³ 前掲35) 河田楨(1923), 376

⁶⁴ 「茶店の多い事も亦夥しいものだ」(前掲書35), 河田楨(1923), 375)

⁶⁵ 「其品質に於て甚だ佳良なるものに非ず」(前掲27) 岩上長作1904, 42)

⁶⁶ 前掲27) 岩上長作(1904), 37, 前掲32) 大町桂月(1912), 209

⁶⁷ 本研究の文献の最初に登場する旅館は「江戸屋, 結束屋」(前掲27) 岩上長作(1904), 41)である。江戸屋は今も存在し, 創業1628(寛永5)年とHP(<http://www.tsukubasan.co.jp/enjoy3.html>2014.9.22参照)に記載されている。結束屋に関しては現在存在せず創業年については未確認である。

⁶⁸ 前掲34) 大町桂月(1909), 108

⁶⁹ 前掲34) 大町桂月(1909), 106

⁷⁰ 鳥居竜蔵(1927):上代の東京都其周囲:磯部甲陽堂, 296

巨石は、男女川と同じように、明治・大正期でも弁慶七戻り、立身石、胎内潜など、今とほぼ同じ呼び名で紹介されている。これら山中の自然の産物は明治で既に名所となり、人々を呼び寄せる観光資源としての役割を担っていたと言える。

(3) 第3期(昭和30年～現在): 観光の大衆化

i) アクセスルートの変化

終戦を迎えケーブルカー復旧が再稼働した後は、日曜日ごとに上野ー筑波間を「自然科学列車」が走り、東京から子どもたちを筑波山に運んだ⁷¹。おそらく遠足である。筑波鉄道を媒体として東京都から観光客を運搬するこうした動きは、時代が昭和30～40年代になると観光客の多くが自家用車を利用するようになった⁷²ことで終わりを迎える。自家用車増加に伴って筑波鉄道の利用者は減り⁷³、1985(昭和60)年に廃線となる。その後、筑波山への交通手段はバス等もあったはずだが、自動車利用客が増え筑波山付近で交通渋滞が起きたため、1965(昭和40)年には筑波スカイラインが開通、それと同時につつじヶ丘に駐車場が設けられ、そこから女体山をつなぐロープウェイ⁷⁴が完成した。こうして筑波山の入山口は筑波山神社だけでなくつつじヶ丘が追加され、登山客を分散させることとなった。つつじヶ丘は元々茅場で、「山麓の集落の人々は、ここまで登ってきて茅を刈り、馬に積んで持ち帰り、屋根の修繕に備え⁷⁵」ていたが、昭和40年代頃から生活様式の変化に伴い、茅刈りが行われなくなった。

また、より広い地域に目を向けると、つくば市(当時は筑波町、大穂町、豊里町、谷田部町、桜村、荃崎村)における研究学園都市の建設も筑波山への観光客の流入に影響を与えたと言えるだろう。東京の人口集中を回避するために各機関の集団移転が昭和50年代に本格的に開始され、1985(昭和60)年、谷田部町を第一会場としたつくば万博開催によって「つくば」という名が筑波山とは別に注目を集めるようになる。万博に合わせ、筑波山の旅館は改修や商店の整備、万博会場への出店をし、いばらきパビリオンでは筑波山神社のお祭りなどを紹介し⁷⁶、筑波山を宣伝した。万博以降、茨城県南部の中心地は土浦からつくばに移行していく。つまり筑波山へは、明治の日本鉄道海岸線(現常磐線)開通から続いた土浦経由のアクセスは衰えを見せ、つくば経由が主になっていく。2005(平成17)年のつくばエクスプレス開通はそれが決定的なものとなった。

⁷¹ 前掲10) 筑波町史編纂専門委員会(1990), 611

⁷² 前掲10) 筑波町史編纂専門委員会(1990), 611

⁷³ 日本交通公社(1986): 私鉄のある風景4 筑波鉄道: 旅 1986年5月号, 151-156にて、今年の9月までに毎日の乗降客を2000人確保しなければ鉄道開始が決定しており、『みんなで乗ろう・筑波線』を合言葉に自治体が存続運動を行っていることが記載されている。前掲書10) 筑波町史編纂専門委員会編(1990), 616には「昭和40年の旅客数は412万人であったが、50年には298万人、60年には130万人と減り続けた」との記載もある。

⁷⁴ 前掲書10) 筑波町史編纂専門委員会編(1990), 612

資料には「ロープウェイ」と記載されているが、本論文内では、筑波山ケーブルカー・筑波山ロープウェイHPを参考に「ロープウェイ」と記載する。

⁷⁵ つくば環境フォーラム(2012): 筑波山自然観察ハンドブック, つくば環境フォーラム, 6

⁷⁶ 前掲書18) 筑波町史編纂専門委員会編(1990), 619

また、明治初年には筑波山神社近辺の参道に立ち並んでいた旅館や土産物屋は現在はかなり減少し、神社周辺に集中している（図 - 7 右図）。自動車やバスで神社入口まで来られるようになり、参道と呼べる道はなくなったと言える。

そして1987（昭和62）年に筑波鉄道の廃線後はしばらく放置されていたが、1992（平成4）からおよそ10年かけて自転車道として生まれ変わり、旧駅舎を利用した6か所の休憩所を設けるなどして整備された。1993年には募集した中から「りんりんロード」という愛称をつけられ、昨今のロードバイクブームもあり、サイクリングロードを紹介するサイトにもこの自転車道が紹介されている。2016年4月には岩瀬駅と土浦市街地を結ぶ県道桜川土浦自転車道線（つくばりんりんロード）と、潮来市内と土浦市街地を結ぶ県道潮来土浦自転車道線（霞ヶ浦自転車道）を接続し、県道桜川土浦潮来自転車道線とすることが認定された（図 - 6⁷⁷）。



図 - 6 県道桜川土浦潮来自転車道線

⁷⁷ 茨城県 HP <https://www.pref.ibaraki.jp/doboku/urado/rinrinroad/rinrin28-4.html> (20161204 閲覧)

ii) 登山道

戦中に廃線となっていたケーブルカーが1953（昭和28）年に再開した後、自家用車利用客の増加に伴い筑波スカイラインとロープウェイも開通する。これにより、徒歩と交通機関を組み合わせた「つつじヶ丘→（ロープウェイ）→女体山→御幸ヶ原→男体山→（ケーブルカー）→筑波山神社」というルートが可能となった。これは比較的緩やかな男体山から登るそれまでのルートと逆行した形となっている。1980（昭和55）年の「月刊るぶ」では、つつじヶ丘大駐車場からロープウェイで女体山頂に登り男体山には行かずに④おたつ石コースを徒歩で下り、車で筑波山神社に行くルートが紹介されている。それまで「筑波山神社→①御幸ヶ原コース（もしくはケーブルカー）→男体山→⑤山頂連絡路→女体山→②白雲橋コース→筑波山神社」が主流であったので、つつじヶ丘と女体山を繋ぐルートができたことで新たな登山ルートが生まれた。

1969（昭和44）年には男体山に筑波山の自然観察のための「自然研究路⁷⁸」が新たに設けられた。同年筑波山は加波山地域と共に水郷筑波国定公園に追加され、この頃から「自然豊かな筑波山」が注目されるようになったと言える。

つくばエクスプレス開通翌年の2006年（平成18）年の記事には、ケーブルカーとロープウェイの利用客が増加したことが⁷⁹、2009年（平成21）年の記事にはつくばエクスプレス開通前は観光客減少を辿っていたが、開通後は観光客が押し寄せたことが⁸⁰筑波山旅館組合からの声として掲載されている⁸¹。新たな交通機関の展開により観光客誘致が上手くいっていたのだと思われる。

iii) 観光資源

戦後の文献で観光資源として目立つのは「がま」関連である。「がま洞窟⁸²」というテーマパークがつつじヶ丘に、口上を見せる「がま公園」が筑波山神社西方に造成される⁸³など、高度成長期に筑波山に多くの観光施設が建設された。この有名ながまの油売りの口上は近世に江戸時代を代表する香具師、永井兵助⁸⁴が始めたという説もあるが、光田憲雄（2000）によると「ガマ

⁷⁸ 筑波山ケーブルカー・筑波山ロープウェイ HP (http://www.mt-tsukuba.com/?page_id=760 (20140921 参照))

⁷⁹ 「昨年9月～11月、(中略)ケーブルカーを利用した人は17万5600人を数え、前年同時期に比べ、約6万7000人、6割も上回った。ロープウェイも4割増えた。」筑波山観光思わぬ恩恵：YOMIURI ONLINE (<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/ibaraki/kikaku/069/3.htm> (20140109 参照))

⁸⁰ 常陽地域観光センター (2009)：いばらきの観光, 22 (<http://arc.or.jp/ARC/200904/ARC0904gatu/0904chousa.pdf> (2014.9.23 参照))

⁸¹ 「統計つくば(平成25年度版)」のデータではTX開通後に筑波山入込数の大幅な増加はみられない。現地で観光客増加を感じたこうした声とデータに差が出る理由は今後調査が必要である。

⁸² 本研究で用いた文献にがま洞窟建設年についての記述はない。いくつかのサイトに昭和40年代頃と記されているが、明らかではない。

⁸³ 設立年は不明だが、2007(平成19)年に閉鎖された。

⁸⁴ 堀口友一(1960)：[巡検案内]水郷と筑波山：地理5(8)134には「長井」京介とあるが、筑波山ガマ口上保存会 HP (<http://www15.ocn.ne.jp/~ayabe/> (2014.1.9 参照))では「永井」とあるのでそちらを採用する。

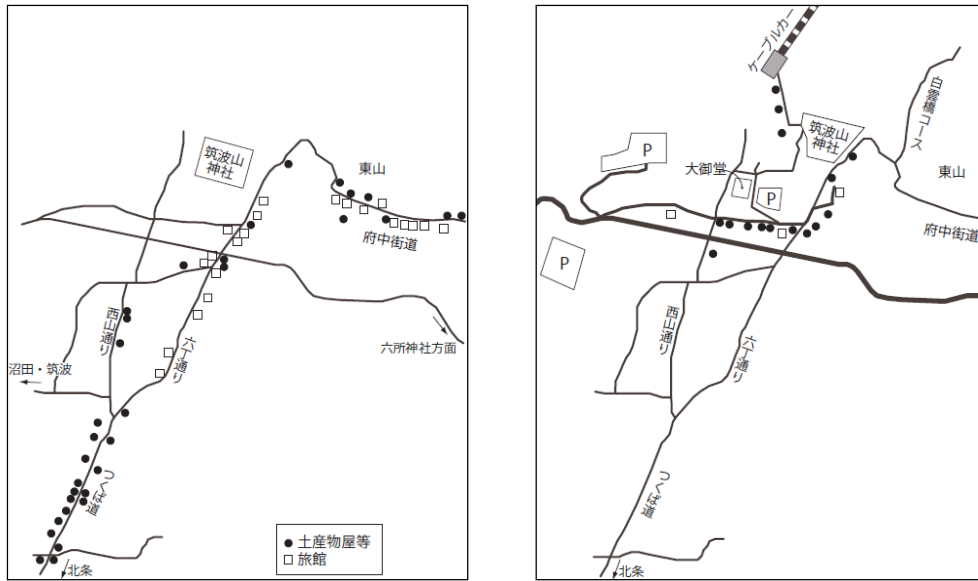


図 - 7 筑波山神社近隣の旅館及び土産物屋の分布（左図は明治初年頃、右図は現在）

（左図は佐々木博（1983）：筑波山門前町の立地生態：筑波大学人文地理学研究（7）, 188 より、
 右図は筑波山ケーブルカーHP（http://www.mt-tsukuba.com/?page_id=136）（2014.12.9 参照）の登山マップ（詳細版）より作成）

表-2 観光ルート，インフラ整備，観光資源の関係

（表内の①～⑥の数字は図-3の登山コース番号を示す。）

		近世～1888 明治21)年	1889 明治22)年～1954 昭和29)年	1955 昭和30)年～現在	
インフラ整備	つくば道	1626			
	水戸鉄道水戸線 現水戸線) 開通 (小山-友部)		1889		
	日本鉄道海岸線 現常磐線) 開通 (止野-水戸)		1892		
	常総鉄道開通 (取手-下館)		1913		
	筑波鉄道開通 (筑波-岩瀬)		1918-1985		
	ケーブルカー開通		1925-1944	1955	
	筑波スカイライン・ロープウェイ開通			1965	
	自転車道 (旧筑波鉄道, 通称「りんりんロード」)			1992	
	つくばエクスプレス開通 (秋葉原-つくば)			2005	
主な観光ルート	ア 筑東から 石岡 → 筑波山				
	ク 波北から 真壁-椎尾薬師 → 男体山				
	セ 山西から 下館 → 神社				
	ス 南から 六所神社 → 筑波山				
		北条/神郡 → 神社			
		筑波駅 → 神社			
		自家用車/バス (車) → 神社			
登山道	登 神社から ①→⑤→②→神社				
	つつじヶ丘から ケーブルカー→⑤→②→神社				
		ロープウェイ→⑤→ケーブルカー			
		ロープウェイ→④→スカイライン→神社			
観光資源	巨石眺望				
	男女川				
	五亭の夫婦餅				
	五亭の田楽豆腐				
	依雲亭の扇額				
	蜜柑				
	妓楼・遊郭				
	がまの口上				
	がま洞窟				
	がま公園				
	自然研究路				
	桜山キャンプ場				
	国民宿舎つくばね				
	梅林				

の油を売った形跡はその頃にはない⁸⁵」という。今のがまの油売りの口上に出る地名は筑波山以外はすべて京都、大阪、滋賀の三府県であること、「筑波山ガマ口上保存会」によれば永井村に「平助」という人物がいたことまでしかわかっていないことなど、ガマの口上の起源が筑波山ではないことを様々な側面から論証している。最終的に、ガマの油売りの口上は上方落語にあり、三代目春風亭柳好が昭和初めに伊吹山を筑波山へ言い換えた、として、「ガマの油売りの口上が筑波山になったのは、昭和以降である間違いない⁸⁶」としている。戦後、観光地化をすすめるにあたり「筑波山=がま」というイメージを作り、活発に利用されたのだと思われる。がま公園は現在閉鎖されているが、1966（昭和41）の「筑波山麓合唱団」という歌も筑波山とがまとの結びつきを広く示すものとなったであろうし、2009（平成21）年に映画「ガマの油」が公開されたところを見ると、この「筑波山=がま」のイメージは今後も人々に根付いていくだろう。

また、山でキャンプをするという近代登山の傾向も見られるようになった。桜山キャンプ場は閉鎖されたが、今は臼井のつくばふれあいの里や石岡市のつくばねオートキャンプなどがある。1969（昭和44）年の水郷国定公園に筑波地区が追加され、その5年後には筑波山中腹に国民宿舎つくばねが石岡市（旧八郷町）にオープンした⁸⁷。この頃春と秋以外にも観光客を誘致するため、1974（昭和49）年には筑波山神社西方に梅林を設けて以降、毎年梅まつりが開催されている。その他にも最近の特徴として、秋にはもみじをライトアップするもみじまつり、冬には山頂から夜景を楽しむスターダストクルージング、婚活登山などのイベントが盛んに行われている。

筑波山の登山客だけを対象に観光資源が作られているのではなく、登山をせずとも筑波山近隣を楽しむような観光開発やイベント開催に目が向けられていることがこの時期の特徴だと言える。

さらに、最近のガイドブックを見ると「筑波山でプチハイキング&パワスポめぐり」との見出しがあり、昨今の登山ブームやパワースポットの流行に対応した資源が注目されていることがわかる。かつての参拝登山から観光登山へと登山理由は変化してきたと思われたが、ここに来て神社や山の神秘性がまた見直されている。

⁸⁵ 光田憲雄(2000)：ガマの油は何時から筑波山になったか，風俗史学(12), 50

⁸⁶ 前掲 85) 光田憲雄(2000), 57

⁸⁷ 八郷町史編さん委員会(2005)：八郷町史, 1270

3. 小結

本論文は時代を3つに区分し、筑波山の観光ルートの変遷を、観光資源の変化にも焦点を当てて明らかにしてきた。その明らかにした内容は以下の通りである。

第1期では、石岡や六所神社方面からのアクセスがあった。巨石巡りや山頂からの眺望、男女川などはこの時期からも存在する。江戸時代には中禅寺が幕府庇護下に置かれ、つくば道が参詣道となった。土産物屋が出現し、観光の側面を持ち始める。

第2期では、薬王院から男体山、下館からのルートもあったが、鉄道（現水戸線と常磐線）の開通で栃木や東京からも集客できるようになり、夫婦餅や田楽、妓楼などで筑波山を宣伝する。筑波鉄道開通後は筑波駅から筑波山神社へのルートが主になる。登山道は、最初に神社を通り男体山と女体山、そして神社に戻るスタイルが主流で、ケーブルカーが開通しても変化はなかった。

第3期は、ケーブルカーが戦後10年目に再稼働したことで、東京からの自然科学列車など観光地化が活発になり、更に10年後にはロープウェイと自動車道が整備される。これにより登山口は筑波山神社、つつじヶ丘に集約され、筑波山神社に行かない登山ルートが誕生した。同時期筑波山が国定公園に追加され国民宿舎も建設される。つくばエクスプレスが誕生するとつくば駅からのシャトルバスが充実を見せる⁸⁸。最近では筑波山に登頂せずとも梅まつりや自転車道など観光資源の範囲を広げている。一方で筑波山内ではイベント開催などで登山客増加を図っている。

筑波山の観光地化の第一歩は第2期から始まったと言える。その起点は土浦を通る常磐線で、当初は石炭運搬を目的としたが観光客を運ぶ要因となった。筑波鉄道も筑波山観光の他に石材運搬を目的としていた。この頃の鉄道は産業目的の傾向が強かったが、結果として観光の活性化に役立ったと言える。戦後は全国的に高速道路や新幹線などの交通網が展開され、観光が大衆化した時代である。自然科学列車の運行はそのひとつであろう。また国定公園指定後に国民宿舎ができるなど、国民の健全なレクリエーションと健康増進を図る全国的な動きと一致する。東京都の各機関をつくば市⁸⁹へ移転させたことも、都市の過大化防止を目標とした当時の日本の国土計画と一致する。つくば市北端の筑波山と同市中部の学園都市は離れているが、第2期から長く続いた土浦経由のアクセスがつくば駅経由に移行したのである。

観光資源を見れば、筑波山が元々持っている自然資源は現在まで継続しているが、それ以外には蜜柑は別として第2期と第3期で異なっている。第2期は五軒茶屋や参道で展開されるものに偏っていたが、それらが失われると第3期には新たな観光施設が設置されている。時勢や流行によってその都度求められる観光資源は変化し、時代に合った設備が求められていると言え

⁸⁸ 電車で筑波山へ向かう場合、つくば駅発と土浦駅発が紹介されており、土浦発は路線バス一本なのに対し、つくば発はシャトルバス4本である。筑波山ケーブルカー・筑波山ロープウェイ HP より

⁸⁹ つくば市は1987（昭和62）年に誕生。筑波山を含む筑波町はその一年後に編入合併される。

る。

筑波山登山は近世から参拝的側面と観光的側面を兼ね備えていた。鉄道という外的要因により自ずと観光地の色彩を濃くし、徐々に積極的に観光地化を進めるようになり、国の動きとも連動していたと言える。筑波山を取り巻く交通機関や交通手段は歴史を追うごとに次第に変化し、その結果登山口も2つに固定された経緯を把握してきたが、実際登山口は図-2⑦~⑩のように複数存在する。筑波山は周辺地域が一体となった取り組みが求められている現在、かつて観光ルートがあった石岡や真壁、下館方面から捉える筑波山を歴史的に見直し、今後注目することで市域を超えた新たな観光の展開が必要だと思われる。

第3章 筑波山のイメージの変遷

1. はじめに

本章では、人々が筑波山に対して持っている、過去から現在までのイメージの変遷を明らかにする。人々が持つイメージは、各時代の社会背景に影響を受けて構築されてきており、その積み重ねが現在の「筑波山」を作り上げていると言える。

筑波山は、奈良時代から人々に認知され和歌に地名として残り、現在は東京から日帰りで行ける山としての観光の面や、2016年に日本ジオパークに登録されたことで、その自然にも注目が集まった。我々が筑波山に抱くこうした観光や自然、またその他に持っているイメージは何を起源とするのだろうか。各時代の研究論文や紀行文などの文献や、画家の描く絵画や観光ガイドブックに掲載された写真等を通じ、それぞれの筑波山のイメージの変遷を明らかにする。

本章では、文献から読み取れるもの、絵画・写真から読み取れるもの、の2つの側面から調査を行った。用いる資料は、下記①～③にて「筑波」を検索し、抽出できた文献の中から筑波山について述べているものを選び、④では筑波山に関する記事を、⑤では「旅」、「ツーリスト」「るるぶ」にて筑波山に関するものを収集した。「筑波山」で検索すると、筑波山を示す「筑波の山」や「筑波嶺」と記された文献が検索できないため、「筑波」とした。なお、連歌を表わす「筑波の道」¹という言葉があるが、起源は筑波山に発するが、連歌は筑波山自体に関係がないため、南北朝時代の連歌集「菟玖波集」や室町時代の「新撰菟玖波集」、江戸時代の「犬筑波集」などは含めていない。また、視聴覚資料も含めなかった。

- ①国立国会図書館サーチ (<http://iss.ndl.go.jp/>)
- ②国立国会図書館デジタルコレクション (<http://dl.ndl.go.jp/>)
- ③国立情報学研究所 CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>)
- ④雑誌「風俗画報」
- ⑤旅行雑誌（日本交通公社 旅の図書館 (<https://www.jtb.or.jp/library>))

以上の方法で資料を抽出した結果、1126件の記事を収集した。それらを記事のタイトルや内容から判断し、人々のまなざしが介在することがわかる芸術作品、文学作品、観光ガイド、教育、そしてそれらの作品等を後の時代に考察する研究や、事実及び出来事を伝える記事といった2つに大きく分け、芸術作品は分類2として絵画、写真、文学作品は詩歌、物語・落語、紀行文、戯曲、研究は自然科学、歴史、文学、その他～、に分けることとした。芸術作品は分類2として絵画、写真とし、作者が視覚で表現するものを、文学作品は和歌や俳句、川柳、詩、など言葉で表現する詩歌、筑波山を題材とした物語や落語、筑波山に赴いて作者が感想を述べる紀行文及び随筆、そして筑波山が登場する戯曲、観光ガイドは主に筑波山来訪者への筑波山の紹介、そして教育は教科書や子供向け冊子に掲載されたものである。研究は、分類2として、筑波山観光、

¹ 日本武尊が常陸を経て、甲斐国に到着し、酒折宮に「新治 筑波を過ぎて 幾夜か寝つる」（新治と筑波を過ぎて、どのくらいの夜を過ごしただろうか？）と歌い、翁が「夜には九夜 日には十日を」（数えてみると、夜は九夜、昼は十日です。）と答えた、という日本書紀（720年）の話が発端となり連歌が始まったことに由来する。

景観や建築や地理の研究、そして自然科学、信仰や天狗党に関する歴史の研究、風土記や詩歌、物語と言った文学の研究である。

表-1 資料の分類

分類1	分類2	件数	
芸術作品	絵画	16	23
	写真	7	
文学作品	詩歌	228	430
	紀行文	109	
	物語・落語	79	
	戯曲	14	
観光ガイド		99	
教育		3	
研究	自然科学	274	557
	歴史	167	
	文学	92	
	景観・建築・地理	21	
	観光	3	
記事		14	
合計		1126	

2. 文献から見る筑波山のイメージ

芸術作品以外はすべて文字で表現されたものである。今回分析対象とした資料でもっと多いのは研究で 557 件だった。研究の中では、自然科学が 274 件、歴史が 167 件、文学が 92 件となり、3 番目の多さである。ここでは、文学、自然科学研究、歴史研究の 3 つの要素を取り上げ、それぞれの分野で筑波山がどう扱われてきたのかを調査し、現在の筑波山イメージに繋がる歴史的背景を明らかにする。文学作品は 430 件だった。なお、観光ガイドは第 2 章で分析の対象とした。

(1) 文学作品の筑波山

文学作品の中で、詩歌が最も多く 228 件、紀行文が 109 件、物語・落語が 79 件、戯曲（その他）14 件である。時代別にみると、詩歌は奈良時代の万葉集から始まり現代まで作品があるのに対し、物語・落語は平安時代の宇津保物語、落窪物語、源氏物語にあったが、1879（明治 12）年に「近世太平記 巻之上」という幕末の天狗党について書かれたものが登場するまで、室町時代の「お伽草子「狭衣の大將）」と 1717（享保 2）年の「富士権現筑波の由来」があるのみである。紀行文は、江戸時代前半に参拝目的とした紀行文があるが、近代に入り、主に 1900 年以降に観光を目的とした紀行文が増加し、現在まで続いている。

文学の中で詩歌は約半数にあたり最も数が多い。文学という観点で筑波山を語る場合、詩歌、とくに歌は筑波山に重要な要素のひとつである。有名なのは、万葉集にて富士山の歌は 11 首なのに対し、筑波山は 25 首と多く、富士山と異なり筑波山が人々に親しまれていた、と言われる所以である²。筑波山は歌垣の行われた場所としても有名で、男体山にイザナギノミコト、女体山にイザナミノミコトを祀り、「男女の陰陽和合の神³」とされていることから、万葉集では恋愛の歌が詠まれている。その他にも防人の歌、国見の歌などがある。男女が集まって歌を詠む行為や、実際に登って景色を詠む歌など、人の生活に密接に関わっていた側面を持ちつつ、神の支配下にある聖山として崇められていた⁴ことは、筑波山の特徴の一つと言える。「筑波山＝歌」としてのイメージは、この頃から定着しており最も長い歴史を持つ。

文学作品における波山の描写は「感情」「眺望」「季節」「霧・霞」「紫」「富士筑波」をあげることができた（表-2）。

² 宮本千代子(2012)：万葉集に生きる筑波山，常陽新聞新社出版局，10

³ 片桐洋一(1999)：歌枕歌ことば辞典増訂版，笠間書院，281

⁴ 前掲 3) 宮本千代子(2012)，29

万葉集（1759）「鶯の住む 筑波の山の 裳羽服津の その津の上に 率ひて 娘子壮士の 行き集ひ かがふ かがひに 人妻に 我も交らむ 我が妻に 人も言問へ この山を うしはく神の 昔より 禁めぬわざぞ 今日のみは めぐしもな見そ 事もとがむな（歌は、東の俗語に賀我比と曰ふ）」

大意）鶯の住む筑波の山の裳羽服津のそのほりに連れだつて若い男女が集まって唄歌会をする。そのかがいで私も他人の妻と契ろう。私の妻に他の人も誘いをかけよこの山を支配している神が昔から禁止しないこととある。今日だけは、愛妻を見るな、とがめだてもするな。（前掲 3) 宮本千代子(2012)，72）

表-2 文学作品における筑波山の描写件数

記載内容		件数	
感情	望郷	13	
	恋	7	
	小計	20	
眺望	遠方から	61	
	田園	55	
	山容	33	
	川	26	
	田舎	3	
	小計	178	
	季節	春	春
桜			13
梅			4
つつじ			8
秋		秋・紅葉	42
		冬	寒い・雪
		筑波産など	31
小計		135	
霧・霞		50	
紫		54	
富士筑波		63	

i) 感情

筑波山は男体山、女体山を擁すことや、平安時代には嬬歌という文化があったり山内を流れる川が男女川と名付けられたり、恋愛に関するものが多いと予想していたが、恋愛の感情を記載していたのは7件で、望郷の念を筑波山を見ながら歌う詩歌が13件と多かった。恋愛は近世以前に存在し、望郷は近代に入ってから詠まれる。また、歌に詠むだけではなく、1982（昭和57）年の「筑波峰：句集」（高木耕人著）や1983（昭和58）年の奈良比佐子著「遠筑波」のように⁶、幼少期に筑波山を見て育った懐かしい山である、との理由で句集名にする例がある。句集や詩集として「遠筑波」「筑波峰」は著者が地元出身であることが見られる。

源氏物語では、登場人物の浮舟が常陸国育ちであることを示すために筑波山を用い、田舎の方であることを示している。また、近代に入って、1957（昭和32）年の海音寺潮五郎著「筑波嶺」⁷、1968（昭和43）年の井上靖の「夜の声」でも、筑波山の方面が田舎であることを示し⁸、物語が展開される。田舎のイメージは、源氏物語が書かれた平安時代から近代まで期間が空いているが、その間はどうかだったのか、次項の「絵画から見る筑波山のイメージ」と合わせて考察を行うこととする。

ii) 眺望と山容

筑波山を眺望するにあたり、どのような景観と共に見ているのか、そしてどの位置から見ているのかを明らかにする。全体を概観したところ、筑波山と共に川や田園風景が詠まれていることが読み取れた。

⁵ 高木耕人（1982）：筑波嶺：句集（若葉叢書；第230集），白風社

⁶ 奈良比佐子（1983）：遠筑波：奈良比佐子集，現代俳句選書；Ⅱ・20，東京美術

⁷ 海音寺潮五郎（1957）：筑波嶺，時代小説文庫；131 盗賊大將軍，富士見書房

⁸ 井上靖（1968）：夜の声，新潮社，44

筑波山内を流れる男女川は中世から近代まで記述があり、近世は隅田川と利根川、近代に入ると鬼怒川、霞ヶ浦、千波湖が掲載される。桜川は中世と近代で見られる。1657（明暦3）年の明暦の大火の影響で1659（万治2）年に架橋された隅田川の両国橋からの筑波山はたとえば柄井川柳で謳われ⁹、「ほととぎす富士と筑波の天秤に両国橋をかけたかどなく」のように富士と筑波の眺めを歌っているものもある¹⁰。

一方視点場は、中世は秩父（埼玉）、かすみがうら市（筑波山以南）、近世は江戸、武蔵、水戸（以北）、結城（以西）、近代以降は川越（埼玉）、足利（栃木）、鹿島（以東）や龍ヶ崎（以南）、下妻（以西）、牛久（以南）、高浜（以東）、猿島、そして東京がある。

近世は江戸、近代以降は茨城県内の地域から眺望することが多くなったことを表わしている。

次に、筑波山は二峰であることが特徴だが、山容についてどのように記述されてきたのかを明らかにした。山容を表現した文献は33件だった。中世は山容については「二並」しかみられず、近世に入ってから「二並」の他「西東の力士」といった形容表現が見られる。近代以降になると、「女男」「男峰女峰」「女の神男の神」「夫婦」といった男体山と女体山の名前から派生した呼び方や、「二峰」「雙峰」「双峰」のように「2つの峰」を意味するだけの言葉、そして「乳房型」「島二つ」「双肩」「二神座」「耳」といった、様々な形容の言葉が使われるようになる。中世～近世にかけては、山容について詳しく表現されることは少なかったが、近代に入って表現方法が増え、さらに筑波山の峰を「神」を使って表わすことがある。2章で明らかになったように、近世までは参拝対象として見られていたが明治以降は観光対象へと以降してきたが、文学の中では山容を「神」を用いて表現することが増加している。

また、筑波山を田園景観と合わせて述べたものは55件だった。万葉集でも田園景観と筑波山を共に述べる歌があるが、近代以降は「麦の穂」、近世以降は「麦」「稲刈り」「青波」「田」「麦踏み」「たんぼみち」「桑畑」「稲の穂」「田園」「田畑」「実りの秋」「田植え」「蓮根」「刈田」といった言葉を用いて筑波山の景観を表わしている。詩歌ではこれらの景観がどの辺りかは不明だが、紀行文から、山麓に田園景観が広がっていることが分かる。例えば1781（天明元）年「筑波紀行」（大島蓼太著）では、龍ヶ崎に住む翠兄と共に土浦経由で筑波登山をした記録で、土浦あたりが「田井多し」としており¹¹、1917（大正6）年「山水小記」（田山花袋著）では、筑波山への道中、「農民の生活を思はしめる」と記している¹²。また、1924（大正13）年「山のしづく」（別所梅之助著）では、取手から牛久沼を経て土浦から筑波鉄道で筑波登山へ赴く際に「田野が美しく広がる」としている¹³。近代に入っても1981（昭和56）年「歌枕をたずねて」（馬場あき子著）にて「裾野の水田は開墾の季節で～」とある¹⁴。

iii) 季節

現在の筑波山のイベントとして、梅まつりや「筑波山のつつじ祭り」、もみじ祭りライトアップが存在するため、歴史的な繋がりを確認するためにこれらの季節に関連する言葉を抽出した。

⁹ 野村亨（2002）：筑波山の文学，丸善出版，128

¹⁰ 浜辺黒人の歌（前掲6，128）

¹¹ 大島蓼太（1781）：筑波紀行，（前掲6，60-80,119）

¹² 田山花袋（1917）：山水小記，富田文陽堂

¹³ 別所梅之助（1924）：山のしづく，警醒社書店

¹⁴ 石塚弥左衛門（1998）：山は筑波嶺：文人群像，48（馬場あき子（1981）：歌まくらをたずねて）

春には「春」とそのまま記載してあるものもあるが、「桜」「梅」「つつじ」といった春を表わす植物で表現するものもある。ただし、桜は13件、梅は4件、つつじは8件と、ともに数は少ない。毎年2月に梅まつりは賑わうが、1986（昭和41年）に造成されたため、それ以前は筑波山に梅のイメージはなかったことが分かる。つつじも同様に、観光地化を目的とした、近年つけられたイメージである。

次に、秋と紅葉は、中世～近世～近代まで、常に秋の景色は表現されている。秋には紅葉だけでなく、収穫の時期なので「稲刈」などの言葉や「落葉」にも秋が表われている。

また、冬は、「雪」や寒さを表わす表現や「筑波風」がある。

iv) 霞・霧

霞と霧は、どちらも水滴が空中に浮遊し、ぼんやりと靄がかかったような状態になることを言うが、古くは春秋ともに呼び違いはなかったが、平安以降、春を霞、秋を霧という¹⁵。万葉集から始まり、現代の句集まで、すべての時代で言及されている。室町時代には、山崎宗鑑の「新撰犬筑波集、竹馬狂吟集」にて、連歌の一節、「朝霞おほふや恵み筑波山 宗祇」や、江戸時代初期には「賀茂翁家集」（賀茂真淵）にて「春の始の歌 をつくばもとほつあしをも霞むなりねこし山こし春や来ぬらん」（筑波山も、遠くの葦穂山も霞んでいることだ。嶺を越し、山を越し、春が来たのだろうか。）、近代では、下妻出身の筑波根詩人と呼ばれる横瀬夜雨の「お才」でも「女男（ふたり）居てさへ筑波の山に霧がかかれば寂しいもの～弥彦山から見た筑波根を今は麓で泣かうとは～」とある。古来より変わらない筑波山のイメージのひとつだと言える。

本研究で主に参照した著書「筑波山の文学¹⁶」からは、発表年が確定できないものが多いため、作者の生年で作品発表年代を判断し、100年ごとの掲載推移を表-3にまとめた。紫は1600年代以前に2件あり、2000年代は0件。富士筑波も1600年代以前に1件あり、2000年代は0件という状況である。「紫」も「富士筑波」も、文学が発端となり、現在まで影響を与えている筑波山のイメージである。

v) 紫の筑波

筑波山は紫峰とも呼ばれ、つくば市の土産物にも紫の包装が施されたり、1973（昭和48）年に筑波研究学園都市に移転した筑波大学の学生後援会も紫峰会と称されたり、いわゆる「つくば」を表わす場面で紫を用いる場面が多く、イメージカラーとなっている。

目次もしくは記事名に「紫」、「富士」と「筑波」があるものを挙げ、年代ごとに整理した（図-1）、紫は1890年代以降に、富士筑波は1870年代以前から掲載があり、増減がありつつも現在まで続いている。

紫色と筑波山を結びつける起源は、江戸時代の歌人服部嵐雪が詠んだ俳句「雪は申さず先ずむらさきの筑波かな」（訳：雪の筑波山の美景は今更言うまでもないが、春立てる霞の空に遠く眺めた紫の峰は比べるものもなく美しい¹⁷）だとされている¹⁸。徳川家光が整備したとされるつ

¹⁵ 広辞苑より

¹⁶ 野村亨（2002）：筑波山の文学、丸善出版

¹⁷ 土浦尋常高等小学校編（1940）：土浦郷土誌本、土浦尋常高等小学校、91

¹⁸ 石井郁子（1981）：神々の山－筑波山と万葉集、臥雲山荘文庫、86-87

くば道途中の一の鳥居脇にも句碑¹⁹が建立されている。その後、師匠の松尾芭蕉が、「鹿島紀行」(1687年)で「～ゆきは不申先むらさきのつくばかな と詠めしは、我門人嵐雪が句也。すべてこの山は、やまとたけの尊の言葉をつたえて、連歌する人のはじめにも名付けたり、和歌なくばあるべからず、句なくばすぐべからず、まことに愛すべき山のすがたなりけらし。²⁰」と嵐雪の歌を用いて筑波山を望んだ文章を記し、連歌の起源についても述べている。与謝蕪村の俳句にも「ゆく春やむらさきさむる筑波山²¹」があり、結城から眺めた、嵐雪の紫の筑波の歌をふまえた歌が残っている。

このように、1600年代後半頃から、嵐雪の俳句に因んで筑波山が紫のイメージに捉えられ始めた。しかし、図-1と表-3にみられるように、掲載件数が1900年代に増加する。増加の発端は、小島鳥水の「日本山水論」(1905(明治38)年)の影響ではないかと思われる。それまでの俳句の枠を超え、筑波の紫を「筑波紫(つくばパープル)」と称し、筑波山がなぜ紫に見えるのかを考察している。以下「日本山水論」の「第6章 山と紫色」の内容をまとめる²²。

- ・ 筑波山のある武蔵野平原は、中国やロシアのような「老年平原」ではなく「少年平原」であり、筑波山は若い少年を代表する色である紫を連想させる。
- ・ 西洋人が碧(ブルー)をプルシャン・ブルー、イタリアン・ブルーと名付けるのに対し、我々は紫に筑波紫(ツクバ・パープル)と名付ける。
- ・ 紫は赤と青の二原色を有する。外国人は青を「希望」、赤で「愛」を表わし、日本人は青で「未熟」、赤で「誠心」を表わす。「少年色」が山に塗られれば、神手を有する。
- ・ 花崗岩山はなぜ紫か。
 - ①花崗岩は堅いが粗粒なので分解しやすく、砕くと白い。しかし空気層に反映してその白は桔梗色に見えるようになる。
 - ②筑波山の石のようにオニミカゲに属する石は苔が生じやすい。松や樺、樺などが叢生して黄褐色、帯緑色、黒色などの色を帯びる。
 - ③花崗岩は諸鉱物の集合であり、中長石は肉色で、閃長岩が加わると黝暗(ゆうあん=青黒い)色となったり碧色となる。これらの色が総合したときに紫色を発する。

以上の小島鳥水の分析に対し、20年後の1925(大正14)年には、松川二郎が「旅の科学」(資料1, No.263)の中で批評をしている。松川は筑波山が紫に見える要因として、筑波山の位置と見る人の位置の2点が関係するとし、筑波山は関東平野に孤立し、最も山が紫に見える夕日の光を山頂から山麓まで直射する。また、「紫の筑波」は江戸文学が生んだ言葉であり、東京附近から望んだ時の感じで、「東京或ひはその近郊の臺地から望んだ筑波は晝(ひる)でも紫色で、夕刻は特にその色があざやか」だという。

2人の書籍が発行される間にはいくつも「筑波は紫」とする作品が生まれ、例えば1902(明

¹⁹ 建立は1782(天明2)年とされる。(堀口育男(2008):東京都立中央図書館所蔵『下總筑波山圖附諸國名所』影印・翻刻附解題、五浦論叢:茨城大学五浦美術文化研究所紀要 第15号78より)

²⁰ 石塚弥左衛門(1998):山は筑波嶺-文人群像, STEP, 146

²¹ 「筑波山は紫がさめて緑が増し初夏へ衣更をする」(筑波山の文学, 116)

²² 小島鳥水(1980):日本山水論, 小島鳥水全集第5巻, 大修館書店, 155-162

治 35) 年『花籃集』(国府種徳(犀東)著)でも筑波の紫色について語られ²³、1908(明治41)年の『新体詩集筑波紫』(清水橋村著)では、序文に薄田泣菫、蒲原有明、小島烏水がそれぞれ過去に発表した、筑波山が紫であることに言及する文章や詩が掲載されている²⁴。1923(大正12)年の『家族連れの旅』(谷口梨花著)には「紫の筑波山」の章がある²⁵。

今回収集した文献の中では「筑波山はなぜ紫なのか」を説いたものは小島烏水と松川二郎2人のみだった。松川の文章はその後も書籍名を変えて²⁶発行され、多くの人を読んだと推測でき、「筑波山は紫」という認識は広まった可能性が考えられる。その後、1940(昭和15)年の「土浦郷土読本」では、「古くから紫峰とたゞへられ、霊峰と仰がれて、日本に於ける名山のひとつとして知られてゐる」²⁷、1967(昭和42)年の歌集「茱萸(ぐみ)」(関せん著)では「朝かげにむらさき淡く天を区切る筑波の山にたち向ひけり」²⁸、1984(昭和59)年の「大寒のこがらしを鎮め筑波根は古代むらさきのままに粧ふ」²⁹(戸恒恒男著)といった記述を見るに、筑波山が紫というイメージが、江戸中期の嵐雪の歌から始まり、時代を経て定着してきたことが分かる。

vi) 富士と筑波

また、筑波山を紹介する文章、例えば茨城県公式観光情報サイト³⁰やつくばエクスプレス刊行のフリーペーパー³¹には「古くから『西の富士、東の筑波』と呼ばれている」とあり、富士山と合わせて記載される機会が多い。目次に「富士」と「筑波」両方があるものを表-4にまとめた。なお、絵画については次項で扱うため、ここでは触れないこととする。

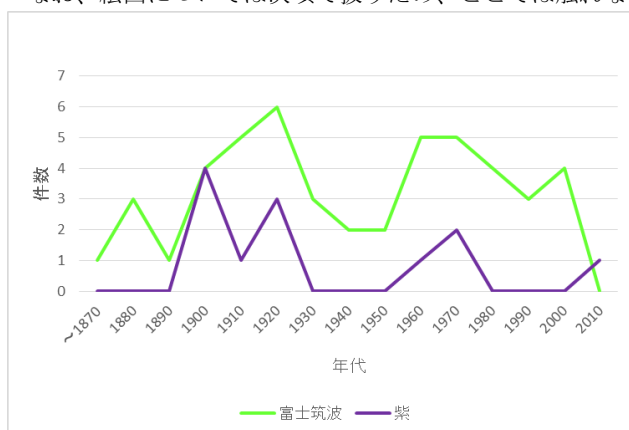


表-3 「紫」と「富士筑波」の掲載数

発表年代	富士筑波	紫
~1600	1	2
1700	0	1
1800	3	2
1900	5	15
2000	0	0
合計(件)	9	20

図-1 年代別にみる「紫」と「富士筑波」の掲載数推移

²³ 国府種徳(犀東)(1902):霞の筑波,花籃集,新声社,62-63

²⁴ 清水橋村(1908):筑波紫:新体詩集,日高有倫堂,小島烏水の文章は「日本山水論」からの抜粋

²⁵ 谷口梨花(1923):紫の筑波山,家族連れの旅,博文館

²⁶ 松川二郎(1926):科学より見たる趣味の旅行,有精堂書店

日本少年少女文庫刊行会編(1928):日本見物:少年智囊,日本少年少女文庫刊行会

²⁷ 土浦尋常高等小学校編(1940):土浦郷土読本,土浦尋常高等小学校,91

²⁸ 前掲11)石塚弥左衛門(1998),62

²⁹ 前掲11)石塚弥左衛門(1998),91

³⁰ 茨城県公式観光情報サイトいばらき http://www.ibarakiguide.jp/db-kanko/mt_tsukuba.html (2016117閲覧)

³¹ 首都圏新都市鉄道株式会社(2014):つくば発見ガイド 筑波山 MAP No.16,2 (2007年12月発行で、参考にしたのは2014年4月改訂版)

表-4 富士と筑波

No.	内容	発行年	著者	書籍名	出版	論文・記事名	備考
1	音楽	2000		文部省唱歌集成	コロムビアミュージックエンタテインメント	22)富士筑波	
2	音楽	1927	東京音楽学校 編	オルガン・ピアノ楽譜：小学唱歌集用	共益商社書店	63 富士筑波	楽譜
3	音楽	1926	竹内夢村 編	独習ハーモニカ音譜集	いろは書房	富士筑波	楽譜
4	音楽	1917	葛生勇 編	最新流行大正琴独習	中川玉成堂	富士筑波	楽譜
5	音楽	1915	橘実子、斎藤笹舟 著	音譜ハーモニカ独まなび	国華堂	富士筑波	歌詞と楽譜
6	音楽	1914	町田桜園 著	琴曲独まなび 第2	盛林堂	富士筑波	歌詞と楽譜
7	音楽	1908	町田桜園 著	ヴァイオリン独習自在：速成簡易	盛林堂	富士筑波	歌詞と楽譜
8	音楽	1900	村越皎村 編[他]	唱歌集：校用新撰 第2編	松成堂	第十一 富士筑波	歌詞と楽譜
9	音楽	1894	塩田竹軒(弓吉) 編	唱歌詞集	鍾秀閣	六) 富士筑波	歌詞
10	音楽	1887	荒井清作 編[他]	ひらかな唱歌大全	佩玉堂	六三) 富士筑波	歌詞
11	音楽	1884	文部省音楽取調掛 編	小学唱歌集 第3編	文部省	富士筑波	歌詞と楽譜
12	絵画	2005	井田 太郎	國華 110(10) (通号 1315)		富士筑波という型の成立と展開	
13	絵画	2005	小林 忠	國華 110(10) (通号 1315)		鈴木其一筆 富士 筑波山圖屏風	
14	絵画	2001	根本 由香	服飾美学 (33) 2001-09 p.65~80		明治に残る江戸風意匠―柴田是真の「富士と筑波」と「五十の浪」を中心	
15	戯曲	1982	横山重 [ほか]編	古浄瑠璃正本集 第10	角川書店	富士権現筑波由来	
16	戯曲	1930		日本戯曲全集 第31巻 河竹黙阿彌集下	春陽堂	富士額筑波繁山	1933年 麗美、清太郎、1892-1959. 麗美清太郎 編、校訂にも出版
17	戯曲	1887	須原畏三 編	芝居茶話	清水太兵衛	筑波でいやを富士額	
18	紀行	1990	平塚春造	日暮しの岡：東に筑波、西に富士 (確連房文庫：1)	谷根千工房		東京都荒川区―歴史
19	紀行	1924	鳥居竜蔵 著	武蔵野及其周囲	磯部甲陽堂	一〇、武蔵野附近の人々より見たる富士と筑波	風土記のこと
20	教育	1929	吉田幾次郎 著	英作文入門	研究社	22 筑波山は富士山程の高さか。いや、富士ほどに高くはない	
21	小説	1960	村上元三 著	風流さんと笠 [第2]	桃源社	(富士と筑波の巻)	
22	小説	1908	三宅青軒 著	富士八郎：豪傑小説 前編]	大学館	【五】 富士と筑波	
23	小説	1906	三宅青軒 著	続鳥さし胆助：豪傑小説	大学館	四十二 富士と筑波	
24	民話	2006	佐賀純一	筑波山愛ものがたり	常陽新聞新社	筑波と富士	常陸風土記の記述をモチーフにした創作物語、とのこと
25	民話	1999	多比羅 拓 W in o wan Wongya	時の扉：東京学芸大学大学院伝承文学研究レポート4 1999-10 p.32-34		二 富士と筑波 (特集) 柳田国男 日本民族講座J翻刻と考察 考察篇)	
26	民話	1997	筑波書林編集部 編 本堂清 絵	つばの昔ばなし	筑波書林	筑波の名の由来、筑波山と富士山	
27	民話	1984	萩坂昇 / 著	四季の民話 第3 秋	労働教育センター	筑波山と富士山の心	
28	民話	1981	阿蘇瑞枝 / (ほか)校註	古代説話	笠間書院	風土記篇筑波と富士 (ほか11編)	
29	民話	1981	関敬吾 / 著 京都	関敬吾著作集：昔話研究法と伝説 第3巻	同朋舎出版	風土記と「富士と筑波」	
30	民話	1975	植垣 節也	国文学 (通号 52) 1975-09 pp.35~39		「富士と筑波」考 (吉永登先生古稀記念上代文学特集)	風土記の筑波と富士の話
31	民話	1972	与田 準一 / 編 岩崎 ちひろ / 装幀 井口 文秀 / 装画	日本の古典童話・1：やまのおろち (古事記)	小峰書店	富士山と筑波山	
32	民話	1970	和田 正史	日本歴史 / 日本歴史学会 編 (通号 270) 1970-11-00 p.117~125		富士と筑波	風土記の富士筑波の考察
33	民話	1964	柳田 国男、1875-1962	定本柳田国男集 第31巻	筑摩書房	富士と筑波	1968、1970、1979年にもあり2014年 柳田国男全集 34 (昭和38年~昭和62年) 筑摩書房) あり
34	民話	1961	坪田 謙治 / 著	日本童話全集 1	あかね書房	富士山と筑波山	
35	民話	1961	福田清人 / 訳	日本神話物語：日本古典	講談社	富士山と筑波山	
36	民話	1960	筒井敏雄 / 著	こどものための日本ひとくち噺	東光出版社	富士山と筑波山	
37	民話	1958	平塚武二 / 著	あまの岩戸	小峰書店	富士山と筑波山 常陸風土記	
38	民話	1942	慶応義塾大学 編	上代文学選：学内教材	慶応義塾出版局	福慈と筑波	風土記の筑波と富士の話
39	民話	1940	安藤教授還暦祝賀記念会 編	安藤教授還暦祝賀記念論文集	三省堂	福慈と筑波 (倉野憲司)	福慈 ふじ
40	民話	1069	武田祐吉 編	上代文学新選：校註	東京武蔵野書院	三、富士筑波 常陸風土記)	富士筑波の話
41	民話	1932	次田潤 編	上代文学選集	明治書院	福慈と筑波	1941にも発行 風土記の筑波と富士の話
42	民話	1931	松村武雄 / 編 川上四郎 / 画	日本童話集 上	誠文堂	富士と筑波	
43	民話	1929	長尾豊 著	祝祭日のお話集	厚生開書店	富士と筑波	風土記の筑波と富士の話
44	民話	1923	松村 武雄 / 著	世界童話大系 第16巻 初版	世界童話大系刊行会	富士と筑波	1924年にも発行、1931年 日本童話集 上 J 誠文堂、松村武雄 / 編 川上四郎 / 画)、1997年 日本童話集 (世界童話全集)、近代社 J
45	民話	1717	羽川珍重 画	富士権現筑波の由来	山本九左衛門		旧字で読めないが、蚕の話が書いてありそう

富士と筑波を並べて捉える傾向は、「常陸国風土記」(713年)の中で、「古老の曰へらく」から始まる富士と筑波の話が始まりで、あらずじは以下の通りである³²。

神祖の尊が諸々の神々を訪ねていたところ、ちょうど駿河の国の福慈の岳についたところに日没となった。そこで福慈の神に一夜の宿りを頼んだところ、収穫祭で家中が諱忌(ものいみ)をしているとのことで断った。そこで神祖の尊は「私はおまえの親なのに泊めないとはどういうことか。お前の命ある限り、冬も夏も雪が降り、人はだれも登らず酒や食べ物を供える人も来ないようにする」と怒った。今度は筑波に登り、宿を頼んだところ、快く受け入れ、飲食を用意し、お迎えした。神祖の尊は喜び歌を詠った。1年中雪が降り積もることになった富士山に対し、筑波山は人々が行き集うことが絶えなくなった。

この話が童話など、民話として語り継がれ、柳田国男や和田正史が、なぜ富士と筑波が対照的に扱われているのかを考察している。関東地方において富士と筑波は身近な存在であり、万葉集の歌で登って詠んだ歌や耀歌に見られるように、人々を遠ざけることをせず、「水田も山近く迫ってきていたし人々の勤労も山麓に展開されていた³³」。万葉集にもそうした歌が残っている。一方富士はその崇高さと自然の厳しさがあり、人びとにとって登ることだけでなく近づくことすら困難な山であったため、筑波は「当時の人々の生活にとけこみ心のかてとなっていた³⁴」。その違いが常陸国風土記における神話に表現されている、としている。

以上のように、常陸国風土記の富士筑波の神話は2006(平成18)年の「筑波山愛ものがたり」にも見られるように、現代まで継続している。

しかし、この流れとは異なる「富士筑波」がある。音楽に分類した「富士筑波」という歌・曲で、歌詞は以下の通りである³⁵(図-2³⁶)。

1. 駿河なるふじの高嶺をあふぎても 動かぬ御代はしられけり
2. つくばねのこのもかの面もてらすなる みよのひかりぞ ありがたき



図-2 「富士筑波」の楽譜

³² (1949): 富士山伝承, 風俗画報 23号11月, 34-35及び 秋本吉徳(2001): 常陸国風土記, 講談社学術文庫, 26-27 (2014年第14刷発行を参照)を参考に筆者が記す。

³³ 和田正史(1970): 富士と筑波, 日本歴史/日本歴史学会編(通号 270), 122

³⁴ 前掲 33), 121

³⁵ 塩田竹軒(1894): 唱歌詞集, 鍾秀閣, 27

³⁶ 文部省音楽取調掛編(1884): 富士筑波, 小学唱歌集. 第3編, 文部省, 14

歌詞の解説がどの文献でも見つからなかったが、歌詞に「御代」とあることから、明治維新以降の天皇制を子どもたちに教える歌として作られたと考えられる。この歌詞の元となったと考えられる歌がある。1番は、万葉集にて山部赤人が詠んだ歌が元になっていると思われる。

天地の 分れし時ゆ^{あめつち} 神さびて^{かむ} 高く貴き 駿河なる 布士の高嶺を 天の原 振り^き放^きけ見れば
 渡る日の 影も隠らひ 照る月の 光も見えず 白雲も い行きはばかり 時じくそ 雪は降り
 ける 語り継ぎ 言ひ継ぎ行かむ 不尽の高嶺は (巻三：三一七)

訳³⁷⁾ 天地が分かれた時から神々しく高く貴い、駿河にある富士の高嶺を大空に仰ぎ見ると、空を渡る太陽の姿も隠れ、照る月の光も見えず、白雲も進むことをためらい、時ならず雪は降っている。語り継ぎ言い継いで以降、富士の高嶺は。

2番の筑波の歌も、古今和歌集の東歌が元となっていると推測できる。

筑波嶺の このもかのもとに 蔭^{かげ}はあれど 君がみかげに ますかげはなし

訳³⁸⁾ 筑波山のこちらの面とあちらの面に木陰はあるけれど、主君の蔭（お恵み）以上のk蔭はございません。（帝の恩恵を詠む歌³⁹⁾）

この2首を参考にして歌詞を訳すと、1番は「駿河の国の富士の山を仰ぎ見ると、不動の天皇の時代が感じられるなあ」。2番は「筑波山のこちら側にもあちら側にも降り注ぐ天皇の威光はありがたい」と読み取れる。1884（明治17）年～1927（昭和2）まで、唱歌だけでなく歌詞のないヴァイオリンや琴、ハーモニカまで、一定の期間天皇制の普及に使われた音楽である。

また、表-4では1717（享保2）年が富士と筑波両方の掲載が最も古い。先行研究⁴⁰⁾では、万里集九が江戸下向した1485（文明17）年以降の作とされる「梅花無尽蔵」（巻二）で、「窓を開けば、則ち隅田河は東に在り、筑波山は北に在り。富士は諸峯に出て、三日程の西に在り。」や、堯恵が隅田川ほとりに滞在した1486（文明18）年の「北国紀行」での「～筑波、蒼穹の東にあたり、富士碧落の西に有て、絶頂はたへに消え、裾野に夕日を帯。～」といった記述があることが明らかになっている。富士と筑波を並べる記述は、「常陸国風土記」から時を越え、室町時代から再度始まる。

戯曲に分類したものは、浄瑠璃や歌舞伎の演目である。富士山と筑波山が直接関係する内容ではないが、タイトルとして挙げられ、現在も残っている。

³⁷⁾ 佐竹昭広 [ほか] 校注(1999)：萬葉集一，新日本古典文学大系 1，岩波書店，224

³⁸⁾ 石井郁子(1981)：神々の山 - 筑波山と萬葉集，臥雲山荘文庫刊，82

³⁹⁾ 廣木一人(2013)：歌枕辞典，東京堂出版，216

⁴⁰⁾ 井田太郎(2005)，富士筑波という型の成立と展開：国華 110(10)，6

(2) 筑波山に関連する研究（自然科学）

筑波山に関連する研究を、自然科学、歴史、文学、その他に分類した。それぞれ 274 件、167 件、92 件、24 件ある（表-1）。このうち最も件数が多い自然科学について述べる。自然科学系の資料は分野によって気象、地質、動植物、地震、水質、国定公園、その他に分類できる。1890 年代から自然科学の研究が始まり、その後増加するも戦時中は減少し、戦後 1950 年代以降は増加し、研究分野も増加傾向にある。（表-5、図-3）ここでは、分野ごとにその歴史と内容を概観する。

表 - 5 筑波山の自然科学研究

年代	気象	地質	動植物	地震	水質	国定公園	その他	合計
1890	3	0	1	0	0	0	0	4
1900	12	1	1	3	0	0	0	17
1910	16	6	0	2	0	0	0	24
1920	10	3	0	0	0	0	0	13
1930	9	0	1	9	0	0	1	20
1940	2	0	0	1	0	0	0	3
1950	3	1	2	2	0	0	4	12
1960	0	3	1	1	0	1	0	6
1970	1	0	11	0	1	2	0	15
1980	8	12	12	0	1	2	3	38
1990	5	12	22	2	2	1	1	45
2000	12	4	17	0	13	1	11	58
2010	9	7	13	0	3	0	7	39
合計	90	49	81	20	20	7	27	294

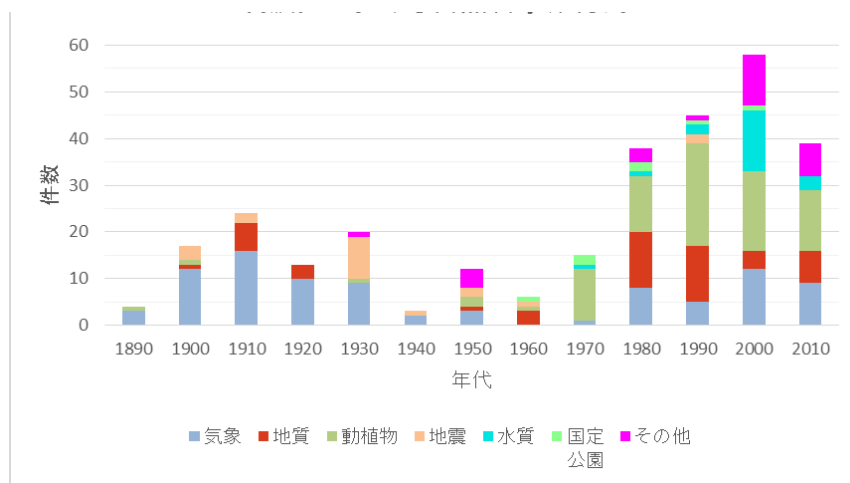


図 - 3 筑波山の自然科学研究の推移

i) 気象

自然科学の研究の中で最も多い分野が気象である。1901（明治34）年、山階宮によって男体山の近くに高層気象観測所が建設され、翌年から気温、気圧、風力、風向き、温度、雨量等について観測が始められたことに起因すると思われる。これに先立つ1893（明治26）年には中央気象台が冬季観測を実施している⁴¹。1909（明治42）年には国に施設が寄贈され、中央気象台付属筑波山測候所と改名し⁴²、関東平野に唯一所在し⁴³、かつ日本初の山岳気象観測が始まった。1912（大正1）から1932（昭和7）まで⁴⁴「茨城県気象年報」（水戸測候所編、茨城県水戸測候所）に「筑波山頂ノ気象」が、1935（昭和10）から1938（昭和13）年まで「射観測成績」（中央気象台編、中央気象台）に「筑波山頂（Tukubasan）： $\phi = 36^{\circ} 13' N$ ， $\lambda = 140^{\circ} 06' E$ ， $H = 868.6m$ 」といった項目があり、計測されていた記録が残っている。

1970年代後半にはアメダス（地域気象観測システム）観測点となり、無人化される。次第に計測技術が高度化していき、アメダス観測地点の統廃合により2001（平成13）年に廃止され⁴⁵、その後2006（平成18）年、筑波大学大学院生命環境科学研究科の大気科学・水文科学研究グループにより、筑波山気象観測ステーションが始動する。その後、大気・水循環場の総合観測研究プロジェクトとして、新たに天気計、画像カメラ、二酸化炭素測定、酸性雨観測なども加えることとなり、2012（平成24）年からは筑波大学計算科学研究センターの事業の一つ、「筑波山プロジェクト」として引き継がれて現在に至る。

100年以上にわたる観測データがあることは長期間のトレンドを明らかにでき、環境変動の実態を理解することができる⁴⁶と気象観測ステーションの林は述べており、プロジェクトの目的として、筑波山・霞ヶ浦流域の水循環プロセス、温暖化速度の検出など、過去のデータを踏まえて新たな研究の視点をもつことを挙げている。当プロジェクトが影響しているかは不明だが、2000年代以降、水質（後述）や筑波山の斜面温暖帯観測、表面温度分布の解析に関する研究（表-5では「その他」に分類）が増加を見せ、筑波山を活用した新たな研究の展開が見られる。

ii) 動植物

自然に関する最古の研究は1891（明治24）年の三好学による「秩父諸峯及び筑波山植物採集略記（圖入）」で⁴⁷、山麓、山腹、山頂にて採集した植物が記録されている。

また、2011（平成23）年の「茨城県自然博物館研究報告⁴⁸」によれば、東京大学医学部のドイツ人招聘教授ヘルマン・アールブルク氏が1879（明治12）年に筑波山への植物調査旅行紀行文があるとす。研究論文ではなく紀行文ではあるが筑波山植物についての初めての報告であ

⁴¹ 茗溪会（2007）：特集I 筑波山気象観測プロジェクト、「茗溪」秋 No.1055, 5

⁴² 筑波町史編纂専門委員会(1990)：筑波町史下巻, 253

⁴³ 西村公宏(2010)：中央気象台附属筑波山測候所山頂観測所の建築について、学術講演梗概集. F-2, 建築歴史・意匠, 559-560

⁴⁴ ただし大正11年と12年のものは国立国会図書館の検索データにはなかった。

⁴⁵ 筑波大学計算科学研究センターHP http://www.ccs.tsukuba.ac.jp/research/research_promotion/project/mt_tkb/details (20161109 閲覧)

⁴⁶ 前掲29) 茗溪会（2007）, 5

⁴⁷ 植物学雑誌, 5(51) 1891, 153-158

⁴⁸ 山川 稔, 鶴沢 美穂子, 小幡 和男(2011)：筑波山の植物を初めて報告したドイツ人招聘教授ヘルマン・アールブルクについて、茨城県自然博物館研究報告, ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編 (14), 151-160

り、前述2名よりも12年早く外国人が科学的視点で筑波山を観察していた。その後は、山中のブナ、シラカバ、アカマツ、シラカシといった樹木の研究や、維管束植物、蘚苔類の研究が行われている。

動物の研究は1908(明治41)年の波江元吉によるハコネサンショウウオ棲息の記録から始まるが⁴⁹、文中に「～田子氏の日本産サンセウウヲの研究にはつくばの北麓に棲みとあり～」とあり、1907年の「動物学雑誌」(19(226), 229-248)の田子勝彌の論文を引用している。その後も、1957年、1982年にサンショウウオの研究がある⁵⁰。他には蝶や蛾、昆虫、甲虫、菌類などの研究が多く、「筑波山の哺乳類」については1998年の1件のみである⁵¹。

iii) 地質

三好学の論文中に「筑波山質學上ノ探險ハ、地學雜誌第三集第二十七卷昌載スル脇水鉄五郎氏ノ東北二縣紀行昌詳ナリ。」とあり、同年発行の地学雑誌⁵²の「東北二縣紀行」にて、脇水鉄五郎が筑波山へ行った際の紀行文が紹介されている。ここでは筑波山の東西及び南北の断面図にて閃緑岩と花崗岩の構成を明らかにし、「筑波山は第三紀前塊状火山(Homogeneous or massive volcano)の好模範たり」とある。筑波山は斑レイ岩と花崗岩から形成され、火山ではないことが明らかになっていることから、現在の理解とは異なっている。脇水鉄五郎(1891)のような筑波山を形成する花崗岩などの岩石や地形の研究は現在まで継続して行われている。1980年代ごろから地殻上層部に目が向けられるようになり、土壌に関する研究が現在に至るまで加わってきている。

「3D模型と砂絵で楽しむ筑波山のジオ⁵³」(2013年)では、はじめて「ジオ」の文字が出てくるが、筑波山は、つくば市、土浦市、石岡市、桜川市、かすみがうら市、笠間市の6市からなる筑波山地域ジオパーク推進協議会がもととなり、2012(平成24)年から日本ジオパーク認定活動を開始した。2014年の申請時には、「見どころ通しの関係が不明確」との指摘で認定見送りとなったが、山(筑波・鶏足山塊)と湖(霞ヶ浦)をつなぐ歴史が平野に保存されていること、石材業など、自然を生かした産業を発展させていたことなどを強調し、市民の意見も反映し申請書の見直しを図った⁵⁴ことで今年(2016年)9月に「筑波山地域ジオパーク」として認定された。ジオパークはジオ＝地球・大地の公園であり、地質遺産を見どころとした自然公園⁵⁵であることから、筑波山の地質研究の積み重ねが認定へ貢献したと言える。

iv) 地震

1930年代から1960年代までの地震研究は、13件中11件が東京大学地震研究所(戦前は「東

⁴⁹ 波江元吉(1908):函根山椒魚筑波山上に棲息す(動物地理學),動物学雑誌 20(239),399

⁵⁰ 篠塚久(1957):筑波山男女川に於ける山淑魚の生態,済美第6号,茨城県立水海道第一高等学校済美校友会生徒会出版委員会,早瀬 長利,山根 爽一(1982):茨城県筑波山系におけるハコネサンショウウオの水中生活期の生態,日本生態学会誌 32(3),395-403

⁵¹ 菅谷 政司ほか(1998):筑波山の哺乳類,茨城県自然博物館総合調査報告書 第1次(1994-96):筑波山・霞ヶ浦を中心とする県南部地域の自然,ミュージアムパーク茨城県自然博物館

⁵² 脇水 鉄五郎(1891):東北二縣紀行,地学雑誌 3(3),155-163

⁵³ 芝原暁彦ほか(2013)3D模型と砂絵で楽しむ筑波山のジオ,GSJ地質ニュース Vol.2 No. 9,279-281

⁵⁴ 毎日新聞2016年5月10日地方版 <http://mainichi.jp/articles/20160510/ddl/k08/040/218000c> (20161030閲覧)

⁵⁵ 筑波山地域ジオパーク <http://tsukuba-geopark.jp/page/page000030.html> (20161007閲覧)

京帝国大学) から発表されている。これは筑波山腹に同大学の観測所があるからである。この観測所は2014年に一部取り壊された。1891(明治24)年濃尾地震(M8.0)が発生したのを機に、当時東京帝国大学理科大学教授であり貴族院議員でもあった菊池大麓が、帝国議会に対し地震被害を最小限に食い止めるための研究機関設置を建議したことから始まる。1892(明治25)年、勅令により震災予防の研究と実施を目的とした震災予防調査会が発足し⁵⁶、1921(大正10)年に調査会により筑波山に微動観測所が創設され、1927(昭和2)年に地震研究所に所管替えがされた⁵⁷。1930年代、特に1938年に7月に筑波山にて山津波がおこり⁵⁸、関係する研究が発表されている。現在は筑波山における地震研究は少ない。

v) 水質

1979年からは河川水質や同位体特性など、筑波山の水に関する研究が見られる。このことは、筑波山の南部に位置する筑波研究学園都市が建設されたことと関係があると思われる。1989(平成13)年からの研究著者の所属を見ると、農業環境技術研究所、国立公害研究所(現国立環境研究所)、森林総合研究所、筑波大学水理実験センター(現筑波大学アイソトープ環境動態研究センター)などの名が並び、いずれも筑波研究学園都市(茨城県つくば市)に位置している。東京の過密対策及び科学技術振興と高等教育の拠点形成を目的に⁵⁹、1963(昭和38)年の閣議決定により、筑波地区(当時の筑波町、大穂町、豊里町、谷田部町、桜村、荃崎村(6町村は現つくば市)に東西約6km、南北約18km、面積2700ha)に新都市の建設が決定された⁶⁰。例えば森林総合研究所では、八郷町(現石岡市)の筑波共同試験地内に筑波森林水文試験流域が設置され、計測データ(量水施設、林外雨量、林内雨量、土壌水分、地下水水位及び蒸発散)を無線で研究所にて受信できるシステムが1978~1989年まで運用され⁶¹た。こうした研究所の建設及び移設により、近隣に立地する筑波山の自然研究が多様化する要因のひとつとなったと言える。

vi) 国定公園

1959(昭和34)年に霞ヶ浦と利根川水域が水郷国定公園となり、10年後に筑波山と周辺地域が編入され、「水郷筑波国定公園」となった。編入と同時に公園計画も決定され、1982(昭和57)年に首都圏自然歩道(関東ふれあいの道)を経由させるための公園計画の変更が行われた。

1967(昭和42)年に水郷国定公園を拡張して筑波山・加波山一帯を編入することが認められながらも、筑波山山頂部の売店施設の乱雑さを自然公園審議会にて指摘され、整理改善が要望を受けた⁶²。この時はまだ水郷国定公園のままだったが、1969(昭和44)年に編入が認められた際には名称が水郷筑波国定公園と変更された。既設区域(水郷地区)一帯との関連利用が大子と、近接する地域では学園都市や鹿島臨海工業地帯の整備が進み、今後レクリエーション価値

⁵⁶ 東京大学地震研究所：<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/2016/04/15/%E9%9C%87%E7%81%BD%E4%BA%88%E9%98%B2%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E4%BC%9A/> (20161031 閲覧)

⁵⁷ 東京大学地震研究所：<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/2015/04/15/%E7%AD%91%E6%B3%A2%E5%9C%B0%E9%9C%87%E8%A6%B3%E6%B8%AC%E6%89%80/> (20161031 閲覧)

⁵⁸ 前掲30) 筑波町史編纂専門委員会(1990), 688

⁵⁹ 国土交通省 HP <http://www.mlit.go.jp/crd/daisei/tsukuba/> (20161107 閲覧)

⁶⁰ 前掲30) 筑波町史編纂専門委員会(1990), 618

⁶¹ 森林総合研究所 HP <https://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/kanko/364-6.html> (20161107 閲覧)

⁶² 国立公園協会(1967)：国立公園第213・214号, 21-28

が高まると予想されることが評価の一部になっている。

編入以前の1966(昭和41)年には『筑波自然公園学術調査報告(日本自然保護協会調査報告;第24号)』が、編入後の1974(昭和49)年に『水郷筑波国定公園水郷地域(茨城県域)学術調査報告書』が、1981(昭和56)年と84(昭和59)年には筑波町から『筑波山:水郷筑波国定公園』が発行されている。国定公園編入に関わる調査報告の他に関係する研究としては、地質、植物、動物、気象等が挙げられるが、編入前後に突出した研究の増加は見られない。

同じ分野の研究としては、1994(平成6)年に茨城県坂東市に茨城県自然史博物館が開設されたことは筑波山の自然研究を豊富にしていると言える。1998(平成10)年の『茨城県自然博物館研究報告』をはじめ、定期的に茨城県の総合調査が行われ、その中で筑波山における気象、地質、植物、動物研究が継続されている。

3. 絵画から見る筑波山のイメージ

(1) はじめに

本項では、筑波山の山容を示す絵と写真を対象に分析した。選出基準は、筑波山の全体が写っていて形が見られること、近世以前についてはメディアが少ないので確認できるすべての絵を扱うこと、近代以降は一般の人々が目にする可能性が高い信仰/観光に分類した文献から絵と写真を扱うこと、そして近世以前は絵画をすべて扱うため、引き続き近代以降も絵画に分類した文献も扱うこととした。また、絵や写真の題名に「筑波」と記載がなく、描かれた山が筑波か否か曖昧なものは、解説書にて筑波山であると特定されているものを扱うこととした⁶³。

さらに、本項では上記の資料以外に、国立国会図書館「錦絵で楽しむ江戸の名所」サイト、江戸名所や街道関連の文献、筑波山に関する展示の図録からも絵を収集し、合計 192 件となった。

(表-6-1~表-6-4)

人々は筑波山を視覚的にどう見ていて、筑波山にどのような印象を持っていたのかを明らかにするため、(1) どこから見ていたのかを把握するために視点場を、(2) 筑波山の形をどう認識していたのかは山容(二峰か否か)を、(3) 筑波山の絵や写真を見て筑波山と一緒に入ってくる情報を調べるために、筑波山以外に描かれている/写っているもの、を調査した。(3) に関しては、田園、社寺、筑波山以外の山、水の景観の4つの視点から分析した。なお、ここでの「田園」は、「田畑が広がる農村の風景」の意味で使用している。

⁶³ 表-6には掲載していないが、筑波山の絵画で最も古いものは1295(永仁3)年の「善信聖人親鸞伝絵、巻四第二段」とされている。ただし小松茂美他(1994):善信聖人親鸞伝絵,中央公論社,143では「絵の筆法は素人風であり、墨書の筆致も覚如とは異なるので、後世の書入れと考えられる」とある。

表 6-1 筑波山の絵・写真

No.	製作年 (西暦)	製作年	絵・写真の題目及び記事題目	書籍名	作者 (著/画)	出版社	種別	視現場(江戸)	視現場 (江戸以外)	二峰	田園の 近さ	田園	社寺	山	川、沼、湖などの水		
															橋	船	水
1	1648	慶安1	筑波茂陰園(第九園)	武州州学十二景園巻	狩野探幽		紙本墨画淡彩			○							
2	1694	元禄7	筑波町沼田村と臼井村神郡村水論裁許絵図		不明		紙本着色		南側俯瞰	○	麓	○					
3	不明		椎尾山風景絵図		不明		絵図		椎尾山/茨城	○			薬王院	椎尾山			
4	1741	元文6	筑波茂陰	飛鳥山十二景詩歌	林信充/鈴木湖洲		紙本淡彩	飛鳥山		○							
5	1751-72	(中巻巻末)		隅田川長流園巻	狩野休栄		絵巻	隅田川		○							隅田川
6	1755	宝暦5	筑波山上面図	日本輿地神廟弘利部	森幸安		紙本淡彩		南側俯瞰	○			筑波山神社				
7	1759-63	宝暦9-13	筑波山絵図		不明		紙本墨刷		南側俯瞰	○			筑波山神社				
8	1760	宝暦10	淺間山真景図		池大雅		紙本淡彩一幅		淺間山/群馬	○				富士山、淺間山			
9	1763-	宝暦13-	天地開闢筑波山絵図		不明		絵図		南側俯瞰	○			筑波山神社				
10	1764-72	明和	浮絵三廻之図		歌川豊春		錦絵	三囲神社		○	江戸	○	三囲神社			○	隅田川
11	1777	安永6	筑波園(富士の真頁に記載)	富士筑波(二世祇徳編)	沾福/三輪		紙本墨印	隅田川									隅田川
12	1779	安永8	西峯男体宮・東峯女体宮の園	筑波山名跡誌	亮盛/小泉良栄		版本		南側俯瞰	○			筑波山神社				
13	1779	安永8	筑波山全景 筑波茂陰の歌とともに	筑波山名跡誌	亮盛/小泉良栄		版本			○							
14	1781	天明1	(上巻巻末)	隅田川兩岸一覽	鶴岡蘆水		木版華彩	隅田川		○						千住大橋	隅田川
15	1783	天明3	三囲景図		司馬江漢		紙本銅版華彩	三囲神社		○	江戸	○	三囲神社				隅田川
16	1799	寛政11	那須眺望図		谷文晁		絹本着色一幅		那須/栃木	○				塩原山、高原山、上州諸山、富士山、八溝山			
17	1800	寛政12	常陸筑波山	山水奇観	淵上旭江		版本		南側俯瞰	○							
18	1800	寛政12	隅田川全図	山水略画式	鯉形篤斎		紙本色刷	隅田川			江戸	○				橋	隅田川
19	1803	享和3	日暮里之遠望	絵本江戸楼	鳥屋重三郎			日暮里									
20	1805	文化2	筑波山	木曾路名所図会	秋里隆島/西村中和		版本		南側俯瞰	○	麓	○	諏訪神社?				
21	1806頃?		日光御成道 巻第二	五海道其外延絵図	不明		絵巻		杉戸宿/埼玉		杉戸宿	○		小田山、北条山			
22	1809	文化6	筑波山	二十四聖順拝図会	竹/竹原春泉斎		版本		南側俯瞰	○			筑波山神社				
23	1812	文化9	筑波山	日本名山図会	谷文晁				北条?(南山麓)	○	麓	○					
24	不明		筑波山	総州真景図巻	華歌堂田舎		洋風肉筆画		北条?(南山麓)	○			筑波山神社				
25	不明		利根川と筑波山	総州真景図巻	華歌堂田舎		洋風肉筆画		利根川	○						○	利根川
26	不明		香取辺より見る筑波山	絵常日記	香木南湖				香取/千葉	○							
27	1818	文政1	筑波山大草	臥遊偶覧	小川万年/南桂		版本		南側俯瞰	○			筑波山神社				
28	1818	文政1	親鸞聖人筑波山觀覺浄度御影		常福寺二十一世		掛軸		南側俯瞰	○			筑波山神社				
29	1818-	文政1	筑波園(第20園)(第19園は富士園)	絵手鏡	酒井抱一		紙本墨画淡彩							富士山			隅田川
30	1818-30	文政年間	隅田川南岸図		谷文晁		絹本着色一幅	隅田川		○				富士山			隅田川
31	1826	文政9	隅田川遠望図		池田孤邨		絹本着色一幅	隅田川		○				富士山、待乳山、二荒山、赤城山、榛名山、秩父山、高尾山、雨降山、足高山、箱根山、富士山(4ページにわたる)			隅田川
32	1828	文政11		鞠塙編 墨水遊覧誌	小松原翠溪		紙本墨印	百花園									
33	不明		北条村望筑波山	諸園名所図	谷(島田)元旦		紙本着色		北条(南山麓)	○	麓	○					
34	1804-43	文化-天保頃	日本堤之様	東都花暦十景	深斎英泉		錦絵	日本堤(台東区)		○							
35	不明		隅田川	英泉江戸名所	深斎英泉		錦絵	隅田川		○							隅田川
36	1833	天保4	筑波山遠望	富士筑波隅田川の園	長谷川雪旦		團扇絵	隅田川		○							隅田川
37	1834-36	天保5-7	日暮里惣図	江戸名所図会5巻	長谷川雪旦		版本	日暮里		○							隅田川
38	1834-36	天保5-7	大川橋	江戸名所図会7巻	長谷川雪旦		版本	隅田川		○						大川橋	隅田川
39	1838-	天保9-	桜川橋より望む筑波山	天保巡見日記	芳賀市三郎		不明		桜川橋/茨城	○	麓	○					
40	1840頃?	天保11頃?	下總筑波山園附諸園名所		不明		紙本金地墨画淡彩		南側俯瞰	○				他の山			
41	1842	天保13	富士筑波山園屏風		鈴木其一		絹本着色(双幅)		霞ヶ浦	○						○	霞ヶ浦
42	不明		富士・筑波山園		鈴木其一				霞ヶ浦or利根川	○							霞ヶ浦?
43	1843-		内国府間村より古河宿まで	日光道中絵図	不明		絵巻		栗橋宿/埼玉	○			浄信寺、深廣寺、福寿院、馬頭観音			○	利根川
44	1850	嘉永3	日暮里諏訪の臺	絵本江戸土産	歌川広重		紙本着色	日暮里		○				日光山			隅田川
45	1854	安政1	隅田川遠望之園		隅田川園貞		錦絵	隅田川									隅田川
46	1855	安政2	東都園橋渡初巻之園		広重2代		錦絵	隅田川									隅田川
47	不明		隅田川渡し之園	東都園橋渡初巻之園	歌川広重		錦絵	隅田川									隅田川
48	1856	安政3	日暮里諏訪の台	名所江戸百景	歌川広重		錦絵	日暮里		○	江戸	○		日光連山			
49	1856	安政3	飛鳥山北の眺望	名所江戸百景	歌川広重		錦絵	飛鳥山		○	江戸	○					隅田川?
50	1856	安政3	隅田川水神の森真崎	名所江戸百景	歌川広重		錦絵	隅田川神社		○			隅田川神社				隅田川
51	1856	安政3	千住の大はし	名所江戸百景	歌川広重		錦絵	隅田川									隅田川
52	1857	安政4	王子稲荷の社	名所江戸百景	歌川広重		錦絵	王子稲荷神社		○	江戸	○	王子稲荷神社				
53	1857	安政4	柳しよ	名所江戸百景	歌川広重		錦絵	柳橋		○	江戸	○				柳橋	北十間川
54	1857	安政4	真崎辺より水神の森内川開扉の里を見る園	名所江戸百景	歌川広重		錦絵	真崎稲荷		○			真崎稲荷				隅田川
55	1857	安政4	墨田河橋場の渡かわら壺	名所江戸百景	歌川広重		錦絵	東区橋場		○							隅田川
56	1857	安政4	深川洲崎十万坪	名所江戸百景	歌川広重		錦絵	江東区石島付近		○							
57	1857	安政4	南品川穀洲海岸	名所江戸百景	歌川広重		錦絵	大井		○							東京湾

表 6-3 筑波山の絵・写真

No.	製作年 (西暦)	製作年	絵・写真の題目及び記事題目	書籍名	作者 (著/画)	出版社	種別	視現場(江戸)	視現場 (江戸以外)	二峰	田園の 近さ	田園	社寺	山	川、沼、湖などの水		
															橋	船	水
106	1924	大正13	口絵	茨城大観	茨城県教育会 編					○							
107	1925	大正14	●表紙(筑波山)	土浦案内誌 附 海軍航空 隊・霞ヶ浦名所 筑波沿線 案内	小松保雄/著	ひたち新報社	写真		霞ヶ浦?	○							霞ヶ浦?
108	1925	大正14	●土浦町	土浦案内誌 附 海軍航空 隊・霞ヶ浦名所 筑波沿線 案内	小松保雄/著	ひたち新報社	写真		土浦市街	○							
109	1925	大正14	裏表紙(筑波山)	土浦案内誌 附 海軍航空 隊・霞ヶ浦名所 筑波沿線 案内	小松保雄/著	ひたち新報社			霞ヶ浦?	○							
110	1926	大正15	案内図1	関東遊覧その日帰り	大島九羊 編	金尾文淵堂			南側俯瞰	○			筑波山神社				
111	1926	大正15	案内図2	関東遊覧その日帰り	大島九羊 編	金尾文淵堂			南側俯瞰	○			筑波山神社、清滝寺、柔 師堂、飯名社、善應寺、 泉観音、日枝神社、海竜 寺?など				
112	1926	大正15	●筑波山の遠望 筑波の春	旅 1926年4月、72)	長谷川浩三		写真			○							
113	1928	昭和3	案内図	筑波登山手引山案内 山内 名勝説明附(最新調査)	富山 竹治郎/編	富山商店			南側俯瞰	○			筑波山神社、兩引観世 音、伝承寺、飯名神社、 六所神社、山王神社、東 城寺、清滝観世音、鹿島 神社、息柵神社、香取神 宮、大杉神社など	紫尾山、足尾山、加波 山、月水山、道傷山?、 釜影山、小田山、宝徳 山、牛伏山など			霞ヶ浦
114	1928	昭和3	表紙	筑波登山手引山案内 山内 名勝説明附(最新調査)	富山 竹治郎/編	富山商店				○							
115	1928	昭和3	筑波山		横山大観					○							○ 湖?
116	1929	昭和4	●A distant view of Mt Tsukuba Tsukuba, the Fair Mountain(筑波山) Akira Keda(池田暉) 26	ツーリスト			写真			○							○ 北条大池?
117	1931	昭和6	●筑波山麓を巡る旅	旅 1931年6月、136)	長崎東		写真		霞ヶ浦?	不明							○ 霞ヶ浦?
118	1932	昭和7	●霞ヶ浦より筑波山遠望	茨城大観			写真		霞ヶ浦	不明							○ 霞ヶ浦
119	1934	昭和9	地下鉄沿線案内図					東京市街		○				富士山			
120	1935	昭和10	雲梯煙水		小川茅銭					○	牛久?	○					○ 川?
121	1935	昭和10	紫山返照		横山大観				霞ヶ浦?	○							○ 霞ヶ浦
122	1935	昭和10	筑波山園		荒井寛方					○							
123	1936	昭和11	裏表紙)	茨城大観	茨城県教育会編纂	協文社				○							
124	1936	昭和11	●筑波山	日本史蹟大系、第16巻	熊田薫城 著	平凡社	写真		霞ヶ浦?	不明							○ 霞ヶ浦?
125	1936	昭和11	富士筑波		尾竹國親					○				他の山			
126	1937	昭和12	筑波山春雨	日本名山画譜	織田一磨		リトグラフ 紙		登山口/茨城	○							
127	1937	昭和12	●筑波駅付近にて グラフ 常陸踏春の録音 筑波山の緑 鹿島灘 の春 常陸の海	旅			写真		筑波駅/茨城	○	麓	○					
128	1937	昭和12	筑波春雲		小川茅銭					○							
129	1940-49	昭和15-24頃	筑波山		横戸庄衛					○							
130	1949	昭和24	●筑波山遠望、富士山伝承	風俗画報 23号11月)			写真			○							川
131	1956	昭和31	●筑波の女山・男山に霧がかかる	新旅行案内4 房総・水郷と 水戸		日本交通公社	写真		山麓の川	○							川
132	1963	昭和38	●霞ヶ浦の金波銀波	山紫水明 筑波山 霞ヶ浦: 泉南観光誌	小泉陽堂/編集 鳥 次 泉陽/編集	常陽家庭宝典社	写真		霞ヶ浦	○							霞ヶ浦
133	1963	昭和38	●駅前より市街展望	山紫水明 筑波山 霞ヶ浦: 泉南観光誌	小泉陽堂/編集 鳥 次 泉陽/編集	常陽家庭宝典社	写真		土浦駅	○							
134	1963	昭和38	●銭亀橋より筑波山を望む	山紫水明 筑波山 霞ヶ浦: 泉南観光誌	小泉陽堂/編集 鳥 次 泉陽/編集	常陽家庭宝典社	写真		桜川/茨城	○			銭亀橋				桜川
135	1963	昭和38	●高浜入江より筑波山を望む	山紫水明 筑波山 霞ヶ浦: 泉南観光誌	小泉陽堂/編集 鳥 次 泉陽/編集	常陽家庭宝典社	写真		霞ヶ浦	○							霞ヶ浦
136	1963	昭和38	●高浜入江より見た筑波山	山紫水明 筑波山 霞ヶ浦: 泉南観光誌	小泉陽堂/編集 鳥 次 泉陽/編集	常陽家庭宝典社	写真		霞ヶ浦	○							○ 霞ヶ浦
137	1963	昭和38	石岡市及附近刊行案内図	山紫水明 筑波山 霞ヶ浦: 泉南観光誌	小泉陽堂/編集 鳥 次 泉陽/編集	常陽家庭宝典社			東側俯瞰	○				足尾山、加波山			
138	1963	昭和38	●霞ヶ浦より筑波山の遠望1	山紫水明 筑波山 霞ヶ浦: 泉南観光誌	小泉陽堂/編集 鳥 次 泉陽/編集	常陽家庭宝典社	写真		霞ヶ浦	○							霞ヶ浦
139	1963	昭和38	●霞ヶ浦より筑波山の遠望2	山紫水明 筑波山 霞ヶ浦: 泉南観光誌	小泉陽堂/編集 鳥 次 泉陽/編集	常陽家庭宝典社	写真		霞ヶ浦	○							○ 霞ヶ浦
140	1963	昭和38	●八郷町より筑波山を望む	山紫水明 筑波山 霞ヶ浦: 泉南観光誌	小泉陽堂/編集 鳥 次 泉陽/編集	常陽家庭宝典社	写真		八郷(石岡市)	○	麓	○					
141	1963	昭和38	●阿見高台より筑波山を望む	山紫水明 筑波山 霞ヶ浦: 泉南観光誌	小泉陽堂/編集 鳥 次 泉陽/編集	常陽家庭宝典社	写真		阿見	○							霞ヶ浦
142	1965	昭和40	●山頂が2つある筑波山は関東で目立つ山	最新旅行案内 第4 (房総・ 水郷 筑波山・大洗海岸・袋 田温泉)		日本交通公社	写真			○	麓	○					

表 6-5 筑波山の絵・写真

No.	製作年 (西暦)	製作年	絵・写真の題目及び記事題目	書籍名	作者 (著/画)	出版社	種別	視点場(江戸)	視点場 (江戸以外)	二峰	田園の 近き	田園	社寺	山	川、沼、湖などの水		
															橋	船	水
172	2001	平成13	●表紙 筑波山全景	週刊日本百名山 no.31 (丹沢山・天城山 筑波山) (朝日ビジュアルシリーズ : v.1)		朝日新聞社	写真			○							
173	2001	平成13	●東麓の石岡市の南から望む筑波山の夕照	週刊日本百名山 no.31 (丹沢山・天城山 筑波山) (朝日ビジュアルシリーズ : v.1)		朝日新聞社	写真		石岡市/茨城	○							
174	2001	平成13	●筑波参道入口付近から望む紫峰 筑波	週刊日本百名山 no.31 (丹沢山・天城山 筑波山) (朝日ビジュアルシリーズ : v.1)		朝日新聞社	写真		参道入口		麓	○					
175	2001	平成13	案内図	週刊日本百名山 no.31 (丹沢山・天城山 筑波山) (朝日ビジュアルシリーズ : v.1)		朝日新聞社			南側俯瞰	○	麓	○	筑波山神社、薬王院、大御堂、蜷影山神社	加波山			
176	2001	平成13	●表紙 筑波山全景	筑波・那須 何武隈 (アルペンガイド:8)		山と溪谷社	写真			○							
177	2003	平成15	●富士山と筑波山) 連載 おもしろ地名見聞録 第9回 茨城 筑波山周辺】筑波山麓は「富士」だらけ	旅 2003年2月、136)	今尾恵介		写真										
178	2005	平成17	●自然体験ができる筑波ふれあいの里	森の劇場いばらき 森のガイドブック	アイコー21白い雲編集部/編集	森との共生構想21」普及協議会	写真		つくばふれあいの里(南山腹)	○							
179	2005	平成17	●奈良、平安時代の役所、平沢官街遺跡	森の劇場いばらき 森のガイドブック	アイコー21白い雲編集部/編集	森との共生構想21」普及協議会	写真		平沢官街(南側)	○							
180	2006	平成18	●表紙 筑波山全景	蔵を訪ねる小さな旅	茨城県西地域総合振興協議会		写真			○	麓	○					
181	2007	平成19	●筑波山全景	筑波路		県南地域資源情報発信研究会	写真			○							
182	2007	平成19	●恋瀬川から見た筑波山夕景	筑波路		県南地域資源情報発信研究会	写真		恋瀬川(東側)	○							恋瀬川
183	2008	平成20	つば道から山まで)	筑波山麓秋祭り		茨城県生活環境部生活文化課国民文化祭推進室	イラスト		南側俯瞰	○			筑波山神社				
184	2009	平成21	●筑波山全景	まるごと筑波山 筑波山観光ガイド:ぐるり、山あるき。	つば市		写真		つくばセンター	○							
185	2009	平成21	●表紙 筑波山全景	まるごと筑波山 筑波山観光ガイド:ぐるり、山あるき。	つば市		写真			○		○					
186	2010	平成22	●恋瀬川サイクリングコース	石岡観光ガイドマップ 筑波山麓の豊かな自然と常府千三百年の歴史の里 茨城県石岡市	石岡市		写真		恋瀬川サイクリングコース(東側)	○	麓	○					
187	2011	平成23	●筑波山全景	水郷筑波国定公園広域観光ガイド:自然と遊び歴史を辿る		水郷筑波国定公園協会	写真			○	麓	○					
188	2011	平成23	●霞ヶ浦と筑波山)	水郷筑波国定公園広域観光ガイド:自然と遊び歴史を辿る		水郷筑波国定公園協会	写真		霞ヶ浦	○							霞ヶ浦
189	2012	平成24	●表紙 筑波山全景	筑波山ガイドマップ 水郷筑波国定公園		茨城県生活環境部環境政策課	写真			○							
190	2012	平成24	裏表紙 筑波山全景	筑波山ガイドマップ 水郷筑波国定公園		茨城県生活環境部環境政策課				○						○	霞ヶ浦
191	2015	平成27	●筑波山全景	赤城・皇海 筑波(エリアマップ)山と高原地図 :20)		昭文社	写真			○	麓	○					
192	2015	平成27	●山麓から見た筑波山	赤城・皇海 筑波(エリアマップ)山と高原地図 :20)		昭文社	写真			○							
								36	102	162		46	31	22	8	33	79

(2) 視点場

江戸⁶⁴からの眺めか、江戸以外からの眺めかを分類した。題名から視点場が認識できるもの以外は、前景の風景からおおよその視点場を推測して記入し、推測できないものは空欄とした。江戸を視点場とするものは36件、江戸以外は102件である。江戸時代がNo.71までとすると、明治以降は2件しかなく、ほぼすべてが江戸時代に江戸を視点とした筑波山の眺望となっている。歌川広重の「名所江戸百景」では筑波山が描きこまれた絵は13枚⁶⁵におよび、筑波山が江戸からの眺めの重要な要素であった⁶⁶ことが理解できる。「名所江戸百景」に代表されるような錦絵は、1765(明和2)年に鈴木晴信が完成したこの多色刷り版画は、江戸後期において盛んになり、歌川広重の風景版画は人気を博した⁶⁷。この手法は量産が可能で、「江戸庶民の重要なメディアとして、時事を報道する役目を担っていた⁶⁸」ので、人々の目に触れる機会も多かったと思われる。

江戸からは富士と筑波を同じ画面上で描く流行もあった。富士筑波を並べる傾向は詩歌から始まり、徐々に絵画にでも対として扱うようになった経緯については先行研究⁶⁹で述べられている。カラーで描かれた「筑波茂陰図」,「筑波茂陰」は、題名の通りどちらも山頂が緑や青で彩られている。これは新古今和歌集の「筑波山端山繁山しげけれど思ひ入るにはさはらざりけり⁷⁰」(源重之)という和歌にちなんだもので、筑波山を描写する上で影響を与えている⁷¹。特に青や緑の筑波山と白の富士山が対になることが多く、No.16, 18, 30, 31, 36, 41, 42の7件でその描き方が見られる。これは「常陸国風土記」で書かれた神話にも因んでいる可能性もあり、文学の影響力の強さがうかがえる。しかし、「1(1)i)紫の筑波」で述べたように、筑波山の色は嵐雪の歌から紫だったはずだが、絵画では青で描かれることが多い。「日本山水論」で小島鳥水は、青色が意味する若さや未熟さを紫にもあてはめ、二色を区別せず同じに扱っている。江戸時代、紫色は歌舞伎「助六由縁江戸桜」をきっかけに「江戸紫」が流行ったが、原料が高価だったため、別の方法で作る「似紫」が庶民の間で流行ったという⁷²。絵具では紫が作りづらい、といった物理的な問題もあったかもしれないが、絵画では青、文字では紫で表現されていたようである。

図-7に江戸の視点場を示した。江戸東側、特に飛鳥山、日暮里、隅田川に集中している。「富

⁶⁴ 研究対象の絵及び写真は江戸時代から始まるため、ここでは「東京」とせず場所としての「江戸」と称する。

⁶⁵ 浅野秀剛監修(2007): 秘蔵岩崎コレクション 広重 名所江戸百景, 小学館]における解説で、背景が筑波山であると明示しているものは11枚, [前掲 27] 井田太郎(2005), 17]の中では「位置関係から筑波と判断されるもの」として「千住の大はし」「にい宿のわたし」が挙げられているのでそれらを含めて13枚とする。

「四ツ木通用水引きふね」に関しては, [須藤訓平・渡部一二(2006): 広重の描いた『名所江戸百景』にみる水辺空間の構成に関する研究, 平成18年度日本造園学会全国大会研究発表論文集(24), 725-730]の中で、筑波山が描かれているとされているが, [東京芸術大学大学美術館(2007): 歌川広重<名所江戸百景>のすべて, 65]にて「方角からいうと筑波山だが、広重の描く山形からみると日光連山であろう」と述べられているため、本論文では対象から外した。

⁶⁶ これには江戸の町自体が富士山、隅田川、江戸城本丸、筑波山、富士山などが眺望できるよう計画されたことも関係している。(前掲 54) 浅野秀剛監修(2007), 195)

⁶⁷ 久野健, 辻惟雄, 永井信一(2009): 美術史(日本), 東京堂出版, 94, 95

⁶⁸ 前掲 54) 浅野秀剛監修(2007), 194

⁶⁹ 前掲 27) 井田太郎(2005), 3-16

⁷⁰ 訳「筑波山には葉山繁山と峰々が多く、木が繁っているが、中に分け入るには障りにならない。と同様に、いかに人目が多くても、恋しい人に逢おうとすれば逢えないことはないのだ。」(前掲 11) 石塚弥左衛門(1998), 138)

⁷¹ 前掲 27) 井田太郎(2005), 4-5

⁷² 中江克己(2007): 歴史にみる「日本の色」, PHP 研究所, 201-204

土筑波」の形式が残る最後の例として No.119 の「地下鉄沿線案内図、地下鉄沿線案内」(1934) を挙げられている⁷³。富士と筑波を同時に描く際、視点場になるのは江戸が多数で No.119 も東京からの眺めである。江戸以外の視点場といえ、近世であれば No.8 「浅間山真景図」の浅間山(長野県)と No.16 「那須眺望図」の那須(栃木県)が筑波山から大きく離れている(図-8)。大正～昭和に発行された No.103 「筑波山ケーブルカー図絵」と No.104 「筑波登山手引案内」では、筑波からの視点で富士と筑波が描かれている。どちらの案内図も筑波山を南側から俯瞰しているため、方角的に富士は入らないが、大きく富士が配置されている。近世は「富士、筑波、隅田川～中略～その情景が江戸名所であった⁷⁴」という事情があり、数多くの作品が残っているが、No.103 や 104 は時代も社会背景も異なり、筑波山から富士山が見えることを強調しているようである。筑波山からの視点での「富士筑波」は、192 件のうち 2 件のみであった。

次に、近世と近代以降で視点場の違いを見ていく(図-4、図-5)。ここでは視点場が定かでないものも含めている。近世は江戸の町の、主に隅田川近くと、現在の千葉県、栃木県、長野県、埼玉県と範囲が広いが、近代に入ると筑波山周辺地域に集中する。近代以降の観光案内書は「茨城大観」や「北条などの山麓や、土浦市、霞ヶ浦は近世から継続して筑波山の視点場のままであり、特に霞ヶ浦からの筑波山の眺めは多い。図には示せていないが、近代以降は筑波山中の道路(筑波スカイラインやパープルライン)、筑波鉄道と共に写る筑波山があり、近世よりも筑波山に接近した視点である。案内図で特徴的なのは、南側、つまり近世は中禅寺、近代以降は筑波山神社がある方面から俯瞰する図であり、筑波山の正面が南側であると人々に認識させていると考えられる。現在でも山の南側は「表筑波」、北側は「裏筑波」と言われている。

近世の案内図は、筑波山だけの解説をした「筑波山名跡誌」を除き、

- ・江戸名所としての筑波山を扱う 10 の案内書や、
飛鳥山十二景詩歌、絵本江戸桜、東都暦十景、英泉江戸名所、江戸名所図会、絵本江戸土産、東都名所図絵、名所江戸百景、利根川図志、東都三十六景
- ・江戸以外の地の名所のひとつとして筑波山を扱ったもの、
武州州学十二景図巻、木曾路名所図会、諸国名所図、諸国六十八景
- ・日本の山のひとつに筑波山を含めたもの
山水奇観、山水略画式、日本名山図会、山水写真帖

など、全体の中の一部に筑波山が組み込まれる傾向が強かった。しかし近代以降(No.72 以降)、同じ傾向を持った案内書は

墨水二十四景記上、日本名勝画譜、日本史蹟大系第 16 卷、日本名山画譜の 4 つに見られる程度である。近代以降は「茨城大観」や「山紫水明：県南観光誌」など、「全国の名所のうちの筑波山」から「茨城県の観光地の筑波山」という見方になってきた。

⁷³ 前掲 27) 井田太郎(2005), 16

⁷⁴ 根本由香(2001), 明治に残る江戸風意匠 - 柴田是真の「富士と筑波」と「五十の浪」を中心に - : 服飾美学(33), 70

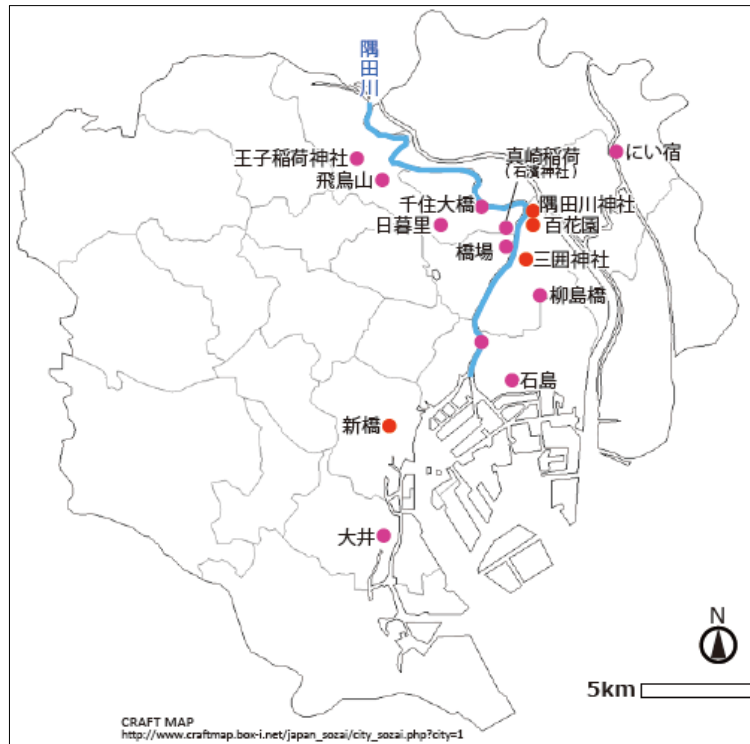


図 - 4 現在の地図で見る江戸の視点場

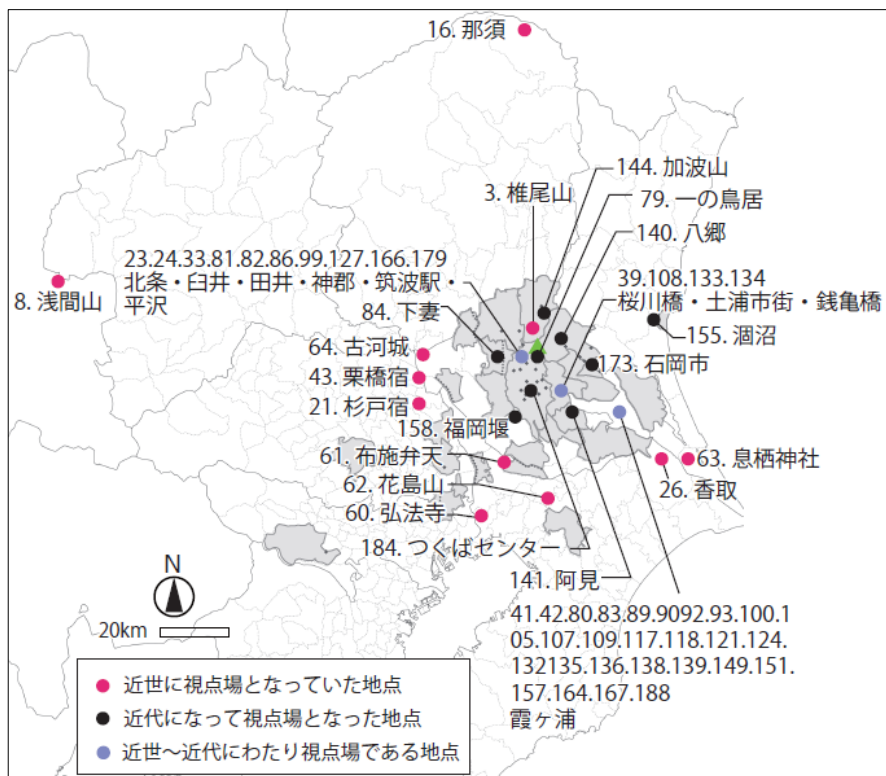


図 - 5 現在の地図で見る江戸以外の視点場

(3) 山容

筑波山は2つの峰をもった山容が特徴的で、西の男体山、東の女体山それぞれに神を祀っている。「常陸国風土記」でも「その頂の西の峰は高く険しく雄の神と呼ばれており、人の登ることを許さない。東の峰は四方が岩石で登り下りはごつごつしてけわしくなだらかでないが、その側を泉が流れていて冬も夏も絶えることがない⁷⁵⁾」とあるように、男体山と女体山を別々に捉えていた様子がうかがえる。絵画にもその様子が表れている。

No.6「筑波山上画図」、No.7「筑波山絵図」、No.9「天地開闢筑波山絵図」、No.12「西峯男体宮・東峯女体宮の図」、No.17「常陸筑波山」、No.20「筑波山」、No.22「筑波山」、No.28「親鸞聖人筑波山餓鬼濟度御影」、No.67「常陸筑波山」

の9件では男体山と女体山を実際よりも離し、まるで2つの山が存在するかのような描き方である。No.6は京都の地図学者が描き、山中の社や堂、修行のための禪定場が詳細に書き込まれ、江戸時代中期頃の信仰の山としての筑波山が表わされている⁷⁶⁾。No.7やNo.9の刷物は筑波山参詣者にとっての安価なガイドマップとして利用され、No.12の案内記は真言宗の亮盛が著し、No.22と28は親鸞に関連した旧跡案内記である⁷⁷⁾。No.17も20はこれらとほぼ同じ時代のものであり、No.67は他8件に比べて少々時代が離れているが、全体の傾向として、2つの峰を別々に捉えるのは、人々が筑波山を信仰対象として見ていたことに反映していると思われる。

「二峰」であるということは、見える場所によって一峰にも見えることであり、実際、日本風景街道⁷⁸⁾に登録されている「千変万化の筑波山「まち」「さと」周遊ルート⁷⁹⁾」の15か所における視点場からの山容は3つの峰、2つの峰、1つの峰に見える場所がありその山容にもタイプ分けできることが、2009年策定の「筑波山周辺地区広域景観形成プラン」で図示されている⁸⁰⁾。絵画や写真の中で二峰ではない形があるのかを調査したところ(表-6-1~表-6-5)、192件中二峰で描かれたものは162件あり、画像が不鮮明で判別できない6件を除外することとし、二峰に見えないものは全体の約1割の24件であった。その中には一峰に見えるもの、二峰に見えるもの、三峰に見えるもの、どこが山頂か分からないほど凹凸が多いものなど、さまざまである(図-6)。

⁷⁵⁾ 野村亨(2002): 筑波山の文学, 野村亨, 6

⁷⁶⁾ 前掲 47) 茨城県立歴史館編(2013), 87

⁷⁷⁾ 前掲 47) 茨城県立歴史館編(2013), 102-105

⁷⁸⁾ 「道路ならびにその沿道や周辺地域を舞台に、多様な主体による協働のもと、景観自然、歴史、文化等の地域資源や個性を活かした国民的な原風景を創成する運動を促し、観光の振興や地域の活性化に寄与することを目的」とし、2007年から開始した、国土交通省主催の日本風景街道登録制度である。

(<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index-route.html> (20161107 閲覧))

⁷⁹⁾ 筑波山を核とした周辺7市(つくば市、筑西市、桜川市、下妻市、石岡市、土浦市、かすみがうら市)を活動エリアとし、各市の地域資源をベストビュールートで結んでいる。

(http://www.ktr.mlit.go.jp/honkyoku/road/kanto-fukei/13route/13route_pdf/11-yousiki-3.pdf

<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/img/pdf/ka/ka06.pdf> (20161107 閲覧))

⁸⁰⁾ 茨城県(2009): 筑波山周辺地区広域景観形成プラン, 6-8

- No.8 池大雅(1760)：浅間山真景図
- No.11 沾嶺/ 三輪(1777)：筑波図, 富士筑波 (二世祇徳編)
- No.18 鋏形蕙斎(1800)：隅田川全図, 山水略画式
- No.19 葛屋重三郎(1803)：日暮里之遠望, 絵本江戸桜
- No.21 不明(不明)：日光御成道, 卷第二五海道其外延絵図
- No.27 小川万年/ 南桂(1818)：筑波坊：臥遊備覧
- No.29 酒井抱一(1818-)：筑波図 (第 20 図) , 絵手鏡
- No.32 小松原翠溪(1828)：鞠塙編 墨水遊覧誌
- No.38 長谷川雪旦(1834-36)：大川橋, 江戸名所図会 7 卷
- No.45 歌川国貞(1854)：隅田堤遠景之図
- No.46 広重 2 代(1855)：東都両国橋渡初寿之図
- No.47 歌川広重(不明)：隅田川渡しの図, 東都名所図絵
- No.51 歌川広重(1856)：千住の大はし, 名所江戸百景



*浮世絵著作権フリー作品「江戸百景・上下」より <http://21j.jp/freedo100/index.html>

- No.59 歌川広重(1857)：にい宿の渡し, 名所江戸百景



*浮世絵著作権フリー作品「江戸百景・上下」より <http://21j.jp/freedo100/index.html>

- No.65 歌川国貞(1861-62)：飛鳥山投土器, 東京自慢双筆三拾六興
- No.66 広重 2 代(1861-62)：飛鳥山, 東都三十六景
- No.73 尾形耕一(1894)：筑波山の景, 日本名勝画譜
- No.84 常総鉄道(1913)：●下妻附近より筑波山を望む, 常総鉄道名勝案内
- No.85 小川千甕(1913)：筑波秋色, 千甕画集
- No.144 (1970)：●旗立石より筑波山を望む (カラー), 裏筑波への招待：国定公園, 真壁町観光協会
- No.161 筑波ブロック広域観光連絡協議会(1990)：●筑波山の四季 1 (カラー), ほっとランドつくば：筑波山周辺観光案内：科学と歴史と大自然がいっぱい
- No.171 中津文彦(文)、津田洋(イラスト)(1998)：特集/ とびっきりの紅葉が見たい 筑波山麓歴史紀行, 旅 (1999 年 10 月, 93)
- No.174 (2001)：●筑波参道入口付近から望む紫峰・筑波 (カラー)：週刊日本百名山 no.31 (丹沢山・天城山・筑波山)(朝日ビジュアルシリーズ ; v.1), 朝日新聞社
- No.177 今尾恵介(2003)：●(富士山と筑波山), 連載 おもしろ地名見聞録 第 9 回【茨城・筑波山周辺】筑波山麓は「富士」だらけ, 旅 (2003 年 2 月, 136)

図 - 6 二峰でない筑波山

図 - 9 の中で、江戸からの視点であると明確に分かる絵は No.18、No.19、No.32、No.38、No.45、No.46、No.47、No.51、No.59、No.65、No.66 である。実際には江戸からどのように見えていたのだろうか。今は高層の建物が建ち並び、同じ地点に立っても同じ景色を見ることはできないが、荒川区役所（荒川区荒川）での定点カメラの画像⁸¹（図 - 7）とサンシャイン 60 展望台（豊島区東池袋）からの眺望写真⁸²（図 - 8）を見ると、どちらも二峰というよりもぎざぎざとした山にしか見えない。江戸名所百景は場所の視点場の特定がされている⁸³ので対照させると、筑波山への方角が一番近いものは荒川区役所では No.48 と No.51、サンシャインでは No.49 と No.52 である。No.52「千住の大はし」は二峰に見えない形であるのに対し、他 3 件はすべて鋭角な二峰である。少なくとも江戸からの絵で明確に二峰に表現されているのは、筑波山が眺望できることを示す記号的な役割だと思われる。「つくばね」という言葉が常陸という地域を示す歌枕であるのと同じような意味合いを持っている。

192 件のうち写真は 65 件あり、No.84、No.161、No.174、No.177 の 4 件のみが二峰でない角度から写している（図 - 6）。近代～現代で多くの人が目にするガイドブックでもほとんどが二峰に見える角度からの写真が使われており、今回調査した絵画と写真は全時代を通して二峰が圧倒的に多く、筑波山＝二峰というイメージは視覚的にも一般的に定着したと言える。No.84 の下妻からの三峰の山容や No.161 の一峰の山容は取り上げられる機会は少ない。



図 - 7 荒川区役所から見た筑波山

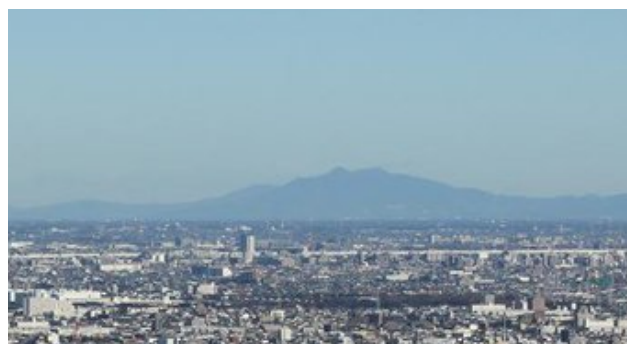


図 - 8 サンシャイン 60 展望台から見た筑波山

⁸¹ 荒川区役所 HP : <https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kankyo/kunaikankyo/chosa/tyoubou240628.html> (10月6日撮影)

⁸² スカイサーカス サンシャイン 60 展望台 @skycircus60 (2015年1月2日)

おはようございます★

今日は雲がないスッキリした空です！

筑波山もキレイに見えます★

本日も、視界良好でサンシャイン 60 展望台は 10 時にオープンです☆

#筑波山 #視界良好 の一部

⁸³ 前掲 54) 浅野秀剛監修(2007), 208-209 を参考にした。

(3) 筑波山と共に描かれる/写る要素

筑波山と同じ画面に何が描かれ写っているのかを分析した。田園風景、社寺建築⁸⁴、筑波山以外の山、川や湖などの水の景観（この中に橋、船、水の景観のみ、の3種類に分けている）という4つの要素に分け年代ごとに表-7に示し、図-9では水の景観の橋と船を省き、グラフで示した。1950年代の件数が多いのは、江戸名所百景の13枚の絵が含まれているためである。

最も多い要素は水の景観で79件で、川や湖などに伴う橋と船はそれぞれ8件、33件である。田園風景は46件で1910年代あたりが最も多くなる。社寺建築は31件で、近世以前、山は信仰対象としての役割が強かったが、社寺建築に目立った増減は見られない。筑波山以外の山は22件で、社寺建築同様、大きな増減がない。

表-9には、社寺と山と水の詳細についてまとめた。社寺名や山名は、図上で判読できるものだけを記し、現在の呼び名に統一した。また、筑波山神社の中には境内社として春日神社、日枝神社、朝日稲荷神社、巖島神社、愛宕神社など複数存在し、調査対象資料にも掲載されているが、ここでは分割せずまとめて「筑波山神社」としている。

⁸⁴ 鳥居のみで本殿がなくても社寺建築とする。

表 - 7 筑波山と共に描かれる/写る要素

	田園	社寺	山	川、沼、湖などの水		
				橋	船	水
1740以前	1	1	1	0	0	0
1750	0	2	0	0	0	1
1760	1	2	1	0	1	1
1770	0	1	0	0	0	1
1780	1	1	0	1	0	2
1790	0	0	1	0	0	0
1800	3	3	1	1	0	1
1810	1	3	1	0	1	3
1820	1	0	2	0	1	2
1830	1	0	0	1	1	3
1840	0	1	1	0	2	3
1850	5	6	4	4	12	15
1860	3	1	0	0	0	0
1870	0	0	0	0	0	0
1880	0	0	0	0	1	1
1890	0	0	0	0	0	0
1900	0	1	0	0	0	1
1910	11	3	5	0	5	11
1920	0	3	1	0	1	5
1930	2	0	2	0	3	5
1940	0	0	0	0	0	1
1950	0	0	0	0	0	1
1960	3	0	1	1	2	7
1970	0	1	0	0	0	0
1980	2	0	0	0	2	9
1990	4	0	0	0	0	3
2000	4	2	1	0	0	1
2010	3	0	0	0	1	2
合計	46	31	22	8	33	79

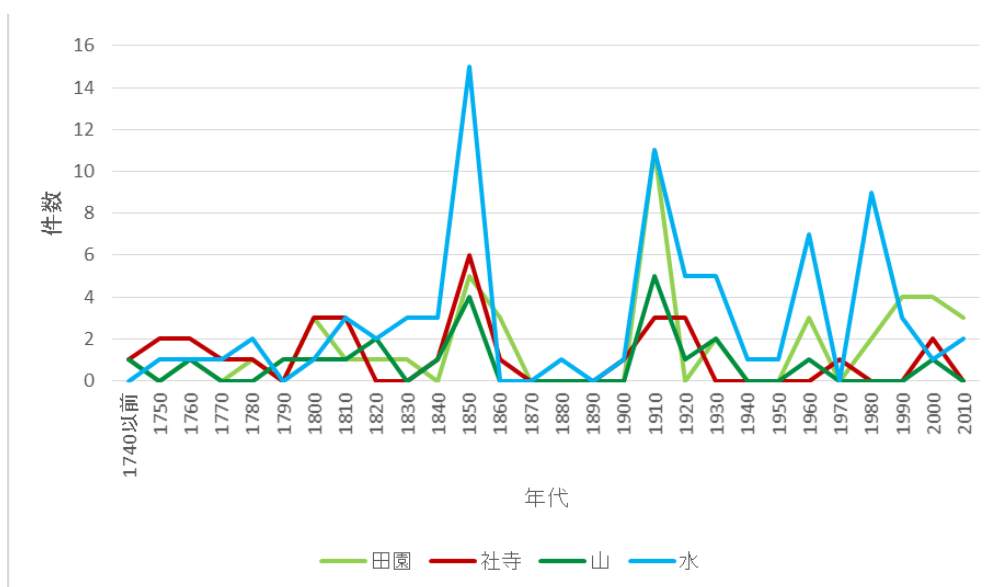


図 - 9 筑波山とともに描かれる/写る要素の変遷

i) 田園景観

筑波山の手前に田園が広がる景観は、192件中46件で約24%にあたり、近世よりも近代以降の方が多。筑波山に近い田園なのか、筑波山から離れた田園なのかを調査したところ、表-8のようになった。近世までは江戸の田園景観に遠景の筑波山が描かれていたが、近代以降はそうした構図は全くない。一方山麓の田園は近世以前から現在まで描かれてきているが、特に1960年代以降は山麓の田園景観が筑波山と共に写ることが多い。これは(2)視点場で述べたように、江戸から筑波山近辺に視点が変わったことと同じである。筑波山への視点が地元になくなったことで、人々の認識も「日本の山」から「茨城の山」へと転換させられてきたと言える。また、田園景観とともに写ることで、都会的ではなく、地方のイメージが強くなるのではないかとと思われる。

表-8 田園景観の遠近の違い

	江戸	麓	他
1740以前		1	
1750			
1760	1		
1770			
1780	1		
1790			
1800	1	1	1
1810		1	
1820		1	
1830		1	
1840			
1850	4		1
1860	2	1	
1870			
1880			
1890			
1900			
1910		11	
1920			
1930		1	1
1940			
1950			
1960		3	
1970			
1980		2	
1990		4	
2000		4	
2010		3	
合計	9	34	3

ii) 社寺建築

筑波山神社の建物は古い時代ほど多く掲載されている(表-9)。これは筑波登山の目的が参詣だったため、No.7やNo.9のように俯瞰で神社境内の詳細が必要とされていたからだと思われる。近代以降は神社に焦点を当てることはなく、同じ俯瞰でも、例えばNo.175のように山全体を捉え、神社だけでなく山周辺の様子も分かるよう示した案内書に変化している。この傾向は大正から昭和にかけてのNo.102、103、104、111、113といった案内図から見られはじめる。この頃は筑波山神社以外の社寺としては伝承寺、雨引観音(現桜川市)、東城寺(現土浦市)といった近隣市の社寺や、元々筑波山神社の里宮だったという六所神社、飯名神社などの社寺があり、その他にも鹿島神宮、香取神宮、息栖神社、大杉神社など千葉県内の社寺も書きこまれており、やや情報過多の様子がうかがえる。1970年代以降は、筑波山神社の他に、廃仏毀釈によっ

て筑波山神社と分裂し、1930年に再興された大御堂、桜川市の薬王院、そして蚕影山神社という、近隣の社寺が記載されている。

iii) 筑波山以外の山

近世は富士山とともに描かれることが多かったが、No.119「地下鉄沿線案内図」以降はなく、1960年代以降を見ると足尾山（桜川市と石岡市の境）、加波山（桜川市）という近くの山との掲載がある。山も前述の社寺と同じで、昭和から大正にかけての案内図では、足尾山、加波山、雨引山、紫尾山（以上桜川市）、宝篋山、小田山、蚕影山、月水山（以上つくば市）などの筑波山周辺の山から、富士山、浅間山、赤城山、成田山、日光山、箱根山といった県外の山まで書かれている。ただし社寺と異なるのは、山の場合は筑波山からそれらの山が見えることのアピールだと思われる。現在は近くの山が取り上げられているにすぎず、筑波山とその近隣地域に目が向けられているのではないだろうか。

一方、近世は富士山の他にはNo.32「墨水遊覧誌」のように、江戸から見える山として栃木や群馬の山と共に挙げられていることが多く、筑波山自体の紹介の際にNo.6、No.7、No.9といった、筑波山参拝用ガイドブックとして描かれた絵に他の山が掲載されることはない。

iv) 水の景観

(1) 視点場でも述べたように、近世では隅田川、近代では霞ヶ浦を視点として筑波山を眺望する絵／写真が多い。筑波山と共に写る要素を見ても（表-9）

また、橋は8件のみだが、大川橋、千住大橋、柳橋、両国橋は隅田川に、継橋は北十間川に、銭亀橋は桜川に架かる橋で、33件ある船も、霞ヶ浦、中川、利根川、隅田川等に浮かんだ船が描かれており、橋も船も水の景観に関連する要素に加えることができ、筑波山の視覚的なイメージを構築する上で重要な要素と言える。特に船は、79件の水の景観のうち、約4割にあたる33件に描かれているため、筑波山の前景に水の景観が広がり、船が浮かぶ景色は、筑波山の一般的なイメージとなっていたのではないかと思われる。

表 - 9 社寺、山、水景観の年代別内容

年代	社寺	山	水	橋
1740以前	薬王院	椎尾山		
1750	筑波山神社		隅田川	
1760	筑波山神社、三囲神社	富士山、浅間山	隅田川	
1770	筑波山神社		隅田川	
1780	三囲神社		隅田川	千住大橋
1790		塩原山、高原山、上州諸山、富士山、八溝山		
1800	筑波山神社、諏訪神社？	小田山、北条山	隅田川	橋
1810	筑波山神社	富士山	隅田川、利根川、...	
1820		富士山、待乳山、二荒山、赤城山、榛名山、秩父山、高尾山、雨降山、足高山、箱根山	隅田川	
1830			隅田川、桜川	大川橋
1840	浄信寺、深廣寺、福寿院、馬頭観音	他の山	霞ヶ浦、利根川、	
1850	隅田川神社、王子稲荷神社、真崎稲荷、弘法寺、布施弁天、息栖神社	日光連山、花島山	隅田川、北十間川、東京湾、中川、印旛沼、利根川	千住大橋、柳橋、両国橋、継橋
1860	筑波山神社			
1870				
1880			隅田川	
1890				
1900	筑波山神社		海？	
1910	筑波山神社、鹿島神宮、阿波大杉神社、伝承寺、山王神社、六所神社、飯名神社、雨引山観世音、香取神社、息栖神社、東城寺など	足尾山、加波山、雨引山、○蓬山？、富士山、浅間山、榛名山、赤城山、成田山、宝篋山、日光山、箱根山、清龍山、宝篋山、紫尾山、小田山、蚕影山、月水山、牛伏山など	霞ヶ浦、利根川、桜川、太平洋	
1920	筑波山神社、清滝寺、薬師堂、飯名社、善應寺、泉観音、日枝神社、海竜寺？、雨引観世音、伝承寺、六所神社、山王神社、東城寺、清滝観世音、鹿島神社、息栖神社、香取神宮、大杉神社など	紫尾山、足尾山、加波山、月水山、道傷山？、蚕影山、小田山、宝篋山、牛伏山など	霞ヶ浦、北条大池、湖	
1930		富士山、他の山	霞ヶ浦、川、	
1940			川	
1950			川	
1960		足尾山、加波山	霞ヶ浦、桜川	銭亀橋
1970	筑波山神社、薬王院			
1980			霞ヶ浦、桜川、溜沼、小貝川	
1990			霞ヶ浦、池、	
2000	筑波山神社、薬王院、大御堂、蚕影山神社	加波山	恋瀬川	
2010			霞ヶ浦	

4. 小結

本章では、筑波山のイメージの変遷を、文献と絵画／写真から明らかにした。

紫の筑波山は、1660年辺りに嵐雪が詠んだ歌から始まり詩歌の世界で広がったが、1905年の「日本山水論」（小島烏水著）を契機に他の分野でも定着していった。

富士と筑波の並列には、3つの流れがあった。ひとつめは「常陸国風土記」の神話、二つめは江戸から見た富士と筑波、三つめは天皇制を鼓舞する唱歌である。始まりは奈良時代の「常陸国風土記」だったがその後は途絶え、室町時代の万里集九や堯恵の文章に見られ始め、徐々に江戸、特に隅田川付近から眺める富士と筑波が江戸の名所としての役割を担っていく。絵画では近世にて江戸からの視点としての富士筑波が最も盛んとなったが、大正～昭和にかけての筑波山のガイドマップには筑波山からの視点で富士が描きこまれている。しかし、それ以降絵画の世界では見られることはない。文学では「常陸国風土記」の富士筑波の神話が児童書などに掲載され、現在まで続いている。音楽では明治～昭和にかけて、富士と筑波を歌詞に入れて天皇制を扇動させるような唱歌があったが、この動きは現在はない。3つの流れの中で、今も残るのは「常陸国風土記」の富士筑波である。

自然科学の研究は、1879（明治12）ドイツの御雇外国人が植物調査に入ったことを最初に、気象、地質、動植物、地震、水質といった研究が行われてきている。1901（明治34）年の高層気象観測所建設に伴い、多くの研究があるが、現代に至るまでにその研究分野は多岐にわたり、そうした実績が実を結び、1969（昭和44）年の国定公園編入や2016（平成28）年のジオパーク認定に繋がっているとと言える。筑波山の気象観測所は、日本初で関東平野唯一の山岳気象観測地点ということもあり、歴史的には動植物学（特に植物学）や地質学の研究が先駆けではあったが、明治～大正、昭和初期にかけての資料件数をみると、研究対象として筑波山を見たとき、気象研究が最も盛んに行われていたと言える。

山容では、筑波山は一峰にも三峰にも見える場所があるが、近世では誇張して二峰に描かれ近代に入っても二峰の角度から撮られるなど、筑波山は二峰だと捉えられてきた。絵画や写真では、前景に川や沼等の水の景観と田園風景を描くことが多くあり、それは現在も続いている。ただし、近世では前景は筑波山から離れた江戸が主だったのに対し、近代以降は筑波山近くへと変化してきた。絵画や写真からの分析は、本論文では1750年代（近世中期頃）からの資料しか収集できなかったため、それ以前の状況は把握できていない。

以上のまとめを表-10に示した。今筑波山に抱くイメージは、奈良時代から続くもの、室町時代から続くもの、明治時代から続くものなど、歴史の長さは様々ではあるが、江戸から見た筑波山の眺望以外はすべて存続しており、筑波山があらゆる分野において古い歴史を持ち、それらが筑波山の価値や魅力へと繋がっているとと言える。

第4章 景観に関する制度の現状と課題

1. 景観計画/都市計画マスタープランにおける筑波山の位置づけ

(1) はじめに

2004（平成16）年の景観法制定後、各自治体では積極的に地域の特徴的な景観を保全する動きが増え、筑波山についても、つくば市が2007（平成19）年に景観計画を策定し、筑波山への視線軸に配慮した景観形成を図ってきている。2年後には茨城県が筑波山周辺7市（つくば市、石岡市、桜川市、土浦市、かすみがうら市、筑西市、下妻市）を対象に「筑波山周辺地区広域景観形成プラン」を策定し、筑波山を中心とした広域景観の特性や実践的な方策等を示し、関係市への景観計画策定の支援を行っている。

本章では、筑波山の見え方を調査した先行研究¹から、範囲を関東1都6県（東京都、茨城県、栃木県、千葉県、群馬県、神奈川県、埼玉県）とし、市区町村の景観計画及び都市計画マスタープランにおいて、筑波山がどのように記述されているか、主に景観・眺望と観光に着目しながら調査する。次に、筑波山を擁する3市（つくば市、石岡市、桜川市）を対象に、県、国定公園による上位計画から各市の景観計画、都市計画マスタープランにおける規制や制限行為について整理をする。以上から、筑波山の景観のどの部分に価値をおき、どのような景観を守ろうとしているのかを、現在の筑波山へのまなざしである景観政策の点から明らかにする。

研究方法は資料調査で、水郷筑波国定公園の公園計画、筑波山周辺地区広域景観形成プラン、1都6県の市区町村の景観計画、都市計画マスタープランを用いた。なお、つくば市、石岡市、桜川市以外の景観計画、都市計画マスタープランについては、計画本文（概要版も含む）がホームページ上で、平成28年9月時点で公開されていたものを用いた（表-1）。

表 - 1 各計画の「筑波山」掲載数

県名	自治体数	景観計画			都市計画マスタープラン		
		策定自治体数	HP確認	「筑波山」有	策定自治体数	HP確認	「筑波山」有
茨城県	44	11	11	7	44	43	13
栃木県	25	11	11	0	25	23	0
群馬県	35	19	17	0	24	24	0
埼玉県	63	16	16	3	52	46	1
千葉県	54	29	29	3	47	45	0
東京都	62	25	25	3	50	50	1
神奈川県	33	24	23	0	29	29	0
合計	316	135	132	16	271	260	15

¹ 序論でも示した⑩蓮香文絵、大澤義明（2002）と、朝倉隆太郎（1984）：校歌と筑波山（近況・随筆）、お茶の水地理 25, 82-83。後者は栃木県、茨城県、千葉県の中学校の校歌に「筑波山」がある学校は、北北東 60° を除き四方 300° の範囲に分布することを分析している。

1都6県の市区町村の景観計画および都市計画マスタープランの本文を調査したところ²、表-1に示したように、栃木県、群馬県、神奈川県自治体では筑波山の記載は見られず、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都の4都県、の26市区町で記載があることがわかった³。図-1に示すように、筑波山を中心に南西へと自治体が広がっている。表-2では、これらの26市区町にて、「筑波山」は景観計画、都市計画マスタープランのうち、どちらに筑波山が記載されているのか、全掲載数と、筑波山の眺望が得られることを示す「景観・眺望⁴」、筑波山を観光と関連付けている「観光」の2点についての掲載数をまとめた。また、各計画での記述内容は、筑波山を用いて市区町の位置や概要を示したり、自然環境について述べたりするものもあるが、その中で、筑波山の何を評価し、何を規制しているのかについても表-2に記した。なお、規制の欄には、市全域の届出行為や景観形成基準の設定には言及せず、筑波山に対し特別に設けられている地区設定や配慮事項を記載している。

筑波山は茨城県に位置するため、各計画において筑波山の掲載自治体数は4都県の中で最も多い16市町である。そこで、はじめに茨城県都市計画マスタープランでは筑波山をどう位置付け、各自治体の計画にどのような指針を立てているのかを把握した後、各市区町村の計画における評価と規制、景観・眺望、観光について述べる。

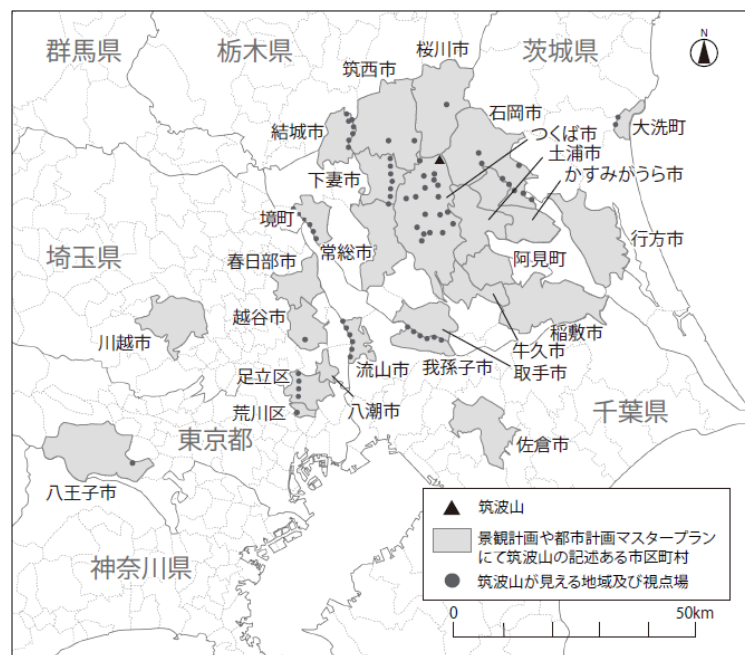


図 - 1 各計画にて筑波山の記述のある市区町と視点場

² 桜川市以外は自治体のHPを参照した。HPに計画の掲載がない自治体は対象にしていない。
³ 茨城県古河市の都市計画マスタープランと、同県守谷市の景観計画の冊子表紙に筑波山の山容が写る写真が掲載されていたが、計画自体に記述がなかったため、ここでは含めていない。
⁴ ここでは「景観」と「眺望」の区別をしていない。なぜなら例えば我孫子市景観計画の場合、自然景観という項目で利根川について述べる際「東西をゆるやかに水が流れ、対岸に筑波山を望む雄大な自然景観を醸し出しています。」(p.13)とある。また、景観形成推進ゾーンの設定の中では「富士見景観と筑波山への眺望を古利根沼越しに楽しめる重要な区域です。」とあり、筑波山が望めることを「景観」と言ったり「眺望」と表現したり、大きな差が見られない。

表 - 2 4 都県の市区町における「筑波山」の掲載数と種類、および評価と規制

	景観計画	都市計画	掲載数	①景観眺望	②観光	評価	規制		
							地区設定等)	配慮事項等)	
茨城県	1 土浦市	○	○	44	26	7	筑波山麓の優良な樹林地、霞ヶ浦や筑波山麓、田畑やハス田の田園地帯などの自然環境	筑波山麓地区 景観形成重点地区のうち) 届出対象行為と景観形成基準の設定	筑波山麓への眺望景観を阻害しないよう、建築物等に配慮
	2 石岡市	○	○	9	7	2	筑波山や霞ヶ浦などの自然や景観資源 筑波山を望む眺望景観		
	3 結城市	△	×	13	13	1	自然 田園景観のかなたに聳える筑波山の景観 特に結城東部)	山川不動尊周辺及び結城廃寺跡周辺 景観形成誘導重点地区のうち)	筑波山を眺望できる景観保全
	4 下妻市		○	4	3		筑波山を背景とした農業景観		国道294号からの筑波山を望む景観の確保 日本風景街道モデルルート
	5 常総市		○	4	3		筑波山の眺望 景観資源)		
	6 取手市		○	2	2		田園地帯から望む筑波山の眺望		筑波山などの眺望を活かした滞留拠点の整備を推進
	7 牛久市	○	×	3	3		北遠方の筑波山の眺望		
	8 つくば市	○	○	49	19	13	筑波山への眺望、筑波山からの眺望 筑波山とその周辺の自然環境	水郷筑波国定公園地区 景観形成重点地区のうち)	筑波山への眺望景観を阻害しないよう、建築物等に配慮
	9 筑西市		○	17	17	2	筑波山の眺望 重要な景観資源)		筑波山の眺望等の自然景観の保全・活用
	10 稲敷市		○	5	5		小中学校の校歌に歌われる筑波山		
	11 かすみがうら市		○	16	7	1	筑波山系、霞ヶ浦、河川等の自然景観、市内各所から望めるシンボリック景観要素		筑波山系の山並みや霞ヶ浦、河川などの景観の保全
	12 桜川市	○	○	48	21	8	筑波山、加波山の眺望と良好な自然景観		筑波山への視界確保のため、建物や工作物の位置・形・色彩などのデザイン的な配慮
	13 行方市		○	3	3		麻生地域(市南部)、玉造地域(市北部)における筑波山の眺望		
	14 大洗町	○	×	5	5	1	溜沼越しの筑波山の山並みの眺望		観光拠点として景観まちづくりへ活用
	15 阿見町		○	4	1		町の心象風景である霞ヶ浦から筑波山にかけての風景		
	16 境町		○	1	1		筑波山を背景とした田園風景と利根川 の原風景的環境		田園環境の保全、活用、自然共生のまちづくり
埼玉県	1 川越市	○	×	1	1		耕作地を通して望む山		
	2 春日部市	○	×	3	3		筑波山の眺望 駅前以外から)		
	3 越谷市	○	×	2	2		筑波山の眺望 中央市民会館などから)	中央市民会館は「荒川沿川特定地区」特定地区のうち)に設定 届出対象行為と景観形成基準の設定	公共建築物からの良好な眺望の確保や保全
	4 八潮市	×	○	1	1		中川堤防からの筑波山眺望」地域の声より)		
千葉県	1 流山市	○	×	2	2		利根運河からの眺望	利根運河区域 景観計画重点区域のうち) 届出対象行為と景観形成基準の設定	
	2 佐倉市	△	×	2	2		校歌に歌われる筑波山、筑波山の眺望		
	3 我孫子市	○	×	2	2		利根川からの眺望	古利根沼推進ゾーン 景観形成推進ゾーンのうち) 水辺環境や緑の保全、活用	
東京都	1 荒川区	○	○	4	4		日暮里台地からの眺望 江戸時代からの名所	日暮里台地景観軸 景観基本軸のうち) 届出対象行為と景観形成基準の設定	
	2 足立区	○	×	1	1		車窓からの山々の眺望	日暮里 舎人ライナー沿線地区 特別景観形成地区のうち) 届出対象行為と景観形成基準の設定	
	3 八王子市	○	×	1	1		平山城址公園からの眺望	平山城址公園は 景観重要都市公園」景観重要公共施設のうち) 眺望の確保、里山環境の保全と回復 同公園のある 東部地域」 届出対象行為と景観形成基準の設定	
合計			16	15	246	155	35		

註1) ○:「筑波山」の記載がある
 ×:「筑波山」の記載がない
 △:結城市は「結城市総合景観形成ガイドライン(素案)」、
 佐倉市は「佐倉市景観計画(案)」
 空欄:計画を策定していない
 註2) 結城市の都市計画マスタープランは存在するが、HPで閲覧できない

(2) 茨城県都市計画マスタープランにおける筑波山

茨城県都市計画マスタープランは、県全体の都市づくりの基本方針を示すものであり、「都市計画区域マスタープラン」(茨城県による)、「市町村都市計画マスタープラン」(各市町村による)を策定する際の指針となるものである⁵。現行の都市計画マスタープランは2009(平成21)年に策定されている。県中央を貫く八溝山地～筑波山～霞ヶ浦の軸を「水と緑の骨格軸」と位置づけ、県土における水と緑のネットワークの中心軸とする⁶(図-2)。「市町村都市計画マスタープランにおいて将来都市像等に「水と緑のネットワーク」に関する位置づけがあるものは、全体の約9割を占め⁷、都市計画において重要な役割を担っていると言える。

茨城県都市計画マスタープランでは、図-3のように、県を6つのゾーンに分け基本方針を立てている。筑波山について記述があるのは県南ゾーンと県西ゾーンであり、それぞれに都市計画区域が定められ、都市計画区域マスタープランが策定されている。筑波山についての内容を表-3にまとめた。県南ゾーンでは筑波山の保全と筑波山を活用したレクリエーションや観光について、県西ゾーンでは筑波山の保全と景観を活用した交流空間の形成について述べられている。県南ゾーンのうち、筑波山について述べる都市計画区域は5区域あり、県西ゾーンでは2区域ある。全体としては自然環境の保全や眺望の確保などが言われている。つくば市、土浦市、かすみがうら市、阿見町、石岡市(八郷地区⁸)では「水と緑のネットワーク形成」が、石岡市(石岡地区)では茨城県都市計画マスタープランで記述された観光・レクリエーションの形成について述べられている。

これらの内容が各市町村の都市計画マスタープランの方針となっている。表-3で挙げた対象市町村は、守谷市以外すべての市町が表-2に挙がっている。取手都市区域マスタープランでは、守谷市については筑波山に関する記述はなかったため、県が策定した都市計画マスタープランで筑波山と関連づけられた自治体は、都市計画マスタープランでも関連付けている。

⁵ 茨城県(2009)：茨城県都市計画マスタープラン, 3

⁶ 前掲5) 茨城県(2009), 45

⁷ 茨城県(2016)：いばらきの都市づくりの状況と今後の方向性～茨城県都市計画マスタープランの検証～, 63 (<http://www.pref.ibaraki.jp/doboku/toshikei/kikaku/tokei/ken-mp-kenshou.html> (20161205 閲覧))

⁸ 石岡市は2005年の合併前は周囲を山に囲まれた北西部の八郷地区と都市化の進む石岡市に分かれていた。

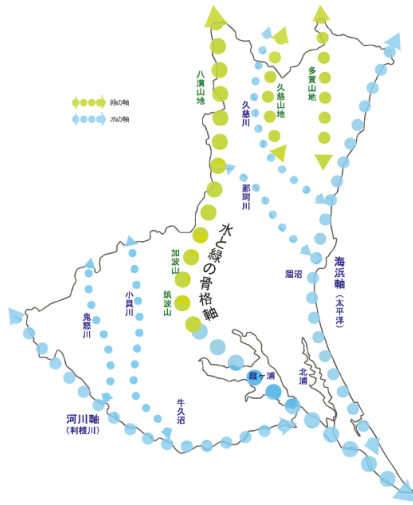


図 - 2 茨城県都市計画マスタープランにおける「水と緑のネットワーク」

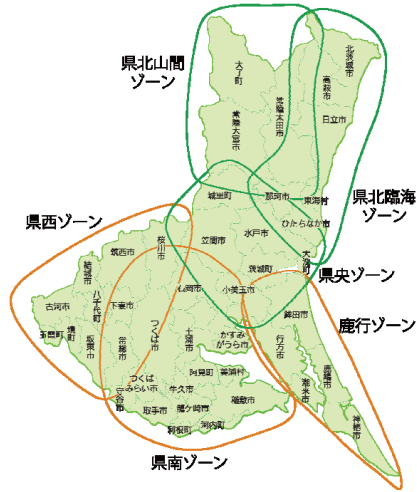


図 - 3 茨城県都市計画マスタープランにおける6つのゾーン

表 - 3 筑波山に関連する茨城県都市計画マスタープランと都市計画区域

茨城県都市計画マスタープラン		関連する都市計画区域	対象市町村	都市計画区域マスタープランの内容	
県南ゾーン	筑波山や霞ヶ浦などの自然環境を活かしたレクリエーションや観光などの交流空間形成 ・自然資源の保全 ・観光・レクリエーションの場の整備と都市基幹公園の整備及び利用促進	研究学園都市計画区域	つくば市	・自然的景観との調和や眺望の確保 ・水と緑のネットワークを形成	
		土浦・阿見都市計画区域	土浦市 かずみがうら市 阿見町	・自然的景観との調和や眺望の確保 ・水と緑のネットワークを形成 ・自然的景観のほか、伝統的な農漁村景観など、景観資源の保全と創出を促進	
		石岡都市計画区域	石岡市	・自然的景観との調和や眺望の確保 ・景観への影響が大きい建築、開発等の届出や、景観形成基準の指導などによる保全と創出を促進	
		八郷都市計画区域	石岡市	・自然資源を活かした観光レクリエーション拠点の形成 ・山林や丘陵地の樹林、恋瀬川や水辺の緑地などの保全 ・周辺の山々を保全するため、風致地区制度の活用を検討	
		竜ヶ崎・牛久都市計画区域 つくばみらい都市計画区域			
		取手都市計画区域	取手市 守谷市	・藤代地区(取手市)筑波山への眺望を活かした景観整備を推進	
		稲敷東部台都市計画区域 稲敷東南部都市計画区域			
県西ゾーン	筑波山周辺の景観などの地域資源を活用した、首都圏の身近な交流空間の形成 ・筑波山地などの豊かな自然資源の保全	下館・結城都市計画区域	筑西市 結城市 桜川市	・筑波山などの景観資源の保全と創出を促進 ・筑波山系の山麓一帯の自然環境や景観の保全	
		古河都市計画区域			
		八千代都市計画区域			
		岩井・境都市計画区域			
		水海道都市計画区域			
		下妻都市計画区域			
		石下都市計画区域	常総市	・筑波山などの自然的景観、農村景観などの景観資源の保全と創出を促進	

(3) 評価と規制

26 市区町(表-2)において筑波山に対する評価は眺望景観であり、筑波山に近いつくば市、石岡市、桜川市、土浦市、かすみがうら市では筑波山の自然環境や自然景観である。この中で特徴的なのは稲敷市と佐倉市で、市内の学校の校歌で筑波山が歌われていることを挙げている。佐倉市景観計画(案)にて、「校歌は、その地域風景や事物をうたい込んでいるものが多く、歌詞に登場する風景は、地域の多くの人々に共有される、その地域らしい景観像が反映されている⁹⁾」とあり、筑波山の景観が地域を特徴づける重要な景観のひとつと考えられている。

対象地区の中で筑波山から最も距離の離れている八王子市では、「かつて丹沢の山並みから筑波の山まで見渡せたといわれている¹⁰⁾」とあり、今は見えていないことが述べられている。そのため眺望の回復が計画されているが、過去に見えていたことに言及することは荒川区も同様で、今でも台地上で筑波山や富士山が望めるとしながらも、筑波山が描かれている「東都名所 真崎暮春之景」(歌川広重画:1831-32)と「名所江戸百景」(歌川広重画:1856)を掲載し、江戸時代から眺望が得られた歴史を強調している。一方足立区は新設された眺望の保全を計画している。2008年に開通した日暮里・舎人ライナーの車窓からの眺めを、「足立区のイメージを左右する重要な景観」と位置付け、筑波山の他にも富士山や秩父連山の眺望が楽しめることを景観特性のひとつに挙げる。新たな景観の発掘、という観点から見れば、流山市では筑波山が眺望できる利根運河区域を、利根運河エコパークの計画などの影響もあり2012(平成24)年に景観計画重点区域に追加している。古くから認知されていた景観と、新たな景観の発見があることが分かる。

表-2では、規制の欄を「地区設定」と「配慮事項」に分けて記した。地区設定では、筑波山に関する景観保全のため一般地区とは別に地区設定を行っているものを、配慮事項では、地区設定は行わないが景観保全のために配慮すべきことを挙げている。地区設定は主に景観形成重点地区である。土浦市とつくば市では筑波山及び筑波山麓の地区が、その他の市では筑波山の視点場を含む地区が設定されている。土浦市、石岡市、つくば市については次項に詳細を述べるため本項では省略する。3市以外に関して言えば、地区設定を設けている地域は茨城県外が目立つ。筑波山から距離のある地域は、筑波山周辺地区よりも視点場が限定されている場合が多く、視点場に景観重点地区などの地区を設定する場合があると思われる。反対に筑波山により近い地域では眺望範囲が広いと、地区設定は行わず、眺望景観を阻害しないよう配慮を求めただけにとどまっている。

⁹⁾ 佐倉市(2015):佐倉市景観計画(案),32

¹⁰⁾ 八王子市(2011):八王子市景観計画,177

(4) 景観・眺望

すべての市区町で筑波山の景観及び眺望について記載があり、掲載数 246 件中 155 件(63%)となっている(表-2)。筑波山を擁するつくば市は 49 件、次いで桜川市は 48 件、国立公園(筑波地区)がある土浦市は 3 番目に多く 44 件、かすみがうら市は 16 件ある。同じく国立公園がある石岡市は 9 件のみである。石岡市の景観計画は他の市と異なり届出基準や規定の記述がほとんどで筑波山の記述も少ない。都市計画マスタープランでは恋瀬川、霞ヶ浦と並んで自然景観のひとつとして紹介されながらもつくば市、桜川市よりも掲載数は少ない。明らかな理由は不明だが、石岡市は市内の筑波山と関わる施設や歴史を記載しない傾向が見られる。例えばつくば市は筑波山神社、梅林、つつじヶ丘などが並立して挙げられ、桜川市では、加波山が筑波山と共に挙げられる眺望で、頻出している。加波山は筑波山と同様に加波山信仰が発達して講集団もできた山で、桜川市にとって重要な要素である。石岡市には筑波山内に国民宿舎があるが記載はなく、国府があった歴史的特性についての記述はあるが、ここから筑波山へ参詣していたことに言及していない。

国立公園の範囲外の筑西市は 17 件で、他市と比べて多い。筑西市は 2005(平成 17)年に 4 市町が合併して誕生し、市章は筑波山をあしらひ(図-4)、市名は筑波山の西側に位置することに由来するとも言われている。宮山ふるさとふれあい公園では建築物を筑波山の稜線と一体化するような屋根勾配¹¹⁾にしたり(図-5)、同じく視点場である母子島遊水地(図-6¹²⁾)は筑波山ベストビューコンテストで優秀賞となった地で、撮影場所としても有名であり筑波山との関わりを強く示す市である。



図 - 4 筑西市の市章



図 5 宮山ふるさとふれあい公園(筑西市)内の建物、
(茨城県都市計画マスタープランより転載)



図 6 母子島遊水地からの筑波山
(茨城県都市計画マスタープランより転載)

¹¹ 前掲 5) 茨城県(2009), 37

¹² 前掲 5) 茨城県(2009), 5

視点場の種類(表-4)と、筑波山と共に見える要素(表-5¹³)では、水辺の景観と田園、道、山、橋が共通している。中でも川、沼、海などの水辺の景観と田園景観は視点場にもなり視対象になる場合が多い。土浦市は霞ヶ浦(図-7¹⁴)、石岡市は恋瀬川(図-8)、結城市と常総市は鬼怒川(図-9¹⁵、図-10¹⁶)、桜川市はつくし湖(図-11)、大洗町は涸沼と松川漁港(図-12¹⁷)、我孫子市と境町は利根川(図-13)、流山市は江戸川など、各地域の景観要素である水面越しの筑波山を望む景観が重要視されている傾向が見られる。

橋は、視点場としては1件、視対象としては2件あるがいずれも恋瀬川と鬼怒川に架かる橋である。また、道に関しても、国道など幹線道路をはじめ、恋瀬川沿いの自転車道や霞ヶ浦沿いの道路など様々な規模の道が挙げられているが、水辺の道路も含まれている。桜川市では、「恣意的ではない偶然の山アテ道路が多数存在¹⁸」し、山アテ手法を生かして地域固有の景観を獲得しようと保全が図られている¹⁹。

視点場は建物や台地、山、鉄道といった高い位置からの眺望が紹介されているが、つくば市の高層建築、つくばエクスプレス、越谷市の中央市民会館、足立区の日暮里・舎人ライナーといった構築物から、荒川区の日暮里台地、諏訪台、道灌山など江戸時代からの景勝地までその種類と年代は様々である。公園は3件あり、前述した筑西市の宮山ふるさとふれあい公園、と桜川市の富谷山ふれあい公園、八王子市の平山城址公園があり、筑西市以外の2件は展望台が設置されている。

筑波山と共に見える景観要素としては、筑波山の北側には山が連なっているため、桜川市では羽田山、加波山、吾国山、つくば市では宝篋山が挙げられる。つくば市は他の市では見られない、遺跡と合わせた景観が特徴的である。常陸国筑波郡の郡役所跡と想定される遺跡で、国指定史跡で、今は3棟の建物が復元され2003(平成15)年から一般公開されている。

市街地と集落は、どちらも人家の集まりだが、市街地は近代化が進む街、集落は農村部の人家の町として区別した。結城市の工業団地、つくば市のつくば駅周辺、桜川市北部の岩瀬市街地、越谷市の市街地などが、集落ではつくば市は山麓の伝統的集落(神郡地区など)、筑西市の集落景観が挙げられている。

前章でも明らかになったように、筑波山と水の景観、筑波山と田園景観という組み合わせは、筑波山を擁する3市以外にも共通するイメージだと言える。特に土浦市と境町は、これらの組み合わせの景観を、原風景や心象風景と位置づけている。

土浦市…「霞ヶ浦湖畔や桜川周辺及び台地端部などから見られる筑波山、霞ヶ浦への良好な眺望景観は、市民の原風景として保全を図る。²⁰」

「市民になじみ深い心象風景となっている筑波山や霞ヶ浦、桜川等への眺望景観²¹」

¹³ ここでは計画の本文だけでなく、筑波山が掲載されている写真も含めた。

¹⁴ 土浦市(2011):土浦市景観計画,12

¹⁵ 常総市(2010):常総市都市計画マスタープラン,57

¹⁶ 結城市(2014):結城市総合景観形成ガイドライン(素案)39

¹⁷ 大洗町(2015):大洗町景観計画,23

¹⁸ 桜川市(2010):桜川市景観まちづくりマスタープラン,58

¹⁹ 桜川市(2010):桜川市景観まちづくりマスタープラン,121

²⁰ 前掲14)土浦市(2011),19

²¹ 前掲14)土浦市(2011),18

境町…「境町は、美しい筑波山を背景に、実り豊かな田園風景と利根川といった、まさに日本の原風景的な環境を有しています。²²⁾」

表4 視点場の種類

		水辺	道	田園	台地、高台	公園	建物	鉄道	低地	山	橋
茨城	土浦市	○	○	○					○		
	石岡市	○	○								○
	結城市	○		○	○				○		
	下妻市		○	○							
	つくば市		○				○	○			
	筑西市	○				○					
	かすみがうら市		○								
	桜川市	○				○					
	大洗町	○									
	境町	○		○							
埼玉	越谷市						○				
	八潮市	○									
千葉	流山市	○									
	我孫子市	○									
	荒川区				○					○	
	足立区							○			
	八王子市					○					
合計		10	5	4	2	3	2	2	2	1	1

表5 筑波山とともに見える景観要素

		田園	山	水辺	橋	道	市街地	遺跡	集落
茨城県	土浦市	○		○					
	石岡市	○		○	○				
	結城市	○		○	○		○		
	下妻市	○							
	常総市	○		○					
	取手市	○							
	牛久市	○							
	つくば市	○	○			○	○	○	○
	筑西市	○		○					○
	桜川市	○	○	○			○		
	大洗町			○					
	阿見町			○					
	埼玉	越谷市					○		
	千葉	我孫子市			○				
合計数		10	2	9	2	1	4	1	2

²²⁾ 境町：境町都市計画マスタープラン, 12



図 - 7 「霞ヶ浦のうらおいある水辺の景観」(土浦市景観計画より転載)



図 - 8 恋瀬川サイクリングロード (20160611 撮影)



図 - 9 「鬼怒川と筑波山の景観」
(常総市都市計画マスタープランより転載)



図 - 10 「筑波山(鬼怒川大橋)」
(結城市総合景観形成ガイドライン(素案)より転載)



図 - 11 つくし湖から (20160611 撮影)

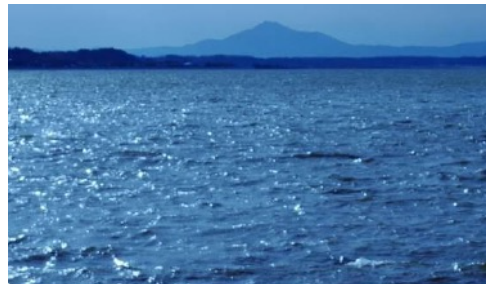


図 - 12 「松川漁港から見える筑波山の山並み」(大洗町景観計画より転載)



図 - 13 利根川と筑波山 (我孫子市)

(5) 観光

筑波山を観光と関連付けているのは茨城県の10市町のみで、内容から、眺望自体を観光資源として扱うもの、筑波山に実際に訪れる観光、他の観光資源とネットワーク形成を図るもの、の3つに分けることができた(表-6)。茨城県外では筑波山は眺望の対象としてのみ扱われ、直接観光への活用は図られていない。

結城市、常総市、筑西市、大洗町は筑波山の眺望を観光資源として位置づけ、視点場の整備を図っている。例えば結城市では、景観・風情を擁する場所を観光資源としての活用を目的とした「結城百選²³⁾」に「延喜式内健田神社跡地と結城筑波」を選出しており、さらに市内から眺める筑波山を「結城筑波」と称している²⁴⁾。撮影スポットのひとつにもなり²⁵⁾、筑波山の眺望が市の観光PRの重要な役割を担っている。筑西市では良好な眺望が得られる宮山ふるさとふれあい公園や、前述した母子島遊水地、大洗町では涸沼越しの筑波山の風景を景観まちづくりに結び付けるなどして観光客誘致を図っている。

観光目的で実際に筑波山に訪れるよう計画されているのは、国定公園(筑波地区)を擁する土浦市、石岡市、つくば市、かすみがうら市、桜川市で、石岡市以外は公園敷地内及び近隣に位置する自然公園、史跡、山、観光施設などをハイキングコースや散策路、関東ふれあいの道などの道が結び、観光交流のネットワーク形成も図っている。(1)で述べたように、石岡市は市内の他の資源を筑波山と連携させる計画は見られない。

眺望を観光資源と位置づけ、なおかつ市町内の別の地域資源を活かしてネットワークを図るのは常総市である。常総市では他の観光資源の具体例は挙がっていないが「筑波山周辺地域の景観や豊かな自然・歴史・文化などの地域資源を活かした多様な主体の参画による美しい道路空間や魅力ある観光ネットワークの形成²⁶⁾」とあり、市内の資源と筑波山周辺地域の景観との連携を図る。

県内では筑波山からの距離に関わらず、その眺望景観を積極的に観光に活用する自治体があることが分かった。

表-6 観光の種類

		眺望= 観光資源	実際に 訪れる	ネットワー ク形成
茨 城 県	土浦市		○	○
	石岡市		○	
	結城市	○		
	常総市	○		○
	つくば市		○	○
	筑西市	○		
	かすみがうら市		○	○
	桜川市		○	○
	大洗町	○		

²³⁾ 前掲 16) 結城市(2014), 22

²⁴⁾ 結城市 HP <http://www.city.yuki.lg.jp/page/page001314.html> (2016.9.7 閲覧)

²⁵⁾ 結城市 HP <http://www.city.yuki.lg.jp/page/dir000690.html> (2016.9.8 閲覧)

²⁶⁾ 前掲 15) 常総市(2010), 21

2. 筑波山を擁する自治体の制度

(1) はじめに

筑波山を含む自治体は、つくば市、桜川市、石岡市の3市だが、筑波山を核とした取組みはいくつか存在し、対象地域は3市以外にも及ぶ。本項では、筑波山に関する景観形成と自然公園に関する制度もしくは計画について調査をする。景観形成に関するものは序論でも述べたように、2009年の筑波山周辺地区広域景観形成プラン（以降「景観形成プラン」と称する）があるが、当プランの策定に至るまでには「景観まちづくりの手引き」、「筑波山ベストビューコンテスト」、「茨城広域景観づくり事業」を経てきている。筑波山ベストビューコンテスト以外は、県が市町村にむけて景観計画策定の際の手順や指標を示すものである。はじめは筑波・霞ヶ浦エリアという広い地域だったが、市民から募集した筑波山ベストビューコンテストの結果により、重要な視点場とルートと範囲を明確にし、景観形成プランの7市へと集約されてきた。

景観という観点からは外れるが、「筑波山を核とする」点では自然公園に分類した国定公園と筑波山地域ジオパークも同じである。第3章でも水郷国定公園に筑波地区が編入した経緯やジオパーク認定の経緯については述べているので、本項では国定公園の概要と、ジオパークの範囲とジオサイトについて述べることにする。

以上の景観形成と自然公園について明らかにした後、つくば市、桜川市、石岡市3市の都市計画マスタープランと景観計画にて筑波山がどのように扱われているのかを明らかにする。なお、本項で扱う筑波山に関する取組み及び計画について、表-7にまとめた。

表-7 筑波山に関する取組み及び計画

種類	計画名	年	主体	目的	筑波山に(関係する)対象地域
景観形成	景観まちづくりの手引き	2006	茨城県	・市町村が景観計画を策定するための手順 ・景観まちづくりの進め方 ・ワークショップの進め方	県を代表する景観7エリアのうち2エリア ・筑波・霞ヶ浦エリア(10市町村) 土浦市、石岡市、つくば市、潮来市、稲敷市、かすみがうら市、行方市、小美玉市、美浦村、阿見町 ・筑西エリア(5市町) 結城市、下妻市、筑西市、桜川市、八千代町
	筑波山ベストビューコンテスト	2005-2006	茨城県 国交省等	・筑波山ベストビューポイント とベストビュールートの選定	8つのビューポイント、7つのビュールートが選定(8市) 土浦市、石岡市、つくば市、かすみがうら市、行方市、筑西市、下妻市、桜川市
	いばらき広域景観づくり事業	2008	茨城県	・市町村が景観計画に広域的視点を導入の推進	広域景観の19エリアのうち5エリア ・霞ヶ浦エリア(9市町村) 土浦市、行方市、石岡市、稲敷市、潮来市、小美玉市、かすみがうら市、阿見町、美浦村 ・筑波山エリア(3市) つくば市、石岡市、桜川市 つくばエクスプレス沿線(3市) つくば市、守谷市、つくばみらい市 牛久沼とカッパの碑周辺の樹林(2市) 龍ヶ崎市、牛久市 ・県西の歴史的街並みエリア(3市) 桜川市、結城市、筑西市
	筑波山周辺地区広域景観形成プラン	2009	茨城県	・対象市の広域景観形成の支援 ・地域住民や事業者への景観形成意識の普及啓発、環境づくり	(7市) つくば市、筑西市、桜川市、下妻市、石岡市、土浦市、かすみがうら市
自然公園	水郷筑波国定公園(水郷地区:1959、筑波地区:1969)	1969	茨城県	・優れた自然風景地の保護と利用増進 ・国民の保健、休養、教化	・筑波地区(5市) つくば市、桜川市、石岡市、土浦市、かすみがうら市
	筑波山地域ジオパーク	2016	筑波山地域ジオパーク推進協議会	・自然遺産の保護・保全 ・科学教育、防災教育 ・ジオツーリズムの普及と地域振興	(6市) つくば市、桜川市、石岡市、土浦市、かすみがうら市、笠間市

(2) 景観形成

i) 景観まちづくりの手引き (平成 18 年)

景観計画区域の設定、制限の対象となる行為、景観重要建造物または景観重要樹木の指定など、景観計画を策定する際の手順を、具体例を挙げながら説明している。住民・事業者と行政が協力して取り組んで景観まちづくりを行うため、ワークショップなどを通じて住民を主体とした景観計画を策定するためのいわば教科書のような役目を持つ資料である。茨城県を代表する景観として7つのエリアに分けられ(図-14²⁷⁾、筑波山は筑波・霞ヶ浦エリアに分類されている。自治体は土浦市、石岡市、つくば市、潮来市、稲敷市、かすみがうら市、行方市、小美玉市、美浦村、阿見町の10市町村で、筑波研究学園都市の都市景観と石岡市周辺の古代遺跡群や城下町、宿場町の街並みなど、様々な時代の多様な景観を有していることが特徴とされ²⁸、「筑波山・霞ヶ浦をシンボルとし、新しい市街地と自然とが調和した景観づくり²⁹⁾」が基本方針とされている。また、結城市、下妻市、筑西市、桜川市、八千代町で構成される筑西エリアでは、景



図-14 茨城県を代表する景観

(景観まちづくりの手引き (茨城県) より転載)

²⁷ 茨城県(2006) : 景観まちづくりの手引き, 2

²⁸ 前掲 27) 茨城県(2006), 3

²⁹ 前掲 27) 茨城県(2006), 3

観の特徴のひとつとして「田園景観のかなたに聳える筑波山の景観³⁰⁾」を挙げ、基本方針には「筑波山の眺めに配慮する³¹⁾」ことが盛り込まれている。この手引きの中では、筑波山を擁する桜川市は筑西エリアに分類されている。

ii) 筑波山ベストビューコンテスト（平成17年11月15日～12月25日実施、平成18年4月に結果発表）

主催は筑波山ベストビューコンテスト実行委員会、後援は茨城県、国土交通省、茨城新聞社で、筑波山のベストビューポイントとベストビュールートを、ホームページ等を通じて募集した。299名563件の応募があり、この中から1月10日～2月5日に一般投票（1228件）を行い、主催者においてベストビューポイント8か所、ベストビュールート7路線が選定された（表-8、表-9、図15～26³²⁾）。この結果を踏まえ、2006（平成18）年に「日本風景街道」のモデルルートへの申請を行い、関東第6号「千変万化の筑波山まち・さと周遊ルート」に登録されるに至った（図-27）。

ビューポイントが、図-27の日本風景街道の地図のどこにあたるか、そして前景が何かを示した（表-8）。筑波山の前景には湖や川、市街地、遺跡、田園が広がる景観がベストビューとして選ばれている。ベストビュールートは範囲が広いので、ビューポイントのように前景が特定できないが、同じく日本風景街道のどの位置にあたるかと、ビュールートの種類を示した（表-9）。水辺沿いの道と、江戸時代から続く参詣道、近代に作られた旧筑波鉄道の道や研究学園都市内の新しい道、そして田園の道が選ばれている。ビューポイントもビュールートも、水辺の近くと田園景観、遺跡や古道といった歴史的なものや近代以降の新たな地域が揃い、市民が美しいと思う景観の傾向が分かる。

³⁰⁾ 前掲 27) 茨城県(2006), 3

³¹⁾ 前掲 27) 茨城県(2006), 3

³²⁾ 図-15～図-18、23 は茨城県（2009）：筑波山周辺地区広域景観形成プラン, 6-7

図-19 と図-24 はつくば市(2015)：つくば市都市計画マスタープラン 2015, 70 と 67

図-20 は下妻市 HP <http://www.city.shimotsuma.lg.jp/page/page000195.html> (20161130 閲覧)

表-8 ベストビューポイント³³

ベストビューポイント	主な前景	視点場	図27にあてはまる場所
※母子島遊水地（筑西市）	遊水地	遊水地	⑩
霞ヶ浦ふれあいランド（行方市）	湖	娯楽施設	⑭
つくば市街（つくば市）	市街	市街	①辺り
北条大池，平沢官衙遺跡（つくば市）	池、遺跡	池、遺跡	③
小貝川ふれあい公園（下妻市）	川	公園	⑦
土浦市沖宿付近（土浦市）	レンコン畑	レンコン畑	⑮
つくば市中菅間～筑西市東石田付近の田園（つくば市，筑西市）	田園	田園	⑥
雨引観音（桜川市）	山麓の田園と町並み	山	⑪

表-9 ベストビュールート

	種類	図27に当てはまる場所
※つくばりんりんロード（つくば市・桜川市・土浦市）	サイクリングロード（旧筑波鉄道）	⑤辺り
小貝川堤防道路（下妻市・筑西市）	川沿いの道	⑧
つくば道（つくば市）	参詣道	④
TX 研究学園駅～国土地理院～土木研究所付近（つくば市）	研究学園都市内	②辺り
霞ヶ浦湖岸道（石岡市，行方市，かすみがうら市）	湖沿いの道	⑬～⑭～⑮
恋瀬川サイクリングロード（石岡市）	サイクリングロード（川沿いの道）	⑫辺り
つくば市中菅間～筑西市東石田付近の田園（つくば市，筑西市）	田園	⑥

³³ 表3と表4内の※は最優秀賞を示す。



図 - 15 母子島遊水地



図 - 16 霞ヶ浦ふれあいランド



図 - 17 つくば市街



図 - 18 北条大池



図 - 19 平沢官衙遺跡



図 - 20 小貝川ふれあい公園



図 - 21 沖宿付近
(ストリートビュー2016年3月)



図 - 22 つくば市中菅間～筑西市東石田
付近 (ストリートビュー2012年11月)



図 - 23 雨引観音



図 - 24 りんりんロード



図 - 25 つくば道 (20150401 撮影)



図 - 26 恋瀬川サイクリングロード
(20160611 撮影)

*図 - 15～図 - 18、23 は茨城県 (2009) : 筑波山周辺地区広域景観形成プラン、6-7、図 - 19 と図 - 24 はつくば市 (2015) : つくば市都市計画マスタープラン 2015、70 と 67、図 - 20 は下妻市 HP <http://www.city.shimotsuma.lg.jp/page/page000195.html> (20161130 閲覧) より転載



図 - 27 日本風景街道（千変万化の筑波山「まち」「さと」周遊ルート）

iii) いばらき広域景観づくり事業（平成20年）

市町村に景観計画の広域的視点を取り入れてもらうよう、「茨城県景観形成基本方針」をもとに、景観まちづくりの方策を検討する試みである。広域景観資源の現状把握、ふるさと景観アンケート調査の実施、広域景観資源の抽出、広域景観づくり推進のシナリオ作成、といった検討を通じ、広域景観づくりを推奨している。

アンケート調査では「市町村を代表する景観」として17市町村（茨城町、大洗町、行方市、銚田市、土浦市、つくば市、小美玉市、美浦村、阿見町、古河市、常総市、つくばみらい市、五霞町、結城市、下妻市、筑西市、桜川市）（図-28）が筑波山を取り上げており、広い地域で筑波山の景観が人々に親しまれていることがわかる。また、広域景観の19エリア（図-29³⁴）のうちの3エリア（県北海岸・溪谷エリア、霞ヶ浦エリア、筑波山エリア）で広域景観づくりのシナリオが提案されている。

筑波山の景観について述べているエリアは「9.霞ヶ浦エリア」、「10.筑波山エリア」、「14.つくばエクスプレス沿線」、「17.牛久沼とカッパの碑周辺の樹林」、「18.県西の歴史的街並みエリア」である。後半3つのエリアに関しては、つくばエクスプレスからの眺望、牛久沼水辺公園（龍ヶ崎市）（図-30³⁵）の眺望について言及し³⁶、眺望景観の保全の検討を促している。詳細に広域景観づくりの方向性が記されているのは、霞ヶ浦エリアと筑波山エリアである。

霞ヶ浦エリアでは、霞ヶ浦越しの筑波山の眺望（図-31³⁷）が景観の特徴のひとつとし、景観保全のために高層建築物や工作物、送電線、屋外広告といった景観阻害要素の規制や誘導を各市町村が連携するよう促している。筑波山を含む筑波山エリアでは、筑波山が日本百名山であること、「西の富士、東の筑波」と称され万葉集にも詠まれていることを挙げ、地域のシンボルの景観であるとしている。広域景観づくりの方向性には筑波山ベストビューコンテストの結果を活用している。コンテストの視点場と筑波山の間を景観工学の観点から分析した結果、「日本の代表的な眺望地点から望まれる名山の仰角との関係にある俯角5°~13°（3.8km~10km）の領域内に」、視点場が多く分布していることが確認できた、とし、この領域内の主な視点場から筑波山への眺望景観を阻害する高層建築物等に対し、高さ、色彩、規模などの規制の検討を促している。筑波山山頂からの俯瞰景観にも言及し、「最も視線が集中しやすいとされる俯角8°~10°（5.6km~6.2km）の領域においての見下ろし景観を保全する必要がある、としている（図-32³⁸）。

³⁴ 茨城県(2008)：いばらき広域景観づくり事業検討結果報告書 49

³⁵ 前掲34) 茨城県(2008), 60

³⁶ 「18.県西の歴史的街並みエリア」では「筑波山への眺望」としか記載がなく視点場が明らかになっていない。

³⁷ 前掲34) 茨城県(2008), 66

³⁸ 前掲34) 茨城県(2008), 84

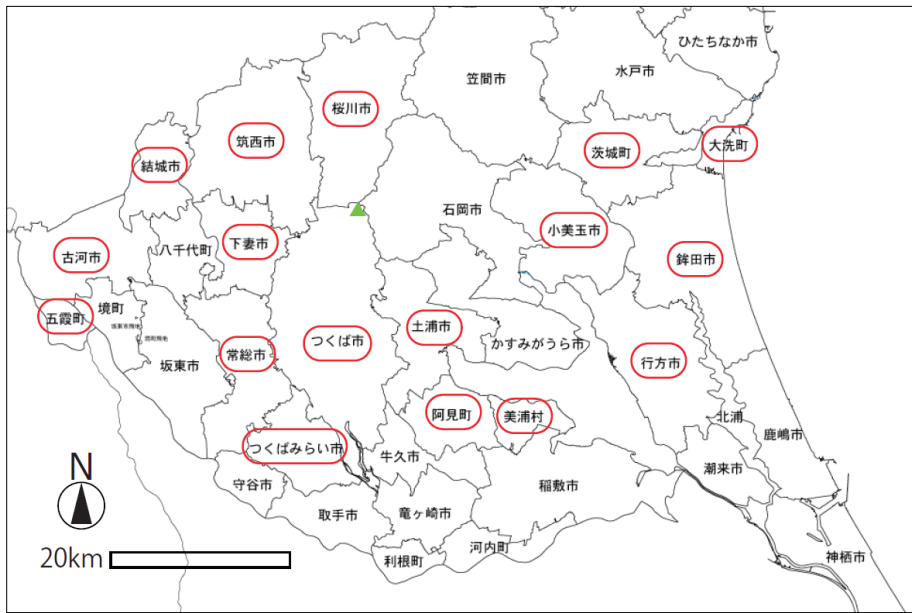


図 - 28 アンケート調査で「市町村を代表する景観」に筑波山を選んだ17市町村

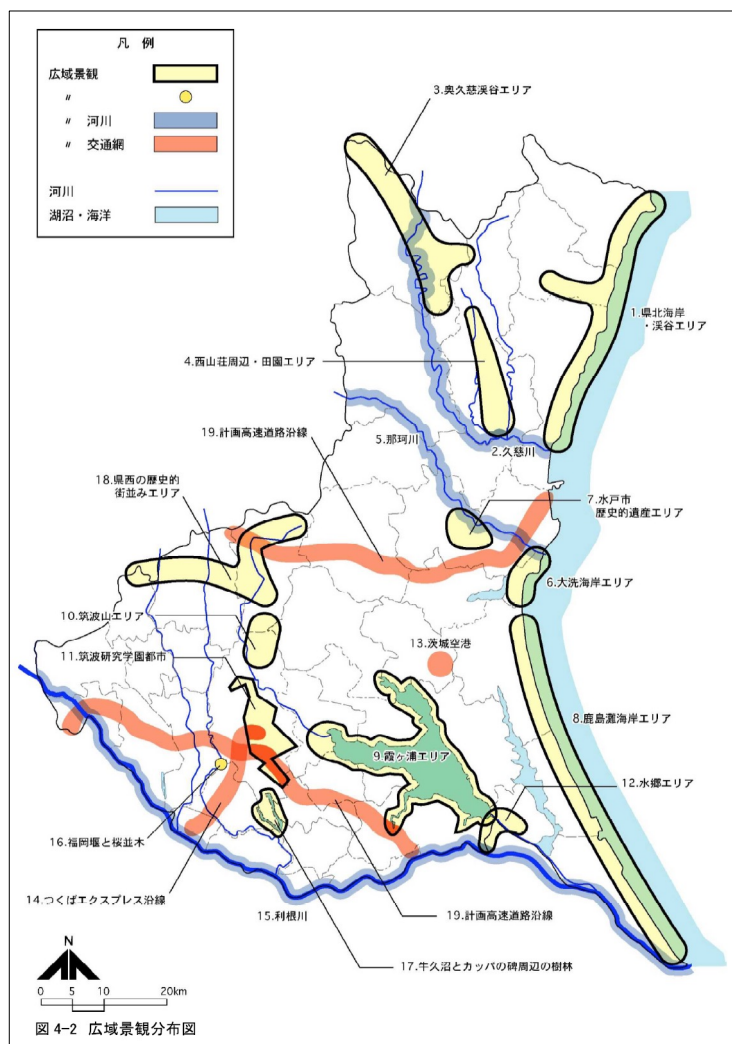


図 - 29 「広域景観分布図」



図-30 「牛久沼水辺公園」(龍ヶ崎)
(いばらき広域景観づくり事業検討結果報告書より転載)



図-31 「霞ヶ浦の帆曳き舟と筑波山の眺望」(土浦市)
(いばらき広域景観づくり事業検討結果報告書より転載)

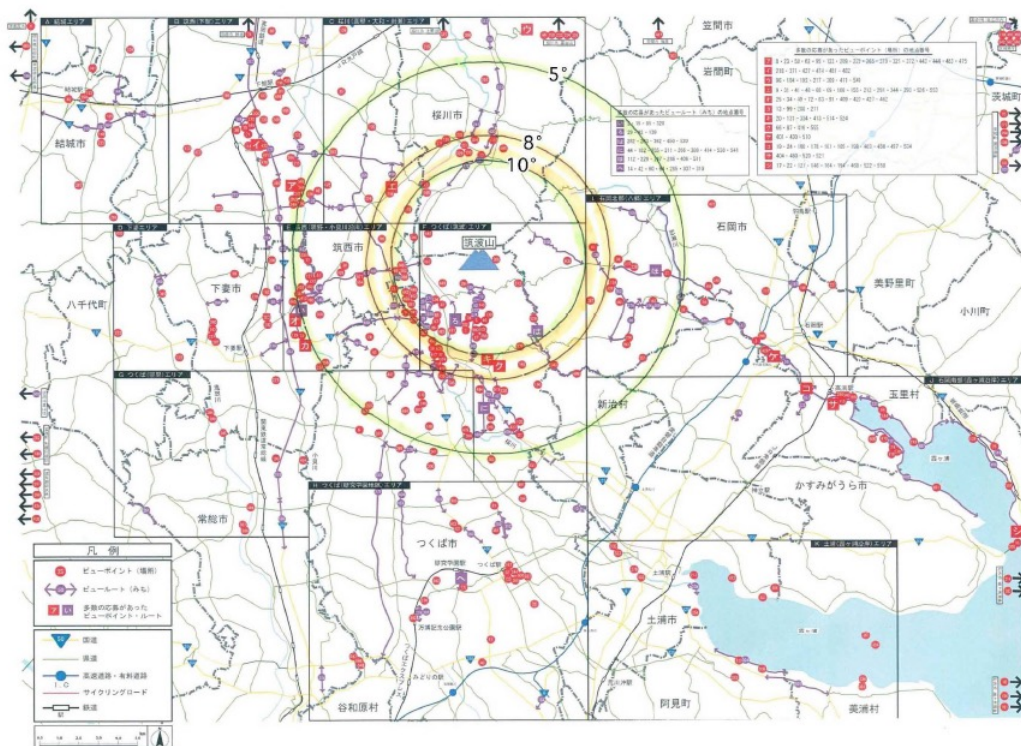


図 - 32 「筑波山ベストビューコンテストにおける重要眺望区域内の主要視点場」
 (いばらき広域景観づくり事業検討結果報告書より転載)

iv) 筑波山周辺地区広域景観形成プラン（平成21年）

iii) の「いばらき広域景観づくり事業」で選定した19の広域景観エリアのうち、筑波山周辺地区広域景観エリアだけを抽出して作られたプランで、つくば市、筑西市、桜川市、下妻市、石岡市、土浦市、かすみがうら市の全域を筑波山周辺地区広域景観エリアに設定している（図-33）。対象市の広域景観形成を支援し、地域住民や事業者への景観形成意識の普及啓発、及び環境づくりを目的とする³⁹。筑波山は「季節や見る場所によって様々な山の形・景色や山頂からの壮大な眺望景観を提供」する「中心的な景観資源」である⁴⁰。視点場は「日本風景街道」から引用した場所が設定されている（図-36）。課題として、眺望の保全、沿道景観形成、自然景観保全、歴史的景観形成の4点および対応する検討事項があげられている（表-10）。おもに課題設定は多様だが、対策は法令遵守、建造物の高さ規制、緑化推進など筑波山の特性がどのように生かされているのかが曖昧である。さらに、4章以降の実践の方策は、茨城県屋外広告物条例の遵守、各自自治体の景観計画によって保全することが示されているのみで筑波山の特徴をふまえた景観形成の指針はない。

各自自治体による景観計画の策定は「筑波山周辺地区を一体的な景観エリアとして捉えた上で、関係市が連携協調の下に、それぞれの景観計画を策定するなど、広域景観形成に取り組むことが望ましい⁴¹」とか、「関係市が、全体の区域の外に、筑波山周辺地区に限定した方針を定めることも有効⁴²」とある。当プランを策定した2009年には、つくば市が既に景観計画を定めていたため、つくば市の景観計画の「良好な景観の形成のための行為の制限に関する事項」に留意しながら関係市はそれぞれの景観計画を策定する必要がある、としている⁴³。

当プランにて関係7市を対象とした理由には日本風景街道のモデルルートがあり、モデルルート作成には筑波山ベストビューコンテストの結果が反映されている。iii) でもコンテストの結果を活用している。筑波山を中心とした景観形成にはベストビューコンテストの役割が大きく、市民の筑波山が美しいと思う風景が重視されていると言える。

³⁹ 茨城県（2009）：筑波山周辺地区広域景観形成プラン、2

⁴⁰ 前掲書 39) 茨城県（2009）、5

⁴¹ 前掲書 39) 茨城県（2009）、45

⁴² 前掲書 39) 茨城県（2009）、45

⁴³ 前掲書 39) 茨城県（2009）、51

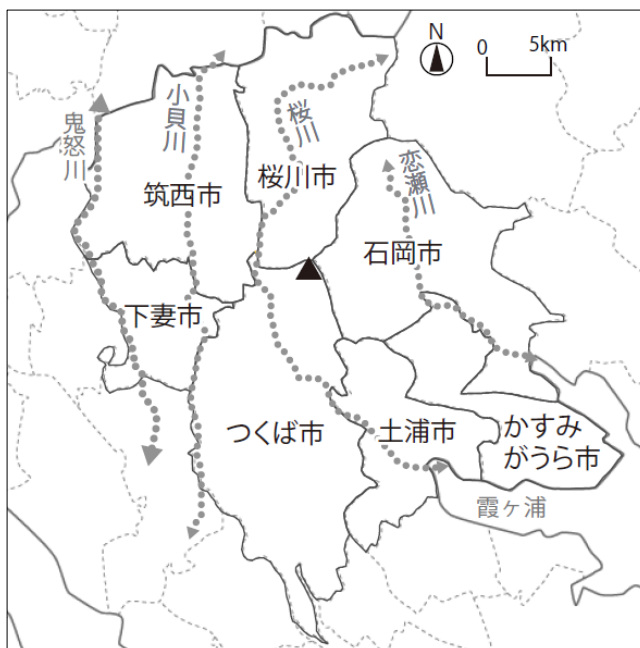


図 - 33 筑波山周辺地区広域景観エリアの7市

表 - 10 筑波山周辺地区広域景観形成プランにおける課題

課題	課題事例	視点場、および対象地	対策
視点場及び山頂等からの眺望の保全	マンション、鉄塔	公共施設、都市公園	建築物等の高さ、形態、意匠
良好な沿道景観形成の必要性	商業施設、広告物	周辺地区幹線道路、バスルート	周辺環境と調和した道路標識等整備、緑化推進、法令遵守
良好な自然景観の保全	屋外広告物、ガードレール	参道入り口、風返し峠交差点、県道笠間つくば線	自然景観と調和した道路構造物整備、法令遵守
風格のある歴史的景観の形成	観光施設の意匠、看板、電線、路面	筑波山神社門前町	風格ある景観形成

(3) 自然公園

i) 公園計画

水郷筑波国定公園（以後「国定公園」と称す）は、霞ヶ浦を擁する水郷地区と筑波山を擁する筑波地区に分かれている。筑波地区の公園計画は図-34、筑波山山頂付近の公園計画図は図-35⁴⁴⁾の通りである。筑波地区は特別保護地区および第1種～第3種特別地域に指定され、開発行為が規制されている（表-11⁴⁵⁾。特別保護地区は筑波山附近及び南面にあたる。この地区は筑波山神社があり、古くから信仰によって境内林として守られてきた場所で、暖温帯性のアカガシと冷温帯性のブナの混生が見られる箇所もあり、厳正に景観維持を図る必要性の高い地区である。第1種特別地域は筑波山中腹部に位置し、高木層にはモミ、スダジイ、タブノキ、スギ等の巨木が、亜高木層にはイヌガヤ等があり優れた風致維持を図る必要性の高い地区とされている。第2種特別地域は、雨引山、加波山、薬王院、宝鏡山なども指定されているが、筑波山では北斜面に位置し、標高の高い箇所にはイヌシデ、アカシデ、クヌギ等のが、低い箇所にはアカマツ、更に低い箇所にはスギ、ヒノキの人工林があり、良好な風致維持を図る必要性の高い地区である。第3種特別地域は、筑波山から加波山に伸びる尾根筋、にはクヌギ、コナラ、アカシデ、イヌシデ等の落葉広葉樹林、東側斜面のスギ、ヒノキの人工林、西側斜面のアカマツ、ヤマツツジが見られ、筑波山から続く南側斜面では、尾根にはモミなど、斜面にはアカマツ、クヌギ、コナラ等の樹林がみられ、風致維持を図る必要性の高い地区だとされている。

公園計画では、筑波山地区は筑波山山頂からの眺望について述べ、関東平野が一望できること、特に霞ヶ浦方面の眺めが優れていることに言及している。

首都圏近郊に位置し、1969（昭和44）年に水郷国定公園に編入されて以降、主要道路の整備が進み、筑波地域南部に研究学園都市が建設されるなど、周辺地域に都市化の進展がありながらも、公園区域内には豊かな自然景観が残っていることが評価されている。また、公園区域は八溝山地南端に位置する筑波山塊が中核をなし、大部分が花崗岩で形成されているが、筑波山山頂は硬く侵食を受けにくい斑レイ岩から成っていることで高い峰を形作っている。筑波地域は暖温帯（標高700mまで）と冷温帯（標高1500mまで）の境界付近にあたるため、植物の垂直分布が見られる。山麓にはアカマツ林、中腹にはスギ、ヒノキ、カシ、スダジイ、その上部にはイヌシデ、クマシデ、モミ、山頂付近はブナ、ミズナラ等が生育している。動物についても南方系と北方系の動物の混在が見られる。中でも哺乳類、鳥類、両性・爬虫類、昆虫類、魚類が挙げられているがカエルは多種が生息し、特にニホンヒキガエルはガマガエルと呼ばれ、古くからガマの口上にも見られる。中腹以上にはハコネサンショウウオの生息があり、これは3章でも述べたように、明治40年から確認されている。こうした自然科学分野の面だけでなく、関東を代表する名山である筑波山が昔から東国の人々に親しまれてきた歴史や、公園区内の雨引観音、薬王院など社寺の社叢の環境も重要な観光資源のひとつとなっている。利用計画では、山頂の御幸ヶ原には展望施設があり、男体山周回線、筑波山登山線、首都圏自然歩道（関東ふれあいの道）が歩道として設定され、自然公園の利用のために整備されている。

⁴⁴ 茨城県 HP http://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/kansei/shizen/koen/documents/keikakuzu_tsukuba.pdf (2016.9.20 閲覧)

⁴⁵ 茨城県 HP <http://www.pref.ibaraki.jp/bugai/koho/kenmin/life/seikan/kansei/kansei-003.html> (2016.9.7 閲覧)

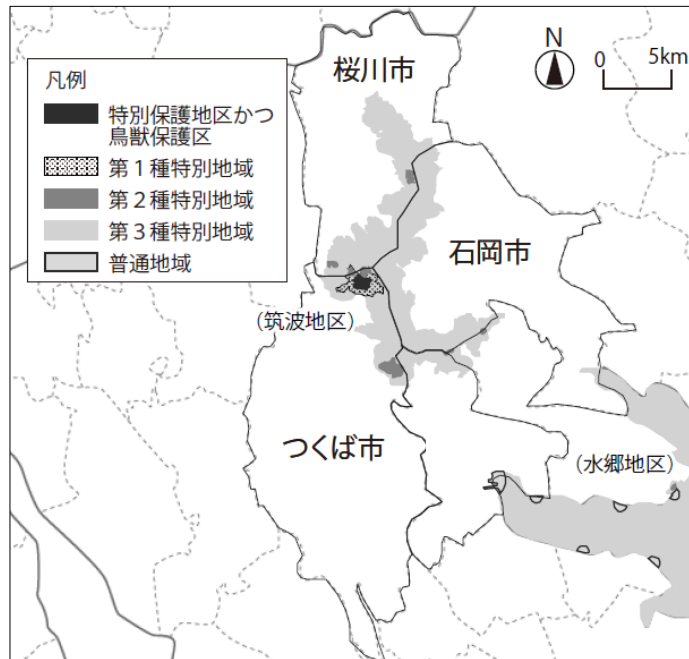


図 - 34 つくば市、桜川市、石岡市における水郷筑波国定公園の範囲

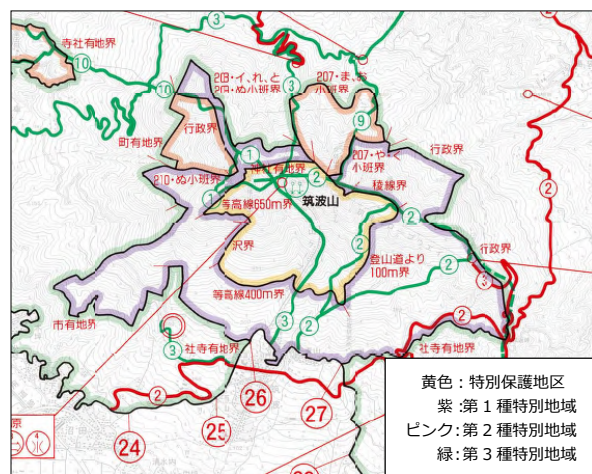


図 - 35 水郷筑波国定公園（筑波地区）の筑波山山頂付近

表 - 11 水郷筑波国定公園における公園区域と規制

<p>特別保護地区</p> <p>特別の自然の環境を現状のまま保護する区域で最も規制が強く、動植物の採取等も含めて、ほとんどの行為が禁止され、以下の行為には知事への許可が必要となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.特別地域1～5、7、8、11、12に掲げる行為 2.木竹の損傷 3.木竹の植栽 4.家畜の放牧 5.屋外における物の集積貯蔵 6.火入、たき火 7.植物の採取・損傷、落葉、落枝の採取 8.動物の捕獲・殺傷、動物の卵の採取・損傷 9.道路、広場以外の地域での車馬等使用、航空機着陸
<p>特別地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1種特別地域 特別保護地区と同様に規制が強く、原則として開発行為はできない。 ・第2種特別地域 産業開発、そのほかの行為について風致維持上必要ある場合制限を加える。 ・第3種特別地域 特に景観に重大な影響を及ぼすと思われる顕著な行為を規制する。 <p>以下の行為には知事への許可が必要となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.工作物の新、改、増築 2.木竹の伐採 3.鉱物の掘採又は土石の採取 4.河川・湖沼の水位、推量の増減を及ぼさせる行為 5.広告物等の掲出、設置、工作物等への表示 6.屋外における土石等の集積、貯蔵 7.水面の埋立て、干拓 8.土地の開墾、土地の形状変更 9.高山植物等の採取（指定植物） 10.山岳に生息する動物等の捕獲、殺傷、卵の採取、損傷（指定動物） 11.屋根、壁面、塀、橋、鉄塔、送水管等の色彩変更 12.湿原等のうち指定する区域内へ区域ごとに指定する期間内に立ち入ること 13.道路、広場等のうち指定する区域内においての車馬等使用、航空機着陸 14.木竹の植栽、家畜の放牧（届出）

ii) 筑波山地域ジオパーク（平成28年）

2012（平成24）年から6市（つくば市、石岡市、桜川市、土浦市、かすみがうら市、笠間市）が「筑波山地域ジオパーク」という名称で、日本ジオパークの認定を目指してきた。地質学、歴史、文化などの観点から、7つのジオストーリー⁴⁶

- ・急峻な双峰と広い裾野を有する筑波山
- ・ダイナミックな大地の変動を語る筑波山塊と鶏足山塊
- ・古東京湾や古鬼怒川などがつくり出した霞ヶ浦
- ・筑波山塊に残る氷期・間氷期の森林生態系
- ・蛇行河川と人々の暮らし
- ・信仰と文学を育んだ筑波山
- ・石・土・水が育んだ筑波山地域の産業

をもとに、26のジオサイトを選出している（図 - 36⁴⁷）。

- ①高峯・富谷山（桜川市）／砂岩泥岩互層と稲田花崗岩など
- ②加波山・足尾山（桜川市）／花崗岩と巨石・奇岩群など
- ③羽鳥（桜川市）／山麓緩斜面堆積物
- ④酒寄・椎尾（桜川市）／斑れい岩と筑波花崗岩境界
- ⑤筑波山山頂（つくば市）／斑れい岩、巨石・奇岩群
- ⑥筑波山南麓（つくば市）／梅林の山麓緩斜面堆積物、花崗岩と花崗閃緑岩など
- ⑦平沢・宝篋山（つくば市）／筑波変成岩、山麓緩斜面堆積物など
- ⑧山ノ荘（土浦市）／山麓緩斜面堆積物、朝日峠展望公園からの眺望など
- ⑨雪入・三ツ石（かすみがうら市）／筑波変成岩など
- ⑩閑居山・権現山（かすみがうら市・石岡市）／筑波花崗岩など
- ⑪龍神山・波付岩（石岡市）／百目鬼橋の窄入部など
- ⑫峰寺山・十三塚（石岡市）／球状花崗岩など
- ⑬八郷盆地（石岡市）／石岡 VLBI 観測施設など
- ⑭吾国山・愛宕山（笠間市）／道祖神峠の斑れい岩など
- ⑮笠間盆地（笠間市）／友部層など
- ⑯稲田・福原（笠間市）／石の百年館など
- ⑰高浜・石岡（石岡市）／古東京湾堆積物など
- ⑱歩崎（かすみがうら市）／古東京湾堆積物と古鬼怒川堆積物
- ⑲崎浜・川尻（かすみがうら市）／古東京湾カキ化石床など
- ⑳沖宿（土浦市）／ハス田、湖岸段丘と浸食崖など
- ㉑土浦（土浦市）／三角州地形など
- ㉒上高津（土浦市）／上高津貝塚、谷津地形
- ㉓花室川（土浦市）／ナウマンゾウ等の哺乳類化石産地など
- ㉔桜川中流（つくば市）／桜川中流の低位段丘地形など
- ㉕上郷（つくば市）／小貝川の蛇行河川地形など
- ㉖六斗（つくば市）／古東京湾堆積物と貝化石密集層

⁴⁶ 筑波山地域ジオパーク <http://tsukuba-geopark.jp/page/page000049.html>（20161124 閲覧）

⁴⁷ 筑波山地域ジオパーク構想：<http://tsukuba-geopark.jp/page/page000048.html>（2016.5.9 閲覧）

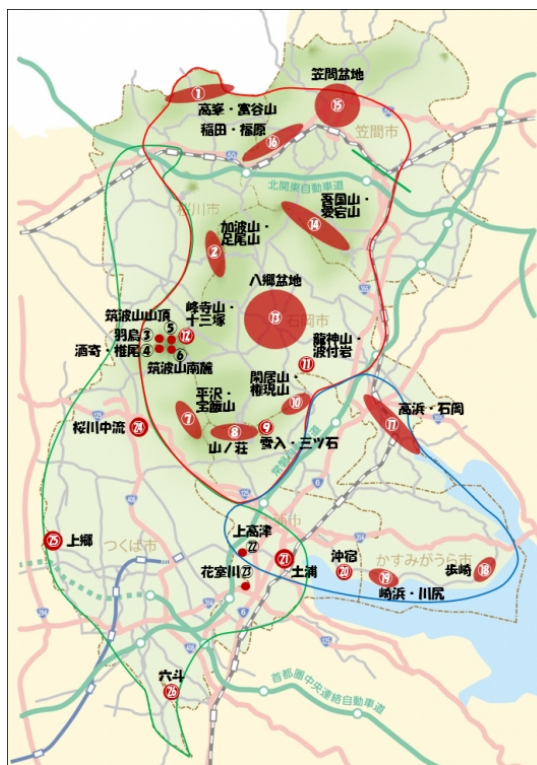


図 - 36 筑波山地域ジオパークのジオサイト

表 - 12 関係市の違い

景観形成プラン	筑波山地域 ジオパーク
つくば市 石岡市 桜川市 土浦市 かすみがうら市 下妻市 筑西市	つくば市 石岡市 桜川市 土浦市 かすみがうら市 笠間市

景観形成プランでは関係市を7市、ジオパークでは6市としており、景観制度としての関わりと「ジオ」としての関わり持つ地域が異なることがわかる。笠間市は都市計画マスタープランにも筑波山の記述はない。笠間市から筑波山までの間にはいくつもの山が連なり（序論の図 - 3）、筑波山が見えない地域であるため景観制度の関係性が見られない。これまで見てきた県の景観形成プランや広域景観まちづくりなどの内容を見ても、筑波山が眺望できる自治体に笠間市は挙がってきていない。一方下妻市と筑西市から筑波山までの間は平坦な地形で、筑波山を望むことができるのは既述してきたとおりである。

(4) つくば市、石岡市、桜川市の都市計画マスタープランと景観計画

つくば市、石岡市、桜川市の3市はいずれも市域に筑波山があり、都市計画マスタープラン⁴⁸と景観計画⁴⁹を策定している。どちらの計画も3市すべて市全域が計画区域である。景観計画では全市及び景観形成重点地区⁵⁰（以後「重点地区」と称す）の「良好な景観の形成に関する方針」と「良好な景観の形成のための行為の制限」に、都市計画マスタープランでは「全体構想」と「地区別構想」⁵¹に着目し、筑波山の景観に関わる事項を整理した。

i) 筑波山以外の景観要素

都市計画マスタープランの「地区別構想」と、景観計画の重点地区において筑波山に関連した地域、及び両計画にて記載された視点場と筑波山が見える地域を図-37に示した。さらに、筑波山の景観と共に記載されている要素を表-13に、掲載されている筑波山の写真（図38～49⁵²）と共に写っている要素を表-14にまとめた。

つくば市は国定公園を基にした重点地区を設定している。3市ともに視点場が重点地区、及び都市計画マスタープランで筑波山との関連が示された地域の外に広がっていることがわかる。具体的には、桜川市では道路や山、石岡市では恋瀬川沿い、つくば市では幹線道路や高層建築、つくばエクスプレスなど、自然だけでなく交通施設や建築物が視点場として挙げられている。つくば市は市中央部の市街地を視点場としたり、都市部からの眺望写真が多いのが特徴である。

表-13と表-14で、3市に共通するのは田園景観と筑波山の組み合わせで、田園と筑波山の森林緑地を合わせた景観は、3市共通の一般的なイメージとして認識されていると言える。このほか恋瀬川、桜川や霞ヶ浦といった水辺、周囲の山（宝篋山、加波山など）と合わせて筑波山が捉えられている。序論の図-3にも示したように、筑波山は八溝山塊の南端に位置し、桜川市と石岡市は3辺を山に囲まれている。そのため筑波山以外の山の眺めにも言及している。

つくば市、桜川市では市内の観光地のひとつとして筑波山を紹介し、山麓の観光施設や歴史的資源をハイキングコースなどで繋ぎ利用促進を図っている。中でもつくば市は「筑波山観光・レクリエーションエリア」と称して、国定公園とその周辺エリアを明確に設定している点は他2市と比べて特徴的である。

⁴⁸ 桜川市は合併前の旧岩瀬町、旧真壁町、旧大和町の都市計画マスタープランを運用している。

⁴⁹ 「つくば市景観計画」、「桜川市景観まちづくりマスタープラン」、「石岡市景観計画」を使用する。

⁵⁰ 石岡市は重点地区ではなく「先導的な景観形成地区」を設定している。

⁵¹ 項目がない場合は、類似した項目を参考にした。

⁵² 図-37は桜川市(2010)：桜川市景観まちづくりマスタープラン, 34

図-38は石岡市(2012)：石岡市景観計画, 12

図-39はつくば市(2015)：つくば市都市計画マスタープラン, 42

図-40はつくば市(2015)：つくば市都市計画マスタープラン, 60

図-41はつくば市(2015)：つくば市都市計画マスタープラン, 70

図-42はつくば市(2015)：つくば市都市計画マスタープラン, 89

図-43はつくば市(2015)：つくば市都市計画マスタープラン, 67

図-44は石岡市(2012)：石岡市景観計画, 11

図-45は石岡市(2012)：石岡市景観計画, 12

図-46は桜川市(2010)：桜川市景観まちづくりマスタープラン, 33

図-47は桜川市(2010)：桜川市景観まちづくりマスタープラン, 39

図-48は桜川市(2010)：桜川市景観まちづくりマスタープラン, 105

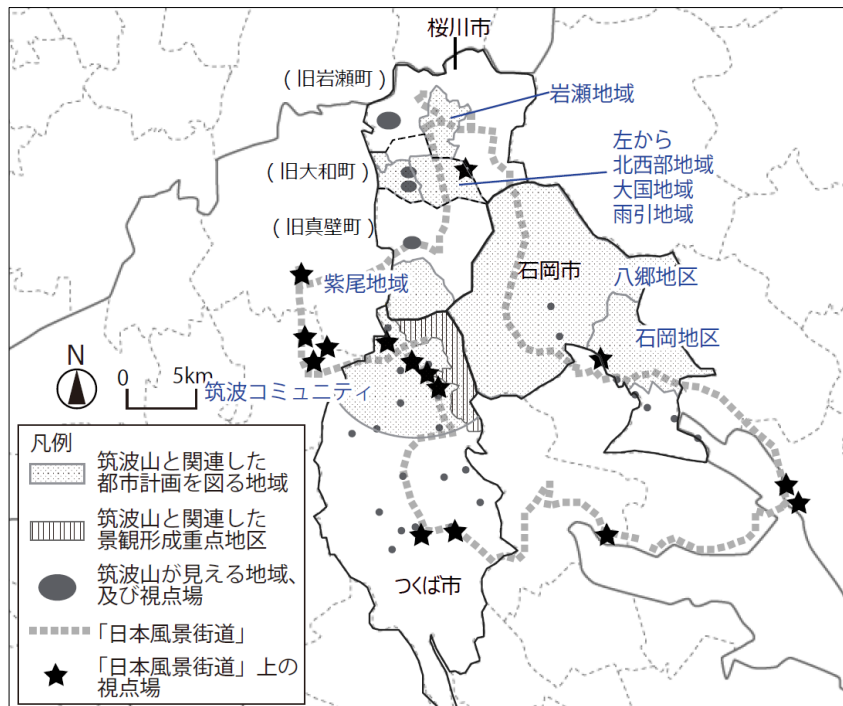


図 - 37 3 市の景観計画/都市計画マスタープランにて筑波山に関連した地域と視点場

表 - 13 筑波山と一緒に記載される景観要素

	つくば市	石岡市	桜川市
川、沼など水辺	○	○	○
山	○	○	○
平地林、斜面林、樹林地などの緑地	○	○	
農村集落、田園	○	○	○
公園、観光施設などの観光地	○		○
寺社、史跡、歴史的街並みなどの歴史的資源	○	○	○
登山道、散策路、幹線道路などの道	○	○	○

表 - 14 筑波山の写真と一緒に写る景観要素

	つくば市	石岡市	桜川市
川、湖などの水辺		2	1
山	1		2
田園	1	2	1
市街地、集落	2		1
橋		1	
遺跡	1		
道 (自転車道)	1		



図 - 38 「富谷ふれあい公園より岩瀬市街地を望む（遠望に右から筑波山・加波山・吾国山）」（桜川市）



図 - 39 恋瀬川のふるさと橋からの眺望（石岡市）



図 - 40 つくば市街地からの眺望



図 - 41 田園景観越しの眺望（つくば市）



図 - 42 平沢官衙遺跡からの眺望（つくば市）



図 - 43 宝篋山周辺からの眺望（つくば市）

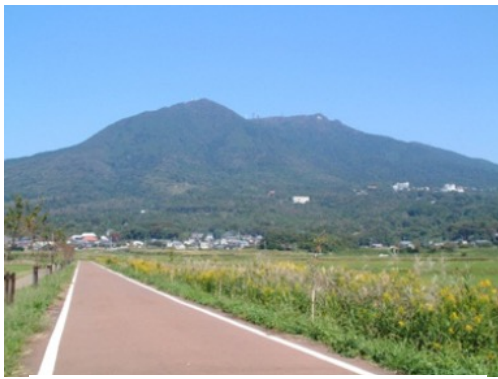


図 - 44 りんりんロードからの眺望
(つくば市)



図 - 45 恋瀬川からの眺望 (石岡市)



図 - 46 田園景観越しの眺望 (石岡市)



図 - 47 田園景観越しの眺望 (桜川市)



図 - 48 桜川からの眺望 (桜川市)



図 - 49 田園景観越しの眺望 (桜川市)

ii) 規制

3市の景観計画に記された良好な景観形成のための行為の制限についてまとめた(表-15⁵³)。筑波山に関係する重点地区を設けているのはつくば市のみで、水郷筑波国定公園地区と、山麓の北条中台地区がある。ただし北条中台地区では、概況の説明として「筑波山や田畑等に囲まれた自然環境豊かな田園地帯に位置⁵⁴」するとあるのみで、筑波山の景観に直接関する景観形成方針の記述はない。そのため3市において筑波山の景観に配慮した重点地区はつくば市の水郷筑波国定公園地区だけであると言える。つくば市は、重点地区の景観形成方針にて、筑波山の景観に配慮するために、建築物等の景観意匠、色彩、装飾等は筑波山の自然景観との調和を図る⁵⁵としているが、重点地区の届出対象基準と景観形成基準はなく、市全域のものを採用している。市全域の届出対象行為のうち、建築物の新築、増築、改築、移転、外観変更の行為において、市街化区域と市街化調整区域で区別しており、景観形成基準の同じく建築物の項目内の色彩においても区分されている。重点地区は市街化調整区域に入るため、開発行為は市全域に比べて制限されているといえる。

つくば市では「筑波山の眺望を阻害しない⁵⁶」、石岡市では「山稜の近傍では、その稜線を乱さない⁵⁷」、桜川市では、重要な視点場からの景観地(山並み・水辺)に対する景観阻害がないようにする⁵⁸、といったように、山の眺望景観へ配慮することは3市共通している。ただし、石岡市や桜川市は筑波山以外にも地域の重要な山が存在するため、筑波山だけを挙げる記述は少ない傾向がある。重点地区についても、石岡市は朝日地区とフルーツライン沿線等地区という筑波山麓の地区を「先導的な景観形成地区」に設定しており、その景観特性は里山景観である。また桜川市は景観重点地域に真壁地区を設定している。真壁地区は重要伝統的建造物群保存地区に選定された城下町で、「本地区の東側に広がる山並みへの眺めが、人々の生活の中に息づいている⁵⁹」とあり、真壁地区からは南側に位置する筑波山よりも東側の足尾山や加波山に重きが置かれている。

筑波山周辺地区広域景観形成プランで示されたように、筑波山周辺地区に限定した方針を定めているのはつくば市だけであり、他2市の計画は当プランが反映されているとは言えない。

⁵³ 表の作成には桜川市は「桜川市景観計画(素案)の骨子」を用いた。https://www.sec-brown.jp/cms/sakuragawa/sys/public/data/doc/1261465722_1.pdf (20161130 閲覧)

⁵⁴ つくば市(2012):つくば市景観計画第1回変更, 34

⁵⁵ つくば市(2012):つくば市景観計画第1回変更, 19

⁵⁶ つくば市(2012):つくば市景観計画第1回変更, 6

⁵⁷ 石岡市景観計画, 17

⁵⁸ 桜川市景観まちづくりマスタープラン, 126

⁵⁹ 桜川市景観計画(景観重点地域)「古郷ふるさと・真壁地区」(素案)の骨子, 4 https://www.sec-brown.jp/cms/sakuragawa/sys/public/data/doc/1261466513_2.pdf (20161130 閲覧)

表-15 つくば市、石岡市、桜川市における規制

		つくば市		石岡市	桜川市
景観形成重点地区	筑波山(関係する)景観形成重点地区	水郷筑波国定公園地区	北条中台地区	重点景観地区は設置されているが筑波山との関係がみられない	
	景観形成方針	建築物等の形態意匠の色彩、装飾の配慮 国定公園周辺地域の建築物等の形態意匠は周囲の田園景観との調和に配慮			
	景観形成基準	重点地区に対応した景観形成基準はなし			
行為の制限	届出対象行為	建築物	<ul style="list-style-type: none"> ■市街化区域 高さ20m 超または延べ面積1,000㎡超 ■市街化調整区域 高さ10m 超または延べ面積1,000㎡超 	高さ10m 超または延床面積1,000㎡超 外観の過半の変更	<ul style="list-style-type: none"> ■市街化区域 高さ31m 超 ■市街化調整区域 高さ20m 超 高さ9m 超かつ延床面積2,000㎡超 外観の過半の変更
		工作物	高さ15m 擁壁5m) 超	高さ10m 擁壁2m) 超 外観の過半の変更	擁壁5m 超 擁壁以外15m 超 外観の過半の変更
		開発行為	面積10,000㎡超	面積1,000㎡以上	「土地の区画形質の変更」として、 15,000㎡以上 変更に伴い生じるのり面 擁壁5m 超 かつ、長さ10m 以上で3,000㎡以上
		良好な景観形成に支障のある行為		屋外の土砂、廃棄物等の堆積の面積が1,000㎡以上	
	景観形成基準	建築物	位置 形態意匠 色彩 市街化区域と市街化調整区域で別) 材料 敷地の緑化及び外構デザイン 駐車場 屋外照明 その他	位置及び規模 形態意匠 色彩 材料 -その他 外構 植栽)	位置 形態意匠 色彩 材料 敷地の緑化措置 その他 駐車場など)
		工作物	建築物の建築等の基準に準じる。	位置及び規模、形態意匠、素材 色彩	建築物の建築等の基準に準じる。
		開発行為	・ 方法に関する内容)	方法等	「土地の区画形質の変更」として、 ・ 方法に関する内容)
		廃棄物等の堆積		方法等	

3. 小結

関東地方1都6県の市区町村と、つくば市、桜川市、石岡市の2段階に分けて、筑波山の景観に関わる制度を、景観計画と都市計画マスタープランを中心に整理してきた。

第1節では、1都6県の自治体を対象とした。そのうち26市区町が、景観計画もしくは都市計画マスタープランにて筑波山について記している。茨城県について言えば、県の上位計画で筑波山と関係づける市町村は、市町村の計画でも同じように筑波山に言及している。ただし、上位計画では市域をこえて交流空間の形成を推進している(表-3)のに対し、市町村レベルになると近隣の市との連携や行政枠をこえた取組みは見られない(表-6)。筑波山を観光と関連付けるのは茨城県の9市町で(表-6)、内訳は眺望を観光資源とする筑波山西側の結城市、常総市、筑西市と、東側の大洗町、実際に訪れる観光は国定公園の範囲にある土浦市、石岡市、つくば市、かすみがうら市、桜川市で、最後の5市は、他の観光資源とのネットワーク形成を図る。筑波山の様々な観光利用があるが、どれも市内にとどまっている。また、各市内で筑波山の眺望や観光利用に言及したり、眺望保全のため、視点場に景観形成重点地区を設けたり、景観を阻害しないよう配慮が求められていることは共通している。中でも筑波山の視点場には水辺が最も多く、筑波山と共に見える景観要素は田園景観と水辺の景観が多いことが分かった。

第2節では、筑波山を擁するつくば市、石岡市、桜川市を対象とした。筑波山の景観に関する取り組みには国定公園とジオパークといった自然公園と、県による景観づくりの計画策定が関わっている。県による景観形成計画は、2004年の景観法施行の後、茨城県を代表する景観としていくつかエリアを選定し、市民が選ぶ筑波山ベストビューやベストビュールートの影響もあり、筑波山周辺地区が確立してきたという過程がある。国定公園やジオパークも、自然科学研究の蓄積によって指定され、開発行為等が制限されて筑波山の自然景観が守られてきた。

3市の景観計画と都市計画マスタープランにおいては、筑波山の前景に田園景観が広がるといった組み合わせが3市共通している。26市区町と同じく水辺の景観も多く取り上げられている要素の一つだが、歴史的資源や登山道、散策路、筑波山以外の山なども筑波山と合わせて扱われる景観で、これらの資源と筑波山を繋げる観光ネットワーク形成が図られている。

水面越しの筑波山の眺望、田園と筑波山という景観が、筑波山近隣地域だけでなく県外でも注目され、特に水辺は視点場となる件数が多いことが明らかになった。土浦市と境町では、筑波山と地域の水の景観が組み合わさった景観を原風景や心象風景と呼んでいる。景観計画には、人々の持つこうした情緒性を含めた「風景」の保全でもある。

3市それぞれの計画では、筑波山の自然、景観、眺望等に配慮されていることは分かったが、重点地区の設定範囲や規制の設け方などはばらつきがあり整合性はなく、県が景観形成プランで推奨していたような、筑波山を核とした景観計画になっているとは言えない。

筑波山の特徴とも言える水辺や田園の景観は、景観上欠かせない要素であり、筑波山と共に保全が必要となる。そのためには、近隣の地域が筑波山周辺地区を一体として捉え、市域を超えて協力して計画を定めていくことが重要である。また、河川、沼、湖(霞ヶ浦)や田園といった景観要素を持つ自治体の連携も必要である。近隣地域が中心となって、他の地域へ連携を勧めていくことが求められる。

第5章 結論

1. 結論

山の風景を理解するため、第2章から第4章まで人々が山をどう認識してきたのかその変遷を辿り、現在の保全制度を把握した。

第2章では、視対象である筑波山の利用として、観光ルートと観光資源の変遷を明らかにした。かつては筑波山東側、北側、西側からのルートがあったが、明治20年代からの電車や昭和初期のケーブルカー等インフラ整備、昭和30～40年代の自動車利用増加に伴った、つつじヶ丘の駐車場設置などを通じ、観光ルートは南側に集約され現在に至る。観光資源については、巨石や眺望など元々筑波山が有する資源は今も存在し続けるが、その間、夫婦餅や扁額など消失するものもあった。

第3章では、人々が筑波山に持つイメージがどのように構築されてきたのか、まなざしの変遷を明らかにした。富士山と筑波山を並立させる傾向は、奈良時代の常陸国風土記に掲載された神話から、「紫峰」の起源は江戸時代の嵐雪の俳句から始まった。信仰と観光についても、今は山を楽しむ観光が一般的だが、現在も信仰対象としての筑波山は残っている。以上は近代以前に始まっていたのに対し、国立公園やジオパークの指定に繋がった自然科学研究は、近代以降から開始される。

絵画及び写真から見る筑波山への視点場は、近世は江戸（東京）の東側、特に隅田川付近に集中し、その他は少数ではあるが栃木県や長野県、埼玉県、千葉県など広範囲にわたっていた。近代以降、観光関連の文献に取り上げられる視点場は、筑波山附近に集中するようになる。

山容は、時代を問わず二峰を強調する表現をする、または二峰に見える位置からの写真を採用するケースが多く、水の景観と田園景観と組み合わせられることが多いことが明らかとなった。

第4章では、現在の筑波山へのまなざしのひとつである景観制度を、景観・眺望と観光の視点から分析した。都市計画マスタープランもしくは景観計画にて筑波山を対象とするのは茨城県、埼玉県、千葉県、東京都の4都県内の26市区町で、各計画の中での視点場及び筑波山の前景となる景観は、水の景観と田園景観が多いこと、茨城県内の自治体では、筑波山を観光対象として捉えていることが分かった。筑波山を擁するつくば市、桜川市、石岡市に着目しても同じ傾向が見られた。ただし、県の計画では筑波山周辺地区に連携を求めているのに対し、3市の制度での連携は見られないことが明らかとなった。

以上から、本研究の内容は「視対象としての筑波山」と「まなざしの変化」の2つの視点からまとめられる。

(1) 視対象としての筑波山

視点場として取り上げられてきた場所が、現在の自治体の景観及び都市計画の制度で取り上げられているのかを確認するため、第3章で視点場を示した図（第3章の図-6と図-7）と第4章で「筑波山」を掲載する計画をもつ自治体を示した図（第4章の図-1）を重ねて比較した（図-1、図-2）。これらをまとめたものが表-1である。近世から近代を通して視点場に取り上げられ、なおかつ制度がある自治体は荒川区、つくば市、土浦市、桜川市の4市区のみである。近代以降に写真や絵画に写され、制度があるのは下妻市、石岡市、阿見町、大洗町の4市

町だけが、景観計画や都市計画マスタープランにおいて筑波山の眺望について示されているものも含めると全部で 22 市区町ある。近世以前に視点場が表わされていたが現在の計画で筑波山に言及しない地域は 18 市区町村である。近代以降、取り上げられる視点場は筑波山近くに集中してきたが、計画に筑波山の眺望が取り上げられる地域はその範囲ではなく、南西方向に広がりがある。これらの地域で主に扱われる景観は、田園景観を伴った眺望、河川や沼、湖など水に関係する要素を前景とした眺望である。

4 市区では歴史に基づいた景観を、22 市区町は近代以降の比較的新しい景観を計画で扱っているとみることができる。18 市区町村で近世以前に見られた景観は現存するのかわからない。

4 市区は「歴史に基づいた景観」としたが、例えば景観自体が変わらずとも人々が向けるまなざしが変わることで変化する。例えば近世から現在まで筑波山の眺望が得られる日暮里では、近世は筑波山の眺望が江戸名所と位置づけていたが、今はそれと同じ認識で見る機会は少ないのではないだろうか。荒川区、つくば市、土浦市、桜川市の 4 市区では、近世から現在まで筑波山への視点が存続していることが明らかとなったが、過去に見ていた景観そのものが制度で守られているのではないことを理解しておかなければならない。

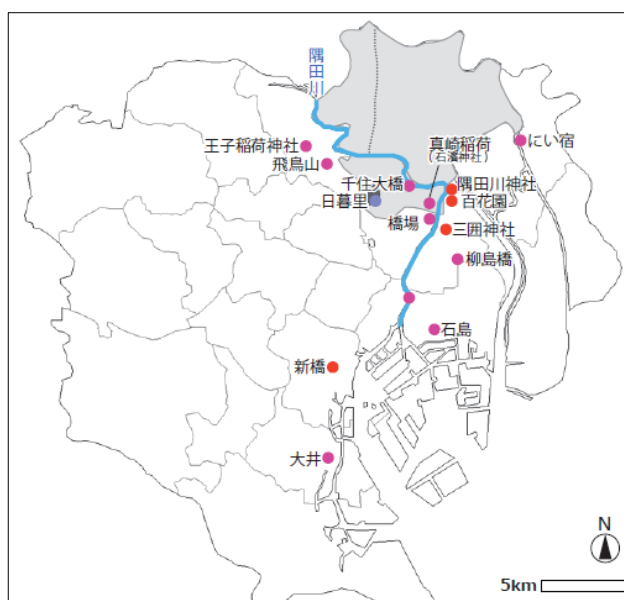


図 1 取り上げられる視点場と景観/都市計画制度の関係（東京都）

※凡例は図 - 2 に同じ

表 1 取り上げられる視点場と景観/都市計画制度の関係

自治体 (数)	取り上げられる視点場		景観/都市計画制度	
	近世以前	近代以降	あり	なし
● 荒川区、つくば市、土浦市、桜川市※ (4)	○	○	○	
● [写真・絵画で示される自治体] 下妻市、石岡市、阿見町、大洗町 ■ [制度で「眺望」が示される自治体] 結城市、常総市、取手市、牛久市、筑西市、稲敷市、かすみがうら市、行方市、境町、川越市、春日部市、越谷市、八潮市、流山市、佐倉市、我孫子市、足立区、八王子市 (22)		○	○	
● 那須塩原市、古河市、つくばみらい市、神栖市、久喜市、杉戸町、市川市、香取市、北区、台東区、中央区、港区、品川区、江東区、墨田区、葛飾区、群馬県嬬恋村、長野県軽井沢町 (18)	○			○

※桜川市は近代の視点場(●)と近世の視点場(●)両方あるためこの欄に含めた。

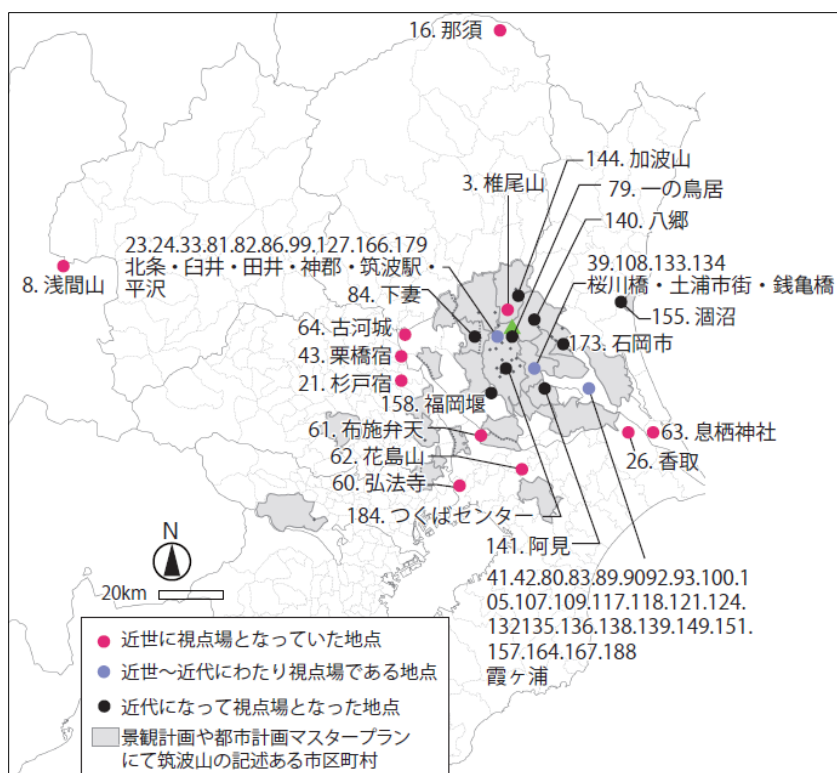


図 2 取り上げられる視点場と景観/都市計画制度の関係 (東京以外)

(2) まなざしの変化

山内の巨石や男女川などの自然要素は最も古くから観光資源としての価値をもち続けている。男女川を歌う陽成院の歌は後撰和歌集や百人一首にも選ばれており、名所として名高かったと言える。後に筑波山の自然は近代以降の自然科学研究を基盤とし、国定公園やジオパークの指定へと繋がり、景観等の計画では筑波山と共に見える景観として田園景観、水辺の景観といった自然的要素が取り上げられている。筑波山の自然というひとつの要素を取っても、歴史を追うごとに人々が向けるまなざしの変化してきたことがわかる。

しかし、常陸国風土記に端を発する「西の富士、東の筑波」や、嵐雪の歌から始まる「紫峰」という言葉、信仰、二峰というイメージや、近世から筑波山と組み合わせて捉えられてきた田園や水の景観は、現在まで変わらず継続しており、一般的に定着したイメージである。このように、変わるイメージと変わらないイメージが混在して、現在の筑波山の風景が形成されている。こうしたイメージは、今後も維持していけるのだろうか。例えば、土浦市や境町の景観・都市計画制度では、筑波山を背景とする田園や河川の景観が「原風景」だとしている。原風景には「なつかしさ」という要素を持ち、「故郷」と密接にかかわり¹⁾、内部に住んでいるときは気づかないが、そこから身を離して外部のまなざしをもったときに気づく²⁾ものである。制度の中で「懐かしい」という感情を伴う「原風景」を扱ってはいるものの、景観保全の手法としては対象となる田園や河川地域において眺望景観を損なわないよう、建築物の高さ制限や開発行為の規制等を設けることで対処する。「懐かしい」感情や、歌枕や名所として有名な地であったといった、人々の感覚や歴史や文化、つまり人間が筑波山に向けるまなざし（第1章の図-4 風景の概念）を守ることは隔たりがある。現行の景観制度は視覚できるもの対象とするため、これらを後世まで維持していくことには限界があると考えられる。

2. 考察

筑波山は、現存最古の歌集とされる万葉集や、万葉集以前に撰進された風土記に掲載され、長い歴史をもつ。本研究では、奈良時代から現在まで通して調査し、筑波山に備わる様々な側面を確認してきた。神話、歌垣、歌枕、名所、芸術の題材、信仰、観光、自然、国定公園、ジオパークのように、各時代に構築される概念や流行に対応した価値が引き出されている。様々な価値を有し、歴史を超えて広い地域に影響をもたらしてきたが、現在のところ俯瞰して筑波山周辺全体での取組みが実践されていない。

第4章で述べたように、県が策定した景観形成プランでは、筑波山周辺市で連携をとる必要性が示され、県の都市計画マスタープランと都市計画区域マスタープランでも、自治体の枠を超えた山麓一帯の自然環境や景観の保全や交流空間の形成が提示されている。しかしつくば市、桜川市、石岡市では前項で既述したように、連携が取れているとは言えない。個々の自治体では筑波山の視点場や他の資源とのネットワーク形成を図っているが、市域を超える取り組みは行われていない。2016年に指定された筑波山地域ジオパークは筑波山周辺6市にまたがっているので各ジオサイトを繋ぐネットワークを築いたり、歴史的背景を持つ旧アクセスルートや視点場など、忘れ去られた資源を発掘し価値付けしたりすることで、新たな筑波山の価値を見出

¹ 安彦一志, 佐藤康邦編(2002): 風景の哲学, vii

² 西田正憲(2011): 自然の風景論, アサヒビール, 347

すことができる。

人々は信仰対象や名所として山を認識してきたが、近代以降は山をめぐる環境は著しく変化してきた。特に昭和 30 年代以降は道路の整備や自動車の出現などで観光地化が活発になり、一方では自然風景地の保護と利用を目的とする国定公園の指定が行われ、山に対して様々な価値が付加されてきた。いずれの時代のあり方も、山の風景を形成する重要な一面であり、それぞれの山が辿ってきた歴史に基づく継承が行われる必要がある。

図表一覧

第1章

図-1 筑波山の位置	1
図-2 筑波山	1
図-3 八溝山地の中の筑波山	1
図-4 風景の概念	7
図-5 集団表象	7
図-6 論文構成	13
表-1 各章の対象年代	13

第2章

図-1 筑波山神社拝殿	17
図-2 近世以前から筑波鉄道開通までの筑波山へのアクセスルート	17
図-3 つくば道	18
図-4 山中の巨石（左：裏面大黒、右：弁慶七戻り）	19
図-5 現在の登山道と道路交通網	21
図-6 県道桜川土浦潮来自転車道線	25
図-7 筑波山神社近隣の旅館及び土産物屋の分布	27
表-1 筑波山の観光資源	15
表-2 観光ルート，インフラ整備，観光資源の関係	27

第3章

図-1 年代別にみる「紫」と「富士筑波」の掲載数推移	38
図-2 「富士筑波」の楽譜	40
図-3 筑波山の自然科学研究の推移	42
図-4 現在の地図で見る江戸の視点場	55
図-5 現在の地図で見る江戸以外の視点場	55
図-6 二峰でない筑波山	57
図-7 荒川区役所から見た筑波山	58
図-8 サンシャイン 60 展望台から見た筑波山	58

図-9 筑波山とともに描かれる/写る要素の変遷	60
表-1 資料の分類	32
表-2 文学作品における筑波山の描写件数	34
表-3 「紫」と「富士筑波」の掲載数	38
表-4 富士と筑波	39
表-5 筑波山の自然科学研究	42
表-6 筑波山の絵、写真	48
表-7 筑波山と共に描かれる/写る景観要素	60
表-8 田園景観の遠近の違い	61
表-9 社寺、山、水景観の年代別内容	63

第4章

図-1 各計画にて筑波山の記述のある市区町と視点場	66
図-2 茨城県都市計画マスタープランにおける「水と緑のネットワーク」	69
図-3 茨城県都市計画マスタープランにおける6つのゾーン	69
図-4 筑西市の市章	71
図-5 宮山ふるさとふれあい公園（筑西市）内の建物	71
図-6 母子島遊水地からの筑波山	71
図-7 「霞ヶ浦のうるおいある水辺の景観」	74
図-8 恋瀬川サイクリングロード	74
図-9 「鬼怒川と筑波山の景観」	74
図-10 「筑波山（鬼怒川大橋）」	74
図-11 つくし湖から	74
図-12 「松川漁港から見える筑波山の山並み」	74
図-13 利根川と筑波山	74
図-14 茨城県を代表する景観	77
図-15 母子島遊水地	80
図-16 霞ヶ浦ふれあいランド	80
図-17 つくば市街	80
図-18 北条大池	80
図-19 平沢官衙遺跡	80
図-20 小貝川ふれあい公園	80
図-21 沖宿付近	80
図-22 つくば市中菅間～筑西市東石田付近	80

図-23 雨引観音	81
図-24 りんりんロード	81
図-25 つくば道	81
図-26 恋瀬川サイクリングロード	81
図-27 日本風景街道	82
図-28 アンケート調査で「市町村を代表する景観」に筑波山を選んだ 17 市町村	84
図-29 「広域景観分布図」	84
図-30 「牛久沼水辺公園」(龍ヶ崎)	85
図-31 「霞ヶ浦の帆曳き舟と筑波山の眺望」(土浦市)	85
図-32 「筑波山ベストビューコンテストにおける重要眺望区域内の主要視点場」	86
図-33 筑波山周辺地区広域景観エリアの 7 市	88
図-34 つくば市、桜川市、石岡市における水郷筑波国定公園の範囲	90
図-35 水郷筑波国定公園(筑波地区)の筑波山山頂付近	90
図-36 筑波山地域ジオパークのジオサイト	93
図-37 3 市の景観計画/都市計画マスタープランにて筑波山に関連した地域と視点場	95
図-38 「富谷ふれあい公園より岩瀬市街地を望む(遠望に右から筑波山・加波山・吾国山)」 (桜川市)	96
図-39 恋瀬川のふるさと橋からの眺望(石岡市)	96
図-40 つくば市街地からの眺望	96
図-41 田園景観越しの眺望(つくば市)	96
図-42 平沢官衙遺跡からの眺望(つくば市)	96
図-43 宝篋山周辺からの眺望(つくば市)	96
図-44 りんりんロードからの眺望(つくば市)	97
図-45 恋瀬川からの眺望(石岡市)	97
図-46 田園景観越しの眺望(石岡市)	97
図-47 田園景観越しの眺望(桜川市)	97
図-48 桜川からの眺望(桜川市)	97
図-49 田園景観越しの眺望(桜川市)	97
表-1 各計画の「筑波山」掲載数	65
表-2 4 都県の市区町における「筑波山」の掲載数と種類、および評価と規制	67
表-3 筑波山に関連する茨城県都市計画マスタープランと都市計画区域	69
表-4 視点場の種類	73
表-5 筑波山とともに見える景観要素	73
表-6 観光の種類	75
表-7 筑波山に関する取組み及び計画	76

表-8 ベストビューポイント	79
表-9 ベストビュールート	79
表-10 筑波山周辺地区広域景観形成プランにおける課題	88
表-11 水郷筑波国定公園における公園区域と規制	91
表-12 関係市の違い	93
表-13 筑波山と一緒に記載される景観要素	95
表-14 筑波山の写真と一緒に写る景観要素	95
表-15 つくば市、石岡市、桜川市における規制	99

第5章

図-1 取り上げられる視点場と景観/都市計画制度の関係（東京都）	102
図-2 取り上げられる視点場と景観/都市計画制度の関係（東京以外）	103
表-1 取り上げられる視点場と景観/都市計画制度の関係	103

本研究に関する既発表論文一覧

審査付論文

1. 西邑雅未, 黒田乃生 (2015) :筑波山における観光ルートの変遷, ランドスケープ研究 78(5), 587-592
(第2章 観光ルートの変遷)
2. 西邑雅未, 黒田乃生 (2016) :近世の絵画にみる筑波山の特徴, ランドスケープ研究 79(5), 565-568
(第3章 筑波山のイメージの変遷 3. 絵画から見る筑波山のイメージ)
3. 西邑雅未, 黒田乃生 (2017) :筑波山の眺望景観に関する制度の現状と課題, ランドスケープ研究 80(5), 559-562
(第4章 景観に関する制度の現状と課題)

ポスター発表

1. 西邑雅未, 黒田乃生 (2015) :筑波山周辺地域の制度, 文化的景観研究集会(第7回), 奈良文化財研究所
(第4章 景観に関する制度の現状と課題)

参考文献・参考資料

1. 文学作品
2. 学術研究

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書籍名	出版	記述/内容	備考	田舎	望郷	恋	川など	遠方から	山登	田圃	桜	梅	柳	つつじ	つつじ	秋、紅葉	寒い雪	筑波風	夕日	霞、霧	舟	富士	富士	富士	「筑波山の文学」ページ											
文学	文学	紀行		0	小宮山昌秀 (写)			北条小田名勝略記並筑波私記	小宮山叢書																								地回っばい強がひとつ											
文学	文学	紀行		0	小宮山昌秀 (写)			遊筑波山記	小宮山叢書																								筑波山らしき絵あり											
文学	文学	紀行		0	小宮山楓軒 (写)			筑波大家記	小宮山叢書																																			
文学	文学	詩歌	和歌		日本武尊 神祕						つくはねをはるかへたて、やふかみしつまこひかぬるをじかの、原																						小慶神社 (埼玉・秩父郡小栗野村) に歌碑あり											
文学	文学		記紀	712				古事記			新治筑波を過ぎて、磯狭か寝つる																						遺歌の起源											
文学	文学		風土記	724				常陸風土記																									筑波郡の起源、富士筑波の対比、歌垣についての記述あり											
文学	文学	詩歌	和歌	760				万葉集			高橋由磨曲 (-732): 筑波山に登らざりしことを惜しむ歌 筑波磯に我が行けりせばほととぎす山彦とよめ わかまじやそれ 筑波の人 (665-731): 筑波山に登りし時の歌 衣手常陸の国二並ぶ筑波の山を見まく歌り〜 丹比真人 (665-731): 筑波磯をのみ見つつありかねて雪舟の道をつみ来るかも																											筑波の歌25首。国見、防人、雑歌 (常陸国雑歌2首、恋の歌10首) の歌あり						
文学	文学	詩歌	和歌		平安中期 曾禰好忠			好忠集			筑波山 浮舟が常陸国育ちであること。																							筑波山らしき絵あり										
文学	文学	詩歌	物語		平安中期 茶式部			源氏物語			筑波山を、分け見はしき御心は、ありながら、端山の繁りまで、あながちに思ひ入らむも、〜) (「東屋」の巻冒頭) など																								田舎の方、という意味合い									
文学	文学	詩歌	和歌	914	紀貫之			古今和歌集			紀貫之: ~さざれ石にたとへ、筑波山にかけて、君を願ひ、喜び身に過ぎ〜、(依名序) 紀原望: ~思は筑波山の陰よりも茂し〜、(真名序) 陽成院 (868-949): つくばねの峰よりおつるみなの川こひぞつもりて涙となりぬる (古今集、後撰集、百人一首) 源順 (911-983): 筑波山さける桜の匂をばいりておねだりよそなからみつ (源順集) 忠孝 (920): 筑波磯の影をもしりしけひもなしいまは松山波なとどめそ (忠孝集) 清原深養父 (-923): 筑波磯の木もごとくに立ちぞ寄る春のみ山の霞を忍びつ (深養父) 壬生忠見 (-960): 常陸なる筑波の山のもみぢ葉はにあかずや霞のおくらん、(忠見集) 曾禰好忠 (-986): つくば山はよまのしげりしげりけりどろりし雪はさはらざりけり (曾禰集) 凡河内躬恒 (921): つつれもなまに心をくづばねのみの朝露はれずこそおもへ (古今和歌) 大河内能宣 (921-991): われならぬ人に心をつくば山したにかよはむみちだにやなき (能宣集) 能因法師 (988): われならぬ人に心をつくば山したにかよはむみちだにやなき (能因法師集) 藤原忠通 (1097-1164): つくばねの山をばかすみこむれども声は〜だてぬ谷の下水 (田舎民謡集にもあり) 藤原教長 (1109-1178): 筑波磯のこのものかもをたげぬつ山のかひある花をこそみれ ひとごころまたあたらにつくば山しげきこひにぞおもひかねぬる (教長集) 續縁 (1141頃-1217頃): ともしする比 (ころ) にしなればつくば山このものもぞあらはなりける (二条院續縁集) 藤原重家 (1128-1180): つまかよふつくばの山のほととぎすをもしくきくよしもがな (重家集) 藤原助則 (-1104): つくばねのみねちに見ゆるともしかな葦山のすそにしかやふすらん 禅尼 (-1198): 霧もろまきはなびしかつくばねのすわの田井に秋風ぞふく (北院御堂御集) 守覚法親王 (1150-1202): 筑波ねの茂きこまより月もれば此面彼面の雪の村清ゆ (北院御堂御集) 大江原房 (1041-1111): 心ざし君につくば山の山れば浜名の橋に渡すとをし (江師集)																															歌数1100首あり。		
文学	文学	物語		10世紀後半 源順				宇津保物語			筑波磯の峰までかかると白雲を君しよに見るは阿な (田圃の郡島) の巻より																								全20巻。									
文学	文学	物語		10世紀末?				落窪物語			君ありと聞くに心をつくばねの峰よりおつるみなの川こひぞつもりて涙となりぬる																								古今集に採り残された歌									
文学	文学	詩歌	和歌	951				後撰和歌集																											161									
文学	文学	詩歌	和歌	1012	藤原公任			和漢朗詠集																											161									
文学	文学	詩歌	和歌	1154				詞花和歌集			君が代はしら雲かたる筑波磯のみねのつづきの海となるまで (能因法師) など																								161									
文学	文学	詩歌	和歌	1200頃?	藤原家隆	1158-1238		百首自歌合など			筑波山もあせねと吹風に人の心のみぞつれなき おもひかねながれば又夕日さす軒端の山のまつうらめし (『百首自歌合』より) つくば山は山の里に燈たち霞もしげし暮の夕暮																										161							
文学	文学	詩歌	和歌		順徳院	1197-1242		徳原名所百首			順徳天皇: つくば山しげきまきまきの数よりもしらぬは人の心なりけり 知家: かれていくこれや心のつくば山は山しげし秋風ぞ吹く 行能: つくば山しげきなきを分けおびておのれとまよふ恋のみちかな 康成: つくば山時雨る秋の露よりもあらぬ色にやおきまざるらん など																															161		
文学	文学	詩歌	和歌	1205				新古今和歌集			源重之: つくば山端山しげけれど思ひ入るにはさほらざりけり 大中臣能宣朝臣: 我ならぬ人に心をつくば山下にかよはん遠だにやなき 順徳院 (1197-1242): 筑波ねの繁き木間かげはあれど秋にはかはる夏の世の月 慈円 (1155-1225): 春をへて心を花につくば山桜ならでは繁らざりせば (拾玉集) 藤原良経 (1169-1206): 誰にとて春の心を筑波山このものにも風涙なり (秋篠月清集) 源鳥羽院 (1180-1239): 冬来てことしもへふにつくばねのこのめかねて春めきけり 源実朝 (1192-1219): 押しなべて春は来にけり筑波磯の木の本ごとに霞たなびく (金橋和歌集) 藤原冬平 (1275-1327): 秋といへば朝の色もつくば山はまじや時雨ふらんし (文保百首) 中入院入道: まなく降る時雨に色やつくば山繁きまきもみじにけり (風雅和歌集) 尊道 (不詳): みなの川凍りにけり山風の峰よりおろす雲ばかりして (延文百首) 山本入道 (不詳): おしなべてよもの草木の色づくはあまづ時雨の降ればなりけり (続千載集) 藤原為家 (1198-1275): みなの川岩間にたざり水はやく過ぎける我がさかりはも 有房 (1251-1319): さかさまにかえらぬおのみの川のながるとしにしがらみもがな 朝村 (不詳): かりそめと思ひし程のつくばねのすわのたいも任慣れにけり 頼阿法師 (1289-1372): つくばねや山かきくもる五月雨のつづくの田井に甲冑となり (草庵集) 二条良基 (1320-1388): みなの川流れてせせつもるこそ峰よりおつる木の葉なりけり																																	161
文学	文学	詩歌	和歌	1300頃?	藤阿法師	1289-1372		後阿法師詠			筑波磯の新築まゆの糸なれや心ひくよりみだれそむらん (『おなじころ』)																									161								
文学	文学	詩歌	和歌	1349				風雅和歌集			ちまりありてかかると筑波磯の峰も人のやがて思しき (大納言公胤)																									161								
文学	文学	詩歌	和歌	1357	藤原定家	1162-1241		筑波集、小倉百人一首			筑波磯やつづね行く水にせかれぬこひよいかしのむむ																									161								
文学	文学	詩歌	歌		世阿弥元清	1363-1443		謡曲「桜川」			〜筑波山、このものかの花ざり、雲の林の蔭茂き、緑の空うつろふや、松の葉色も春めきて、嵐も浮かむ花の波、〜)																										161							
文学	文学	詩歌	連歌		宗祇	1421-1502		竹林抄、新撰筑波集			木のもと伝う筑波磯の道 むら雨の悲の田井の名もしりし																										161							
文学	文学	紀行			亮恵	1430-1498		北国紀行			「〜沿れる浪をかけてや筑波磯の大和島根に春や立つらん 〜筑波磯の裏にあたり、富士御嶽の西に有て、絶頂はたへに消え、裾野に夕日を帯〜四城に山なし。」																											161						
文学	文学	詩歌	連歌		山崎宗瑞	1465-1553		新撰大筑波集、竹馬狂吟集			朝露おほふや思ひ筑波山 宗祇 新撰まゆの糸ならく春柳 藤巻 (三条西実隆) はるの雨のどけき恋にもはてて 兼基																											161						
文学	文学	詩歌	紀行	1490頃?	聖徳院通興准后	1430-1501		圓圃雜記 (圓圃日記)			筑波山このものかもみぢ葉にしくれも繁き程ぞしるる など																										161							
文学	文学	紀行		1590				筑波山流記			筑波磯の峰よりおつる朝川 の記述あり																									161								
文学	文学	詩歌	和歌		徳川光圀	1628-1700					雲の葉のしげりあふて筑波磯のむかしをしのぶ山ほととぎす																									161								

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書名	出版	記述/内容	備考	田舎	望郷	恋	川など	遠方から	山	田	桜	梅	つづ	秋、紅葉	寒い雪	筑波	嵐	霧	雷	富士	「山は筑波	「筑波山の				
芸術	文学	詩歌	音楽	1793	高安 庄次郎			早曲筑波山	塩屋平助/塩屋■兵衛/本屋清七																									
文学	文学	詩歌	和歌		橋守部	1781-1849				不二のねの時むく雪のめうつしにみどりもあかめをつくばの山（「筑波山を詠する歌」より） 不二の雪筑波の雪もまきこめて蒼鍾（あづま）を花になす極かな	国学者																					12.126		
文学	文学	詩歌	和歌		清水浜臣	1776-1824				いつしかど霞みそめけり葦人の先づ目にかちきをつくばの山 關田川ましのうすらひm葉節らむ筑波ねおろしきのふけふ吹く	和歌、村田晴海に師事				鍋田川	江戸																126		
文学	文学	物語	落語	1804-1817					高田八景																						132			
文学	文学	物語	落語	1804-1817					高田の馬場																						132			
文学	文学	戯曲	歌舞伎	1804-1829					高侍	嵐：襟に冷てえならい嵐。 注：筑波おろしに行く先の、 嵐：見えぬ吹雪が天の助け、 注：そんなら兄貴、 嵐：丑や、連者でいろよ。	御家人くずれの真次郎が高路びをしようとし、弟分の暗闘の岳松が呼び止める場面で「筑波」が引用																						134	
文学	文学	戯曲	歌舞伎	1804-1829					御所五郎藏																						134			
文学	文学	戯曲	歌舞伎	1804-1829					三人吉三																						134			
文学	文学	戯曲	歌舞伎	1804-1829					茨鹿子地通成寺	「山づくし」の中で「入り合いの鍵を筑波山」																					135			
文学	文学	戯曲	歌舞伎	1804-1829					助六	「傘に～富士と筑波をかざし草～」 「筑波根の姿派しき夏衣」																					135			
文学	文学	詩歌	俳句	1818-1829	木村庄之助					西栗山の緑や花すまひ （西から東空呼び出された高力士がなかなか勝負つかないように、男性、女性の紅葉はとのに錦を飾りどちらも美しい）	筑波六丁目の旧登山口の石の鳥居近くに句碑（十丁亥歳九月建立）あり																					192		
文学	文学	詩歌	俳句		二宮尊徳（山雪）	1787-1856				不二は申さずまづむらさきの筑波山	二宮神社（新木・芳賀郡二宮町）に句碑あり																				201			
文学	文学	詩歌	和歌		鬼沢大海	1793-1875			緑香集	～二宮ぶつくばの山を～（「筑波山を詠む」より）																					155			
文学	文学	詩歌	和歌		徳川齊昭	1800-1860				「～西筑峰を望み、南山湖に臨む。～」（「後楽園記」の碑より）																					143			
文学	文学	詩歌	和歌	1830	香川景樹	1769-1843			桂園一枝	つくはねのみどりばかりそのこりける冬がはれてしまさしめのはら（筑波野の木が枯れ果て、筑波嶺の木の緑だけが残っている）																						158		
文学	文学	詩歌	和歌		佐久良重雄	1811-1860			奮闘歌集	～歌にみれども二宮の～（「筑波山を詠む長歌」より） 見なれどもあかず筑波の山かづらあけゆく空にゆきぞ降る つくばねもあしほの山もおしなべて真白にみゆる雪のあけぼの	八幡出身																							156
芸術	芸術	絵画		1823	巨霧		筑波山眺望	富士筑波關田川の圖																										
歴史	研究	歴史	天狗党	1845	秋田重政 [編]	1845	筑波山事件 第22編	富士主文書 37巻																										
文学	文学	風土記		1870	浅井蘭清 / 著等			常陸國風土記：筑波郡																										
歴史	文学	物語	天狗党	1879	吉村明遠 編			勝田小四郎等筑波山に稱籠る事	近世太平記、巻之上	東壁堂																								
文学	文学	紀行		1880	朝野素彦 編			筑波山ノ茶店二重ス	小学新撰童子書、下	稲田源吉、1880	2行のみ																							
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1880	真野大誓 [他]		(二十一) 筑波山絶頂御祭ノ事	御絵伝動説、巻之5	永田文昌堂		鐵臂の話																							
文学	文学	詩歌	和歌		大和田建樹	1857-1910					もろち雲を片敷きふして筑波山神に一夜の宿や借らまし																					50		
信仰/観光	文学	詩歌	俳句		伊藤破塵	1858-1939					冬がや五里の筑波を眼のとまり																					98		
信仰/観光	文学	詩歌	和歌	1882	寺門静軒 [他]			絹川望筑波山	静軒詩集	小林繁三	雙嶺？尺上林嶽、影照絹川空翠寒、絶勝鹿野重河外、？絹千里隔天香																							
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1882	藤部応賢 [他]			廿五 筑波大御堂	西田・坂東・秩父百首観音霊驗記、坂東	坂東十五童、大御堂、千手観音																								
文学	文学	詩歌	和歌	1884	明治天皇	1852-1912					筑波嶺もゆき消えぬらし關田川かはかみ遠く霞たなびく など																							
歴史	文学	物語	天狗党	1884	菊亭静			尊徳紀聞筑波	太平堂																									
歴史	文学	物語	天狗党	1884	菊亭静			筑波水滸伝	今古堂等		天狗党の軍記物 1885年にも「筑波水滸伝」から「筑波水滸伝」の上中下巻が発行 1886年にも「関花堂」「今古堂等」から発行 1888にも発行																							
歴史	研究	歴史	天狗党？	1884	高富監泉 (菊亭静彦)			藤島筑波補機帳、下之巻	夏書社																									
歴史	研究	歴史	天狗党？	1884	高富監泉 (菊亭静彦)			藤島筑波補機帳、中之巻	夏書社																									
歴史	研究	歴史	天狗党？	1884	高富監泉 (菊亭静彦)			藤島筑波補機帳、上之巻	夏書社																									
芸術	文学	詩歌	音楽	1884	文部省音楽取調掛 編			富士筑波	小学唱歌集、第3編	文部省	歌詞と楽譜																							
信仰/観光	文学	紀行		1885	井口瀧蔵、角波部二 編			富士筑波	(七) 登築波山記	記事論説志伝開讀文例上、	浜本昇堂[ほか]																							
歴史	文学	物語	天狗党	1885	橋本快盛			筑波山義経退治	關原軍談：徳頼義烈	表4巻																								
歴史	文学	物語	天狗党	1885	清水市次郎 編			筑波山私置の事	絵本徳川十五代記	鈴木重右衛門[ほか]																								
歴史	文学	物語	天狗党	1886	高峯虎治郎			筑波山私置の事/462p	絵本徳川十五代記	高峯虎治郎																								
歴史	文学	物語	天狗党	1886	佐藤為三郎 編			筑波山結党の事 並に武田等加州に投ずる事	徳川十五代記	此村彦助																								
歴史	文学	物語	天狗党	1886	瀬川如卓			第三回 神威貞神除色難烈女守義入筑波	形援僧語：相馬侍門	文事堂																								
歴史	文学	物語	天狗党	1886	清水市次郎 編			筑波山結党の事	徳川十五代記	清水市次郎	1886には赤忠庵書も発行																							
歴史	文学	物語	天狗党	1886	清水市次郎 編			筑波山私置の事	絵本徳川十五代記	駿々堂	1886には東雲堂、中川初蔵、中川初蔵からも発行																							
文学	文学	戯曲		1887	須原良三 編			筑波でいやは富士嶽	芝居茶話	清水次兵衛																								
歴史	文学	物語	天狗党	1887	加藤勤七 (東洲)[他]			下妻合戦筑波勢夜襲の事	中外古今英雄談	今古堂																								
歴史	文学	物語	天狗党	1887	清水市次郎 編			筑波山結党の事	絵本徳川十五代記	根花堂																								
歴史	文学	物語	天狗党	1887	青木輔清			第廿七章 利軍再び上流の事 並水戸の藤田等兵を筑波山に起す事	通俗日本外史・一名、通俗近世国史略の続編、続編	同題分會																								
歴史	文学	物語	天狗党	1887	鈴木源四郎 編			筑波山私置の事	絵本徳川十五代記	鈴木源四郎																								
歴史	文学	物語	天狗党	1887				筑波山結党の事 並に武田等加州に投ずる事	袖珍絵本徳川十五代記	駿々堂																								
芸術	文学	詩歌	音楽	1887	浅井清作 [他]			(六三) 富士筑波	ひらかな唱歌大全	眞玉堂																								
歴史	文学	物語	天狗党	1888	岡本武雄			筑波の乱及び水戸の内訌 並に武田の一党最期の事	元辰始末：王政復古、巻1下	金港堂	歌詞																							
歴史	文学	物語	天狗党	1888	小山朝弘 (春山) 編			市川等水戸城二砲兵事並筑波軍水戸ヲ襲フ事 武田伊賀守並筑波軍那珂湊邊陣線等幕府二砲伏ノ事	常野戦争誌略	小山朝弘																								

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書籍名	出版	記述/内容	備考	田舎	望郷	恋	川など	遠方から	山登	田園	桜	梅	つづ	秋、紅葉	寒い	筑波風	夕日	霧、雨	富士	「山は筑波の文庫」ページ				
信仰/観光	観光			1910			筑波神社大祭之圖	風俗画報408号5月			お祭りの次第の説明																					
歴史	研究	歴史	天狗党	1910	玉田玉秀壽 講談、山田雄夫 述記			筑波山大仇討	立川文明堂																							
文学	文学	詩歌	和歌		四親光子	1885-1976					水に浮きて町も若葉のしげりなりつくばを雲のはなれかねたる					○		○										53				
文学	文学	詩歌	和歌		松村英一	1889-1981					眼の前の山の秀に立ち迷ふさ霧うすれて日のあかりさす																	53				
文学	文学	詩歌	俳句		木村素軒	1891-1981		筑波			筑波者に羨望む姉妹語らざる 腕の黒木筑波や初陽 行く秋や葉匂ふ筑波山 木枯や筑波の嶺を尖らしめ など	真壁出身、筑波根伊人、眺望句、写生句										○				○		68				
文学	文学	詩歌	詩		荒井星花	1887-1942					～筑波の山底はまつたく初秋の季節だ～（「男体山への道」より）	真壁出身 「筑波山が袖をふってゐる」「男体山への道」「タープルカー」など二百余編あり										○						76				
文学	文学	詩歌	和歌		舟橋和郎	1890-1919					宿舎なるを筑波見ませ拝みませ白妙にして二並みませる など 舟ゆけば筑波したる花の 頂に出て落葉なき鉄めかな	八潮出身、短歌	○?			○	二並											82				
文学	文学	詩歌	俳句		富安風生	1885-1979					念想に無人踏切初筑波	虚子に師事。昭和8年湖米に遊ぶ											○					48				
文学	文学	詩歌	和歌		橋本徳寿	1894-1989					筑波雲を低しと思うになほひくき山ありてつづあわれや 「筑波山」 宗道より五書に夜道なり 野は暮れて道しるじろし暮鞋にかへし足もと踏みて貝にけり 目をかめ筑波築山は白く霞たなびき春の月てれり 筑波山さきはふつつい穂道（いしもち）に結家のあかり照りて寂しも 雲どけし屋の上の土を踏みゆけばふなの木にみて驚愕くも」 など																			50		
文学	文学	詩歌	和歌		古泉千樞	1886-1927					山麓の樹に植えたる菜豆のふくらみ目につく此頃 この山の裾べにならふ青葉山麓吹きはれて明るくなれり など	写実的歌風 大小8年に友と筑波山に登る																	52			
文学	文学	詩歌	和歌		松村英一	1889-1981		やますげ																				54				
文学	文学	詩歌	和歌		半田良平	1887-1945		野づかさ			筑波嶺を勇峰女峰と隔てたる尾根を吹き越す嶺のはやし	窪田空穂に師事																55				
文学	文学	紀行		1911	横山 達三（1871-1943）横山謙堂		帝都郊外と筑波山、筑波山中の草、筑波山と藤田小四郎・桂月と鶴頂にて分る・歌謡の古蹟、善公と筑波山・善公と小田城址・神皇正統記起草の始	新入国記	歌文館		1991にもあり																		http://crd.ndlg.jp/reference/modules/d3nldcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000087118			
文学	文学	物語	長話	1911	高木敬雄		筑波山	日本神話物語	船部書店		カガイでさむう。 風土記の筑波と富士の話から派生した話。																		○			
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1911	大峰實道 編		三十 筑波山の幾苑済度 図 三十三 筑波権現の建法	新編聖人二十四尊撰詳記、前	興教書院		観覽の話																					
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1911	大峰實道 編		筑波山田跡	新編聖人二十四尊撰詳記、後	興教書院		観覽の話																					
信仰/観光	研究	歴史		1911	中山 信名/編 加納与右衛門		筑波郡筑波山神社二座	新編常陸国誌 卷下			風土記の富士筑波の話、万葉集の丹比真人の筑波山登った歌などの歌の紹介																					
歴史	文学	物語	天狗党	1911	寺田庄左衛門		甲子筑波進中日記		寺田庄三																							
芸術	芸術	絵画		1911	中村不折（1866-1943）画・著		不折画集 第1 筑波山、上も三首峰及邊境		光華堂																							
文学	文学	詩歌	俳句	1912	佛淵夜雨		筑波雲	夜雨集	女子文壇社		「筑波川の流れ～」 「今筑波は集にたそがれて～」 「～野の花に見る紫の 月波（つくば）に君も離れ行くか～」	妻確認																○	紫の記述あり			
文学	文学	紀行		1912	大町桂月		秋の筑波山 図 二 筑波登山	筆のすざび	高山房		小田城跡を通る。																					
文学	文学	紀行		1912	野中敬水		筑波の秀峰	山水英文	志来社		霞ヶ湖の浦にうつる、秀峰。																					
文学	文学	紀行		1912	茅原康太郎（善山）		筑波山かげ	華山文意	有朋館																							
文学	文学	紀行		1912	出版者不明	1912-00	筑波詣	東西南北（1）																								
信仰/観光	観光			1912	筑波山附近霞ヶ浦沿岸保勝会 霞ヶ浦沿岸保勝会 編			筑波山附近霞ヶ浦沿岸保勝会 霞ヶ浦沿岸保勝会 取成田名勝案内	警報社		地図のみ																			表紙に山容の絵あり		
芸術	芸術	絵画		1912	滝和亭画（1912）		富士図、筑波図 双編 東京福島浪蔵君畫	和幸集、中	国華社																							
信仰/観光	観光			1913	常総鉄道株式会社 編		筑波山 図	常総鉄道名勝案内	常総鉄道		下妻からが最も便がよい、山頂からの眺望、連歌岳（ヤマトケル）の逸話、観測所、古今集の歌																			下妻から見た山容写真		
信仰/観光	観光			1913	杉山 友章/著		筑波誌	筑波山神社			附近の名勝、自然、神社の遺蹟、登山の順序	1922,1926,1975,1980にも発行（1975年版を参照）																				
信仰/観光	観光			1913	筑波教育会 編		筑波郡案内記	筑波教育会			名勝、登山案内、筑波山事件のこと。 備成院の歌。	巻頭に筑波山全容の写真あり 1919発行では表紙に絵あり																				
信仰/観光	観光			1913	筑波山附近霞ヶ浦沿岸保勝会 編			筑波山霞ヶ浦名勝案内、[大正2年]	筑波山附近霞ヶ浦沿岸保勝会		「筑波山は富士と共に天下の名山として推称され」	筑波山附近霞ヶ浦沿岸保勝会取成田名勝案内(1912)と同じ表紙 1914年にも発行																		○		
歴史	文学	物語	天狗党	1913	泷沢青淵[著][他]		筑波山に立籠つた藤田等徳虎の山京	昨夜物語：青淵先生世路日記	沢書社																							
歴史	研究	歴史	天狗党	1913	早稲田大学編輯部 編		第廿二 藤田徳、○野に義徒を聚む、激徒退いて筑波山に集る 図 第廿三 筑波勢、下妻に大勝す、義徒一散復長く存す	通俗日本史、第18巻 明治太平記 上（薄田斬齋）	早稲田大学出版部																							
芸術	芸術	絵画		1913	小川千穂 画		五二 筑波秋色	千穂画集	小川多三郎																							
その他	研究	歴史	歴史	1913	第十一 筑波山発展策 図			茨城県筑波郡施設経管、前編	筑波教育会		筑波は富士につく名山、測候所、地質計、柚芋農、夫婦餅、あられ、県知事の演説。	114-125																				
信仰/観光	観光			1914	筑波山附近霞ヶ浦沿岸保勝会 編			土浦ヲ起點トシ筑波ヲ經テ兩毛線岩瀬驛ニ至ル	筑波山霞ヶ浦保勝会		筑波山は富士と共に天下の名山として推称され」																				○	写真なし
芸術	文学	詩歌	音楽	1914	町田桜園		富士筑波 図	琴曲集まなび、第2	感林堂																							○
その他	記事			1914	東京大正博覧会案内編輯局 編		教育學藝館に筑波山	東京大正博覧会観覧案内	文洋社		博覧会にて筑波山の模型と自然研究の発表																					

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書籍名	出版	記述/内容	備考	田舎	望郷	恋	川など	遠方から	山登	田園	桜	春	梅	つつじ	秋、紅葉	寒い雪	筑波風	夕日	霧、霙	富士	富士登山	「筑波山の文学」ページ							
文学	文学	紀行		1915	落合漢雄		第十三號 鹿島詣 (成田参詣と筑波山) 函	漫遊案内七日の旅	有文堂書店	陽成院の歌の記載。	一の鳥居の写真のみ																										
芸術	文学	詩歌	音楽	1915	橋本千、斎藤管舟		富士筑波 函	昔謡ハーモニカ独まなび	国華堂		歌詞と楽譜																										
信仰/観光	文学	紀行		1916	河東龍徳朝		筑波:筑波山	ツースト (1916年2月、12)		紀行文、江戸文学者が富士筑波並称。その他筑波山の概観。																			写真無								
文学	文学	紀行		1917	田山花袋		筑波の西麓 函 筑波山	山水小記	富田文陽堂	「筑波の景色」 「農民の生活を思はしめる」 山頂からの富士の眺め。「筑波の位置を大きくしたのが富士だ」																			○								
文学	文学	紀行		1917	田山花袋		筑波山の裏	山へ海へ	春陽堂	筑波山には登っていない。 「筑波の青嶺」「筑波は富士と共に、東京の山の一つである」 日の光線によって緑く、褐色、紫色に見える	「本宗道あたりに行くと、筑波の翠微が実に近い」																			○	○	写真なし					
文学	文学	紀行		1917	田山花袋		二十 霞ヶ浦と筑波方面	旅	博文館		小田城跡、北条の多気筑の城址、泉観音、妻形神社、加波山																										
芸術	文学	詩歌	音楽	1917	萬生勇 編		富士筑波 函	最新流行大正琴独習	中川玉成堂 函		美譜																										
文学	文学	紀行		1918	立林 水城		常総碑文集-筑波山碑		修史閣																												
文学	文学	紀行		1918	白井規一、奥田牛権		五 筑波山	趣味の地理、第1編(日本の山水)	博文館	「随分遠くから見える」 東京湾に入った船は筑波が見える。																											
信仰/観光	観光			1918	(科外教育叢書;第40)/正木貞二部(著)		第十一節 筑波の秀峯	日本の名勝	科外教育叢書刊行会	嵐雪の歌。女体山から登る。遊歌岳、ひよせき、男女人、陽成院の歌。	山容の顕なし																			○							
信仰/観光	観光			1918	伊藤省三 編		一 筑波山神社	利根川勝地案内	伊藤省三	「富士に次ぐ関東の名山」。陽成院などの歌。	2つの社殿、観測所、男女人、五軒茶屋の写真(p.107)																				○						
信仰/観光	文学	詩歌		1918	若月紫雲		筑波山	ツースト (1918年5月、35)		若月紫雲の歌12首、朝霧。																					○						
信仰/観光	観光			1918	小松保雄 著			筑波鉄道沿線案内誌	筑波倶楽部	筑波参拝経路。土浦から北条で下車。岩瀬から筑波で下車	富士と筑波は我道二大霊峰で名山。名勝、雪山、詩歌、避暑地。																					○					
信仰/観光	観光			1918	西田繁造 編		茨城縣 霞ヶ浦より筑波山を望む	日本名勝旧蹟産業写真集、関東地方之部	富田屋書店	観測所。																							○				
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1918	石川豊彦 編		五二、筑波山麓の諸境を調査す	浄土真宗御開山聖人御伝説	浄土真宗観音会	観音の話																											
信仰/観光	観光			1918	大塚周作 著		一 筑波神社堂物 一 筑波登山案内 函 一 筑波神社の沿革	筑波登山之友：一名・筑波山詳解	大塚周作	陽成院の歌。																											
歴史	研究	歴史	天狗党	1918	柿村重松		第四 筑波烈士	土筑波新刊土詩伝：附・泡然気要論	帝國教育研究会																												
歴史	研究	歴史	天狗党	1918	洪沢栄一		第十七巻 筑波勢の西上と公の海津出陣	徳川慶喜公伝、巻3	竜門社																												
文学	文学	詩歌		1919	室生犀星		筑波山の山ふところ	第二愛の詩集	文芸堂書店	筑波山ふところに突る果実(ザボン)を東京へ持って帰る、という詩																											
文学	文学	紀行		1919	小池兼康		十七、筑波登山	水鏡めぐり	美術研精会	天狗党の話																											
文学	文学	紀行		1919	松川二郎		紫の筑波	日がへりの旅：郊外探勝	東文堂	紫の筑波 男体、女体、男体、権尾																						○					
文学	文学	紀行		1919	日下部四郎太		八 筑波登山	二人行脚：信仰弘利	日本主催开会		女体、男体、	1924にも出版																									
文学	文学	戯曲		1919	稀書複製会 編			けいせい筑波山	米山堂		「新編稀書複製会叢書 第19巻(歌舞伎・狂言本) (1990,高川書店)」にも発行																										
信仰/観光	観光			1919	築地 秀晃/著			筑波するべ	寺田書店	紫峰、霞ヶ浦に映る、土産物の紹介など																					○						
信仰/観光	観光			1919	富山 竹次郎/編			筑波登山記念写真帖	筑波神社社務所																							○					
文学	文学	紀行		1920	谷口梨花		筑波山	参所とところどころ	博文館	「雪は申さずまづ紫の筑波山」 白き富士と並べて～																					○						
文学	文学	詩歌	和歌		中村正晴	1897-1964				筑波嶺は女男の神山並び立ち空をかざりて乳房型の山	神社境内に句碑あり																					52					
文学	文学	詩歌	和歌		吾野秀雄	1902-1967				山つつじまよらかにして芽をつづる女体の路は園のごとも つくばねのふもとの妻は椿争みて縁が住む辺に向きかそよがむ さよ霧にぬれて咲くとふをつくの山の谷間のかたくりの花 夏蟲のしげりつづける国原に二峰常立つ山の毒き 楯対りを終へて仰げば筑波嶺のなぞへはいたく夕焼けにけり 川越しに見ればゆゆしくそそりたつたれかやぐさの上に筑波山 など																									53		
文学	文学	詩歌	和歌		藤田祐四郎	1895-1971				真壁出身					川越		二峰	○														64					
文学	文学	詩歌	和歌		小宇田ふみ	1897-1975		東守り歌、暖み火		筑波おろしたべは寒し寄り合ひて唄へるうらが声とざれつつ 見のざりさやぐ青波筑波野の夕草刈りはたぐひなき遊書 笠脱げば暖にさやかなり夕虹のぬれしなない筑波野にたちて など	河下出身、歌集「東守り歌」(1969)、「暖み火」(1977)、筑波歌人																								66		
文学	文学	詩歌	和歌		友常幸一	1896-1954		雲去来		筑波嶺にたよる雲を朝に見つたべに見つつ春来つと思ふ 筑波山あしたは雲のふきはれてゆふべにいよいよ秋たけにけり 雨雲の片寄りにつつ筑波山そなたつ嶺に夕明りあり ここにきておどろきにけり小筑波の山のおもての雲のともしき など	岩瀬出身																										78
文学	文学	詩歌	和歌		古矢怜子	1897-1981		ゆかり、森光		夫と見つつじは遠き日となりて風送時の秋風に行つ 今朝も又袖子の襟に百舌鳴きて筑波は遠し濃き雲に 筑波見よ田の面も小川も鬼怒も見よと別れの近き吾子の云ひ寄る 少年期の帰省の夫が歩みてふ下妻街道を筑波に向ふ 二嶺覆ふくもの動き静かにて筑波山道坂盛りなり など	岩井出身、歌集「ゆかり」、「森光」																									86	
文学	文学	詩歌	和歌		中村正晴	1897-1964				筑波嶺は女男の神山並び立ち空をかざりて乳房型の山	神社下の万葉歌碑の脇にある																					51					
文学	文学	詩歌	和歌		鹿尾島寿藏	1898-1982		潮汐		潮こえてかすかに野火の燃るなり筑波の山のふもと野にして たてこめし障子うるめり筑波嶺の日のくれがたのふき露雨 筑波嶺はまやにあるし麓への鳥にのこる朝露のいろ など	歌人・人形作家																								51		
文学	文学	詩歌	和歌		吾野秀雄	1902-1967				筑波嶺の嶺出(わしり)でみれば新雨の班濃い(むらご)のみどり裾に落ちたり 山つつじまよらかにして芽をつづる女体の路は園の如し	赤川筑波行(昭和10年)																							55			
文学	文学	詩歌	作詞		市村莊一	1903-1975		土浦小唄 (歌集)		筑波おろしに唄をほらませて霞浦の湖上の帆引唄～(「筑波おろし」)より ～筑波のお山もねんこと白雲の中夜櫻小提げのたんぽもち～(「筑波の子守唄」)より	筑波郡出身																							88			
文学	文学	紀行		1921	高橋淡水		(一) 筑波登山	松陰と左内：驚天動地	下村書房	山頂から富士山を眺めた。																											

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書籍名	出版	記述/内容	備考	田舎	望郷	恋	川など	遠方から	山登	田圃	桜	梅	つつじ	秋、紅葉	寒い雪	筑波風	夕日	霧、霙	舟	富士登山	「山は筑波」ページ	「筑波山の文学」ページ				
文学	文学	物語		1921	森嶋紅		深雪を筑波の茶屋（前編） 大賀の庵室 図 深雪を筑波の茶屋（後編） 汗となりぬる 図	鳥渡日曜日一泊二泊のんきな旅	文陽堂書店	大宮から行く 富士と比べあう山	取手、常総線、大宮、大宮神社、人力車、高道祖、石段、筑波山神社、北条駅、土浦、・・・の旅																							
歴史	研究	歴史	天狗党	1921	小西勝治郎		一八 筑波山の鬼城	徳田之神と招魂祭	先進堂																									
芸術	芸術	絵画		1921	橋本雅邦 画[他]		富士筑波園 雙城	巖形遺集巻、乾	前陽堂本店																									
文学	文学	詩歌	俳句	1922	長塚節 [他]		筑波山	山鳥の渡	春陽堂	おくて田の稲刈る頃夕たさればつづの山の紫に見ゆ 夕されば紫匂ふつづのつづの田井にかりなき運 稲の穂のしづくの田井の夜空には筑波峰越て天の川流る 蜀黍（？）の穂ぬれに見ゆる筑波嶺ゆたなきき渡る秋の白雪 筑波嶺に降りおける雪は陽炎のゆふきりくれば紫にみゆ （明治39年6月）																								
文学	文学	紀行		1922	松川二郎		筑波と霞ヶ浦 図	四五日の旅：名所同遊	英文閣	水郷を見るにはまず筑波に登るべき。 天然の大望楼。富士の姿。	1925（有精堂書店）にも出版																							
文学	文学	紀行		1922	松川二郎		筑波山 図	東京近郊写真の一日	アルス	筑波の句。日井からの山容が一番で、文チョウの名山面議もここから、とのこと。	石段あり。 女男川、五軒茶屋、御幸ヶ原、出船入船、弁慶七兵衛ヶ浦を女体山から一望できる。 伊佐ヶ橋から筑波と富士が見える。																							
文学	文学	物語	民話	1922	物産高見		筑波山の犬天狗	奇蹟ものがたり：行脚しらべ	雄文堂	筑波山で天狗に会った話																								
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1922	高倉雲海		伽藍の勸諭と筑波山の忍鬼	通俗遊覧全伝	冬夏社	総覽の話																								
文学	文学	紀行		1923	河田橋		筑波山	一日二日山の旅	自強館書店	山頂からの眺め。 「寒筑波」一冬が一番景色がいい。 土浦を出て田道を行く。 連歌の話。																								
文学	文学	紀行		1923	谷口梨花		紫の筑波山	家族連れの旅	博文館	筑波の句。「西に富士ヶ根東に筑波、思ひ比べ伊達小畑」 天然の大望楼。富士の姿。																								
文学	文学	物語	民話	1923	松村武雄		富士と筑波	世界童話大系 第16巻 初版	世界童話大系刊行会	嵐山の筑波と富士の話。	1924、「日本童話集上」（1931、国民堂） 松村武雄編、川上四郎編、「日本童話集（世界童話全集）」（1997、近代社）																							
信仰/観光	観光			1923	巖倉芳泉 著		第八 筑波山と水戸の三演	関東奥羽名勝案内	雄文館	筑波登山）茶室、頂上の眺望、観測所、目石																								
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1923	田面敬壽		信樂の生活（筑波山北麓の幽棲）	観覽遺跡巡礼紀行	観覽敬仰会	観覽の話																								
歴史	研究	歴史	天狗党	1923	上田景二		第六章 筑波の旗争と藤田小四郎	維新勤王赤土活羅史、下巻	共益社出版部																									
文学	文学	紀行		1924	鳥居竜蔵		一〇、武蔵野附近の人々より見たる富士と筑波	武蔵野及其周囲	福野印刷堂	「白雪を戴くいとむらぬ富士の山と、柔く緑の峰な紫雲ふ筑波山」 「江戸名所図会」の凡例、「江亭記（文明8）」、赤枝「東国紀行」、丸善「北国紀行」の富士筑波の文章。	常陸国風土記の話。富士山と違って筑波山は人間に最も関係している親しみのある山。カガイ。筑波山はロマンチック。風土記の話あり																							
文学	文学	紀行		1924	別所梅之助		筑波嶺 図 筑波の初夏	山のしづく	警報社書店	取手→鹿代→佐貫、牛久沼、土浦、筑波鉄道。 「田野が美しく広がる」	常陸国風土記の話。紫に霞む山。 歌垣。みかん。ツクパネ。山桜。つつじ、カタクリ。																							
信仰/観光	観光	観光		1924			一、 口輪（筑波山 大洗西山山荘） 図 一三、 筑波郡 谷田部町小田村 北條町 筑波町	茨城大観	茨城県教育会 編	神社、遊楽所などの紹介	1932、1936年発行																							
文学	研究	文学	詩歌	1925	乾蔵平		筑波嶺、上野、松島行、出羽へも出て三箇年終は過ぎた	燕村の新研究	大坂毎日新聞社[ほか]	燕村が筑波嶺にきていた、という話																								
文学	研究	文学	詩歌	1925	中島悦次		（13） 陽成院一（筑波嶺の） 図	小倉百人一首評歌	春秋社	陽成院「筑波嶺のまより落つるみな河の、戀ぞ横りて、涙となりぬる」の批評																								
文学	文学	詩歌	詩	1925	福田正夫			筑波の白百合：長藤歌事詩	新潮社		1926年にも出版																							
文学	文学	紀行		1925	松川二郎		筑波山	土曜から日曜	有精堂書店		「東京近郊写真の一日」（1922）とはほぼ同じ																							
文学	文学	紀行		1925	大村豊吉		筑波登山	三都中心名所の旅	新新社	女性山を先に登るのが多い。後から権尾菜師にも行けるから。	頂上からの眺望。陽成院の歌。万葉集の「餅付の田井」の文章。																							
文学	文学	紀行		1925	松川二郎		筑波山の紫色	旅の科学	有精堂書店	筑波山の紫色の考察	「科学より見たる趣味の旅行」（1926）と「日本見物：少年智叢」（1928）と内容が同じ																							
信仰/観光	観光	観光		1925	小松 保雄/著			土浦案内誌： 附：海軍航空隊・霞ヶ浦名所・筑波沿線案内	ひたち新報社	筑波山神社の紹介																								
信仰/観光	観光	観光		1925	雷音生		筑波のケーブルカーを観る	旅（1925年11月、87）		ケーブルカーの説明。																								
信仰/観光	観光	観光		1925			筑波山	ツーリスト（1925年11月、4）		筑波山、交通、名所の紹介																								
歴史	研究	歴史	天狗党	1925	阿部正巳		一一 筑波山の軍兵 図 一四 筑波勢の暴軍撃退	川俣茂七郎	阿部正巳																									
文学	文学	詩歌		1926	益子徳三		筑波風	豆の葉：民謡集	恒星堂書店	牛久冬枯れ 田圃は風だ 君は東よ 私は西よ 筑波風に なされながら 離ればなれに すんでいる。																								
文学	研究	文学	詩歌	1926	飯田豊		筑波嶺の 戀ぞつもりて	百人一首解	文春社	陽成院「筑波嶺のまより落つるみな河の、戀ぞ横りて、涙となりぬる」の批評	陽成院の歌の解釈																							
文学	文学	詩歌		1926	吉田冬葉 編		筑波登山	俳句の作り方	素人社	声の中の鉦音響や鳴く水鏡 燈の花の匂ひくる若葉くもりかな 駒鳥や砂瀬清水にとかしのむ	筑波山の情景を見て浮かんだ3句 茶屋で男女川を飲んで砂瀬を入れて飲む 日本語研究会（1928）も出版（1928年版参照）																							
文学	文学	紀行		1926	石神春霞 編		筑波から	これからの女子書翰文：口語体と様文	進々堂	「北條よい所、南を受けて筑波下しがそよそよと」																								
文学	文学	戯曲		1926	橋本雅邦 編		けいせい筑波山 図 筑波山神明堂並名所 図	橋本雅邦 編、第1編	米山堂		狂言本。																							
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1926	加納兵一		筑波山の龍鬼譚	観覽聖人七百年之光	加納兵一	観覽の話																								
信仰/観光	文学	紀行		1926	大村豊吉		筑波登山 図	趣味と実用をかねた日本名所めぐり	甲子社書房	山中の名所列挙																								

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書籍名	出版	記述/内容	備考	田舎	望郷	恋	川など	遠方から	山登	田圃	桜	梅	つつじ	秋、紅葉	寒い雪	筑波風土記	夕日	霧	舟	富士登山	「山は筑波編」ページ	「筑波山の文学」ページ						
信印/観光	文学	紀行		1926	大島九羊 編		水戸と筑波	関東遊覧その日帰り	金尾文雄堂	筑波山の名所説明、遊覧順序																										
信印/観光	文学	紀行		1926	長谷川浩三		筑波の春	旅 (1926年4月、72)		紀行文。								○	○																	
歴史	研究	歴史	天狗党	1926	安部肇		西 筑波山の義兵 図	基本物語(課外読本学校版)	ヨウネン社																											
芸術	文学	詩歌	音楽	1926	竹内夢村 編		富士筑波 図	拾遺ハーモニカ音集	いろは書房																											
文学	文学	詩歌	句	1927	水原秋桜子	1892-1981		筑波山雑記 (五句一連)		わたなかや鶴の鳥むるる鳥二つ 天霧らひ男峰は立てり望の夜を いふみわく女峰の雲の小春かな 国原や野火の走り火夜もすがら 葉の宮原嶺山麓に立てり見ゆ	初句は男体・女体を鳥二つとし、第二句は男峰の名目、第三句は女峰の小春、第四句は千野の野火のさま、結句は葉原山神社を山上から鳥瞰																			36	47					
文学	文学	紀行		1927	鳥居竜蔵		二〇 筑波山頂の立石に就いて	上代の東京とその周囲	磯部甲陽堂	筑波は神の山、巨石遺跡、信仰との関係。																										
文学	文学	風土記		1927	(有朋堂文庫) / 塚本百三 校		筑波郡	古事記・祝詞・風土記	有朋堂書店		風土記が記載されているのみ。																									
信印/観光	観光			1927	藤田 庄左衛門 / (著)		筑波山 : 附土浦から鹿島へ		常総新聞土浦支社	筑波鉄道発着時刻、登山道、神社、山の名所の列挙、山頂の眺望、ケーブルカー筑波市街																										
芸術	文学	詩歌	音楽	1927	東京音楽学校 編		6 3 富士筑波 図	オルガン・ピアノ楽譜: 小学唱歌集用	共益書局																											
文学	文学	紀行		1928	茅原華山		筑波山	湖海静遊記:一名名勝遊記	内蔵社	東京湾に入る船舶は青葉色濃かなな双峰を見ることが出来る。																										
文学	文学	紀行		1928	光風館編輯部		1 筑波登山記	作文新編、巻	光風館書店	上野から筑波山を見た。 秋の空に筑波の雲色。土浦→筑波鉄道→筑波駅→徒歩。男体、女体山。山上からの霞ヶ浦。	春の空の中に葉の筑波。車窓からの筑波山。																									
文学	文学	紀行		1928	徳富健一郎		筑波遊記、筑波神社 図 筑波と富士	関東探勝記 (群峰叢書: 第7冊)	民友社	修学旅行で筑波山。土浦→筑波鉄道→筑波駅→徒歩。男体、女体山。山上からの霞ヶ浦。	筑波と富士はいつも双称されている。天狗党のこと、宗教のことも記述																									
文学	文学	物語	長話	1928	吾丘祐一		(5)筑波山	少年伊賀越後快拳録	大同館書店	筑波の門人に頼しい羽を下した武蔵の話																										
文学	文学	紀行		1928	香田又次郎		筑波山櫻川 図	歴史雑談	中野書房	陽成院の歌。恋の山。万葉集の歌。カガヤ、連歌。蜜柑は名山だが品種は他所に劣る。信仰の山。																										
文学	文学	風土記		1928	松岡静雄		筑波郡	筑波郡風土記物語	刀江書院		筑波の地名の話。																									
信印/観光	文学	紀行		1928	松川二郎		筑波山が裏返った話	旅 (1928年7月、28)		紀行文。万葉集の歌。東側からの登山																										
信印/観光	観光			1928	高山 竹治郎 / 編		筑波登山手引山案内 : 山内名勝説明附(最新編)		高山商店	略図説明と地図																										
文学	文学	詩歌	詩	1929	田中冬二	1894-1980		青い夜道		「わたしはとほくから見たあのむらさきの中にある〜 (「筑波の町」より)																										
文学	文学	物語	長話	1929	長塚豊		富士と筑波	祝祭日のお話集 図書	厚生閣書店	風土記の筑波と富士の話																										
信印/観光	文学	紀行		1929	Akira Ikeda(池田暉)		Tsukuba, the Fair Mountain(筑波山)	ツーリスト (1929年11月、26)		紀行文。																										
歴史	研究	歴史	天狗党	1929	金沢春友		筑波義学と田中彦蔵		金沢春友																											
その他	教育			1929	吉田幾次郎		2 2. あの子は猿のやうだ。猿のやうな子だ。あの子は猿のやうにすばしい。筑波山は富士山程の高さか。いや、富士ほどに高くない	表作文入門	研究社																											
文学	文学	詩歌		1930	若月紫蘭 著		筑波山 図	韻鏡:短歌・俳句	新月社	14首。筑波山に登った歌あり。 虹、雲、鶯(むぐらし)、茶店、夫婦餅、夕日、山ふとこの町、七月																										
文学	文学	詩歌	音楽	1930	作詞は小沼俊平		唱歌	茨城青年の歌		〜ひとり眺えたる筑波嶺は〜																										
文学	文学	詩歌	音楽	1930	作詞は小沼俊平		唱歌	茨城女子青年の歌		筑波の山の麓原 咲く撫子は茨城の〜																										
文学	文学	戯曲		1930	富士郷筑波草山		日本戯曲全集 第3 1巻 河竹黙阿彌集 下		春陽堂		1933年「遊美、清太郎、1892-1959.遊美清太郎 編、校訂」にも発行																									
文学	文学	詩歌	詩		大木実	1913-1992				「低い山の麓 あをい田畑に囲まれて〜 母の故郷常陸の若潮の町は その燈火のなかにねむっている」(「母の故郷」より)																										
文学	文学	詩歌	和歌		草深治生	1910-1993				暮れせまるつくばの山に雲もなし葉踏みはずむ音のきこゆる 山の端に雪は見ゆれどきざらざる筑波の山のうす霧むかな この夜筑波の山にともる灯のやはらく見えて春来るらしも 筑波嶺の右高原は色づくみ山つつじは咲き匂ふらし	新万葉集(昭和12・3) に入集、など																									
文学	文学	詩歌	和歌		関せん	1906-1984		茶房、筑波の麓、路の露		朝かげにむらさき淡く天を区切る筑波の山にたち向ひけり 筑波山と小田山の間にさ霧たちて小さく起き伏す山並やさし (「茶房」より) 筑波たぬ海のごとくに青澄める天のまほらに峰二つ立つ など	小田出身、短歌																									
文学	文学	詩歌	俳句		吉田高澄	1902-1989				筑波あり歌あり春の月 徳来べし耳を立てたる筑波山 雪嶺の立ち並びたる火鉢かな 筑波嶺のたれる風の年用意 春山の筑波の神の心をなむす 立ち出でし空に筑波の白雉か 月の夜も添水の空の筑波山 など	岩瀬出身																									
文学	文学	詩歌	和歌		戸恒恒男	1912-1987				筑波嶺の大池ざから吹雪つつ虎飯の遊行も包もまむとする (「決別」より) 尾根に立つ木々のひととそ〜とも浮きたたせつつ響る筑波は (「潮騒」より) 大塚のこがらしを讀め筑波嶺は古代むらさきのままに粧ふ (「鬼怒川の景」の一節) など	結城出身、歌集「悲風帖」(昭和52)、「家燕」(平成6) など																									
文学	文学	詩歌	和歌、俳句		逸山都一	1908-				寒霜みや筑波を前に後にし 二人片寄せ合ふ如く並ぶ筑波はやさし春かすみして 夕映ゆる雲かかげる雲しづかにて秋日くれゆく筑波野の空 冬近き山にひびける谷川の何が奏づる音の寂し。 など	大形出身、歌・句・絵などあり																									
文学	文学	詩歌	和歌		吉田次郎	1908-				山前を飛白(かすり)に染めて新雪をまよふ筑波嶺今朝は風たり (「現代歌人茨城風土記」より) など	八潮出身、茨城歌人																									
文学	文学	詩歌	和歌		江連白濁	1907-1979				野の蔭みつくば嶺を据ゑ下野の名におふ麓沼原月ノ花の町	富士山公園(栃木・鹿沼市)の歌碑筑波山までは約50kmくらい																									

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書籍名	出版	記述/内容	備考	田舎	望郷	恋	川など	遠方から	山登	田園	桜	梅	つつじ	秋、紅葉	寒い雪	筑波風	夕日	霧、雨	富士	富士登山	「山は筑波」ページ	「筑波山の文学」ページ				
文学	文学	詩歌		1931	筑波庵一編 (編)			筑波庵被書集	會澤市部																									
文学	文学	紀行		1931	西亀正夫		筑波山 区	学習旅行文庫・趣味の地理 1 (山めぐり)	学生閣書店	遠方からよく見える、頂上の眺めも良い、陽成院の歌。測候所。雲がかかって遠が見えなくなる。						○													山登の写真と山頂の測候所の写真有					
文学	文学	物語	長話	1931	白石実三		筑波の旗あげ 区	高夜文庫	春陽堂	平井門の鐘 (鉄術使い) の話																								
文学	文学	物語		1931	文芸家協会編		筑波秘蹟 (佐々木孝丸)	大衆文学集 第3集 昭和5年版	新潮社	かまっていた「あの御人」の告白口をして進行させたことで息子を尾根で想らしている最中息子が落下。後に加波山の乱の一頁に拾われていたことを知る。	「日本プロレタリア文学集 36 (プロレタリア戯曲集 2) (1938)」の「筑波秘蹟」と「筑波秘蹟 (1930, 南宮書房, 落合三郎著)」では、加波山の乱の内容が増え、戯曲となっている。																				館内限定閲覧			
信仰/観光	観光			1931	三村俊一		筑波礼賛	旅 (1931年8月, 139)		名所列挙、陽成院の歌、巨石、眺望。																								
信仰/観光	文学	紀行		1931	長崎東		筑波山麓を巡る旅	旅 (1931年6月, 136)		紀行文。登山は市内が土浦から南引へ向かう。土浦からの筑波山眺め、途中の美郷、菜畑。																					写真有			
文学	文学	物語	長話	1932	次田潤 編		編纂と筑波	上代文学選集	明治書院	風土記の筑波と富士の話。	1941にも発行																				○			
信仰/観光	観光			1932	茨城県教育会 編		一、 筑波郡	茨城大観	茨城県教育会	筑波線筑波駅の名所列挙	1936年にも発行																				霞ヶ浦からの山登がある見づらい			
信仰/観光	観光			1932			筑波山	土浦商工会誌	土浦商工会事務所	西に富士東に筑波。頂上の眺望。																					○			
歴史	研究	歴史	天狗党	1932	茨城県教育会 編纂		筑波山事件と房総地方	志のぶ草	茨城県教育会																									
その他	観光			1932	高木睦朗		文芸筑波山全景		白線社	筑波山 菊日和筑波の山頂むらさきに遠く 白雲やくらべものにはふじの雪 筑波山見学旅行で登山して詠んだ歌 「～筑波嶺の峰は富士の雪に勝と～」 「筑波山葉やましげ山尻り～」 「～雲はれて景裏すかざり青野なりけり」 「～みなしの川をわししのひて懸渡るかも」 夏の嶺「～雲立ちて須賀和の田井に夕立ふる」	筑波山麓地名、筑波山の資源。																							○
文学	文学	詩歌		1933	金銀富守		筑波山に遊ぶ記、上毛郷会に遊ぶ記	椿乃舎集	金銀富守																									
文学	文学	物語		1933	山本有三	1887-1974				筑波山 菊日和筑波の山頂むらさきに遠く 白雲やくらべものにはふじの雪	登場人物が土浦から徒歩で筑波山神社へ行きき道で一泊する記述あり。																					32		
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1933	板敷見純		筑波の霊峰	東國の聖蹟	板敷敬朗	陽成院の歌、軌跡。	1992にも発行																							
歴史	研究	歴史	天狗党	1933	宮内省 編		筑波 筑波	物産録 前篇	吉川弘文館																									
その他	記事	鉄道		1933	筑波鉄道 1933-02					筑波鉄道株式会社株主講習会に書く																								
文学	文学	詩歌		1935	和歌山県立日高中学校 編		登筑波山絶頂・安積信	胡吟詩集	和歌山県立日高中学校	究丸々の奇峯雲外に浮ぶ 天風吹き上す絶頂の秋 山河歴歴たり雙蛙の下 但恐る一呼八州を驚かさんことを																								
文学	文学	物語		1935	島崎藤村	1872-1943				夜明け前 ～半蔵は岡国橋の上まで歩いて行つたときに言つた。「あれが筑波ですね。」	登場人物が岡国橋から筑波山を眺める記述あり 天狗党についての記述あり																					30		
文学	文学	風土記		1935	島津久基 編		筑波岳 (常陸風土記) 区	村瀆国文叢抄	中興館																									
歴史	研究	歴史	天狗党	1935	吉田幸伍 (他)		筑波山解兵關係要地	大日本陸軍史	高山房		風土記の富士筑波の証																						○	
文学	文学	詩歌		1936	羽方輝治			筑波嶺: 歌集	東電短歌会	汽車の窓に筑波は見ゆる秋はれて福刈りいそぐか故郷のひとごと	著者の郷里なのでタイトルを筑波嶺にした。筑波山の歌は一首のみ。																							
信仰/観光	研究	歴史	天狗党	1936	熊田肇城		筑波山	日本史蹟大系 第16巻	平凡社	天狗党の話																								
歴史	研究	歴史	天狗党	1936	大内地山		十四、 筑波山上尊攘の義旗	日本精神発祥常陸国神記: 神代より明治維新まで	水戸学精神研究会																									
その他	観光			1936	筑城後援会 編		筑城天守閣敷地より筑波山眺望	社団法人筑城建設総督・城則	筑城後援会																									
文学	文学	詩歌		1937	長塚節		筑波山の歌、筑波登山	文学讀本 1 3巻	第一書房																									
信仰/観光	観光			1937			グラフ・常陸路春の緑音・筑波山の緑・鹿島灘の春・常陸の海	旅 (1937年4月)			写真																							
歴史	研究	歴史	天狗党	1937	斎藤新一郎			筑波義学録	筑波夕刊新聞社																									
歴史	研究	歴史	天狗党	1937	徳富孫一郎		第5 4巻 筑波山一筆の始末	近世日本国史	民友社		1939, 1962, 1963, 1966, 1969にも発行																							
芸術	芸術	絵画		1937	晴田一壽			「日本名山画蹟」より 14.筑波山春雨	東京国立近代美術館																								http://search.artmus-eums.go.jp/records.php?saku hin=5529	
文学	研究	文学	詩歌	1938	小島烏水		筑波根詩人 区	懐松の句ひ: 山岳隨筆	書物展望社	夜雨の作中に赤彦山から筑波山を見たとある。つくばは見えないはずがないが、この詩が有名で、赤彦山に登った詩人が筑波山の方向を尋ねた、話もある。																								
文学	文学	紀行		1938	栗田晋石		筑波、栴田、日光中禪寺 (昭和四一五年) 区	若石小稿	栗田晋	山頂から富士箱根など見る。	1ページのみ																							
文学	文学	紀行		1938	石川 藤一郎		真壁城址より筑波山を望む	笠間郷友会誌 第43・47号 済美 第28号	笠間郷友会 1938-51																									
文学	研究	文学		1938	中井 一郎		文学に現はれた筑波山の風景	筑波県立水海道中学校済美会 / (編)	筑波県立水海道中学校済美会																									
信仰/観光	観光			1938	荒木慎雄		青年徒歩旅行コース・泉子育観音・筑波神社・富谷観音コース	旅 (1938年8月)		筑波山へのアクセス説明。土浦、北条、神社、筑象台。																								
歴史	研究	歴史	天狗党	1938	小泉芝三		筑波山義舉	維新志士勤王詩歌評釈	立命館出版部																									
歴史	文学	物語	天狗党	1938			筑波山義舉 区	勸皇詩歌集 (思想叢書: 第22巻)	大阪府思想問題研究会																									
文学	文学	物語	長話	1939	武田祐吉 編		三、 富士筑波 (常陸國風土記)	上代文学新選: 校註	東京武蔵野書院	風土記の筑波と富士の話。																							○	
信仰/観光	歴史	歴史	信仰	1939			筑波山神社小誌	筑波山神社事務所																										
歴史	研究	歴史	天狗党	1939	栃木県教育会、栃木県地方思想問題研究会 編		第三節 筑波義舉下野に進入す	下野勤王史概説 幕末篇	栃木県教育会																									

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書籍名	出版	記述/内容	備考	田舎	望	恋	川など	遠方から	山登	田園	桜	春	梅	つつじ	秋、紅葉	寒い雪	筑波風	夕日	霞、霧	舟	富士登山	「山は筑波」ページ	「筑波山の文学」ページ			
文学	文学	物語		1968	井上靖	1907-1991		夜の声		歴史部は東京から筑波山だという山を遠くに眺めて、～いま東国を旅しつつあるという思いが、歴史部を言葉少なく、もの悲しくしていた。	登場人物が筑波山麓の伯父の家に行く記述あり	○			○														44					
信印/観光	観光			1968			撮影地点のわかる新ドライブ・マップ(16) 筑波・益子・大洗をめぐる	旅 (1968年4月、237)																										
歴史	研究	歴史	天狗党	1968	南山豊正			元治元年上 (筑波争兵と禁門戦争)	坂井印刷所																									
歴史	研究	歴史	天狗党	1968	山本 秋広(1893～)			筑波勢に荒された地方	常総の史蹟と寺々を訪ねる 前編	山本秋広																								
歴史	研究	歴史	天狗党	1968	名越 時正			筑波山学兵史論	藝林 19(6)		248-266																							
歴史	研究	歴史	歴史	1968	宮本 宣一			筑波歴史散歩	宮本 宣一遺稿刊行会 1968-06	筑波山神定、妻形山神社、筑波周辺散歩 (郷土の伝説、乃木将軍の母など)、多気城盛衰記	初刊は1968年 新書房(1980)、日経事業出版センター(2014)にも出版																							
文学	研究	文学	詩歌	1969	竹内 金治郎			「小筑波嶺の山の峰」-実歌- 3394番歌の解をめぐって	語文 (通号 32)	日本大学国文学会	筑波山が登場する東歌の解釈。(筑波山の風景を取ったものではない) 筆者の口訳：筑波山とちがってお前のことはどうしても忘れられないので、ついこうして口に出してしまうのだ。	1-7																						
文学	文学	詩歌	和歌	1969	神戸節	1894-1980			筑東集		新治郡茨並村出身												○							196				
文学	文学	物語		1969	新田次郎			筑波の仙人	まぼろしの雷鳥	講談社	筑波の仙人と呼ばれる勅次郎と測候所所長の沖田との交流。女体山北側の洞窟に居を構える。筑波山の名物「雲海」。歌垣、紅葉の季節。												○											
信印/観光	観光			1969	昭文社/編					精密地番入水戸市街地図：水戸市とその周辺詳細：大洗・筑波・空閑・霞ヶ浦・日立 (昭和44年1月版)	昭文社																							
信印/観光	観光			1969						グロリア筑波山麓の風景わりな懐い場 ゆう・もあ村から伝正寺の湯へ	旅 (1969年7月)	ゆうもあ村の紹介																						
文学	研究	文学	詩歌	1970	青木 昭			越後と夜雨と筑波山	常総文学 創刊号 永遠 誌—(1924—)/編	常総文学会	横瀬夜雨																							
文学	研究	文学	風土記	1970	和田正史			富士と筑波	日本歴史/日本歴史学会 編 (通号 270)		風土記の筑波と富士の話の考察	117-125																			○			
信印/観光	観光			1970	国立公園協会/編					国立国定公園地図シリーズ：水郷筑波 5 4	昭文社	1971年にも発行																						
信印/観光	観光			1970						裏筑波への招待：国立公園	真壁町観光協会																							
文学	文学	詩歌		1971	楳木登					筑波恋い：民謡詩集	「土浦の文学」社																							
文学	文学	詩歌		1971	木村森軒					筑波：句集	草葉社																							
信印/観光	研究	歴史	信仰	1971	新いばらきタイムス社/編					観覧のふるさと：観覧の偉業顕彰：二十四堂と表城の遺跡	新いばらきタイムス社 1971-09																							
信印/観光	観光			1971						房総・水郷：成田山・筑波山 ポケット・ガイド：10	日本交通公社	観光資源の列挙。ゆうもあ村。ヤマツツジ。				○																		
歴史	研究	歴史	天狗党	1971	所任 桜蓮					(9)岩谷敬一郎証(筑波事件の企画は湖来遊撃隊)	湖来華街史	湖来町商工観光課(郷土 集来：特集二)																						
歴史	研究	歴史	天狗党	1971	額谷 善昌					筑波種動楽歴史	幕末明治楽歴史	青経房(青経選書：37)																						
文学	研究	文学	詩歌	1972	土浦の自然を守る会/編					筑波山に上って丹比の園人の作った歌	桜川 第1号～2号	土浦の自然を守る会	万葉集の歌																					
文学	文学	物語	民話	1972	与田幸一/編、岩崎ちひろ/装幀、井口文秀/装幀					富士山と筑波山	日本の古典童話・1：やまたのおろち (古事記)	小峰書店	風土記の筑波と富士の話																					
その他	研究	文学	詩歌	1972	Yoshinari Ohtsuka/編、瀬谷 義彦(1914～)/監修					筑波嶺の峰	常陸風土記と万葉ライン	茨城県商工労働部観光課																						
その他	観光			1972	室伏勇(1934～)					茨城のこころ (1) 茨城新聞社/編	昭和書院	筑波山、霞ヶ浦、利根川、農耕地、奥久慈																						
文学	文学	詩歌		1973	関せん					筑波の歌：歌集	大泉書園(湖汐叢書)																							
文学	文学	詩歌		1973	糸沼忠三					初筑波：句集	新樹社 (九年母叢書：第13編)	昭和20-47土浦在中				○																		
文学	研究	文学	詩歌	1973	板橋 勇					筑波山を中心とした歌垣の研究1	常総文学 第6号 永遠 誌—(1924—)/編	常総文学会																						
文学	研究	文学	詩歌	1973	板橋 勇					筑波山を中心とした歌垣の研究2	常総文学 第7号 永遠 誌—(1924—)/編	常総文学会																						
文学	研究	文学	風土記	1973	有馬 徳(1908～)					福島の神と筑波の神	常陸風土記誌	太平洋出版																						
信印/観光	研究	歴史	民俗	1973	逸山 都一					筑波山信仰について	茨城の民俗 第12号	茨城民俗学会 1973-11	風土記の富士筑波の証、版名神社と巨石、カガイ、六所神社、御座祭																					

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書籍名	出版	記述/内容	備考	田舎	望郷	恋	川など	遠方から	山登	田園	桜	春	梅	つつじ	秋、紅葉	寒い雪	筑波風土記	夕日	霧、霽	僧	富士登山	「山は筑波の文学」ページ	
歴史	研究	歴史	天狗党	1973	葛崎村教育委員会(筑波県)／編		筑波学兵	葛崎村史	葛崎村																						
歴史	研究	歴史	天狗党	1973	日本史籍協会／編		筑波戦争記	野史台維新史料叢書 13 (日本史籍協会叢書)	東京大学出版会 1973		『野史台維新史料叢書：筑波戦記 29』 『日本史籍協会叢書 別編 29』 (1975) にもあり																				
その他	研究	文学	詩歌	1973	奥井登美子(1933～)		北筑波綾藤林道	桜川 第3号～4号 土浦の自然を守る会／編	土浦の自然を守る会																						
文学	文学	紀行		1974	高梨公之		法～名言とことわざ 筑波山あれこれの質問	時の法令 / 雅社刊 編 (通号 844・845)			風土記に記されるカガイ、ガマの口上についてのエッセイ	111-114																			
文学	文学	詩歌		1974	清水橋村		筑波紫抄	日本現代詩大系 第2巻 日夏 秋之介 編			『筑波集』の中の「地衣の歌」「小黒女」に筑波が出てくるが、山についてはない。明治文学全集：明治詩人集2 61(筑波集) (明治文学全集)でも『筑波集』(抄)あり。																				
文学	文学	紀行		1974	佐賀 進 / 絵, 佐賀 純一 / 文		土浦の町と筑波山	スケッチで綴るふるさと 土浦	「スケッチで綴るふるさと 土浦」 出版実行委員会																						
文学	文学	紀行		1974	中村 ときを (1906～)		・研究学園都市を行く谷田部町、聖崎村、桜村、豊里町、大穂町、筑波町・飯塚伊賀七・夫婦山筑波山とその周辺・徳一法師	茨城の風土と夢	常陸産業開発センター																						
文学	文学	物語	長話	1974	中村ときを			筑波風土記	築書房		1976、1981 (筑波書林) にも発行																				
信仰/観光	観光			1974	ブルーガイドバック編集部 編		原形・水郷・筑波：大炊崎・成田・佐原・水戸・袋田	ブルーガイドバック	実業之日本社	朝は藍、ひるは緑、夜は紫。コマ展望台。がま祭り、ゆもあ村、梅林、けんちんそば。	1975,1978,1979,1980,1981,1984,1985,1986,1987,1988,1989,1990,1991,1992,1993,1994,1995,1996,1997にも発行 1978年版を参照																				
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1974	南藤昭俊		<調査報告>筑波山神定講	佛教と民俗 11			51-53																				
その他	記事			1974	筑波県開発公社／編			筑波スカイライン 記録・9年の過程	筑波県開発公社																						
文学	研究	文学	詩歌	1975	須田薫		横瀬夜雨と風土について - 筑波遊詩人に関する序意 - 1	秋田風土文学	横瀬夜雨		49-60																				
文学	研究	文学	詩歌	1975	渡部和雄		もう一つの「東歌を疑う」- 妹が門いや通そきぬ筑波山 - の在り様	古代文学 (通号 14)	古代文学会	万葉集にて筑波を歌う東歌と防人の歌の考察。 古人にとっては歌柱である筑波山そのものが関心の対象で、直接山に魅れるもしくは遊楽の歌がない。	30-39																				
文学	研究	文学	詩歌	1975	渡部和雄		筑波山に背向に見ゆる豊穂山	国語国文研究 (通号 54)	筑波山を中心とした歌垣の研究3	筑波山を中心とした歌垣の研究3	p.p1~13																				
文学	研究	文学	詩歌	1975	板橋 勇		筑波山を中心とした歌垣の研究3	筑波山を中心とした歌垣の研究3	筑波山を中心とした歌垣の研究3	筑波山を中心とした歌垣の研究3																					
文学	文学	物語		1975	有吉佐和子	1931-1984		筑波川		～この山は結城地方から長るのが一番美しい。行く手には筑波山が遠く薄紫色をして待っている	登場人物が結城から筑波山を眺める記述あり																		38		
文学	研究	文学	風土記	1975	橋田節也		「富士と筑波」寺(吉永登先生古稀記念上代文学特集)	国文学 (通号 52) p.p25~39		風土記の筑波と富士の話																					
信仰/観光	観光			1975	日光 尾瀬 常陸 / 編, 橋田節也 / 筑波 / 水戸		日光 尾瀬 常陸 / 編, 橋田節也 / 筑波 / 水戸	交通公社の新しいガイド : 4	日本交通公社		1978,1981,1985にも発行																				
文学	文学	物語		1976	中村ときを			筑波遊詩人：若き日の横瀬夜雨	築書房	横瀬夜雨の人生を小説にした(伝奇小説)																					
文学	文学	物語	長話	1976	石川 漢 / 編, 今泉吉典 / 編, 橋田節也 / 編		富士の神と筑波の神	少年少女世界の文学 4 5 初版	小学館																						
文学	研究	文学	風土記	1976	河野 辰男		筑波郡の記載事項、筑波郡の範囲、筑波国開拓の事情、筑波地方の古蹟、筑波地方旧文化の中心と役所の所在	常陸国風土記の史的概観	河野辰男	筑波郡の成り立ち。風土記の富士筑波の話。カガイの場所の考察(六所? 飯名?)。																					
信仰/観光	観光			1976	山本 伸介		原形と水郷筑波	ブルーガイドブックス	実業之日本社	ゆもあ村、筑波山の紹介では風土記、深成岩、頂上の眺望、森林、神社、横瀬夜雨、がま園、	1977(～7ヵ月) 112),1978,1980(112),1982(112),1983(112),1985(112),1986(8),1987(8),1988,1989(8) 1988年版を参照																				
歴史	研究	歴史	天狗党	1976	明山 豊正		筑波山学兵の目的に関する一考察 - 希古文を中心として	軍事史学 / 軍事史学会 編 12(1)			p58~67																				
歴史	研究	歴史	天狗党	1976	江川 文展		激派と民衆 - 元治元年筑波学兵を中心として -	筑波県史研究 第34号 筑波県史編さん総合部会 / 編	筑波県歴史館																						
歴史	研究	歴史	信仰	1976	市村 其三部		筑波山北麓の三方境	アジア・アフリカ文化研究所研究年報 (通号 1976 年報) 1976 p.p1~6		奈良時代の筑波山は国有地で、筑波山神社はまだなく、自然崇拜。筑波郡、新治郡、真壁郡	徳一の開基。新治、筑波、真壁における筑波山の歴史																				
文学	研究	文学	詩歌	1977	伊藤良平		女唄いてさえ2筑波櫻詩人横瀬夜雨物語	筑波県史研究 第34号 筑波県史編さん総合部会 / 編	筑波県歴史館																						
文学	研究	文学	詩歌	1977	山田光夫		筑波山に吉(いにし)え恋する - 某月某日、万葉集・東歌の故地に孤影をひきまて思ひことども	筑波山に吉(いにし)え恋する - 某月某日、万葉集・東歌の故地に孤影をひきまて思ひことども	筑波山に吉(いにし)え恋する - 某月某日、万葉集・東歌の故地に孤影をひきまて思ひことども	筑波山に吉(いにし)え恋する - 某月某日、万葉集・東歌の故地に孤影をひきまて思ひことども	105-111																				
文学	研究	文学	詩歌	1977	鈴木 茂乃夫(1909～)		筑波嶺の	筑波の歴史をゆく 筑	筑波県教科書販売																						
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1977	前川 康司		筑波山、加波山の遊歩上	加波山 巻1	前川康司 1977-05																						
信仰/観光	研究	観光		1977	東京宮林局 [編]			筑波地区・筑波山北麓地区観光資源開発調査報告書	東京宮林局																						
歴史	研究	歴史	民俗	1977	筑波県総務部職員課 / 編		ガマの油、ケーブルと観光、元治元年の学兵、中禅寺、筑波社債の農民闘争、筑波のかがい	ふるさと探訪	筑波県総務部職員課																						
文学	文学	詩歌		1978	遠山 都一		筑波地方の句碑と俳人	郷土文化 第19号 筑波県郷土文化研究会 / 編	筑波県郷土文化研究会																						
文学	文学	詩歌		1978	下条 綾子		詩集『筑波野の春』(抄)	筑波近代文学選集 5	筑波新聞社																						
文学	文学	詩歌		1978	山口 義孝(1928～)		民話集『筑波は晴れて』(抄)	筑波近代文学選集 5	筑波新聞社																						
文学	文学	紀行		1978	筑波県立図書館 / 共編, 筑波県読売ブッククラブ / 共編			文学散歩：うら筑波周辺の自然と古寺を訪ねて	筑波県立図書館																						

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書籍名	出版	記述/内容	備考	田舎	望郷	恋	川など	遠方から	山登	田園	桜	春	梅	つつじ	秋、紅葉	寒い雪	筑波風	夕日	霞、霧	富士	富士登山	「筑波山の文学」ページ			
信仰/観光	観光			1982			原野・筑波・益子	ニューガイドトップ	弘済出版社	万葉集、神社、伝承寺、加波山、小田城址、ゆうもあ村、ガマ、ステーキひたち野、	1987,1989,1990,1991にも発行																						
信仰/観光	観光			1982			万葉の秘められた歴史と豊かな自然を訪ねる筑波山散歩コース・筑波町	ふるさとのお散歩道 茨城県	国土地理協会																								
信仰/観光	観光			1982			東筑波の歴史と野趣味を求めて気ままな散歩コース・真壁町	ふるさとのお散歩道 茨城県	国土地理協会																								
歴史	研究	歴史	民俗	1982			筑波山にガマがいなくなったわけ	桜川 第19号	土浦の自然を守る会	土浦の自然を守る会																							
芸術	芸術	絵画		1982			日本名山講-2-筑波山	芸術新潮 33(2)			73-76																		小川手紙の筑波山園				
その他	研究	景観		1982			太田 博太郎 / [ほか] 編	図説 日本の町並み 3		第一法規																							
文学	文学	詩歌		1983			森谷秀雄	遺作集森谷秀雄 : 筑波嶺からたどるふるさとの民話	森谷秀雄																								
文学	文学	詩歌		1983			奈良比佐子	逸筑波：奈良比佐子集	現代俳句選書；II・20	東京美術	雪積れや筑波遠見に大小屋干す 二ノ月や筑波双肩尖らせて 日帰りの帰郷や筑波に後の月	住む越谷から見える、故郷水戸からも見え、水戸を懐かしく思うため句集名にした																					
信仰/観光	研究	歴史		1983			羽生元信	筑波登山街道の家運	筑波史談会																								
歴史	研究	歴史	天狗党	1983			永田 春祝	特別奇蹟・筑波学兵と烈公の神位始末	桂史紀要 第7号 桂村史談会 / 編	桂村史談会																							
歴史	研究	歴史	天狗党	1983			延島 久美子	筑波学兵から大平山まで	史窓 第32号 茨城県立水戸第一高等学校史学会 / 編	茨城県立水戸第一高等学校史学会																							
文学	研究	文学	旅話	1984			飯坂昇 / 菅	筑波山と富士山の心	四季の旅話 第3 秋	労働教育センター																							
文学	研究	文学	風土記	1984			石岡市史編さん委員会 / 編集	風土記の世界-筑波山と高浜の海-	石岡の歴史 : 市制三十周年記念	石岡市																							
文学	研究	文学	風土記	1984			仲田 安夫	筑波あれこれ-「常陸風土記」から見た筑波の神事-	郷土文化 第25号	茨城県郷土文化研究会 / 編	茨城県郷土文化研究会																						
歴史	研究	歴史	天狗党	1984			永田 春祝	筑波学兵の関係年表	桂史紀要 第8号 桂村史談会 / 編	桂村史談会																							
歴史	研究	歴史	天狗党	1984			岡山 豊正 / (著)	筑波勢は何故(なぜ)分裂したか	元治元年下の2	[岡山豊正]																							
歴史	研究	歴史	天狗党	1984			高梨 輝憲	水海道と筑波天狗、水野主馬の話	歴史みつかりどう 第4号	水海道市教育委員会 / 編																							
歴史	研究	歴史		1984			宮田 福紀枝	[リポート]筑波山古墳の石室写真発見	利根川 5	利根川同人																							
その他	研究	景観		1984			朝倉隆太郎	桜歌と筑波山(近況・随筆)	お茶の水地理学会																								
文学	文学	詩歌	和歌	1985			朝和天皇				はるとらのまをまき花の穂にいでておもしろき筑波山の道																						
文学	文学	物語	長話	1985			仲田安夫				筑波町の昔ばなし下	筑波書林(ふるさと文庫)																					
文学	文学	物語	長話	1985			仲田安夫				筑波町の昔ばなし上	筑波書林																					
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1985			徳山林継	常陸国風土記と考古学：大森信英先生選集記念論文集	雄山閣出版	歌垣、カガイ、風土記の富士筑波の話、六所神社																							
信仰/観光	観光			1985			清水さとし	原野・水郷・筑波・歩く-見ると食べる	エリアガイド；10	昭文社	西に富士東に筑波、山肌の色は朝は藍、昼は緑、夕は紫。万葉集。ケールカー、神社、ロープウェイ、ガマ園、梅林、ペゴニアガーデン、雨引観音、フラワーパーク、キター文化館、筑波ふれあいの里、ゆうもあ村、東筑波ユートピア	1987(47)74 4F 10,1988,1989,1991,1992(47)74 4F 10)にも発行																					
信仰/観光	観光			1985			大石三四郎 / 監修 チーム	筑波万博トリプルガイド：科学万博・つくば'85筑波研究学園都市 筑波山・歴史観光		紫峰筑波山、ガマの油、みかん、自然、電波銀座、ハングライダー																							
信仰/観光	観光			1985			日本勤労者山岳連盟 編	みんなの山歩き 東京周辺 2	ハイカーズBooks 2	協同出版																							
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1985			北島克美	筑波山神社	日本の神々：神社と聖地 11	茨城県立図書館																							
信仰/観光	観光			1985				特集/早稲田ライオン会紀行ドライブプラン・6期集まじかの筑波博覧会場を核目に筑波山ドライブ 安藤謙太郎	旅 (1985年3月, 80)		ゆうもあ村、																						
歴史	研究	歴史	天狗党	1985			守谷町史編さん委員会 / 編	筑波学兵と常陸騒乱	守谷町史	守谷町																							
その他	文学	紀行		1985			飯島 巖 / [ほか]	関東鉄道 : 筑波鉄道・鹿島鉄道	私鉄の車両 : 8)	保育社																							
文学	文学	詩歌	詩	1985			谷凡英	詩	土師計、こぼれ葉、つくば野(1986)、まつくば(1984)		筑波むらさきに女神神のロマン山〜(ふるさと筑波) 筑波明け暮れ田園びてりゃ〜(ふるさと風土記)	協和出身																					
文学	研究	文学	詩歌	1986			益田勝実	筑波にて-二重奏考(中央と地方<特集>)	文学 / 54(12)	岩波書店 [編]	最近北条駅を通過して筑波駅で降り、バスで神社の大鳥居井まで行くことが多い。 万葉集の歌に合わせて登山し国民宿舎に泊まる。 NHK「風と雲と虹と」のカガイのシーンが撮られた。 カガイの詳細、風土記の解説。	万葉集に出てくる小筑波と筑波は、ほとんどが筑波山としているが、小筑波は加波山である、としている。 78-91																					
文学	文学	詩歌		1986			大野 石清	短歌 空閑・筑波行 236	羽後公論		全15ページ																						
文学	文学	詩歌		1986			不二歌道会茨城県支部 / 編	筑波嶺 : 影山正治先生歌碑建立記念誌	不二歌道会茨城県支部																								
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1986			藤 啓司	筑波山神社	茨城の神社覚書 1	藤田啓司	古来富士と並ぶ名山。霞神社、御産神祭																						
文学	研究	文学	詩歌	1987			原田貞義	高橋由麻呂-「登筑波山歌」をめぐって	和歌文学の世界第11集(論集万葉集)和歌文学会編	笠間書院	高橋由麻呂の歌の考察。																						
文学	研究	文学	詩歌	1987			浅見徹	筑波山の「チョウ」歌	続6大学国語国文学 18		検校倭大伴麻呂の筑波山に登る歌は、中央政府から派遣された帰郷を案内して筑波登山を試みる歌。 高橋由麻呂の歌の考察。由麻呂が春の登山を渴望していない、カガイに参加したのかどうか、など。 1-13																						

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書籍名	出版	記述/内容	備考	田舎	望郷	恋	川など	遠方から	山登	田園	桜	春	梅	つつじ	秋、紅葉	寒い雪	筑波風	夕日	霞、霧	舟	富士登山	「山は筑波」ページ	「筑波山の文学」ページ							
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1994	糸賀 茂男		中世地域史研究と伝教-筑波山麓の事例から(「地方史研究協議会1994年度」大会特集-地域社会と宗教;問題提起)	地方史研究/地方史研究協議会[編]44(4)		真壁氏と伝教、小田氏と伝教	29-34																											
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1994	小林 有三		筑波・会津地方での患-上人2	郷土北いばらき 第6号 北茨城市郷土史研究会	北茨城市郷土史研究会																													
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1994	大関 武		筑波山中における祭祀遺跡1	郷土北いばらき 第16号 郷土北いばらき同人編集/編集	郷土北いばらき同人会																													
歴史	研究	歴史	天狗党	1994	久野 勝弥(1938~)		筑波学兵と長州	水戸史学 第41号 水戸史学会/編	水戸史学会																													
歴史	研究	歴史	天狗党	1994	山口武秀			水戸天狗党物語:筑波山学兵から長征まで	筑波書林																													
その他	研究	農観		1994	下妻市史編さん委員会/編		筑波随し	下妻市史 別編	下妻市役所	高道橋から明野野石田へ通じる真壁街道中の坂の一点で、一歩下ると筑波山が見え、上ると見えなくなる。																												
文学	文学	物語		1995	大野正巳			筑波野冬枯れ	常陽新聞社	「筑波野冬枯れ」の中の「筑波おろし風采面人抄」。戦後の農家の話。	自費出版。78歳で初出版。																											
文学	研究	文学	詩歌	1995	筑波万葉会/編			万葉集の中の筑波歌:二十五首の手引き	KS企画																													
文学	文学	物語		1995	渡辺末男			筑波根の	文芸書房	筑波近郊に住む主人公。筑波山に登り、横瀬夜雨の「おや」の詩碑発見の際に会った女性と会話する。「筑波おろし風采面人抄」。「どこからでも筑波の峰が附近に眺められた。」																												
文学	研究	文学	詩歌	1995	棚片 真王(1961~)		伊藤における名所「筑波山」の宴音	シオン短期大学研究紀要 35	シオン短期大学	遠歌において筑波山は遠歌の象徴として特別視され、実景を詠んでも伝統的な景目に描かれることが多い。遠歌俳句において筑波山は遠歌のものである。名所や山は第二義的。貞亨・元禄期からは江戸からの眺望を詠んだと思われる句が詠まれるようになる。	嵐雪の歌から、筑波山の色を詠む歌が出た。富士筑波という型も貞亨・元禄期から出始める。明和・安永・天明期以降は両国橋からの眺望が定着する。																											
文学	文学	物語	民話	1995	河和田地区生涯学習推進委員会家庭学習部会/編		筑波山	いばらきの昔ばなし	河和田地区生涯学習推進委員会																													
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1995	小林 勇三		筑波・会津地方での布教-理一大師の跡を追って-	郷土文化 第36号 茨城県郷土文化研究会/編	茨城県郷土文化研究会																													
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1995	小林 有三		筑波・会津地方での患-上人3	郷土北いばらき 第7号 北茨城市郷土史研究会/編	北茨城市郷土史研究会																													
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1995	石塚 弥左衛門(1919~2004)		筑波嶺と天皇	下妻の文化 第20号 下妻市文化団体連絡協議会/編集	下妻市文化団体連絡協議会																													
信仰/観光	研究	歴史	信仰	1995	赤城 徳彦		筑波山神社の想い出	水杜(みと) 第5号	水神会																													
歴史	研究	歴史	天狗党	1995	藤田 昭造		筑波勢の挙兵と江戸近郊農民	耕人 創刊号	耕人社																													
歴史	研究	歴史	天狗党	1995	藤子冬彦			筑波の義勇	叢書房出版																													
歴史	研究	文学	風土記	1995	木本雅康		鹿島神宮と筑波山の方位関係について-「常陸国風土記」を手がかりとして-	日本民俗学/日本民俗学会 編 (通号 202)		鹿島神宮と筑波山の位置関係が冬至の日出、夏至の日没になる。風土記を読み解く。	100-110																											
芸術	芸術	写真		1995	会沢淳			会沢淳筑波山写真集:2億4千万年の神々	光村印刷																													
文学	文学	詩歌		1996	藤本 峰(1916~1995)			つくば韻:句集:筑波嶺遙かに排す初めり	藤本宗男																													
文学	研究	文学	詩歌	1996	梅林史		高橋由麻呂「檢校使大伴幹が筑波山に登る時の歌」	万葉集:伊藤博士古稀記念論文集 伊藤博士古稀記念会 編	叢書房	高橋由麻呂の歌の考察																												
文学	文学	紀行		1996	岡 幸子			随想 筑波の出会いに感謝して 567	教育秋田																													
信仰/観光	観光			1996	あるく社編集部 編		歴史・筑波・常磐	歩く地図S:4	あるく社																													
歴史	研究	歴史	天狗党	1996	久野 勝弥(1938~)		筑波山学兵の願末とその意義-水戸藩の悲劇と理想	国天の至心:筑波山学兵三十年記念誌 記念事業委員会/編	筑波山学兵三十年記念事業委員会																													
その他	文学	紀行		1996	高野 三郎		筑波鉄道の想い出	地域の発展とともに ゆゆう:八潮町史文化誌 No.5 「ゆゆう」刊行委員会/編	鶴書院	遠足で筑波山に登った。田園風景。																												
その他	文学	紀行		1996	広瀬 誠		筑波山に生きるもの求めて																															
文学	文学	詩歌		1997	宮島久子			筑波嶺:歌集(水門叢書:第45篇)	短歌新聞社	筑波山身ゆる見えざる日によりて塵の手順を父は家へみき鳴き出づる山鳩の声くもりて稲田の果てにて霞む筑波嶺西に富士北に筑波を仰ぎたる遠き目を恋ふ老いてしまりに	古里回廊の歌として筑波山を詠む。																											
文学	研究	文学	詩歌	1997	小島 理礼	p.24~27	石室山の歌と筑波山の歌垣	比較民俗学会報/比較民俗学会 編 [編] 17(3)		中国雲南省の石室山と筑波山の歌垣の比較																												
文学	文学	詩歌		1997	石山晴子			筑波は映えて(歌集(立春叢書:第124篇)	エリート印刷	うつつく星空をゆく心地して筑波の管仲見放けし夜露 影につくばは映えて清々し万葉の代の斯くてありしか																												
文学	研究	文学	詩歌	1997			古事記「新治・筑波」	「茨城の文学読本」指導資料 第3集 茨城県高等学校教育研究会国語部/編集	茨城県高等学校教育研究会国語部																													
文学	文学	紀行		1997	吉村 通		歴史の山脈 飯縄山と筑波山	岳人 (通号 598)		信仰、カガイ、遺歌、御座替り、神都からの田園。六所、養影神社	90-93																											
文学	文学	物語	民話	1997	筑波書林編集部 編 室 清 編		筑波の名の由来、筑波山と富士山	つくばの昔ばなし	筑波書林	筑波の名の由来、筑波山と富士山、弁慶七戻り、弁慶のてんびん棒、永井の兵助とガマ石、じいが峰とびが峰、蛇になったお姫様、ヤマトタケルと岩崎山、作谷と駒不動様、水守とさんいぬの話、長者屋敷の境き木、八巻神社と山木のお話、今鹿島のむかし話、荷門の娘たちと尼鹿、からくり伊賀、一の矢の天王、片目の狸、尊徳の馬鹿堀、高野野の大ぼらふきの話、夜にげしたいかげどん、茶釜雷神、百家の電星、鬼ヶ窪の豆まき、大蛇の愛、上里の由来、ほいほい田、島田石、石投げ地蔵、舟つなぎ石、女妻	児童書																											
信仰/観光	研究	観光		1997			筑波山観光振興を考える:街づくりアンケート結果	経営者育成業種交流会報告書:平成9年度	つくば市商工会																													

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書籍名	出版	記述/内容	備考	田舎	望郷	恋	川など	遠方から	山	田園	桜	梅	つつじ	秋、紅葉	寒い雪	筑波風	夕日	霞、霧	富士	富士登山	「筑波山の文学」ページ					
文学	文学	詩歌		2002	荒井兼山			筑波山麓：荒井兼山句集	朝日新聞社 2002 (朝日俳句選書：28)	初筑波むらさき深く暮れにけり 注連飾(しめかざり) 筑波風にゆがみけり 晴れし日の筑波風や梅の花 畑打にひねもす筑波晴れにけり 秋夜筑波の風の遙きとほる 極対るや筑波大きく見ゆる朝 顔解きて雲なき筑波ありにけり 加波筑波大きく見えて冬に入る 遠景に筑波置きたる冬草畑 寒夕焼筑波の霞の曳きにけり	筑波を詠む句は50余句。筆者は父と共に筑波を詠み続けてきた。																							
文学	文学	詩歌		2002	川村ハツエ [著]Amelia Fielden [訳]			筑波山	Five islands press	落葉積む筑波村山エメラルドかたくりの花たやかに吹く ゆったりと時の流るる音きこゆ歌畑の山ほのぐらき道 塵すぎて霞立ちこめし筑波山新芽の気配が?つつむ 神の住む筑波の山の湧きにおたまじゃくしは群れ遊びをり	すべて英訳されている。																							
文学	研究	文学	詩歌	2002	風間圭		「筑波山縁起」考-秋穂子にとって運作とは何か	俳句文学館紀要(12)		筑波山縁起絵巻(五句) わたなかや鶴の鳥群るる鳥二つ 天籟らひ男峰は立てり望の夜を 奈淡く女峰の霞の小春かな 国原や野火の走り日よもすがら 望の宮原嶺山霞に立てり見ゆ	秋穂子が筑波山に登った文章あり。 上野→土浦→筑波→集合自動車→筑波神社→ケーブルカー→男性・女性やじゅうりょくケーブルカー、自動車 p.25~40																							
文学	研究	文学	詩歌	2002	野村亨 著 2002			筑波山の文学	野村亨																									
信仰/観光	研究	歴史	信仰	2002	城真由美		筑波山麓の講	西郊民俗(179)		ダイドウ講、	35-42																							
信仰/観光	文学	紀行		2002	杉山 三千雄		空閑から筑波の社寺を訪ねる	桂史紀要 第26号 桂村史談会／編集	桂村史談会																									
その他	研究	景観		2002	湯本 桂、後藤 治		筑波山門前の集落と景観について(2002年度大会(北陸)学術講演要録集)	学術講演要録集、F-2、建築歴史・意匠			431-432																							
その他				2002	菊池 真一			『筑波山恋明書并名所』朝別	近世初期文芸 / 近世初期文芸研究会 [編] (19)		3-18																			図録、P18.5-N37-1				
文学	文学	詩歌		2003	岡田通			筑波嶺：歌集	新世書房(しきなみ歌集 6.4)																									
文学	文学	紀行		2003	内田 俊男		筑波山周辺の歴史散歩	郷土文化 第44号	筑波県郷土文化研究会／編 茨城県郷土文化研究会																									
信仰/観光	観光			2003	今尾 恵介		遊覧 おもしろ地名見聞録 第9回【茨城・筑波山周辺】筑波山麓は「富士」だらけ	旅 (2003年2月、136)		筑波山周辺の富士山(ふじやま)について。富士講																					写真有			
歴史	研究	歴史	天狗党	2003	富村 壽夫			筑波天狗党：(付)自由民権運動と加波山事件	富村 壽夫																									
歴史	研究	歴史	天狗党	2003	夢沼香未由、久保田 善一、関宮 正光、矢島 英雄、河野 弘上、牧 健二、木戸 田 四郎、秋山 高志		日記に見る天狗騒動の一断(上) - 下 藤澤士の筑波陣中日記から -	常総の歴史 第3 0号	常総書出版株式会社茨城営業所																									
歴史	研究	歴史		2003				筑波之國風土：平成記	土浦・つくばコンベンションビューロー																									
その他	研究	景観		2003			筑波大学芸術学系安藤研究室	筑波--筑波再生プロジェクト(特集 都市プロジェクト・スタディ)	10+1 (30)		128-139																							
その他	研究	景観		2003				里山の象徴--筑波山梅林展望茶屋 筑波大学安藤研究室(特集 里山に学ぶ)	住宅建築	建築思潮研究所 編 (336)	42-50																							
文学	研究	文学	詩歌	2004	菅原 淳		山彦習め鳴かまじやそれ--『惜不登筑波山歌』の発想	専修国文(75)		虫麻呂の歌の歌意と性格を考察する。(巻八、1497 惜不登筑波山歌)	59-71																							
文学	研究	文学	詩歌	2004	西地 貴子		高橋由麻呂の「筑波嶺に登りて(チャウ) 歌会をふるる日に作る歌」	筑波国文(63)		虫麻呂の歌からカガイを考察する	1-9																							
文学	文学	詩歌		2004	武井清三郎 著、武井淳 編			筑波嶺：句集	【武井淳】																									
文学	文学	紀行		2004	池崎 功		私と筑波山	地図中心 (通号 384)	日本地図センター	高尾山と筑波山。青紫色の筑波山。江戸川以東どこからでも見える山。関東平野を見下ろす大展望台。	22-25																							
歴史	研究	歴史	天狗党	2004			筑波山学兵と長八郎の活躍	はまれ	安達神社庁																									
文学	研究	文学	詩歌	2005	黒沢 三郎		資料編 筑波根日記について	北方風土 (50)		「筑波根日記」の作者は藩主佐竹氏の西家の小嶋氏に属した二階堂通形。タイトルは祖先のふるさきの名山にあやかったもの。																								
文学	研究	文学	詩歌	2005	石塚弥左衛門			山は筑波嶺：文人群像誌 STEP																										
信仰/観光	観光	観光		2005	アィコー-21白雲集 編集部／編集		筑波山の森	『森との共生構想21』普及ガイドブック	『森との共生構想21』普及ガイドブック	菅山、万葉、山頂の眺望、神社、梅林、かたくりの里、筑波ふれあいの里、巨石、自然研究館、男女川、フワフワパーク、早刈管が、常陸国風土記の筑波の伝																								
信仰/観光	研究	歴史	信仰	2005			中世筑波山麓における宗教空間の復元 - 常陸国惣持院願成寺の研究 -	常総の歴史 第3 3号	太田 浩一／編 常総書出版株式会社茨城営業所	筑波山周辺の仏教寺院																								
歴史	研究	歴史	天狗党	2005				水戸天狗党西上の道：筑波山学兵百四十年記念誌	筑波山学兵140年記念事業委員会																									
歴史	研究	歴史	天狗党	2005				築國概世：筑波山学兵百四十年記念誌	筑波山学兵140年記念事業委員会																									
歴史	研究	歴史	民俗	2005	大久保猪南			わかしわがむらわがくらし：筑波根の真潮とその周辺	新風舎	筆者は真潮の人。ブルーの筑波山。筑波表、カガイ、巨石、横瀬夜雨の晴、天狗党学兵の跡、筑波下し。																								
歴史	文学	案内		2005	井坂 敦賢		筑波山今昔(特集 つくばエクスプレスの開業と変貌するつくば)	地図中心 (394)	日本地図センター	西の富士東の筑波。山頂からの眺望、嵐雲の匂。紫。筑波鉄道、つくば道、日本の道百選。	6-8																							
芸術	芸術	絵画		2005	井田 太郎			富士筑波という型の成立と展開	図章 110(10) (通号 1315)		3-19																							
芸術	芸術	絵画		2005	小林 忠			鈴木真一画 富士・筑波山園屏風	図章 110(10) (通号 1315)		20-26																							
その他	記事			2005				茨城遺産(第4回)つくばりんりんロード(旧筑波鉄道)	Joyo ARC 37(430)	自転車道は平成14年に全線開通。のどかな田園風景。	4-7																							
その他	研究	文学	詩歌	2005	高橋 春敏		筑波山と「日本の原風景」	下水道協会誌 42(518)		陽成院の歌、薬峰、虫麻呂の歌。カガイ。	78-79																							

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書籍名	出版	記述/内容	備考	田舎	望郷	恋	川など	遠方から	山登	田園	桜	梅	つつじ	秋、紅葉	寒い雪	筑波風	夕日	霧、雨	僧	富士登山	「山は筑波」の文庫ページ		
その他	研究	建築		2005	橋本 悠、後藤 尚、安藤 邦康、藤川 昌樹、堀江 亨、黒坂 貴裕、中野 茂夫、		近世の筑波山門前における参詣道沿いの町並の衰退について；二編建て家屋を中心に	日本建築学会計画系論文集 (598) 2005-12-30 p.227-233																							
その他	観光			2005					週刊日本の信託を旅する 27 (筑波・秩父)	世界文化社																					
文学	研究	文学	詩歌	2006	水井 圭三		漢詩 筑波山賛歌	LEMA (484)	日本陸用内燃機関協会	山内の石碑の歌の解説	75-78																				
文学	研究	文学	詩歌	2006	入選作品集編集委員会 (万葉の会) / 編			筑波の聖業の歌百選：百人一首入選作品集	万葉の会																						
文学	文学	紀行		2006	三浦智雄		筑波山の古代を歩いて	豊島史叢 第32号	前崎市文化協会 / 編	歴史文化遺産 (鹿嶋市)																					
文学	文学	紀行		2006	棚橋 雄三		深浜三昧(1)筑波山を仰ぎ見て	みずず 48(2) (通号 536)		西の富士に東の筑波。万葉集の歌。	54-57																				
文学	文学	物語		2006	水上勉			筑波植物誌	河出書房新社	横濱夜雨の一生を小説風に記したものだ。																					
信仰/観光	文学	物語		2006	佐賀純一		筑波と富士	筑波山愛ものがたり	常陽新聞新社	常陸風土記の記述をモチーフにした創作物語																					
信仰/観光	観光			2006				巖を訪ねる小さな旅：筑波山西麓：筑波～常総・鬼怒・利根河畔へ	茨城県西地域総合振興協議会																						
その他	記事			2006	海老原 徹		とんびの広場 筑波山ベストビューコンテスト--茨城版 シーニック・バイウェイの第一歩(茨城編)	道路行政セミナー 17(2)		ベストビューコンテストの概要と感想。朝は藍、昼は緑、夕は紫。紫峰。西の富士東の筑波。	55-57																				
その他	研究	建築		2006	松永 孝夫、後藤 治、森井 寛朗		9184 筑波山神社参拝人体験所について(日本近代・近代和風(1)、建築歴史・意匠)	学術講演集 巻F-2、建築歴史・意匠			367-368																				
その他	研究	建築		2006			筑波山を望む家 おおらかな環境の一部になる、木造と組構造(大谷石)の混構造 (特集 別荘集団オークワレッジの30年「木の文明」再構築を目指して；オークワレッジ木造建築研究所のまぶくり)	住宅建築 / 建築思潮研究所 編 (378)			75-79																				
文学	研究	文学	詩歌	2007	横瀬 隆雄(1937～)		横瀬夜市の実像-水上勉『筑波植物誌』の誤謬-	常総の歴史：常陸・房総 第36号	高書房出版株式会社茨城営業所																						
文学	文学	詩歌		2007	深谷照子			筑波残照：深谷照子歌集	日本歌人クラブ 2007 (日本歌人クラブ叢書；第33巻)	春) 管景色連なる筑波峯に筑波春陽を受けて 秋) 水色に移りゆく筑波残照のやまなみ遠く秋ふかまる 空高く筑波峯の色深まりて窓辺に近くあきあかね飛ぶ	筑西在住。																				
文学	文学	詩歌		2007	須々木 誠一			筑波風：歌集	ながらみ書房 2007-03 (新かりん百書：17)																						
文学	文学	詩歌		2007	中田 マキ子			筑波：句集	角川書店	書寄へ山麓正す初筑波 麗天(ばいてん)や緑の送打つ筑波山 懸り風筑波は峰を重ねたる	「故郷の往き通りに閑近に仰ぐ山」。多くの句に詠んでいるためタイトルとした。																				
文学	文学	紀行		2007	竹島茂 編			筑波山と私：一般公募紀行文・感想文集	STEP 2007																						
信仰/観光	観光			2007	井坂敦實、田中ひとみ、原島真紀、上野弥智代、監修			郷土の先達とゆく筑波山：山根から山頂までゆったり、ほんわか	結エディット	万葉集、平沢官が、北条大池、北条、神郡、古墳、田んぼ、養影神社、飯六所、ふれあいの里、フラワーパーク真壁、ガマ、など。																					
信仰/観光	研究	歴史	信仰	2007	坂本 正仁、藤田 良道		筑波山護持院「年中行事 附臨時補記」--祈禱家祈祷の実態(上)	豊山学報 (60)			1-77																				
信仰/観光	観光			2007	野添ちかこ		クワサの地域のヒットメーカー(4)蔵本剛さん(茨城県・筑波山温泉/彩花の宮一瞥)	月刊ホテル旅館 44(11) (通号 526)		西の富士東の筑波、つくばうむ、つくばごどん	169-171																				
信仰/観光	観光			2007				筑波路：知られざる、もうひとつの「つくば」：懐かしい里山の風景をたどる「サイエンス・シティつくば」のかなた付筑波路携帯マップ(1 秋)	前南地域資源情報発信研究会	船塚山古墳(石岡)、紫峰、西の富士東の筑波、																					
歴史	研究	歴史	その他	2007			筑波山麓の歴史、文化の残る未来都市	農業者大学校 農業者大学校 (農村調査報告)																							
その他	研究	景観		2007	小林 隆史、大澤 義明		ランドマークとの比較による携帯電話基地局の見えの大きさに関する計量分析：筑波山を対象として	都市計画、別冊、都市計画論文集 42(3)		携帯電話基地局よりも筑波山が高く見える確率が多い、など。	493-498																				
その他	研究	建築		2007	橋本 剛、吉川 諒佳、安藤 邦康		筑波山麓における伝統的な庄屋の暑熱環境緩和効果(セッション>11風土と住環境、研究発表第2日目)	人間・生活環境系シンポジウム報告集 31			147-150																				
文学	文学	詩歌		2008	福島百合子			筑波風：句集	ふらんす堂	筑波山麓を歩く 筑波嶽の春に定かに悪方道	つくば市久沼に住む。																				
文学	文学	紀行		2008	西名 秀秀		筑波山と富士山と	自動車研究 30(4)	筑波山神社 (つくば市) 筑波山神社案内記	筑波山神社 (つくば市) 筑波山神社	207-209																				
信仰/観光	観光			2008	堀口育男			五浦論議：茨城大学五浦美術文化研究所紀要 第15号		五軒茶屋など山内の名所の列挙有																					
信仰/観光	観光			2008				筑波山麓秋祭り	茨城県生活環境部生活文化課国民文化祭推進室	もみじ																					
歴史	記事			2008	関根久雄		<学内の園：私のプロジェクトと夢>地域をつなげる、地域とつながる：筑波山麓地域づくりプロジェクトの「夢」	筑波フォーラム (79)、3-6																							

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書籍名	出版	記述/内容	備考	田	会	望	恋	川	方	山	田	桜	梅	つ	秋	寒	筑	夕	霞	霧	富士	山	筑	山					
歴史	記事			2008	千葉隆司		筑波山周辺の石材加工の歴史 (特集 楽しみながら学ぶ--地学教育支援の取り組み)	地質ニュース (643)		筑波山の花崗岩の話。石器や土器、石塔など。	48-51																										
文学	研究	文学	詩歌	2009			筑波山を中心に歩く 長塚節・横瀬夜雨の里	ふるさとの文化 第4号	茨城県郷土文化顕彰会 / 編集 茨城県郷土文化顕彰会																												
文学	文学	紀行		2009			堀江治兵衛 / 重記		筑波道中隨筆集; 第十巻 区青年分編	堀江通洋																											
文学	文学	紀行		2009			吉武和治郎		筑波山を歩く: 「水郷筑波固定公園管理員日誌」より	STEP	紫峰と呼ばれています。西の富士東の筑波。											○															
文学	文学	紀行		2009			寺生すき子	我が愛する筑波山	下妻の文化 第34号	下妻市文化団体連絡協議会 / 編 下妻市文化団体連絡協議会																											
信仰/観光	観光			2009			つくば市		まるごと筑波山: 筑波山観光ガイド: ぐるり、山あるき。		西の富士東の筑波、神社、大御堂、梅林、												○														
信仰/観光	研究	歴史	信仰	2009			今井 雅晴	筑波山の麓に伝わる総業給伝 (茨城県つくば市・常盤寺蔵)	総業の水鏡 / 真宗文化センター 編 (6)																												
信仰/観光	研究	歴史	信仰	2009				古代の筑波山信仰: 内海をめぐる祭祀の源流: 土浦市立博物館第31回企画展パンフレット	土浦市立博物館 / 編	土浦市立博物館 (土浦市立博物館企画展: 31回)	風土記の富士筑波の話、万葉集、カガイ																										
信仰/観光	観光			2009				水郷筑波固定公園広域観光ガイド: 自然と遊び歴史を巡る~人と物が織りなす水と緑の風景集~	水郷筑波固定公園協会		西の富士東の筑波、JAXA、地質標本館、実験植物園、エクスボセンター、がままんじゅう、北条米、つくばうむ。T X サプラ、はまの油	2011年にも発行																									
歴史	研究	歴史	信仰	2009			五味 文彦	地域の力を歴史に探る(4)筑波山に集った人々の力を考える	UP 38(10) (通号 444)		風土記の富士筑波の話、カガイ、由麻呂の筑波山に登った歌、ヤマトタケルの話、徳一の仏教布教。	48-53																									
その他	研究	景観		2009			森口 社一郎、大澤 義男	筑波山へのビスタ景観と建築高さ制限	地理情報システム学会講演論文集 18		267-270																										
文学	文学	詩歌		2010			吉澤みちを		紫峰筑波: 句集	(準備書目: 119集)	紫峰筑波管ちし指野のさめくし筑波嶺の風に舞身も福田かなとのくもる筑波の芽花流しかな壽寿迎ふ筑波青嶺にまむかひて筑波嶺の二神座替り春祭都会の子集印田植え筑波晴ふるさとや筑波嶺仰ぎ初田植	地元の人か? 筑波山の句が多くある。田圃開墾が多い。																									
文学	文学	詩歌		2010			酒木裕次郎		筑波山: 酒木裕次郎詩集	コールサック社																											
文学	文学	詩歌		2010			幡谷祐一		筑波 (平成自由詩; 第5集)	茨城県教科書販売	秋色)一望千里紫峰を拝す関東大地稲ほに埋まる紅葉の山麓は霜降(そうこう)の如し唯見る孤雲天際に舞うを慕情)日落ちて寄舎に紅灯点る紫峰の麓委薄暮に浮かぶ: 飛鳥二羽相伴に還る晩秋の天庭に月光幽か(かすか)天の基み)北関東道に富嶽を見る夕日虚空にして橙色に燃ゆる雲峰と筑山東山麓え山容雄偉にして天然の影(えい)	83歳に筑波大博士入学して修了した人。すべて漢文。漢文の下に書き下し文あり。																									
文学	文学	詩歌		2010			鈴木健夫		筑波山詩集訳注	筑波山麓の文人たち	川文書店	自費出版? 漢詩。作品量多い。																									
信仰/観光	記事			2010				「万博の森」かいわい 視界に寄り添う筑波山/「万博の森」巡りハイキング	グリーン・パワー (通号 374)	22-23	宝きょう山、平沢官衛、里、樹林																										
信仰/観光	記事			2010				「万博の森」かいわい 筑波山麓に春が来た/山の辺のフットパス	グリーン・パワー (通号 378)	22-23	樹木、大御堂、神社、田圃風景																										
信仰/観光	観光			2010					週刊ふるさと百名山: 山と溪谷社が選んだ: 最新保存版 no.24 (筑波山・筑波山・雲山)	東英社 2010 (分冊百科)																											
信仰/観光	観光			2010					石岡観光ガイドマップ: 筑波山麓の豊かな自然と常府千三百年の歴史の里: 茨城県石岡市	石岡市	志湖川R(ワグ)コース、国民宿舎つくばね、つくばねオートキャンプ、果物狩り																										
歴史	記事			2010			松本 あきら	ぐるっといっとろっけん まちづくり診断の祭(vol.15)筑波山麓の里山商店街 北条--豊かな農と歴史を活かしたまちづくり	ぶぎんレポート / ぶぎん地域経済研究所 編 (133)		北条の商店街のまちおこし	39-43																									
その他	研究	建築		2010				9280 中央気象台附属筑波山測候所山頂観測所の建築について(日本近代建築家・作品、建築歴史・意匠)	学術講演梗概集、F-2、建築歴史・意匠		559-560																										
その他	研究	建築		2010				万博の森かいわい 筑波山への参詣道「つくば道」	グリーン・パワー (通号 383)		23-22																										
文学	文学	詩歌		2011			山中哲夫		筑波嶺の風: 歌集	歌と人叢書: 第 2 4 篇	青柳堂																										
信仰/観光	研究	歴史	信仰	2011			堀谷修		古代筑波山祭祀への視角	東国の地域考古学 川西宏幸 編	発掘物から奈良時代以前の祭祀を解明する																										
信仰/観光	観光			2011					筑波山目的別ガイド: お山があるから人生おもしろい!: エリアガイド&map付き!	観光エディット	保留																										

分類1	分類2	分類3	分類4	発行年	著者	生涯	論文・記事名	書籍名	出版	記述/内容	備考	田舎	望郷	恋	川など	遠方から	山登	田圃	桜	春	梅	つつじ	秋、紅葉	寒い雪	筑波	嵐	霧	雷	富士	「山は筑波」ページ	「筑波山の文学」ページ		
歴史	研究	歴史	天狗党	2011	田中豊		天狗党の乱、筑波勢の西上	古文書に見る水戸天狗党 茨城国通行の絵	歴史伝承フォーラム																								
その他	研究	歴史		2011	高森 賢司,大澤 義明,藤 塚 武志		1.E-2山ア字道路景観の地域比較分析：筑波山を対象として積分幾何学手法を用いて(都市・地域・国土)	日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集 2011		74-75																							
その他	研究	歴史		2011	高森 賢司,大澤 義明,藤 塚 武志		山ア字道路景観の地域比較分析-筑波山を対象としCroftonの定理を用いて	都市計画論文集 / 日本都市計画学会 編 (46)		379-384																							
その他	観光			2011			大人の散歩道 茨城県・筑波山		NTT労働組合	つくば道、日本の道百選、ガマの油、山頂からの絶景。	39-42																						
文学	文学	詩歌		2012	吉岡桂六			筑波嶺：句集	ウェブ	二葉寄りて刈田の彼方かな 筑波山へと真っ直ぐに刈田道 散り紅葉濡れて山路を滑らする 初雪の痕跡をりぬるの塚 秋ゆふべ山羊遠く泣きカガイの地 新治も筑波も約庵落しかな 夕暮れの筑波嶺随ず霧の中 (?)	想しみがあるので、また、20句いれているので題名に筑波を付けた。 筑波晩秋 20句																						
文学	研究	文学	詩歌	2012	宮本千代子			万葉集にいきる筑波山	常陸新聞新社出版局 2012 (仮水双書；1)	後で																							
文学	文学	紀行		2012	仁平正夫		筑波山麓の春を訪ねて	小さな旅の足跡		土浦市文化財愛護の会 / 編 土浦市文化財愛護の会 2012-05																							
文学	文学	紀行		2012	野田礼子		水郷めぐりと筑波山	文化財つちら 第35号 (平成24年度)		土浦市文化財愛護の会 / 編 土浦市文化財愛護の会 2012-05																							
信仰/観光	研究	歴史	信仰	2012	西谷隆義			聖峰筑波山と徳一大師：知足院中禅寺と筑波山神社	茨城県郷土文化振興会																								
信仰/観光	観光			2012			筑波山ガイドマップ：水郷筑波国定公園	茨城県生活環境部環境政策課																									
信仰/観光	観光			2012			筑波山自然観察ハンドブック：筑波山を知り尽くしたインストラクターがつくった : この一冊で筑波山の自然のすべてがわかる!	つくば環境フォーラム																									
文学	研究	文学	詩歌	2013	吉村 穂人		現代の歌枕(61)筑波嶺	短歌研究 70(10)		筑波嶺ゆ振りさけ見れば水の鏡沿水の広治園たなびく (長塚節M35) 雷防く筑波の嵐竹はや立てぬ筑波根隠麗を吹く (正岡子規M31)	8-10																						
文学	研究	文学	詩歌	2013	森 洋		高橋由麻呂の登高歌：「筑波山に登れる歌」をめぐって	文学・語学 / 全国大学国語国文学会 編 (205)		高橋由麻呂の歌の考察	16-29																						
文学	文学	紀行		2013	井坂清信		小宮山麓軒の筑波紀行-「遊筑波山記」の解題と翻刻	江戸時代後期の水戸藩儒：その活動の点描	汲古書院 2013	小宮山麓軒の紀行文の考察。	十三塚→女体、男体山→大越屋で一泊、大宮へ。																						
信仰/観光	研究	歴史	信仰	2013	西谷 隆義		『聖峰筑波山と徳一大師-知足院中禅寺と筑波山神社-』執筆の動機と概要	茨城県郷土文化振興会	保留																								
信仰/観光	研究	歴史	信仰	2013			筑波山：神と仏の御座す山：平成24年度特別版	茨城県立歴史館 編 茨城県立歴史館 2013																									
歴史	研究	歴史	民俗	2013	前川啓治		開発と変遷-筑波山麓地域における地域づくり過程のアンケート分析と政策的提言	科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書		筑波山麓全域を人類学的に調査。地域づくり活動の実態把握。																							
歴史	研究	歴史	民俗	2013	中川, 公		再帰的近代における「まちづくり」実践の民族誌：つくば市筑波山麓地域の開発プロジェクトを対象として	博士論文		筑波山麓全域を人類学的に調査。地域づくり活動の実態把握など。																							
その他	記事			2013	藤原 崇		失われた鉄道の記憶(10)筑波鉄道：「地域の足」いまだ健在 づくばりんりんロード	鉄道ジャーナル：鉄道の将来を考える専門情報誌 47(8) (通号 562)		土浦から岩瀬までの自転車道の様子。	124-131																						
その他	記事			2013			電話回線を管轄指定にノ失われた筑波鉄道を求めて	筑波大学学生新聞会																									
その他	研究	建築		2013			筑波山 (茨城県つくば市) : 上 筑波山 (茨城県つくば市) : 下	徳一が歩く 第1集	茨城県郷土文化振興会 / 企画・制作 茨城県郷土文化振興会	社寺の調査報告																							
文学	研究	文学	詩歌	2014	梶川 信行		高橋由麻呂の筑波山の歌	史聚 (47)		高橋由麻呂の歌の考察	16-27																						
文学	研究	文学	詩歌	2014	西地 貴子		下級官僚高橋由麻呂の志向：検校使大伴卿の筑波山に登る時の歌 (創刊一〇〇周年記念特集 万葉集：文学・歴史・民俗 (1))	福学院雑誌 115(10) (通号 1290)		高橋由麻呂の歌の考察	114-128																						
文学	文学	詩歌		2014	北川昭久				本阿弥書店	流山に住む。 筑波を詠む句なし。																							
文学	研究	文学	風土記	2014	千葉 隆司		『常陸国風土記』にみる豪族たち(1)-ヤマト政権と地方豪族の動向を考える叢書 新治・筑波・信太・茨城・行方・鹿嶋郡一	奈良学考古 第36号		鎌倉 要次,青山 俊明,千葉 隆司,川井 正一,黒澤 彰哉,手塚 主税, 奈良学考古同人会																							
信仰/観光	研究	歴史	信仰	2014	柳田 良道		展示批評 茨城県立歴史館特別展「筑波山：神と仏の御座す山」	地方学研究 64(1)			85-88																						
信仰/観光	研究	歴史	信仰	2014	天田 嗣徳		信仰・文化・ノスタルジー：筑波山の歴史をめぐる人々(宗教学研究における講究の意義と可能性,パネル<特集>第72回学術大会紀要)	宗教学研究 別冊 87		押定	59-60																						
歴史	研究	歴史	天狗党	2014	山野 恵通		天狗党筑波学兵150年記念に寄せて	鹿行の文化財 第44号		鹿行地方文化研究会, 鹿行文化財保護連絡協議会 / 企画																							
歴史	研究	歴史	天狗党	2014	山野 恵通		天狗党筑波山学兵一五〇年記念に寄せて(その一)	郷土北浦 第37号	北浦郷土文化研究会 / 編																								

分類1	分類2	発行年	著者	論文・記事名	書籍名	出版	備考
自然	動植物	1891	三好 學	秩父諸峯及び筑波山植物採集略記(圖入)	植物学雑誌 5(51) 1891		153-158
自然	気象	1893	近藤 久次郎	筑波山頂氣象観測ノ概況	氣象集誌. 第1輯 12(3)		88-95
自然	気象	1893		筑波山嶺測候	地學雜誌 5(2)		97a-98
自然	気象	1896	中央气象台	筑波山氣象観測報告書 明治26年		中央气象台	
自然	気象	1901	岡田 武松	筑波風ニ就キテ	氣象集誌. 第1輯 20(9)		293-295
自然	気象	1901		筑波山観象臺	地學雜誌 13(11)		725-725
自然	気象	1902		山階宮筑波測候所	氣象集誌. 第1輯 21(1)		396-398
自然	気象	1902		筑波山上暴風の観測	地學雜誌 14(10)		708-709
自然	地震	1902		筑波山の地震-山鳴	地學雜誌 14(9)		647b-649
自然	地震	1903		筑波山頂重力測定	地學雜誌 15(3)		268a-268a
自然	地質	1905	神津 倣祐	筑波連脈東南部旅行記(承前)(完)	地質學雜誌 12(138)		91-94
自然	気象	1906	佐藤 順一	筑波山ニ於ケル氣象観測	氣象集誌. 第1輯 25(6)		191-196
自然	気象	1906		山階宮殿下御編纂筑波山上氣象観測明治三十五年成績報告	地學雜誌 18(9) 1906 p.631-633		631-633
自然	気象	1907	佐藤 順一	筑波山頂空氣ノ密度	氣象集誌. 第1輯 26(12)		407-411
自然	地震	1907	大森 房吉	石巻及び筑波山上ノ脈動(小引)	震災豫防調査會(57)		53
自然	気象	1908	石田 雅生	筑波山ノ下降氣流	氣象集誌. 第1輯 27(12)		451-459
自然	動植物	1908	波江 元吉	函根山椒魚筑波山上に棲息す(動物地理學)	動物学雑誌 20(239)		399
自然	気象	1909	佐藤 順一	筑波ノ山風ト谷風	氣象集誌. 第1輯 28(11)		381-39
自然	気象	1909	石田 雅生	筑波山ノ下降氣流(承前)	氣象集誌. 第1輯 28(1)		11-19
自然	気象	1909	石田 雅生	筑波山頂風速度ノ半日週期變化ニ就テ	氣象集誌. 第1輯 28(8)		278-283
自然	気象	1909	筒井 百平	筑波山頂風速度一日中變化ノ調和分析	氣象集誌. 第1輯 28(2)		40-53
自然	気象	1910	佐藤 順一	筑波山頂ト同一平面以下ニ在ル氣層ノ氣温一日中ノ變化ニヨリ伸縮スル量	氣象集誌. 第1輯 29(2)		48-55
自然	地震	1910	大森 房吉	東京、筑波間ニ於ケル午砲音響ノ速度	震災豫防調査會(67)		29-32
自然	気象	1911	佐藤 順一	筑波山に於ける降水量の垂直變化	氣象集誌. 第1輯 30(8)		10-21
自然	地質	1912	大橋 良一	筑波山の飛白岩様岩石、及び是と周圍の花崗岩との關係(完結)	地質學雜誌 19(225)		283-290
自然	地質	1912	大橋 良一	筑波山の飛白岩様岩石、及び是と周圍の花崗岩との關係(三)	地質學雜誌 19(222)		138-146
自然	地質	1912	大橋 良一	筑波山の飛白岩様岩石、及び是と周圍の花崗岩との關係(其四)	地質學雜誌 19(223)		185-190
自然	地質	1912	大橋 良一	筑波山の飛白岩様岩石、及び是と周圍の花崗岩との關係(二)	地質學雜誌 19(221)		101-111
自然	地質	1912	大橋 良一	筑波山の飛白岩様岩石、及び是と周圍の花崗石との關係(一)	地質學雜誌 19(220)		25-32
自然	気象	1912-1932	水戸測候所 編	筑波山頂ノ氣象	茨城県氣象年報. 明治45・大正元年	茨城県水戸測候所	1912-1921, 1924-1932に発行
自然	気象	1914	寺田 寅彦	筑波山の氣温に就て	氣象集誌. 第1輯 33(11)		467-474
自然	気象	1915	吉田 得一	筑波山の樹氷に就て	氣象集誌. 第1輯 34(4)		186-188
自然	気象	1915	佐藤 順一	筑波山頂にての氣壓を海面の氣壓に更正するに就て氣層温度の影響	氣象集誌. 第1輯 34(10)		620-623
自然	気象	1915	佐藤 順一	筑波山附近に於ける黃砂	氣象集誌. 第1輯 34(3)		132-140
自然	気象	1915	小須田 勝造, 二見 良平	筑波山に於ける降水と風向との關係に就て	氣象集誌. 第1輯 34(10)		615-620
自然	地質	1915	岩崎 喜代志	筑波の峯寺山の花崗岩中にある球團	地質學雜誌 22(265)		388-390
自然	地震	1915	中村 左衛門太郎	筑波山麓地方に於ける地震と氣壓勾配	氣象集誌. 第1輯 34(2)		71-72
自然	気象	1917	佐藤 順一	筑波山蒸發計内の氷柱及び其生成の解説	氣象集誌. 第1輯 36(5)		197-202
自然	気象	1922	佐藤 順一	筑波山頂腹兩所に於ける比速度より雲の眞高度及び速度を計算する方法	氣象集誌. 第1輯 41(10)		397-401
自然	地質	1924	ほこと	筑波山の顆球花崗岩の露頭	地學雜誌 36(6)		391-391
自然	地質	1927	商工省, 商工省 [著]	筑波縦行四横行二二圖幅第九九號地質説明書: 昭和二年二月		地質調査所	
自然	地質	1927	商工省ノ編	筑波地質説明書		東京印刷 1927	
自然	気象	1929	中央气象台 [編]	筑波山測候所要覽		中央气象台	
自然	地震	1930	井上 宇胤, 杉山 友紀	筑波山に於ける傾斜變化観測報告	東京帝国大学地震研究所彙報 8(3)	東京帝国大学地震研究所	346-363
自然	地震	1931	井上 宇胤, 杉山 友紀	筑波山便り	地震 第2輯 3(5)		271-281
自然	気象	1932	中央气象台附属筑波山測候所ノ編	筑波山植物目錄		中央气象台附属筑波山測候所	
自然	地震	1932	Inouye, Win	On Earth-tiltings observed at Mt.Tukuba. 筑波山に於ける傾斜變化観測報告	東京帝国大学地震研究所彙報 10(1)	東京帝国大学地震研究所	130-144
自然	気象	1933	中央气象台 編	發光現象報告 筑波山測候所	三陸沖強震及津浪報告. 昭和8年3月3日	中央气象台	地震を見た場所、光った方向等の報告
自然	地震	1933	Inouye Win	筑波山に於ける加速度地震計に依る地震観測報告	東京帝国大学地震研究所彙報 11(1)	東京帝国大学地震研究所	69-81
自然	地震	1933	Inouye, Win	Earth-tilts observed at Mt.Tukuba, Japan 筑波山に於ける傾斜變化観測報告	東京帝国大学地震研究所彙報 11(4)	東京帝国大学地震研究所	693-703
自然	動植物	1934	鶴町 猷	筑波山の樹木2	会誌 第2号 茨城博物同好会ノ(編)	茨城博物同好会	
自然	地震	1934	Hagiwara Takahiro	筑波山に於ける地震動並に地鳴	東京帝国大学地震研究所彙報 12(2)	東京帝国大学地震研究所	222-233
自然	その他	1935	森田 清, 栗屋 潔	波長68cmの極超短波に依る筑波山・工大間80kmに於ける通話試験概況	電氣學會雜誌 55(566)		828-828
自然	気象	1935-1938	中央气象台 編	筑波山頂 (Tukubasan) : $\phi = 36^{\circ} 13' N$, $\lambda = 140^{\circ} 06' E$, $H = 868.6 m$	日射観測成績	中央气象台	1935-1938に発行

分類1	分類2	発行年	著者	論文・記事名	書籍名	出版	備考
自然	地震	1938	井上, 宇胤, 杉山, 友紀	筑波山に於ける傾斜変化観測報告	東京帝国大学地震研究所彙報 16(2)	東京帝国大学地震研究所	366-371
自然	地震	1938	秋原, 尊禮	55. 筑波山山津浪調査報告	東京帝国大学地震研究所彙報 16(4)	東京帝国大学地震研究所	779-783
自然	気象	1939	中央気象台 編	2. 筑波山に於ける山津浪 (附圖 198-205 附表 33, 34) ・筑波山測候所 沖佳雄・宮川恒男・櫻井彰一・八月朔日一郎 図	中央気象台彙報. 第14冊 昭和十三年六月二十八日より七月五日に至る豪雨報	中央気象台	
自然	地震	1939	津屋, 弘達	31. 筑波山山津浪跡の地質観察: 附, 筑波出斑輝岩體と花崗岩體との構造關係	東京帝国大学地震研究所彙報 17(2)	東京帝国大学地震研究所	517-524
自然	地震	1941	Hagiwara Takahiro	筑波山に於ける上地傾斜変化の観測(其の二)	東京帝国大学地震研究所彙報 19(2)	東京帝国大学地震研究所	218-227
自然	気象	1942	中央気象台 編	筑波裏山溪流調査報告・筑波山測候所	産業気象調査報告 第10巻 第3号	中央気象台	
自然	気象	1943	中央気象台 編	筑波山	本邦気候表. 統編	中央気象台	
自然	気象	1952	茨城博物同好会 / (編)	郷土文献資料, 筑波山に関する気象文献目録	会誌 13	茨城博物同好会 1952-04	
自然	地震	1952	横山 泉	筑波山斑輝岩の帯磁と地磁気異常 [英文]	東京大学地震研究所彙報 / 東京大学地震研究所 編 30(1)	東京帝国大学地震研究所	83-91
自然	その他	1953	宗田 克己	筑波山麓の土器窯業	地理学 (7)		45-49
自然	その他	1953		筑波山超短波放送自動局	放送技術 / 兼六館出版株式会社 [編] 6(11) 1953-11 p.416~421		416-421
自然	動植物	1954	篠原 実	筑波山の森林植生	会誌 18	茨城博物同好会	
自然	その他	1954	石垣 八郎	築波山VHF下無人中継局の端局装置	放送技術 / 兼六館出版株式会社 [編] 7(2)		53-59
自然	その他	1956	木戸 栄次 他	筑波山VHF無人中継局の概要	沖電気時報 / 沖電気工業株式会社 編 23(1)		
自然	動植物	1957	篠塚 久	筑波山男女川に於ける山淑魚の生態	済美 第6号	茨城県立水海道第一高等学校済美校友会生徒会出版委員会	
自然	地震	1957	宮村 拱三	筑波山において観測された小地震	地震 / 日本地震学会 編 9(4)		
自然	気象	1958	郡司 助	筑波山麓における気温の逆転について	産業気象調査報告 / 気象庁 編 21(2)		
自然	気象	1959	水戸地方気象台 / 編	筑波山測候所の部	茨城県の気候	茨城県開発課 1959-03	茨城県の気候
自然	地質	1959	下田 信男	花コウ岩成分鉱物に関する地球化学的研究 (その1)茨城県筑波山付近の花コウ岩の雲母の化学組成について	日本化学雑誌 80(2)		141-143
自然	地震	1962	秋原, 尊礼, 岩田, 孝行, 前田, 良弘, 茅野, 一郎	筑波山で観測された1962年4月30日宮城県北部地震の余震	東京大学地震研究所彙報40 (3)	東京大学地震研究所	625-637
自然	地質	1965	鶴見 英策	筑波山・加波山周辺の山麓緩斜面	地理学評論 / 日本地理学会 編 38(8)		526~530
自然	国定公園	1966	日本自然保護協会 / 編		筑波自然公園学術調査報告 (日本自然保護協会調査報告; 第24号)	日本自然保護協会	
自然	動植物	1967	鹿島文化研究会 / 編	自然をたずねて・福島・茨城・千葉三県における主要海浜植物の分布・筑波山の植物・借菜園及び弘道館公園内の梅	鹿島文化 第4号~第6号	鹿島文化研究会 1967-11	
自然	地質	1968	山田 武雄, 高野 武男, 新田 義信, 仙田 幸造, 山崎 興輔, 五嶋 智彦, 佐藤 勢次	筑波山麓における成田層群の花粉化石について	地質学雑誌 74(2)		123
自然	地質	1968		筑波山南西の明石・上郷における成田層群の花粉化石について	地球科学 22(6)	新潟花粉グループ	274-286a
自然	動植物	1970	茨城県 [編]		筑波山におけるモミの害虫ハラアカマイマイに対するウィルスをを用いた試験防除の概要	茨城県	
自然	動植物	1971	東京営林局 [編]		奥久慈・筑波地区 国有林野観光保健 休養開発調査報告書	東京営林局 1971-03	
自然	動植物	1973	鈴木 昌友(1931~)	筑波のブナとシラカバと	桜川 第5号~9号	土浦の自然を守る会 1973-10	
自然	国定公園	1974	オリエンタル設計事務所 / 編		水郷筑波国定公園水郷地域 (茨城県域) 学術調査報告書	環境調査解説研究所	
自然	国定公園	1974	茨城県 / (編)	付図:基本調査図8枚 公園計画図9枚	水郷筑波国定公園水郷地域(茨城県域) 学術調査並びに公園計画書	茨城県	
自然	動植物	1975	中島 明男	筑波山の地衣類	茨城生物 NO.3	茨城生物の会	
自然	動植物	1976	望月 和男	筑波山、霞ヶ浦鳥類目録・野鳥のカレンダー 他	桜川 第10号~15号	土浦の自然を守る会	
自然	動植物	1977	安野 正之, 斎藤 一三, 中村 謙	24 筑波山溪流におけるブユ幼虫駆除実験と底生動物の流失過程	衛生動物 28(1)		13
自然	動植物	1977	茨城県林業試験場 作成 [茨城県林業試験場] 1977	鶏足・筑波地区土壤図 水戸鹿行森林計画区・鬼怒川森林計画区・霞ヶ浦森林計画区	(茨城県適地適木調査)		
自然	動植物	1977	中村 謙, 斎藤 一三, 安野 正之	19 筑波山溪流におけるブユ幼虫の周年変化	衛生動物 28(1)		11
自然	動植物	1978	大橋 恒夫	私の筑波山の蝶採集記録(1970~1976)	おけら No.47	茨城昆虫同好会	
自然	動植物	1978	中村 謙, 安野 正之, 斎藤 一三	11 筑波山溪流におけるブユ駆除実験と底生動物の流出と回復	衛生動物 29(1)		56
自然	動植物	1978	田崎 はるえ	筑波山の植物	やまくさ茨城 第5号	茨城山草会	
自然	気象	1979	小林 守	熱映像による筑波山の温暖帯の測定	茨城山草会 / 編 天気 26(3)		161-166
自然	水質	1979	小松 清次	霞ヶ浦水系と筑波山系の荒廃	桜川 第16号~18号	土浦の自然を守る会	

分類1	分類2	発行年	著者	論文・記事名	書籍名	出版	備考
自然	地質	1980	高橋 裕平	茨城県筑波山のガプロ類とカコウ岩類との関係について	地質学雑誌 86(7)		481-483
自然	地質	1980	松倉 公憲	筑波山周縁に分布する二、三の土の力学的性質と地形学的意味について	地理学評論 / 日本地理学会 編 53(1)		54-61
自然	動植物	1981	安野 正之 他	筑波山の溪流の底生動物相に及ぼすフェニトロチオンの影響 [英文]	日本生態学会誌 / 日本生態学会誌編集委員会 編 31(3)		237-245
自然	動植物	1981	更科 公護 / 著	筑波山周辺の動植物の方言 動物編	筑波書林 (ふるさと文庫)		
自然	動植物	1981	更科公護	筑波山周辺の動植物の方言 植物編	筑波書林 (ふるさと文庫)		
自然	地質	1981	八田 珠郎 他	筑波山周辺における深成岩の風化について (風化作用と層状ケイ酸鉱物の生成)	鉱物学雑誌 15(特別号)		202-209
自然	国定公園	1981		筑波山 : 水郷筑波国定公園		筑波町	1984にも発行
自然	動植物	1982	佐藤 豊三, 柿島 真, 佐藤 昭二	筑波山で採集されたアキグミ上の1さび菌, 新属か?	筑波の環境研究 6		143-146
自然	動植物	1982	早瀬 長利, 山根 爽一	茨城県筑波山系におけるハコネサンショウウオ <i>Onychodactylus japonicus</i> (HOUTTUYN) の水中生活期の生態	日本生態学会誌 32(3)		395-403
自然	動植物	1982	橋 啓介, 杉野 久子	筑波山溪流にみられる水生不完全菌類	筑波の環境研究 6		109-121
自然	気象	1983	田村 竹男	筑波山麓に白毛降る (史料)	測候時報 / 気象庁 編 50(5)		395-398
自然	動植物	1983	柿島 真, 勝屋 敬三, 佐藤 昭二	銹菌2新種 (筑波山産) の生活史について	筑波の環境研究 7		94-98
自然	動植物	1983	北原 正彦	15. 筑波山および筑波研究学園都市における蝶類の群集構造に関する研究 (日本鱗翅学会第29回大会一般講演要旨)	蝶と蛾 33(3)		194
自然	地質	1983	加野, 律子	筑波山における地質・地形と風化生成物の関係 (卒業論文要旨)	お茶の水地理学会		
自然	その他	1983	佐々木 博	筑波山門前町の立地生態	筑波大学人文地理学研究 7		185-208 土地利用や産業のこと
自然	その他	1983	小林 守, 腰塚 昭温	筑波山におけるみかん園の分布と小気候	筑波の環境研究 7		195-202
自然	その他	1983	青島, 朋子	筑波山周辺地域におけるみかん園の分布	お茶の水地理学会		
自然	気象	1984	林 陽性, 吉野 正敏, 鳥谷 均	低層係留気球による筑波山山頂の風の観測	筑波の環境研究 8		102-107
自然	動植物	1984	小針 廣	筑波山における土壌性カニムシの年間消長	Edaphologia (30)		1-10
自然	動植物	1984	松井 安俊 (生物学)	筑波山東麓 (湯袋) 9月初旬の蛾	おけら No.53 茨城昆虫同好会 / 編	茨城昆虫同好会	
自然	動植物	1984	湊 宏	筑波山のキセルガイ類	ちりぼたん 14(4)		89-91
自然	気象	1985	小林 守, 腰塚 昭温	筑波山南斜面のみかん園に及ぼす異常気象の影響	筑波の環境研究 9		87-92
自然	気象	1985	保野, 宏子	筑波山における植生と気候の関係について (卒業論文要旨)	お茶の水地理学会		
自然	地質	1985	横倉隆伸	筑波山東麓の浅部地質構造	地震 2 38		497-511
自然	動植物	1987	大谷 市右衛門	筑波山の植物覚書き	茨城生物 NO.11 茨城生物の会 / 編	茨城生物の会	
自然	地質	1987	笹田 政克 他	筑波山斑れい岩と周辺の花崗岩類との関係についての新知見--霞ヶ浦用水筑波1号トンネルの地質から (短報)	地質調査所月報 38(4)		217-219
自然	地質	1987	笹田政克, 服部仁, 金谷弘	筑波山斑れい岩と周辺の花崗岩類との関係についての新知見: 霞ヶ浦用水筑波1号トンネルの地質から	産業技術総合研究所地質調査総合センター		
自然	地質	1987	小野寺 真一, 恩田 裕一, 新藤 静夫, 松本 栄次	筑波山周辺部に発達する緩斜面の土層構造とその水貯留機能	筑波大学水理実験センター報告 11		95-104
自然	気象	1988	真木 雅之, 八木 鶴平	降水量分布に及ぼす筑波山地の影響	国立防災科学技術センター研究報告 / 国立防災科学技術センター [編] (通号 41)		13-29
自然	気象	1988	鈴木昌友	筑波山の植物	日本の生物 2		28-34
自然	地質	1988	荒川 洋二, 高橋 裕平	筑波地域の花崗岩類の Rb-Sr 年代 (英文)	岩鉱 83(6)		232-240
自然	地質	1988	青木, 久美子	筑波山山麓における土壌の分布について (卒業論文要旨)	お茶の水地理学会		
自然	気象	1989	北林 興二 他	複雑地形上の気流の解析--筑波山周辺気流の統計的解析	天気 36(2)		89-95
自然	気象	1989	北林 興二 他	複雑地形上の気流の解析--筑波山周辺気流の統計的解析 (大気拡散特集号)	公害 / 工業技術院資源環境技術総合研究所 編 24(1)		51-63
自然	地質	1989	永塚 鎮男, 洪沢 孝雄	筑波山麓で見出された埋没古赤土について	ペドロジスト 33(2)		100-113
自然	地質	1989	永塚 鎮男, 洪沢 孝雄	9-9 筑波山麓で見出された埋没古赤土について (9. 土壌生成・分類および調査)	日本土壌肥科学会講演要旨集 (35)		149
自然	水質	1989	袴田 共之, 平田 健正, 村岡 浩爾	43 筑波山生態系の物質循環 (第1報): 河川無機水質の特徴 (関東支部講演会要旨)	日本土壌肥科学会講演要旨集 (35)		286
自然	気象	1990	北林 興二, 吉門 洋, 近藤 裕昭	複雑地形上の気流の解析-2-筑波山周辺の弱風時の気流 (大気拡散特集号)	公害 / 工業技術院資源環境技術総合研究所 編 25(1)		55-61
自然	動植物	1990	杉山 直人, 芳賀 和夫	筑波山周辺の倍脚類相	筑波大学管平高原実験センター研究報告 10		39-76 2013にも発行
自然	地質	1990	磯部 一洋	茨城県筑波山・加波山周辺の緩斜面堆積物の形成について	地質調査所月報 41(7)		357-371
自然	地質	1990	宮崎 一博, 笹田 政克, 服部 仁	320 筑波山塊周辺の変成深度 (圧力) の異なる low P/T 変成岩類	日本地質学会学術大会講演要旨 97 1990-09-25 p.461		461

分類1	分類2	発行年	著者	論文・記事名	書籍名	出版	備考
自然	水質	1990	朴 鍾	筑波山の山口水流域における浮流土砂の流出量について	筑波大学水理実験センター報告 14		99-108
自然	その他	1990		真壁地方の植物 : 筑波・足尾・加波山を中心に	(企画展: 第44回)	真壁町歴史民俗資料館	
自然	水質	1991	袴田 共之, 平田 健正, 村岡 浩爾	85 筑波山生態系の物質循環(第2報): 河川改修と無機水質の関係(関東支部講演会講演要旨)	日本土壌肥科学会講演要旨集 (37)		300
自然	国定公園	1991	千葉県自然環境調査会 編	水郷筑波国定公園・県立大利根自然公園・県立九十九里自然公園	自然公園自然環境調査報告書	千葉県環境部自然保護課	
自然	気象	1992	高橋俊二	筑波山の温暖帯について	つくばの自然誌 1 (筑波山) 学園都市の自然と親しむ会/編	STEP	
自然	気象	1992	山沢 弘実	筑波山周辺での拡散実験の解析とシミュレーション計算	天気 39(10)		60-613
自然	気象	1992	田村竹男	筑波山測候所	つくばの自然誌 1 (筑波山) 学園都市の自然と親しむ会/編	STEP	
自然	気象	1992	田村竹男	筑波山の気象	つくばの自然誌 1 (筑波山) 学園都市の自然と親しむ会/編	STEP	
自然	動植物	1992	五木田悦郎	筑波山の特徴ある植物	つくばの自然誌 1 (筑波山) 学園都市の自然と親しむ会/編	STEP	
自然	動植物	1992	鈴木成美	筑波山の昆虫観察	つくばの自然誌 1 (筑波山) 学園都市の自然と親しむ会/編	STEP	
自然	動植物	1992	谷本丈夫	筑波山の植生	つくばの自然誌 1 (筑波山) 学園都市の自然と親しむ会/編	STEP	
自然	動植物	1992	八田洋章・柳町裕一	筑波山神社境内の樹木	つくばの自然誌 1 (筑波山) 学園都市の自然と親しむ会/編	STEP	
自然	動植物	1992	石井省三	筑波山の鳥たちの四季	つくばの自然誌 1 (筑波山) 学園都市の自然と親しむ会/編	STEP	
自然	地質	1992	磯部一洋	筑波山の地質と山の成り立ち	つくばの自然誌 1 (筑波山) 学園都市の自然と親しむ会/編	STEP	
自然	地質	1992	宮崎 一博, 笹田 政克, 服部 仁	筑波山塊周辺の变成深度(圧力)の異なるLow P/T变成岩類	地質学雑誌 98(8)		713-722
自然	地質	1993	松森 堅治, 浜崎 忠雄, 柴田 昇平	9-17 地形要因に基づく山地の土壌深推定法: 筑波山系の事例(9. 土壌生成・分類および調査)	日本土壌肥科学会講演要旨集 (39)		134
自然	動植物	1994	東条 一史	筑波山塊におけるソウシチョウ <i>Leiothrix lutea</i> の増加	Japanese journal of ornithology 43(1)		39-42
自然	地質	1994	松田 道子, 永塚 鎮男	25 筑波山に分布する土壌の植物珪酸体組成(関東支部講演会要旨)	日本土壌肥科学会講演要旨集 (40)		300
自然	地質	1994	石田 英子, 永塚 鎮男	24 筑波山における土壌の生成と分布の研究(関東支部講演会要旨)	日本土壌肥科学会講演要旨集 (40)		299
自然	動植物	1995	松村 雄	F103 筑波山近郊の山間農耕地域における野生ハナバチ相(自然・環境保護・家屋害虫)	日本応用動物昆虫学会大会講演要旨 (39)		182
自然	動植物	1995	湯沢陽一	茨城県筑波山塊の苔類	フロラ福島 13		23-28
自然	地質	1995	鈴木 力英, 松本 栄次, 池田 宏, 小野寺 淳, 田林 明	筑波山周辺コース	日本地理学会予稿集 47		443-485
自然	地震	1995	山口 和雄 他	反射法地震探査による筑波山西方平野部の浅部地下構造--茨城県下妻市における探査	地震 / 日本地震学会 編 48(1)		1-9
自然	地質	1996	青木 秀則, 細谷 正夫	502 「茨城の岩石と鉱物」(筑波・笠間・八溝編)の刊行について(地学史・地学教育)	日本地質学会学術大会講演要旨 103		357
自然	動植物	1997	田村 浩志	筑波山から見つかったトビムシ目 Hypogastruridae科 Hypogastrura 属の2新種	Edaphologia 59		11-16
自然	動植物	1998	ミュージアムパーク茨城県自然博物館 1998-10	筑波山のブナは何をみてきたか : 筑波山・霞ヶ浦の自然 : 第14回企画展	ミュージアムパーク茨城県自然博物館/編集	ミュージアムパーク茨城県自然博物館 1998-10	
自然	動植物	1998	斎藤 修	資料 筑波山のカ類	茨城県自然博物館研究報告	ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編 (通号 2)	65-78
自然	動植物	1998	坂寄 広 (ほか) 共著	身近な自然生態系の教材化 筑波山に生息する生物の垂直分布調査を通して	会誌 第72号 茨城県高等学校教育研究会生物部/編	茨城県高等学校教育研究会生物部	
自然	動植物	1998	菅谷 政司 / (ほか) 編集	筑波山・霞ヶ浦の維管束植物	茨城県自然博物館総合調査報告書 第1次(1994-96): 筑波山・霞ヶ浦を中心とする県南部地域の自然	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	
自然	動植物	1998	菅谷 政司 / (ほか) 編集	筑波山の昆虫類	茨城県自然博物館総合調査報告書 第1次(1994-96): 筑波山・霞ヶ浦を中心とする県南部地域の自然	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	
自然	動植物	1998	菅谷 政司 / (ほか) 編集	筑波山の鳥類	茨城県自然博物館総合調査報告書 第1次(1994-96): 筑波山・霞ヶ浦を中心とする県南部地域の自然	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	
自然	動植物	1998	菅谷 政司 / (ほか) 編集	筑波山の土壌動物	茨城県自然博物館総合調査報告書 第1次(1994-96): 筑波山・霞ヶ浦を中心とする県南部地域の自然	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	
自然	動植物	1998	菅谷 政司 / (ほか) 編集	筑波山の哺乳類	茨城県自然博物館総合調査報告書 第1次(1994-96): 筑波山・霞ヶ浦を中心とする県南部地域の自然	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	

分類1	分類2	発行年	著者	論文・記事名	書籍名	出版	備考
自然	動植物	1998	飯島 義克	筑波山の蝶類(続報)	会誌 第72号 茨城県高等学校教育研究会生物部／編	茨城県高等学校教育研究会生物部	
自然	動植物	1998	平井 剛夫	資料 筑波山の甲虫類	茨城県自然博物館研究報告	ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編 (通号 2)	43-63
自然	地質	1998	田切 美智雄, 影山 みずき, 小池 涉	筑波地方峰寺山産球状花崗岩(天然記念物, 小判石)の産状, 岩石組織と成因	茨城県自然博物館研究報告	ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編 (通号 1)	69-74, 図版3p
自然	地質	1998	平野 由佳, 池田 宏	緩斜面の発達とその分布から見た筑波山の開析過程	筑波大学水理実験センター報告 / 筑波大学水理実験センター 編 (通号 23)		61-86
自然	地震	1998	杉原 光彦	筑波山頂駅での連続重力測定	日本地震学会講演予稿集 1998(2)		
自然	動植物	1999	坂寄 廣	筑波山から採取されたツチカニムシ属の1新種について	Edaphologia 63		81-85
自然	動植物	1999	田村 浩志	筑波山から得られたトビムシ目Odontellidae科Superodontella属の1新種	Edaphologia 63		1-4
自然	地質	1999	宮崎 一博	筑波変成岩類の温度圧力見積もり	地質調査所月報 50(8)		515-525
自然	気象	2000	安達 隆史	1H1430 筑波山周辺における夜間弱風時の大気拡散実験	大気環境学会年会講演要旨集 (41)		343
自然	動植物	2000	水島 うらら	牧野先生が採集された筑波山の蘚類数種(展示発表, 第29回日本蘚苔類学会つくば大会特集)	蘚苔類研究 7(11)		366
自然	地質	2000	安藤 義久, 金木 誠, 天口英雄 [他], 松浦 達郎, 鎌田 裕也	裏筑波流出試験地の20年間の長期流出解析	水利科学 44(4)		36-48
自然	動植物	2001	杉村 康司, 沖津 進	茨城県筑波山における林床環境と蘚苔類の種多様性との関係(一般講演, <特集>第30回日本蘚苔類学会大分大会)	蘚苔類研究 8(2)		57
自然	動植物	2001	的場 浩子	観察視点をもとにした筑波山の植物の観察とガイドブックづくり	研究集録 第29号 茨城県高等学校教育研究会／編	茨城県高等学校教育研究会	
自然	地質	2001	大原 隆, 菅谷 政司	O-253 筑波山地東麓の上部更新統・見和層から産した貝化石について(22. 新生代古生物, 口頭発表, 一般発表)	日本地質学会学術大会講演要旨 108		126
自然	国定公園	2001	佐藤 正治	梅雨に愛でる/水郷筑波国定公園(グラビア・写真・文)	勤労者福祉 / 全国勤労者福祉振興協会 編 (62)		25-28
自然	その他	2001	吉永 秀一郎	百名山の自然学(25)筑波山	地理 46(6) (通号 548) 2001-06 p.77~79		
自然	動植物	2002	杉村 康司	資料 福田均氏蘚苔類コレクション(2)筑波山(茨城県)で採集された蘚苔類	茨城県自然博物館研究報告 ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編 (5)		167-178
自然	動植物	2002	杉村 康司, 沖津 進	筑波山における樹幹着生蘚苔類の種組成と森林樹木組成との関係	蘚苔類研究 8(4)		104-112
自然	動植物	2002	杉村 康司, 沖津 進	筑波山の森林の林床における蘚苔類の種多様性と上層木および落葉, 岩との関係	植生学会誌 : vegetation science 19(2)		113-124
自然	地質	2002	浜崎 忠雄, 松森 堅治	筑波山系小桜川流域山地における土壌深の推定法	ペドロジスト 46(1)		22-31
自然	水質	2002	大嶋 美和子, 小神野 一巳, 岩澤 まり子	つくば市における情報共有化の取り組み: 筑波山を源とする湧き水情報のwebページによる提供(INFOSTAシンポジウム2002 一般発表)(<特集>INFOSTAシンポジウム2002)	情報の科学と技術 52(10)		507
自然	動植物	2003	石神 智生	国有林から 筑波山複層林施業試験地から(今月のテーマ 国有林から(保護林を中心に))	林業技術 (通号 730)		28-31
自然	動植物	2003	鈴木 成美	筑波山及び仏頂山におけるアサギマダラの周年経過	茨城生物 NO.23	茨城生物の会／編 茨城生物の会	23
自然	その他	2003	植田 宏昭, 堀 正岳, 野原 大輔	筑波山の斜面温暖帯観測	日本地理学会発表要旨集 2003f(0)		22-22
自然	その他	2003	堀 正岳, 植田 宏昭, 野原 大輔	筑波山における斜面温暖帯の季節別、地形別の特徴	日本地理学会発表要旨集 2003f(0)		108-108
自然	気象	2004	原 智宏, 大場 良二, 足立 武司, 糠塚 重裕, 工藤 清一, Anfossi D., Castelli S. T.	P136 RAMS/HYPACTコードによる筑波山を対象とした気流・拡散シミュレーション	大会講演予稿集		427
自然	気象	2004	植田 宏昭, 出森 浩一郎, 小垣 哲也	風力発電の導入に向けた筑波山六所平における風況調査	天気 51(12)		895-899
自然	動植物	2004	小松 友枝 久松 正樹	八郷町の筑波山腹におけるクロコノマチョウ(チョウ目:ジャノメチョウ科)の幼虫の記録	茨城県自然博物館研究報告 第7号(平成15年度)	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	
自然	その他	2004	松本 穂高	立体模型で筑波山を調べる(特集 身近な地域を調べる; 身近な地域調査 私の実践報告)	地理 49(5) (通号 585)		44-45 みかん園に適切な地についての高校授業
自然	気象	2005	原 智宏, 大場 良二, 岡林 一木, 工藤 清一, 糠塚 重裕	メソ気象モデルによる筑波山周辺の風況再現シミュレーション	日本風工学会年次研究発表会・梗概集 2005(0) 2005 p.24-24		24-24
自然	水質	2005	矢野 伸二郎, 辻村 真貴, 田瀬 則雄, 植田 宏昭	筑波山斜面における降水の水素・酸素安定同位体比時空間分布形成プロセス	水文・水資源学会研究発表会要旨集 18(0) 2005 p.86-86		86-86

分類1	分類2	発行年	著者	論文・記事名	書籍名	出版	備考
自然	その他	2005	田中 ひとみ	筑波山から霞ヶ浦へ--茨城県南の自然環境保全	環境とカウンセラー 1(1) (通号 1) 2005-01 p.15~17		
自然	その他	2005	木崎 真,大場 克己,鈴木 俊勝 他	NPOの広場 農村風景を守る筑波山麓七人の侍	NPO木の建築 / 木の建築フォーラム 編 (通号 11) 2005-04 p.1~3		1-3
自然	気象	2006	上野 健一, 林 陽生, 辻村 真貴, 寄崎 哲弘	P127 筑波山頂における自動気象観測の復活	大会講演予講集 89		276
自然	気象	2006	林 陽生, 上野 健一, 辻村 真貴	温暖化監視のための筑波山山頂における気象・水文環境モニタリング	日本農業気象学会大会講演要旨 2006sp(0)		42-42
自然	地質	2006	高橋 裕平	筑波山及び周辺地域の地質案内(地質調査総合センター研究資料集435)	地質ニュース / 産業技術総合研究所地質調査総合センター 編 (通号 619)		61-64
自然	水質	2006	延廣 竜彦, 清水 晃, 壁谷 直記	筑波森林水文試験地における2003年の蒸発散量の推定	日本森林学会関東支部大会発表論文集 57		279-281
自然	水質	2006	壁谷 直記, 清水 晃, 延廣 竜彦 他	筑波森林水文試験地における拡散モデルによる基底流出水の平均滞留時間の推定	日本森林学会関東支部大会発表論文集 57		283-285
自然	水質	2006	矢野 伸二郎, 辻村 真貴, 田瀬 則雄 他	筑波山斜面における降水の安定同位体比時空間分布形成プロセス	水文・水資源学会誌 / 水文・水資源学会編集出版委員会 編 19(5) (通号 97)		383-391
自然	水質	2006	藪崎 志穂, 田瀬 則雄, 辻村 真貴, 林 陽生	筑波山一帯における渓流水の水質および同位体特性について	水文・水資源学会研究発表会要旨集 19(0)		52-52
自然	その他	2006	堀 正岳, 植田 宏昭, 野原 大輔	筑波山西側斜面における斜面温暖帯の発生頻度と時間変化特性	地理学評論 / 日本地理学会 編 79(1)		26-38
自然	気象	2007	川瀬 宏明	P439 筑波山気象観測ステーションで観測された冬の南岸低気圧の暖気移流	大会講演予講集 91		411
自然	気象	2007	齊藤 龍, 田中 智章, 吉田 幸生, 小熊 宏之, 森野 勇, 横田 達也, 井上 元, 原 熙	P403 筑波山近辺の気象不連続変化時における複数測器の相関と考察	大会講演予講集 91		375
自然	動植物	2007	吉武 和治郎(1943~)	地衣みてある記(6)-筑波山の地衣植物の研究史-	茨城生物 NO.27	茨城生物の会 / 編 茨城生物の会	27
自然	動植物	2007	大胡 聖嗣, 横原 寛, 小倉 信夫	筑波山のヨモギから見出されたヨモギツブセンチュウについて	明治大学農学部研究報告 56(4)		237-243
自然	水質	2007	越川 昌美, 渡邊 未来, 林 誠二, 越川 海, 村田 智吉, 高松 武次郎	筑波山渓流における溶存態アルミニウムの濃度と化学形態	日本陸水学会 講演要旨集 72(0)		71-71
自然	水質	2007	清水 晃, 壁谷 直記, 延廣 竜彦 他	筑波森林水文試験地の地下構造の推定	日本森林学会関東森林研究 (58)		153-156
自然	水質	2007	渡邊 未来, 越川 昌美, 林 誠二, 越川 海, 村田 智吉, 山村 茂樹, 高松 武次郎	茨城県筑波山における森林地の窒素飽和の現状評価	日本陸水学会 講演要旨集 72(0)		72-72
自然	水質	2007	藪崎 志穂, 田瀬 則雄, 辻村 真貴 他	名水を訪ねて(77)筑波山の名水	地下水学会誌 49(2)	日本地下水学会 [編] 49(2)	153-168 図巻頭1枚
自然	その他	2007	岩崎 巨典, スプレイグ デイビッド	筑波山における明治初期以降の土地利用変化	日本地理学会発表要旨集 2007f(0)		14-14 樹林地、草地、荒地、果樹園などの分布調査
自然	気象	2008	依田 知浩, 花房 龍男, 林 陽生, 大和 佳裕	P207 筑波山山頂における風の観測について	大会講演予講集 93		369
自然	気象	2008	依田 知浩, 花房 龍男, 林 陽生 [他]	筑波山における風の観測法について	筑波大学陸域環境研究センター報告 (9)		35-41
自然	気象	2008	日下 博幸, 秋本 祐子	P206 スカイスポーツのための局地気象研究: 筑波山フライトエリアで発生するアーベントテルミックの要因解明	大会講演予講集 93		368
自然	気象	2008	藪崎 志穂, 田瀬 則雄, 辻村 真貴 他	筑波山南斜面における降水の安定同位体比特性	筑波大学陸域環境研究センター報告 / 筑波大学陸域環境研究センター 編 (9)		15-23
自然	動植物	2008	井上 大成, 久松 正樹, 飯島 義克 他	筑波山および茨城県南部と西部の平野部におけるウラギンヒョウモン(チョウ目:タテハチョウ科)の採集・目撃記録と分布	茨城県自然博物館研究報告	ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編 (11)	1-5
自然	その他	2008	渡来 靖	筑波山における斜面温暖帯観測	地球環境研究 / 立正大学地球環境科学部 [編] (10)		79-86
自然	動植物	2009	井上 大成, 山本 勝利, 久松 正樹	筑波山塊におけるクロミドリシジミ(チョウ目:シジミチョウ科)の記録	茨城県自然博物館研究報告 / ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編 (12)		17-19
自然	動植物	2009	栗原 孝, 小幡 和男	筑波山塊南部(宝鏡山, 朝日峠, 雪入山, 権現山周辺)の維管束植物	茨城県自然博物館研究報告 / ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編 (12) 2009-11 p.73~107		73~107
自然	動植物	2009	春日 清一	アキアカネ筑波山に登る	霞ヶ浦研究会報 12号	霞ヶ浦研究会編集委員会 / 編 霞ヶ浦研究会	
自然	動植物	2009	杉村 康司, 沖津 進	筑波山のスギ・ヒノキ人工林におけるコケ植物, シダ植物, 顕花植物の分布と微地形との関係	植生学会誌: vegetation science 26(1)		33-48
自然	動植物	2009		茨城県西部および筑波山周辺地域の菌類	茨城県自然博物館総合調査報告書	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	
自然	水質	2009	水資源機構霞ヶ浦用水管理所	管理の現場から 霞ヶ浦用水 筑波トンネル調査	水とともに 2009年(2月)		20-22

分類1	分類2	発行年	著者	論文・記事名	書籍名	出版	備考
自然	水質	2009	中山 浩平,山本 勝博	D2-02 環境教育への活用を目的とした筑波山麓湧水群の化学的水質調査(セッションD2,日本理科教育学会第48回関東支部大会)	日本理科教育学会関東支部大会研究発表要旨集 (48)		64
自然	水質	2009	林 誠二,渡邊 未来,越川 昌美,山村 茂樹	筑波山森林域における窒素流出の時間的、空間的变化	日本陸水学会 講演要旨集 74(0)		142-142
自然	その他	2009	花井 健朗	Copter's Field 3 旋風の荒野(ACT・20)筑波山ラプンディエー2007秋 山頂の環境保全に貢献する富士ベル&カマン	エアワールド 33(12), 49-53, 2009-12		
自然	その他	2009	前田信二		筑波山の自然図鑑	メイツ出版(ネイチャーガイド)	2015にも発行
自然	気象	2010	植田 宏昭,小嶋 祐人,大庭 雅道,井上 知栄,池上 久通,釜江 陽一,石井 直貴,竹内 茜	B151 筑波山の東西南北4斜面における通年観測から見えてきたもの(気象・気候に対する山岳の影響,専門分科会)	大会講演予講集 97		82
自然	気象	2010	中津留 高広,林 陽生	P137 過去100年間の筑波山山頂(男体山)における気温と水蒸気量の変動(ポスター・セッション)	大会講演予講集 98		374
自然	気象	2010	中津留 高広,林 陽生,上野 健一,植田 宏昭,日下 博幸,浅沼 順,辻村 真貴	B152 過去100年間における筑波山山頂の気温と風の変化(気象・気候に対する山岳の影響,専門分科会)	大会講演予講集 97		83
自然	気象	2010	北 和之,大竹 翔,仲地 正樹,入江 仁士,中里 真久	P175 太陽散乱光の可視-紫外同時分光観測による下部対流圏オゾン量の推定 2: 筑波山山頂からの予備観測(ポスター・セッション)	大会講演予講集 98		412
自然	動植物	2010	久松 正樹	茨城県筑波山における野生ハナバチの種の多様性と構成	環動昆 21(2)		127-134
自然	動植物	2010			筑波山: プナとガマと岩と: 第50回企画展	ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編 ミュージアムパーク茨城県自然博物館	
自然	その他	2010	梅干野 晃,浅輪 貴史,押尾 晴樹	航空機リモートセンシングによる筑波山～霞ヶ浦の熱画像	日本赤外線学会誌 20(1)		6-7
自然	その他	2010		「万博の森」かいわい 筑波流置葺き屋根74戸が点在 にはんの里100選の八郷(石岡市)	グリーン・パワー (通号 380)		22-23
自然	気象	2011	植田 宏昭,小嶋 祐人,大庭 雅道,井上 知栄,釜江 陽一,池上 久通,竹内 茜,石井 直貴	筑波山の東西南北4斜面における高度100m間隔での通年観測: 斜面温暖帯に着目して	天気 58(9)		777-784
自然	気象	2011	中津留 高広,林 陽生	A166 筑波山(男体山)における過去100年間の最高気温と最低気温の変動(気候システムII,一般口頭発表)	大会講演予講集 100		65
自然	気象	2011	中津留 高広,林 陽生,上野 健一,植田 宏昭,辻村 真貴,浅沼 順,日下 博幸	筑波山(男体山)の過去100年間における気温の長期変化	天気 58(12)		1055-1061
自然	動植物	2011	高梨 武彦	里山での無保育人工林の整備にむけた森林風致施業指標の適用に関する考察: 福井県高浜町,茨城県筑波山での針葉樹人工林の調査例	デザイン学研究 58(4) 2011-11-30 p.77-86		77-86
自然	動植物	2011	山川 稔,鶴沢 美穂子,小幡 和男	筑波山の植物を初めて報告したドイツ人招聘教授ヘルマン・アールブルクについて	茨城県自然博物館研究報告	ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編 (14)	151-160
自然	動植物	2011	大桃 定洋,久松 正樹	筑波山の甲虫目録	茨城県自然博物館研究報告	ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編 (14)	33-74
自然	動植物	2011		茨城県西部および筑波山の維管束植物(2006-2008)	茨城県自然博物館総合調査報告書	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	
自然	地質	2011	高橋 裕平,宮崎 一博,西岡 芳晴	筑波山周辺の深成岩と変成岩	地質学雑誌 117(Supplement) 2011		S21-S31
自然	その他	2011	安藤 邦廣	さとやま建築(3)筑波山の懸け造り	グリーン・パワー (通号 387)		18
自然	その他	2011		筑波山麓やさと茅葺き民家 : 茨城県石岡市 : にはんの里100選		やさと茅葺き屋根保存会	
自然	動植物	2012	栗原 孝,岡 利雄,成島 明 他	筑波山塊南部(宝篋山,朝日峠,雪入山,権現山周辺)の維管束植物(第2報)	茨城県自然博物館研究報告	ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編 (15)	39-103
自然	動植物	2012	杉村 康司,沖津 進	筑波山の森林内における蘚苔類の種多様性と基物および生育形との関係	蘚苔類研究 10(9)		277-287
自然	動植物	2012		茨城県西部地域および筑波山・鹿島灘の非維管束植物(2006-2008)	茨城県自然博物館総合調査報告書	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	
自然	水質	2012	高津 文人,渡邊 未来,林 誠二,今井 章雄,中島 泰弘,尾坂 兼一,三浦 真吾	筑波山周辺の漂流水中の硝酸イオンの酸素・窒素安定同位体比による硝酸イオンの生成・混合・消費プロセスの解析	陸水学雑誌 73(1)		1-16
自然	気象	2013	島村 哲也,居島 修	筑波山におけるラングレー法を使用したPFR測器常数の較正試験	高層気象台彙報 / 高層気象台 編 (71)		21-26
自然	気象	2013	林, 陽生	<学内トビックス>新たに開設した筑波山気象観測ステーション		筑波大学	
自然	動植物	2013	山下, 寿之,林, 一六	<論文> 4. 茨城県筑波におけるアカマツ林からシラカシ林への遷移過程の解析	筑波大学農林技術センター		

分類1	分類2	発行年	著者	論文・記事名	書籍名	出版	備考
自然	動植物	2013	渡邊 未来,三浦 真吾,渡邊 圭司,山村 茂樹,高津 文人,錦織 達啓,越川 昌美,高松 武次郎,林 誠二	茨城県筑波山における窒素飽和と森林管理	日本森林学会大会発表データベース 124(0)		215
自然	地質	2013	芝原 暁彦, 住田 達哉, 加藤 碩一 [他]	3D模型と砂絵で楽しむ筑波山のジオ:地質図を立体的に理解するための砂絵教材の開発とイベントでの活用	GSJ地質ニュース = GSJ chishitsu news 2(9)		279-281
自然	地質	2013	田切 美智雄,矢野 徳也,小池 涉	筑波山ハンレイ岩体の層状構造と貫入形態	茨城県自然博物館研究報告 (16)		1-13
自然	地質	2013		八溝山地における中生代付加体および筑波山ハンレイ岩体の地質	茨城県自然博物館総合調査報告書		
自然	水質	2013	平野, 由佳,池田, 宏	緩斜面の発達とその分布から見た筑波山の解析過程	筑波大学水理実験センター		筑波大学水理実験センター 2013-12-18
自然	動植物	2014	大桃 定洋,久松 正樹,中川 裕喜	筑波山の甲虫目録・補遺(1)	茨城県自然博物館研究報告	ミュージアムパーク茨城県自然博物館 編 (17)	25-57
自然	地質	2014	大八木 規夫,池田 宏,木村 克己 他	筑波山塊を取り巻く岩屑堆積面とその堆積層	公益財団法人深田地質研究所年報 = Annual report (15)		39-68
自然	地質	2014	長 秋雄	概報 筑波花崗岩と旧筑波町に残る石造物の帯磁率	地質調査研究報告 65(3・4)		37-43
自然	地質	2014	長 秋雄	筑波花こう岩と旧筑波町の歴史:筑波花こう岩と人の営み	GSJ地質ニュース 3(6)		183-189,161-163
自然	水質	2014		特集 霞ヶ浦用水 管理開始から20年を経過して:霞ヶ浦から筑波山を越え茨城県西南部まで水を運ぶ	水とともに / 水資源機構 監修	霞ヶ浦用水管理所	4-7
自然	動植物	2015	太田俊二, 武若聡, 亀井雅敏	筑波山における自然生態系分野〈森林〉の適応策	気候変動適応策のデザイン	三村信男 監修,太田俊二,武若聡, 亀井雅敏 編 クロスメディア・マーケティング 2015	
自然	その他	2015	萩田, 和将,浅輪, 貴史,梅干野, 昶,押尾, 晴樹	航空機多重分光画像を用いた筑波山の斜面温暖帯観測	日本赤外線学会第21回研究発表会		86-87
自然	その他	2015	萩田, 和将,浅輪, 貴史,梅干野, 昶,押尾, 晴樹	二時期の航空機MSS画像を用いた筑波山の表面温度分布の特徴解析	日本リモートセンシング学会第50回(平成23年春季)学術講演会論文集		121-122
自然	その他	2015	浅輪, 貴史,梅干野, 昶,萩田, 和将,押尾, 晴樹	航空機 MSS 画像を用いた土浦市域と筑波山における土地被覆と表面温度分布の解析	日本ヒートアイランド学会第6回全国大会予稿集		60-61